

— 令和元年度日常生活圏域ニーズ調査 —

結果報告書

令和2年2月

逗子市

<目次>

I	調査概要	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性	2
2	生活機能	4
(1)	運動	4
(2)	閉じこもり	13
(3)	転倒	21
(4)	足のケア	27
(5)	栄養	32
(6)	口腔	40
(7)	認知機能	48
(8)	認知機能障害程度	55
(9)	うつ予防	61
(10)	虚弱	68
(11)	旧二次予防事業対象者	77
3	日常生活	83
(1)	手段的自立度（IADL）	83
(2)	日常生活動作（ADL）	88
4	社会参加	90
(1)	知的能動性	90
(2)	社会的役割	93
(3)	生活機能総合評価	105
(4)	生きがい	107
(5)	趣味	108
5	疾病	109
(1)	病気全体	109
(2)	高血圧	110
(3)	脳卒中	111
(4)	心臓病	113
(5)	糖尿病	114
(6)	筋骨格の病気	115
(7)	目の病気	116
(8)	通院	117
6	健康・生活習慣	121
(1)	主観的健康感	121
(2)	肥満度	124
(3)	飲酒	125

(4) 喫煙	127
(5) 運動習慣	128
(6) 携帯電話の利用	130
(7) 就労	131
7 介護の状況.....	132
(1) 介護・介助の必要性	132
(2) 要介護・介助の原因	133
(3) 介護者	134
(4) 介護状態になった後の暮らし	135
8 保健福祉サービス.....	136
(1) 運動や栄養改善への関心度	136
(2) 介護状態にならないためのサービス	136
(3) 利用しているサービス	137
(4) 利用してみたい保健福祉サービス	138
(5) 参加したい事業	138
(6) 市が開催している講座等への参加意向	139
(7) 介護予防教室への参加意向	139
9 住宅・暮らし.....	140
(1) 住宅の所有関係	140
(2) 現在の暮らしの状況	141
(3) 日中、一人になること	142
(4) 終の住み家、エンディング	143
10 圏域別の概況.....	147
(1) 生活機能等リスク該当者	147
(2) 疾病	148
(3) 支援活動への参加意向	149
参考資料（調査票）	150

I 調査概要

1) 調査対象

- ・令和元年6月1日現在、逗子市内に住所を持つ65歳以上の方です。
(要介護認定を受けている方及び施設に入所している方を除く)。

2) 調査方法

- ・郵送による配布・回収

3) 調査期間

- ・令和元年6月8日～6月30日
(その後未回収者に対しては調査票を再送付して8月12日まで回収)

4) 調査項目

- ①家族や生活状況
- ②生活機能
- ③外出
- ④運動・転倒予防
- ⑤栄養・食事・口腔
- ⑥記憶
- ⑦足のケア
- ⑧日常生活動作
- ⑨社会参加
- ⑩健康
- ⑪運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービス

5) 回収結果

単位::人

性別	調査対象者数	有効回収数	有効回収率(%)
男性	2,283	1,605	70.3
女性	2,992	2,122	70.9
総数	5,275	3,727	70.7

1 回答者の属性

II 調査結果

1 回答者の属性

1) 年齢構成

単位:上段:%/下段:人

性別	65～74歳			75歳以上					総数
	65～69歳	70～74歳	計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計	
男性	24.4	28.6	53.0	15.6	19.8	9.5	2.1	47.0	100.0
	392	459	851	251	318	152	33	754	1,605
女性	24.4	28.6	53.0	15.6	19.8	9.5	2.1	47.0	100.0
	422	627	1,049	344	451	234	44	1,073	2,122
総数	21.8	29.1	51.0	16.0	20.6	10.4	2.1	49.0	100.0
	814	1,086	1,900	595	769	386	77	1,827	3,727

※上段の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

2) 認定・該当状況

単位:上段:%/下段:人

性別	非該当	該当	要支援者	不明	総数
男性	67.3	22.6	8.0	2.1	100.0
	1,080	362	129	34	1,605
女性	60.2	25.1	11.3	3.4	100.0
	1,277	533	239	73	2,122
総数	63.2	24.0	9.9	2.9	100.0
	2,357	895	368	107	3,727

※該当者とは、旧二次予防対象者のこと(要支援者を除く回答者のうち、基本チェックリストの運動、口腔、栄養、虚弱のいずれかに該当すると判定された者)

3) 住宅の所有関係

単位:上段:%/下段:人

性別	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	借家	その他	無回答	総数
男性	76.0	13.8	1.7	1.1	3.8	1.3	1.8	0.6	100.0
	1,219	222	27	17	61	21	29	9	1,605
女性	75.0	14.0	2.1	0.9	4.1	1.5	1.2	1.1	100.0
	1,592	298	44	20	88	31	26	23	2,122
総数	75.4	14.0	1.9	1.0	4.0	1.4	1.5	0.9	100.0
	2,811	520	71	37	149	52	55	32	3,727

4) 世帯構成

単位:上段:%/下段:人

性別	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	総数
男性	10.6	49.2	8.9	15.8	14.5	1.1	100.0
	170	789	143	254	232	17	1,605
女性	24.4	37.0	1.0	18.2	17.5	1.8	100.0
	518	785	21	387	372	39	2,122
総数	18.5	42.2	4.4	17.2	16.2	1.5	100.0
	688	1,574	164	641	604	56	3,727

5) 世帯構成別年齢構成

単位: 上段:%/下段:人

性別	65～74歳			75歳以上					総数
	65～69歳	70～74歳	計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計	
1人暮らし	15.6	23.5	39.1	13.8	26.9	16.6	3.6	60.9	100.0
	107	162	269	95	185	114	25	419	688
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	18.2	33.9	52.0	18.4	20.6	8.2	0.8	48.0	100.0
	286	533	819	289	325	129	12	755	1,574
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	72.6	13.4	86.0	3.7	7.9	2.4	0.0	14.0	100.0
	119	22	141	6	13	4	0	23	164
息子・娘との 2世帯	15.9	27.1	43.1	15.8	22.9	14.0	4.2	56.9	100.0
	102	174	276	101	147	90	27	365	641
その他	31.8	30.5	62.3	15.7	13.9	6.6	1.5	37.7	100.0
	192	184	376	95	84	40	9	228	604
無回答	14.3	19.6	33.9	16.1	26.8	16.1	7.1	66.1	100.0
	8	11	19	9	15	9	4	37	56
総数	21.8	29.1	51.0	16.0	20.6	10.4	2.1	49.0	100.0
	814	1,086	1,900	595	769	386	77	1,827	3,727

6) 圏域

単位: 上段:%/下段:人

性別	東部	中部	西部	総数
男性	35.3	31.4	33.3	100.0
	566	504	535	1,605
女性	36.8	30.9	32.4	100.0
	780	655	687	2,122
総数	36.1	31.1	32.8	100.0
	1,346	1,159	1,222	3,727

※東部・・・桜山3・4・5丁目(35～37番、葉桜団地を除く)、沼間、池子
 中部・・・逗子、桜山1・2・5丁目 35～37番、葉桜団地のみ・6～9丁目、山の根、
 新宿1～3・4丁目1～5番(2番 29～59号を除く)・6番 38～42号・5丁目
 西部・・・久木、小坪、新宿4丁目2番 29～59号・6～16番(6番 38～42号除く)

7) 圏域別年齢構成

単位: 上段:%/下段:人

圏域	65～74歳			75歳以上					総数
	65～69歳	70～74歳	計	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	計	
東部	22.0	31.3	53.3	17.2	18.8	9.1	1.6	46.7	100.0
	296	421	717	231	253	123	22	629	1,346
中部	23.2	29.0	52.2	15.9	20.7	9.0	2.2	47.8	100.0
	269	336	605	184	240	104	26	554	1,159
西部	20.4	26.9	47.3	14.7	22.6	13.0	2.4	52.7	100.0
	249	329	578	180	276	159	29	644	1,222
総数	21.8	29.1	51.0	16.0	20.6	10.4	2.1	49.0	100.0
	814	1,086	1,900	595	769	386	77	1,827	3,727

2 生活機能

2 生活機能

(1) 運動

ア 設問と評価

介護予防・日常生活支援総合事業の対象者選定のための基本チェックリストでは、下の5つの設問に対する回答から、高齢者の運動機能に関してリスク判定をしています。

具体的には、設問5問中3問以上に該当した場合に運動器の機能低下と判定されます。

図表 運動器に関する設問（基本チェックリスト）

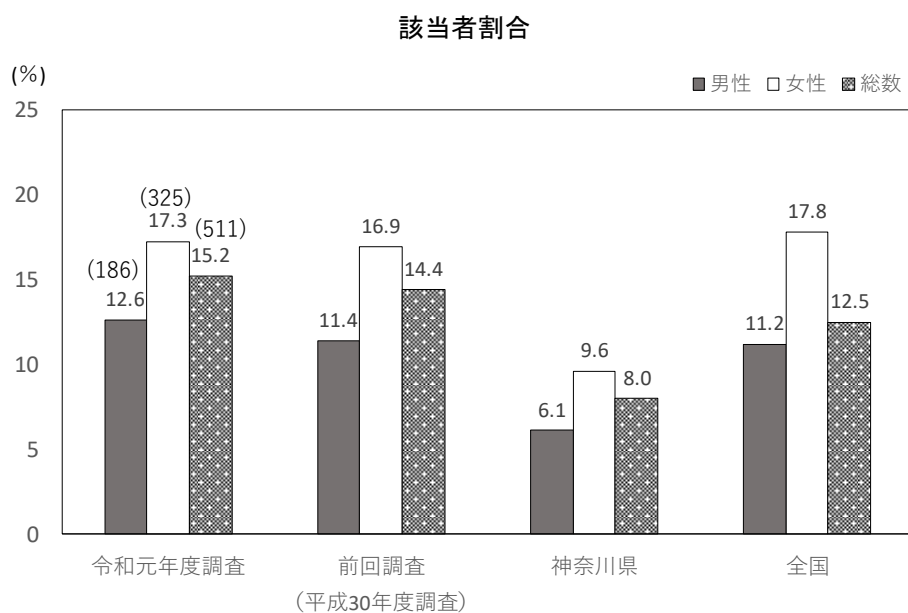
問番号	設 問	該当する選択肢
問4・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるけどしていない」または 「3. できない」
問4・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるけどしていない」または 「3. できない」
問4・Q3	15分位続けて歩いていますか	「2. できるけどしていない」または 「3. できない」
問4・Q4	過去1年間に転んだことがありますか	「1. 何度もある」または 「2. 1度ある」
問4・Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または 「2. やや不安である」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で511人、15.2%（男性186人12.6%、女性325人17.3%）が運動器の機能低下の該当者となっています。男性より女性で該当者割合が高くなっています。

前回調査（平成30年度調査）と比べると、全体では1.2ポイント高くなっています。また、年齢構成が異なるため厳密な意味の比較にはならないものの、これを全国、神奈川県で行われた基本チェックリストの調査結果（平成26年度調査結果）と比較すると、全体では神奈川県より6.5ポイント、全国より1.4ポイント該当者割合が高くなっています。

図表 該当状況－運動器の機能低下



※1 全国、神奈川県の総数の値は、「平成26年度介護予防事業及び日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査結果」（厚生労働省）から算出（以下同じ）。

2 グラフ上の（ ）書きは、該当者数（以下同じ）。

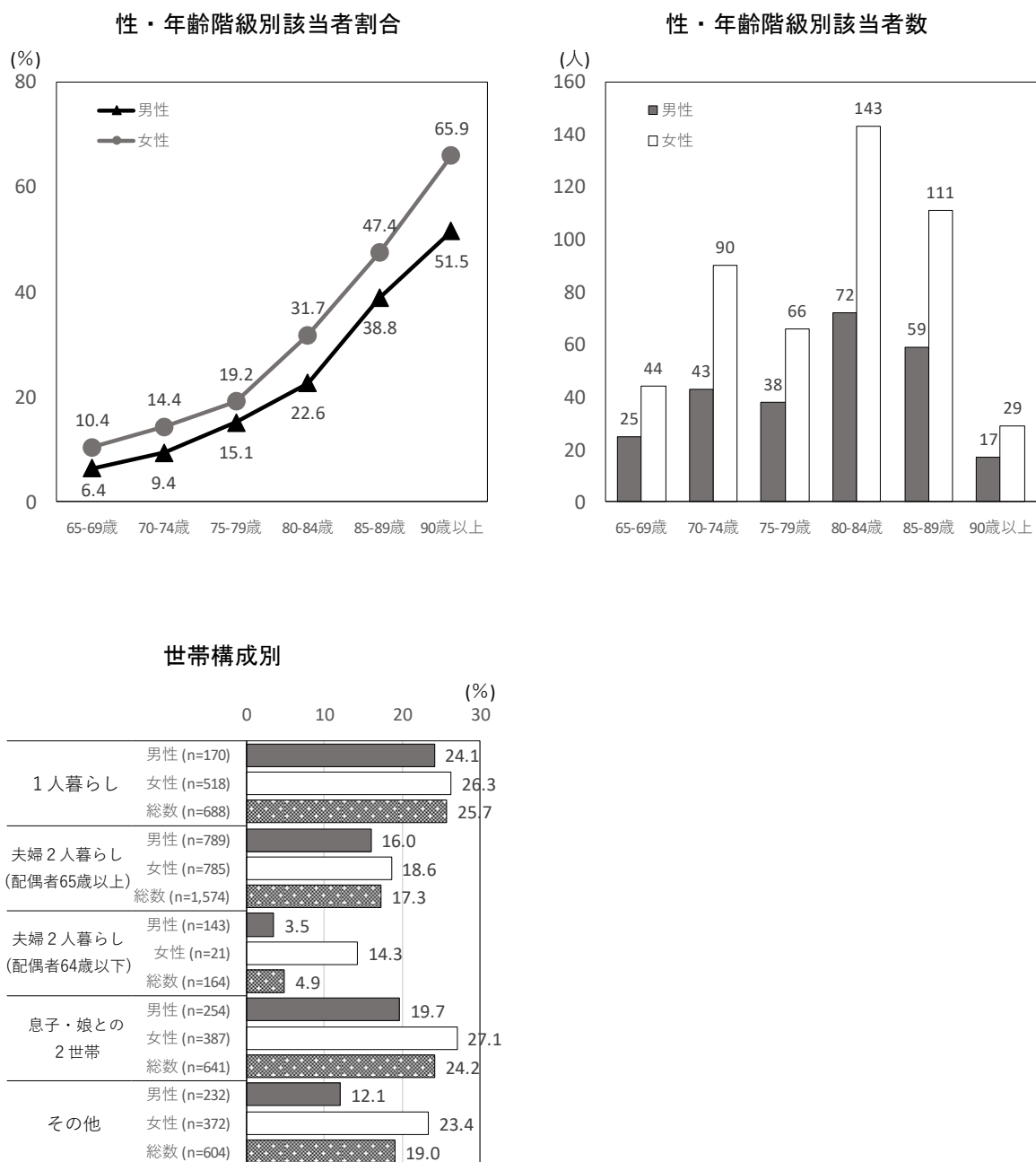
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、年齢とともに該当者割合が高くなっています。該当者数で見ると、男女ともに80～84歳がそれぞれ72人、143人でピークになっています。

認定・該当状況別をみると、該当者では全体の57.1%が、要支援者では61.4%が運動器の機能低下に該当しています。

これを世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯と1人暮らし世帯の女性で該当者割合が比較的高くなっています。

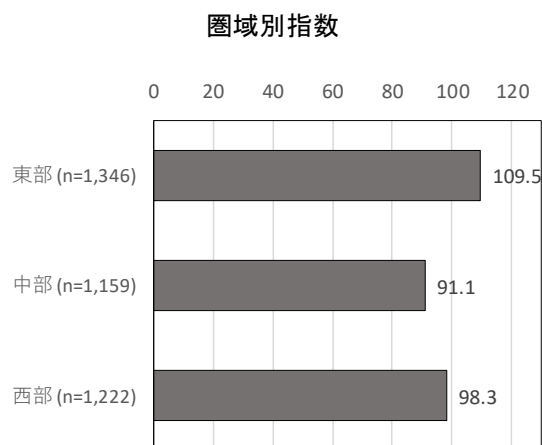
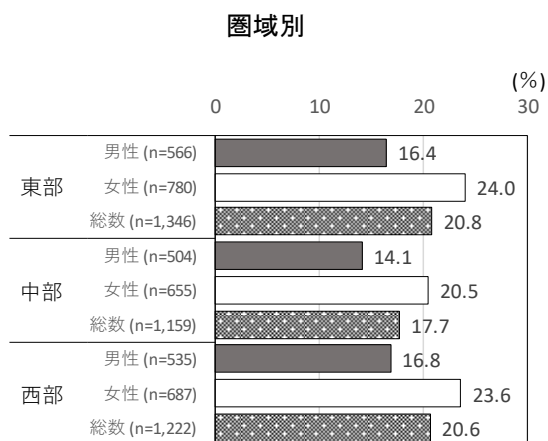
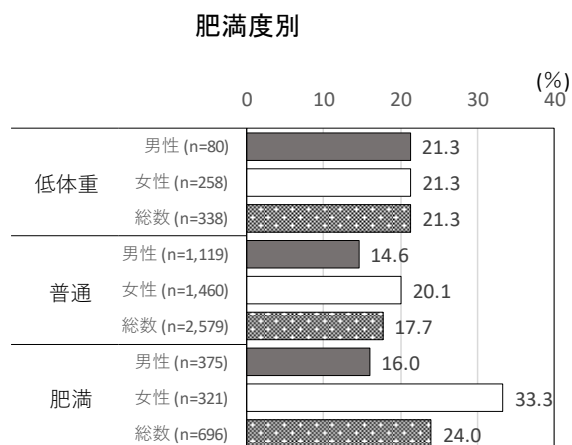
図表 運動器の機能低下 該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



さらに肥満度別に結果をみると、女性では肥満者（BMI \geq 25）の該当者割合が33.3%と、普通体重の女性に比べて13.2ポイント高くなっています。女性では肥満が運動器の機能に影響を及ぼしていることがうかがえます。

圏域別にみると、中部圏域が17.7%と他圏域より比較的低くなっています。ただ、圏域ごとに年齢構成も異なるため、それが影響していることも考えられます。

図表 運動器の機能低下 該当状況－肥満度別、圏域別



2 生活機能

そこで、こうした圏域別の年齢構成の差を取り除いた形で該当者数を比較するため、標準化死亡比（SMR）の考え方に準じて、年齢調整済みの指数を算出しました。

この指数は、今回の調査結果全体の性・年齢階級別の該当者割合を各圏域に当てはめた場合に、各圏域の期待される該当者数に対する実際の該当者数の比率となります。全体の平均が100となり、この指数が100を超える場合は全体の平均より該当者が多く、逆に100未満の場合は該当者が少ないと判断できます。

具体的にこの指数を運動器の機能低下の該当者について各圏域別に算出すると下の図表のとおりとなります。該当者割合が高い東部圏域は、年齢構成を加味した指数でも109.5と最も高くなっています。

図表 圏域別の性・年齢階級別回答者数

年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69歳	140	136	116	156	133	133
70～74歳	170	146	143	251	190	186
75～79歳	91	81	79	140	103	101
80～84歳	114	90	114	139	150	162
85～89歳	42	43	67	81	61	92
90歳以上	9	8	16	13	18	13

図表 圏域別の期待該当者数：運動器の機能低下

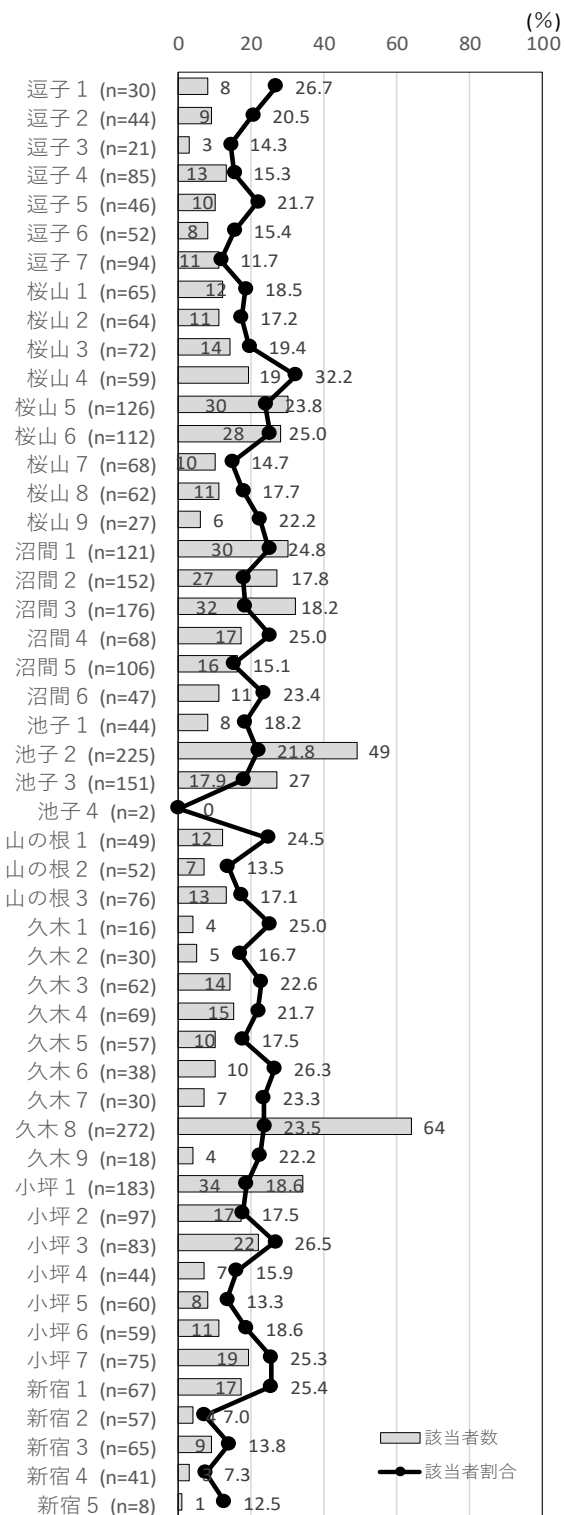
年齢階級	男性			女性		
	東部	中部	西部	東部	中部	西部
65～69歳	8.9	8.7	7.4	16.3	13.9	13.9
70～74歳	15.9	13.7	13.4	36.0	27.3	26.7
75～79歳	13.8	12.3	12.0	26.9	19.8	19.4
80～84歳	25.8	20.4	25.8	44.1	47.6	51.4
85～89歳	16.3	16.7	26.0	38.4	28.9	43.6
90歳以上	4.6	4.1	8.2	8.6	11.9	8.6

図表 圏域別の指数：運動器の機能低下

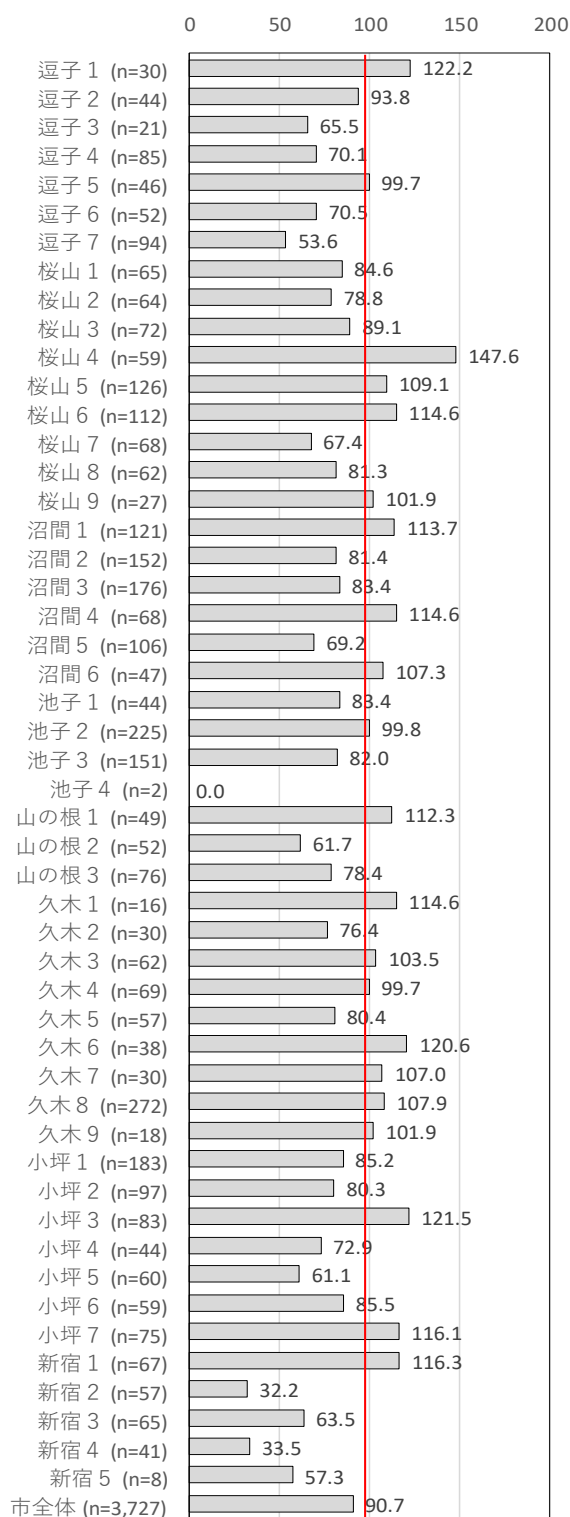
	東部	中部	西部
実際の該当者数(a)	280	205	252
期待該当者数(b)	255.6	225.1	256.3
指数(a/b*100)	109.5	91.1	98.3

さらに、町丁別に該当状況をみると、桜山4丁目の該当者割合がそれぞれ30%以上と比較的高くなっています。指数においても、逗子1丁目、桜山4丁目、久木5丁目、小坪3丁目などが多くなっています。

図表 運動器の機能低下 町丁別該当者数・割合



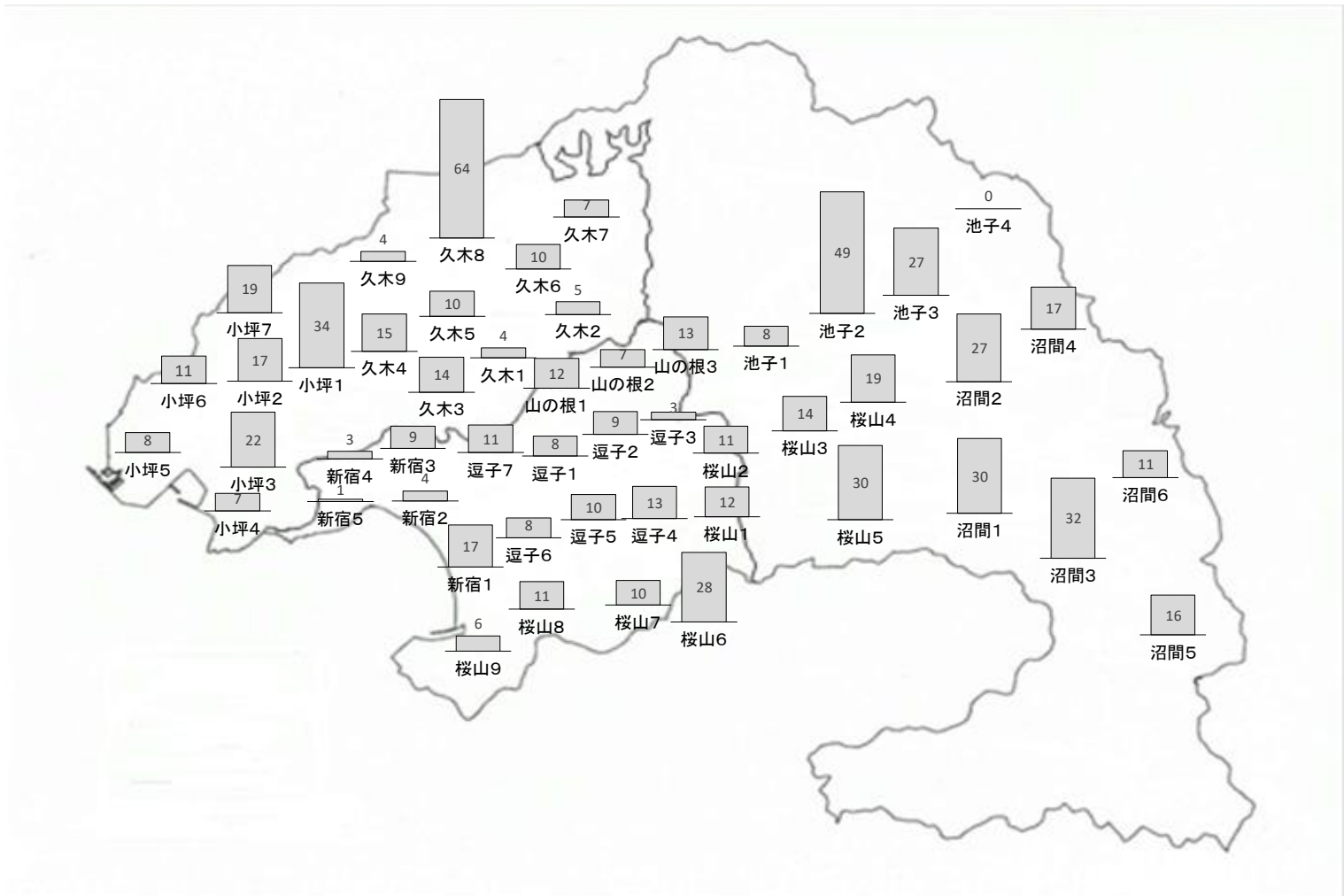
図表 運動器の機能低下 町丁別指数



指数は、市全体の年齢別該当者割合に各町丁別の年齢別回答者数を乗じることで求められる各町丁別期待該当者数に対する実際の該当者数の割合を示したもので、100が市全体の平均となり、それを上回る場合は、年齢構成からすると市全体の平均より該当者が多いことを示す(以下同じ)。

2 生活機能

図表 町丁別該当者数の分布：運動器の機能低下

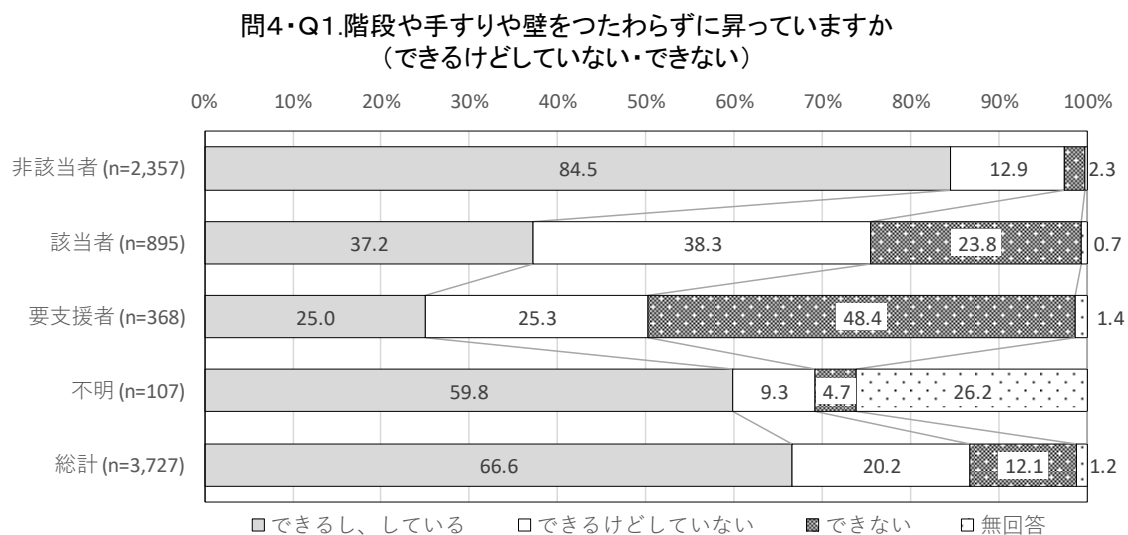


ウ 回答結果

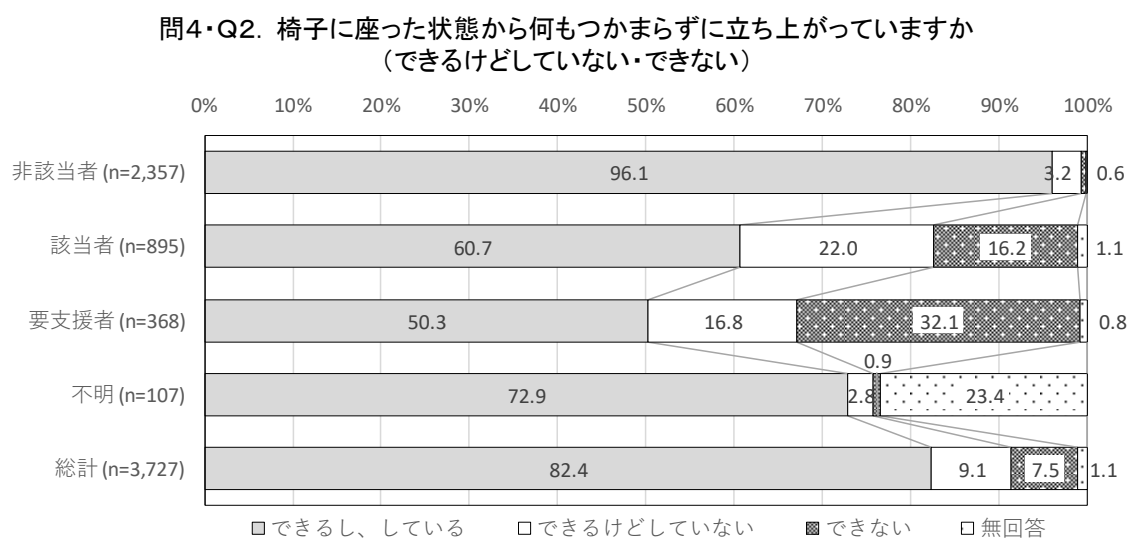
評価の基礎になった設問に対する回答結果を非該当者、該当者、不明者、要支援者ごとに見ると、下の図表のとおりとなっています。

個々の設問で該当する回答をした割合（該当率）が高いのは、該当者、要支援者ともに、「転倒に対する不安は大きいですか」（問4・Q5）が7割を超えています。

図表 回答結果-1



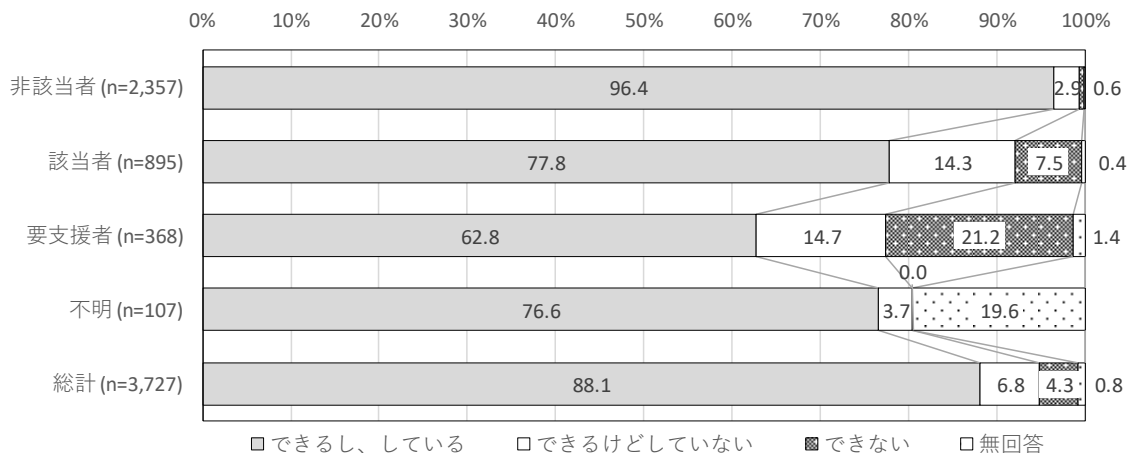
※設問文末尾の（ ）内は、該当する回答（以下同じ）



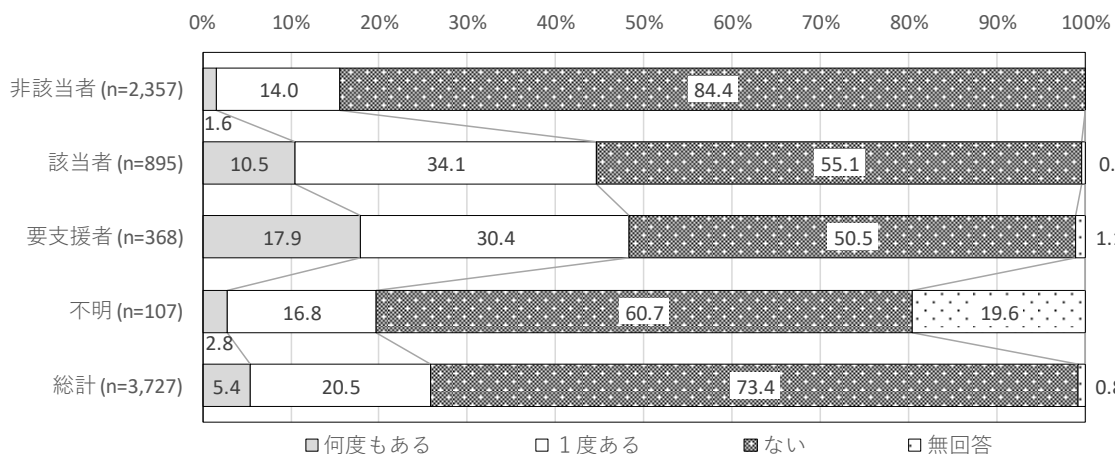
2 生活機能

図表 回答結果-2

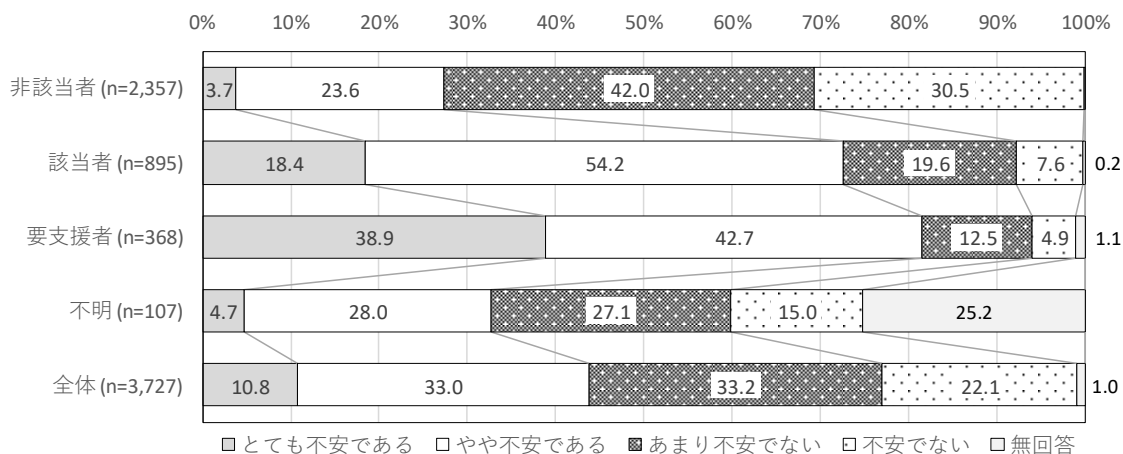
問4・Q3. 15分位続けて歩いていますか(できるだけしていない・できない)



問4・Q4. 過去1年間に転んだ経験がありますか(何度もある・1度ある)



問4・Q5. 転倒に対する不安は大きいですか(とても不安である・やや不安である)



(2) 閉じこもり

ア 設問と評価

基本チェックリストには、運動に関連する指標として、閉じこもりのリスクに関する設問が2問含まれています（下表参照）。

具体的には、問3・Q1に該当した場合、閉じこもりに該当し、介護予防・生活支援サービスの対象者になります。問3・Q2にも該当している場合は、より注意が必要という評価になります。

外出回数が週1回未満の場合には、寝たきりの要因の一つといわれる閉じこもりリスクがあると考えられるため、週1回以上外出していないと回答している場合をリスク者（該当者）として評価しています。

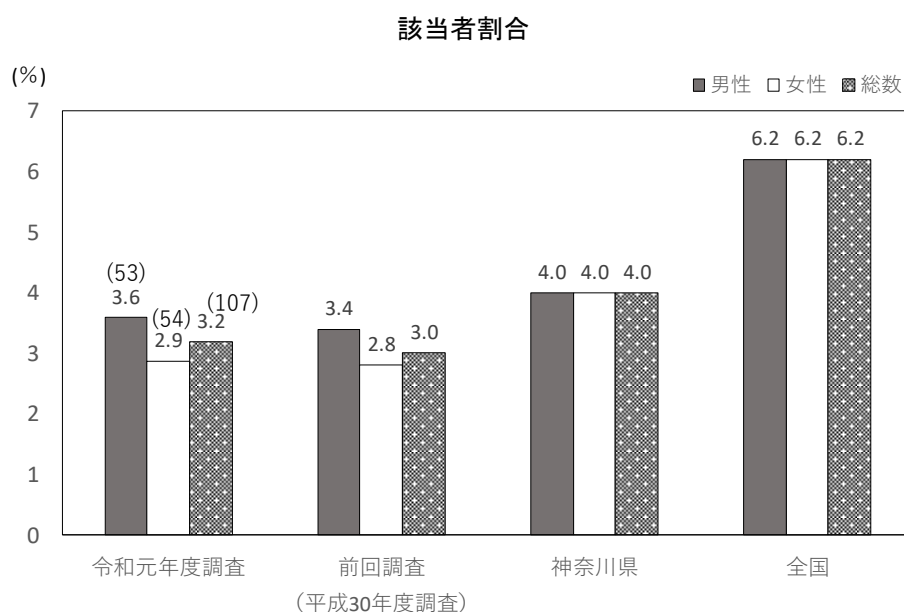
図表 閉じこもりに関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設 問	該当する選択肢
問3・Q1	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問3・Q2	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または 「2. 減っている」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で107人、3.2%（男性53人3.6%、女性54人2.9%）が該当者となっています。前回調査、全国、神奈川県の結果と比較すると、全体で前回調査より0.2ポイント高く、神奈川県より0.8ポイント、全国より3.0ポイント低くなっています。

図表 該当状況－閉じこもり



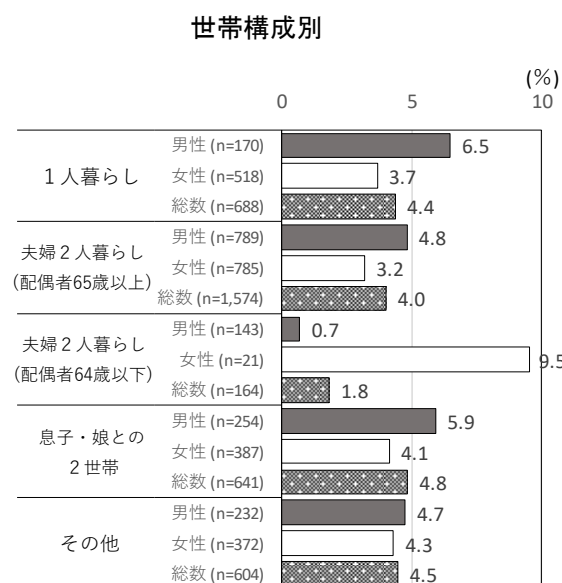
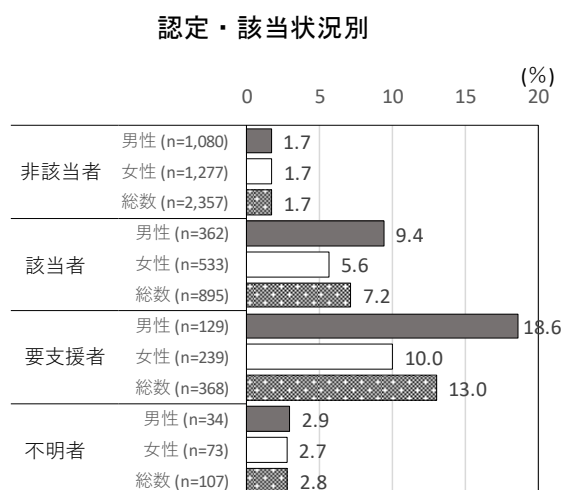
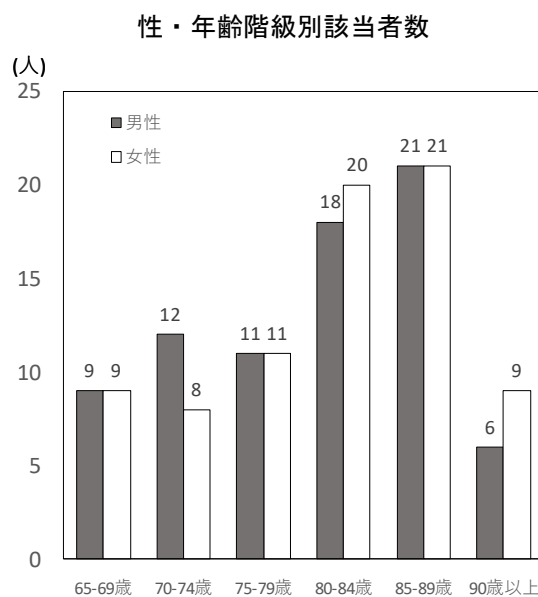
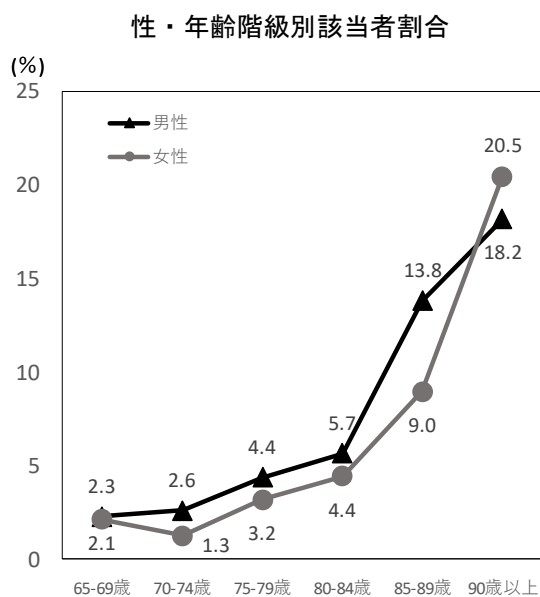
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともに閉じこもりリスクの該当者割合が高くなっています。該当者数でみると、男女ともに85～89歳で21人と最も多くなっています。

これを認定・該当状況別にみると、非該当者1.7%、該当者7.2%、要支援者13.0%、不明者2.8%と、要支援者で該当者割合が最も高くなっています。

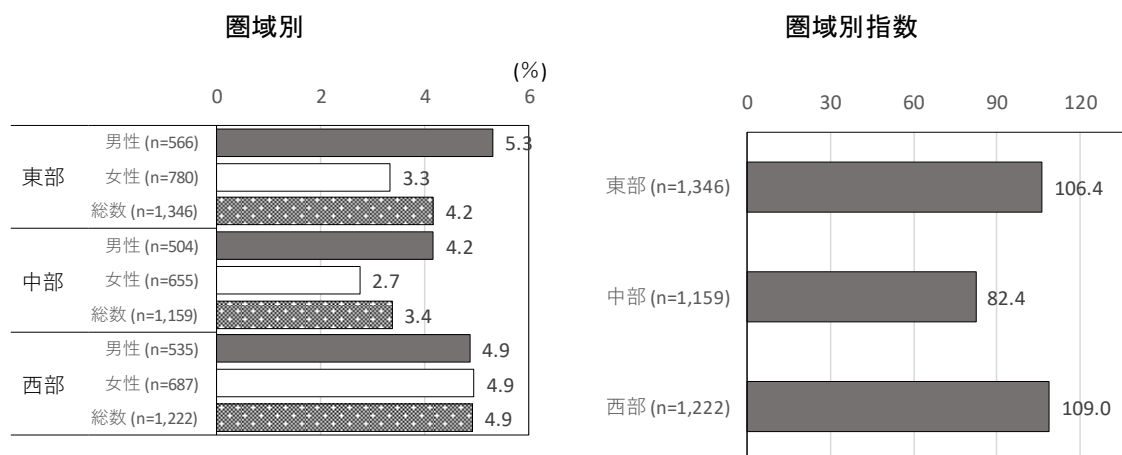
世帯構成別にみると、男性では1人暮らし世帯が、女性では夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）で該当者割合が高くなっています。

図表 閉じこもりリスク 該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別にみると、西部圏域が4.9%と他圏域に比べて若干高くなっています。指数では、中部圏域が82.4と低くなっています。

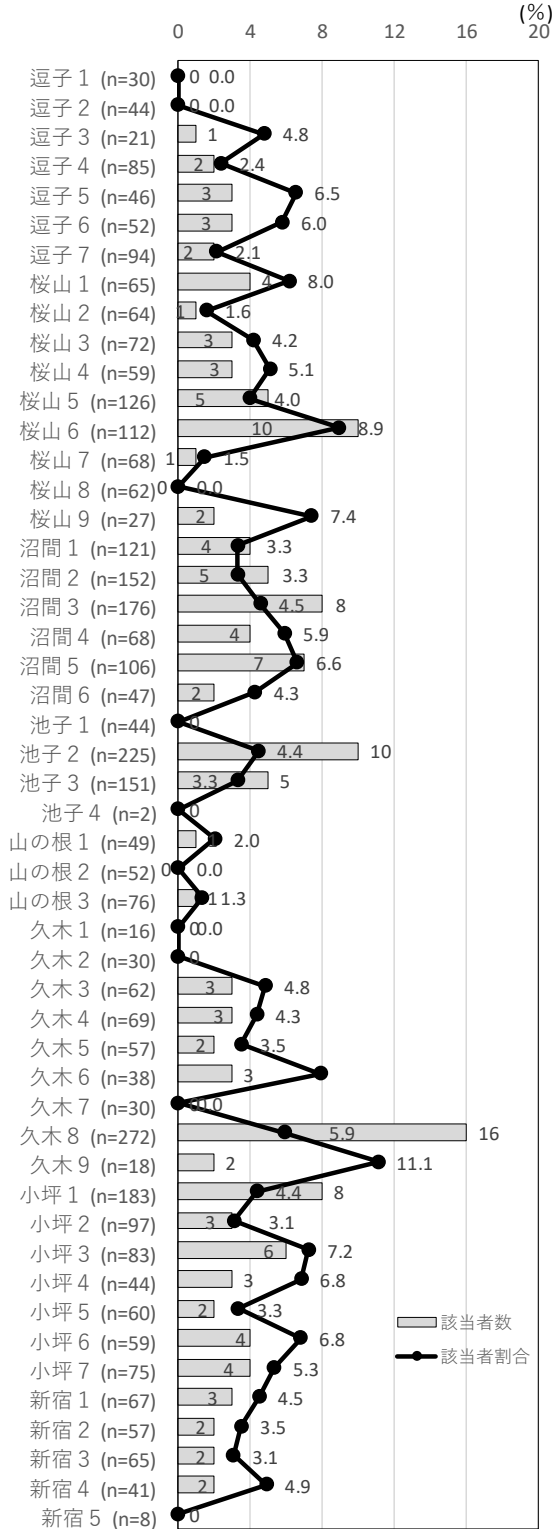
図表 閉じこもりリスク 該当状況一圏域別



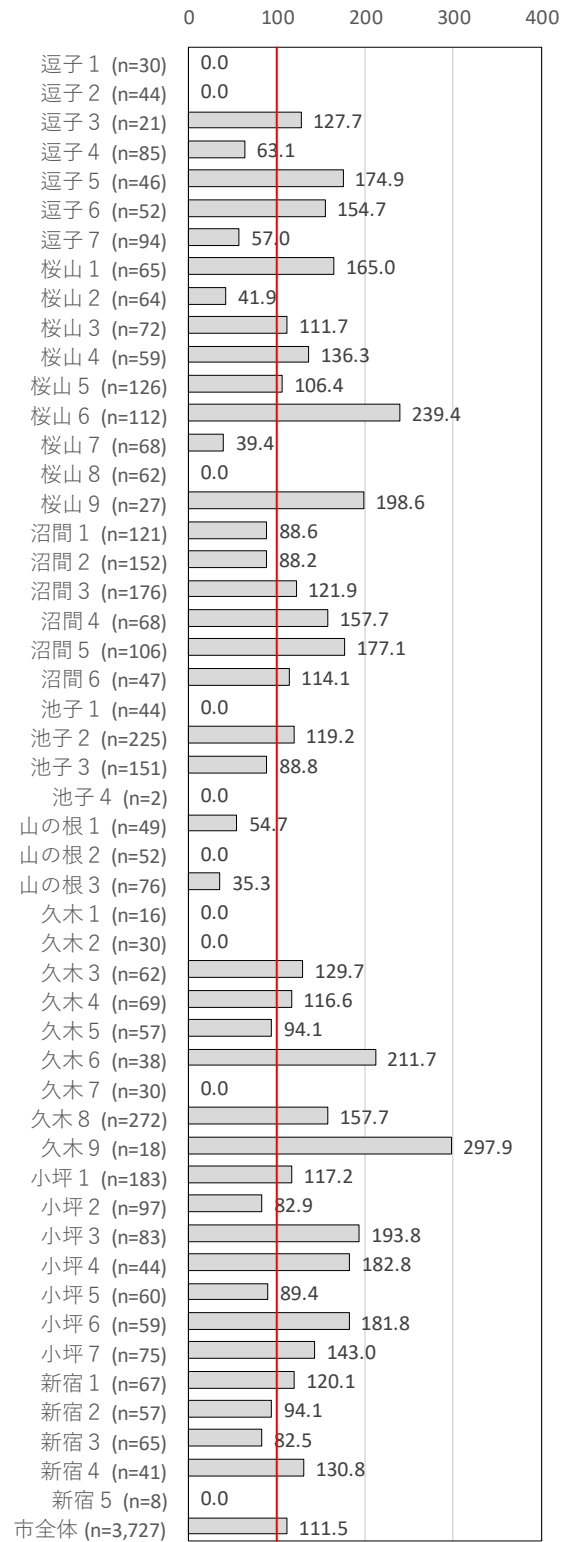
2 生活機能

さらに、町丁別に該当状況をみると、久木9丁目が11.1%と該当者割合が高くなっています。指数は桜山6丁目、久木9丁目が200を超えて高くなっています。

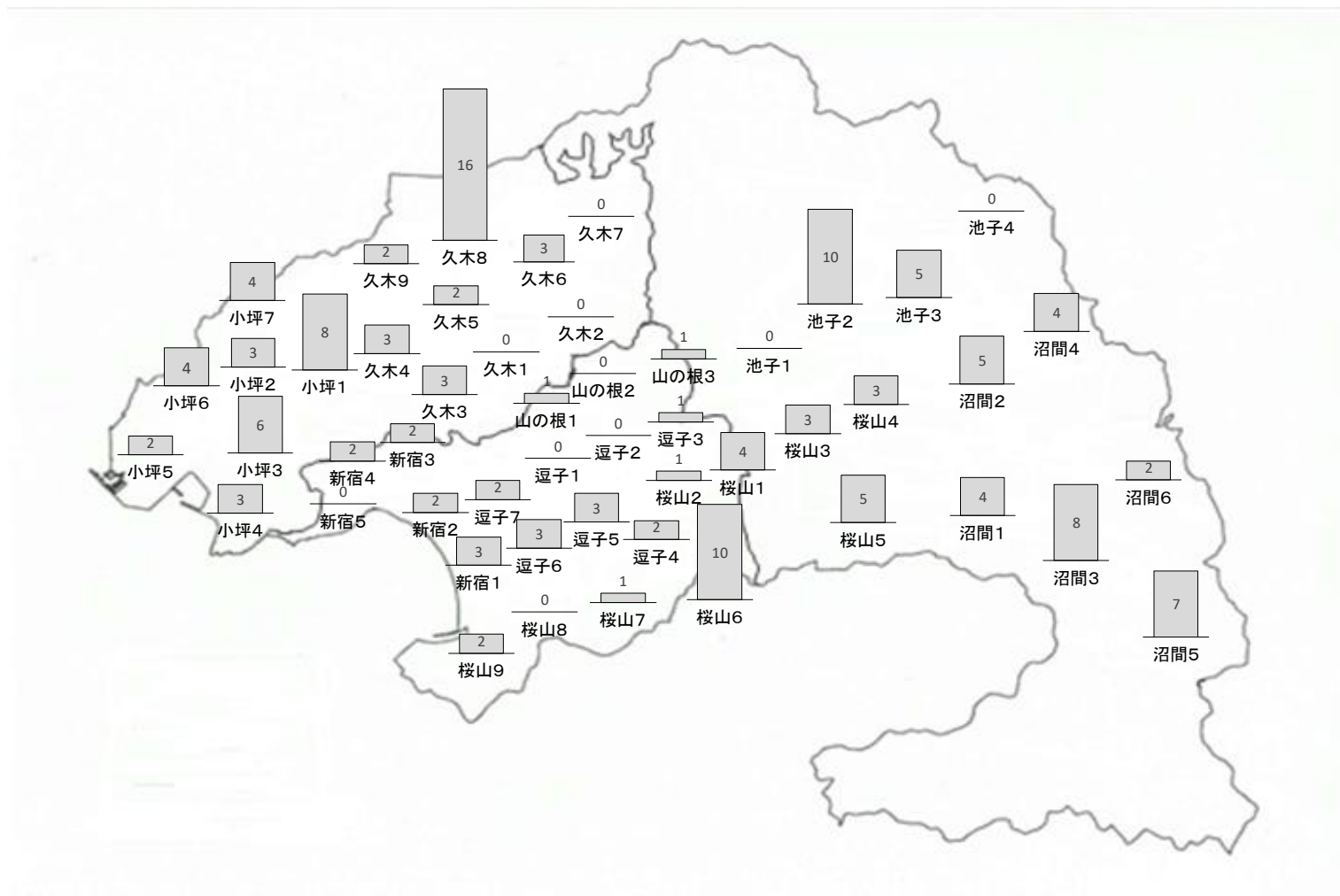
図表 閉じこもりリスク 町丁別該当者数・割合



図表 閉じこもりリスク 町丁別指数



図表 町丁別該当者数の分布：閉じこもりリスク



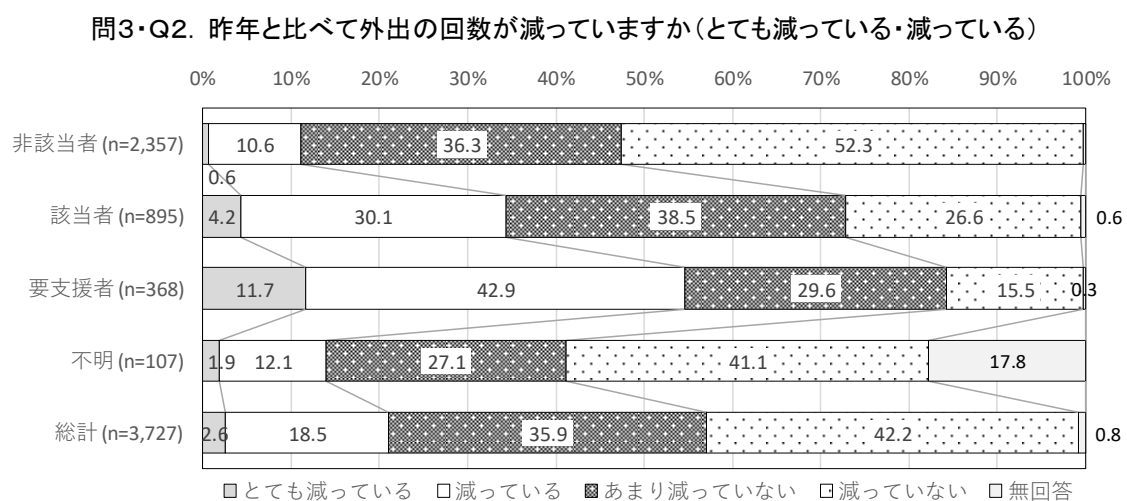
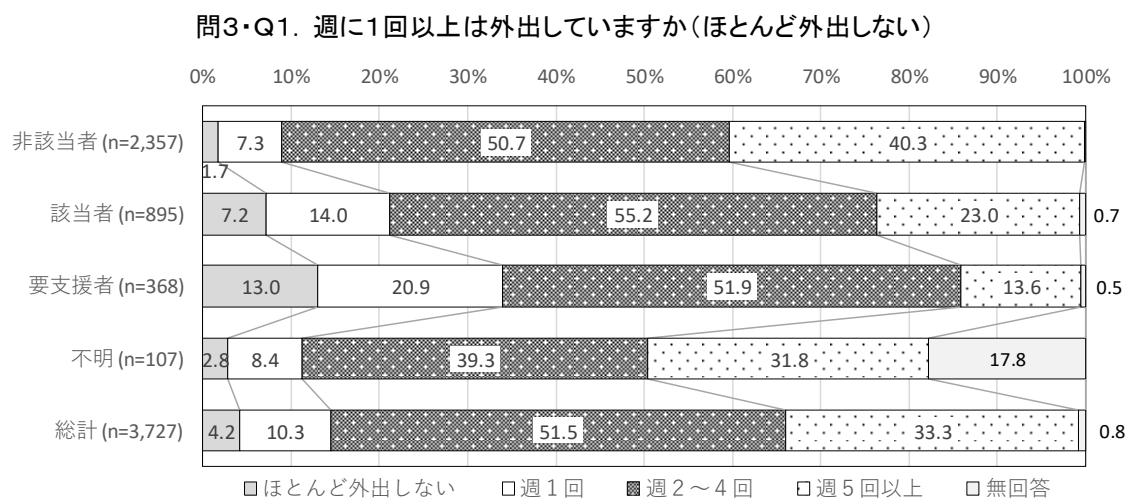
2 生活機能

ウ 回答結果

個々の設問に関する回答を認定・該当状況みると、(問3・Q1)「1週間に1回以上は外出していますか」については、要支援者で該当者割合が13.0%と比較的高くなっています。

(問3・Q2)「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」でも、要支援者で該当者割合が比較的高くなっています。

図表 回答結果



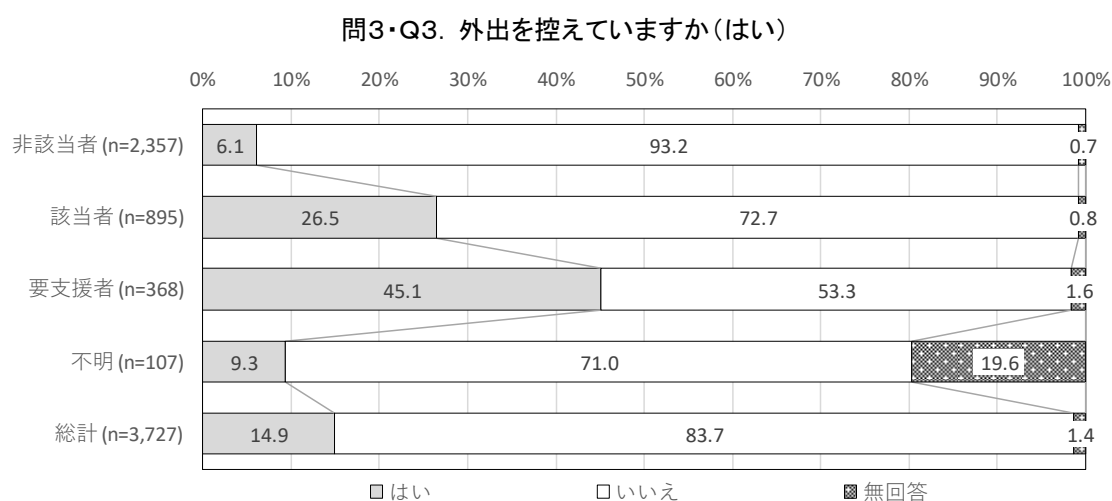
エ 関連設問

「外出を控えていますか」の回答を認定・該当状況みると、要支援者では「はい」が45.1%で最も多く、次いで該当者（26.5%）、不明者（9.3%）になっています。

外出を控えていると回答している方にその理由を質問したところ、最も多いのは「足腰などの痛み」（51.0%）となっており、半数近くの方が挙げています。次いで「家の周辺に坂がある」（16.0%）、「病気」（15.6%）、「トイレの心配（失禁など）」（13.1%）などが続いています。

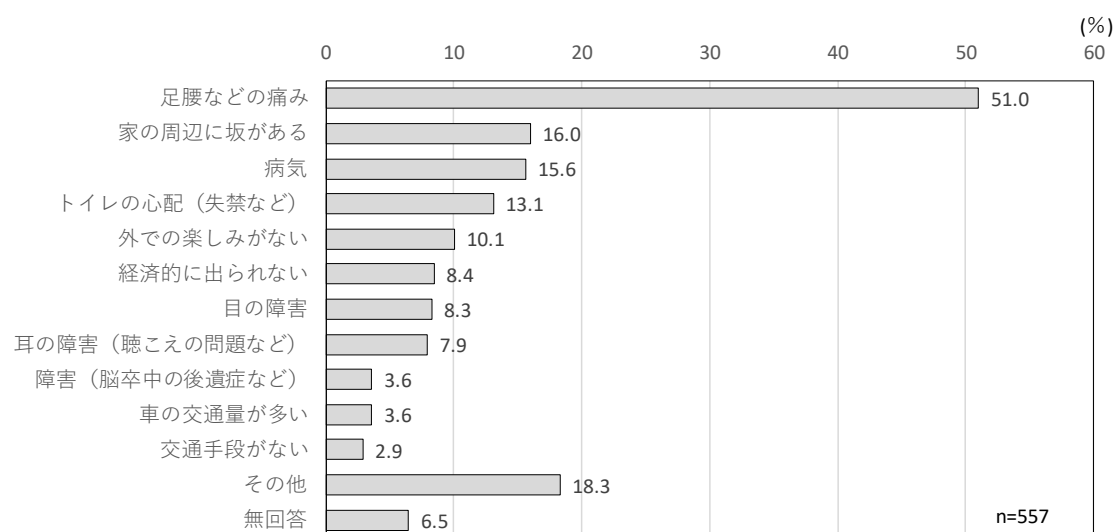
また、外出する際の移動手段としては、「徒歩」が77.5%で最も多く、次いで「電車」（71.2%）「路線バス」（60.3%）、「自動車（自分で運転）」（35.8%）などが続いています。

図表 外出を控えているかの有無



図表 外出を控えている理由

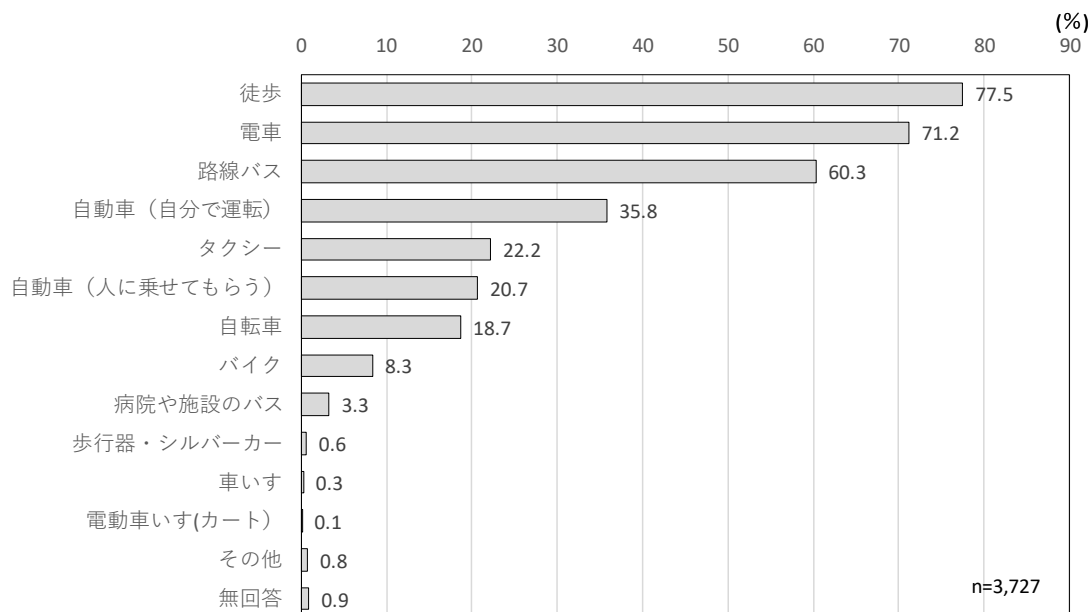
問3・Q3-1. 外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)



2 生活機能

図表 外出の際の移動手段

問3・Q4. 外出する際の移動手段は何ですか(いくつでも)



(3) 転倒

ア 設問と評価

本調査では、基本チェックリストの運動機能の評価に加え、転倒リスクについても別に評価ができるよう、設問が設けられています。

具体的には、簡易式の転倒チェックシートの設問で、調査票の間4・Q4、6～8、問10・Q5-5の5問が該当します。

内容としては、転倒経験（基本チェックリストと重複）、背中の変化、杖の使用、歩行速度の変化、多剤服用の有無となっています。

評価における各設問に対する配点は下の図表のとおりで、転倒経験が5点、その他が各2点で、13点満点のスコアとして評価が可能となっています。

評価としては、介護予防も前提に6点以上を転倒リスクありとして評価しています。

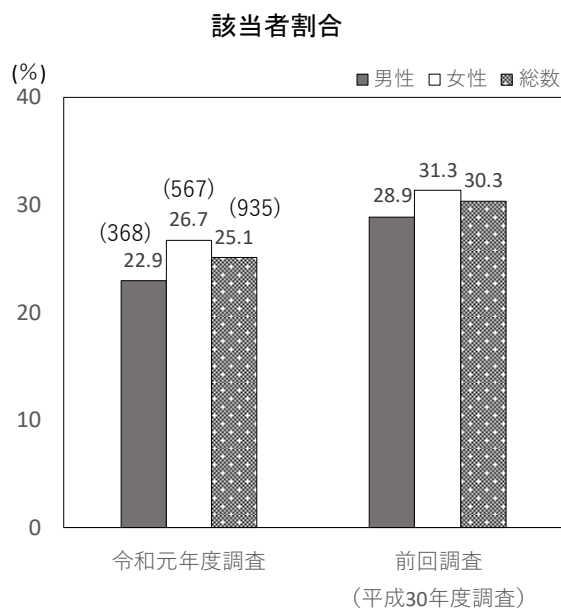
図表 転倒リスクに関する設問

問番号	設 問	配点と選択肢
問4・Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	5:「1. 何度もある」「1. 1度ある」 0:「2. ない」
問4・Q6	背中が丸くなってきましたか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問4・Q7	以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問4・Q8	杖を使っていますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問10・Q5-5	(通院している方のみ) 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでますか	2:「5. 5種類以上」 0:5以外

イ 評価結果

結果をみると、全体で935人、25.1%（男性368人22.9%、女性567人26.7%）がリスク者（転倒しやすい）となっています。前回調査と比較すると、全体で5.2ポイント低くなっています。

図表 リスク状況－転倒リスク



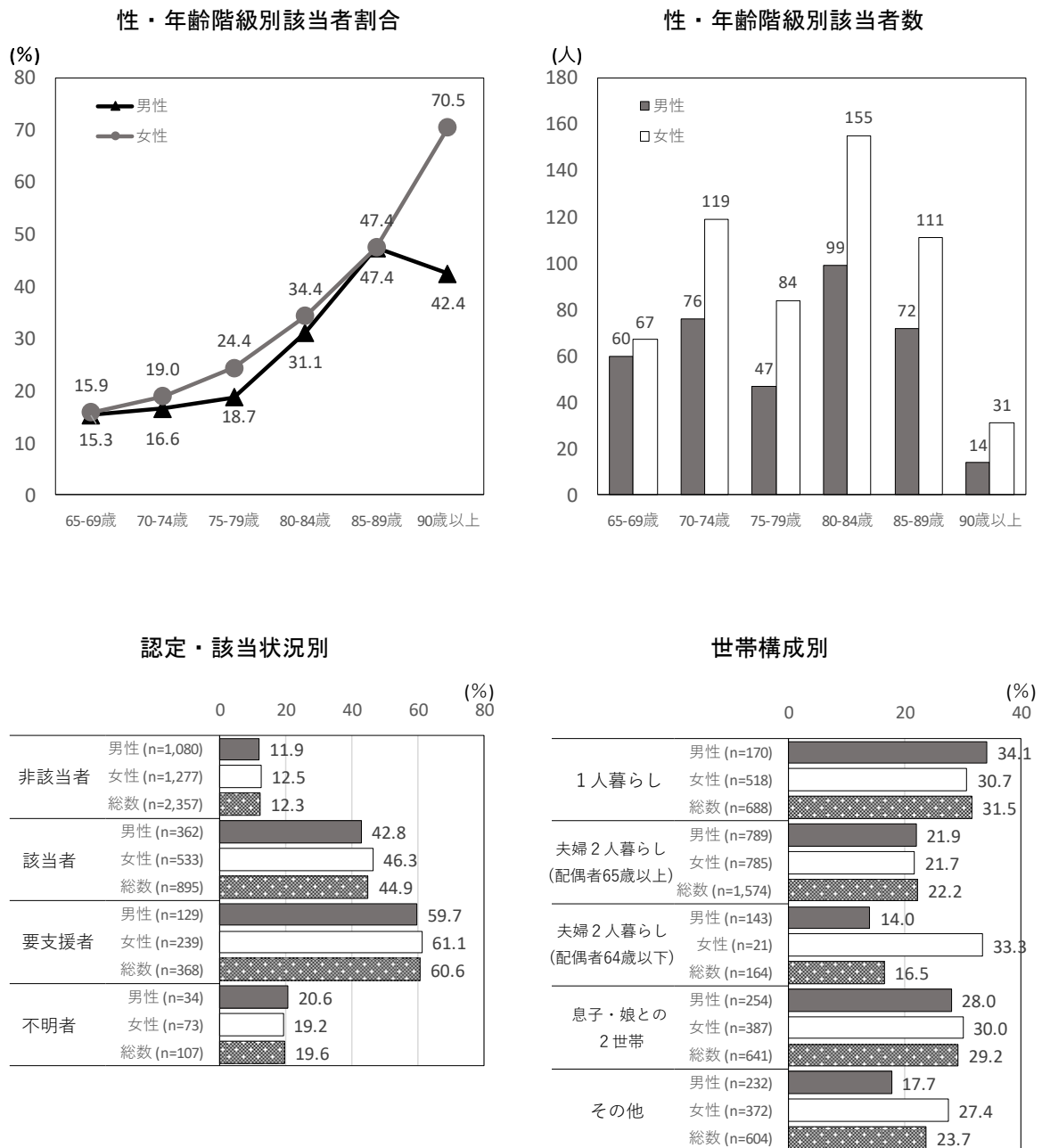
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、90歳以上の男性を除き、年齢とともにリスク者割合が高くなっています。リスク者数でみると、男女ともに80～84歳がそれぞれ99人、155人でピークになっています。

これを認定・該当状況別にみると、非該当者は12.3%、該当者は44.9%、要支援者は60.6%、不明者は19.6%と要支援者でリスク者割合が高くなっています。

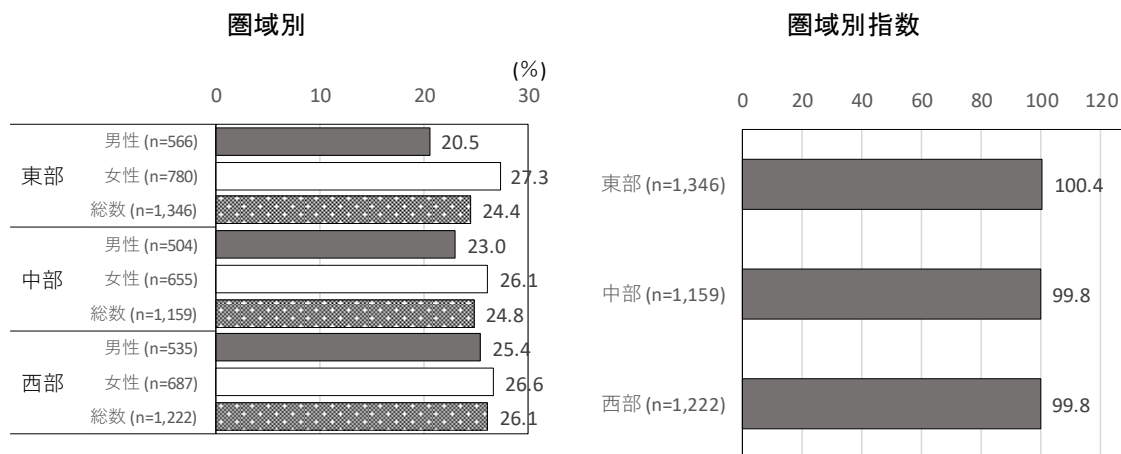
世帯構成別にみると、1人暮らしの男性と夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性でリスク者割合が高くなっています。

図表 転倒リスク状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別にみると、西部圏域が 26.1%と他圏域に比べてやや低くなっています。指数で比較すると、東部圏域が 100.4 でやや高くなっています。

図表 転倒リスク該当状況—圏域別

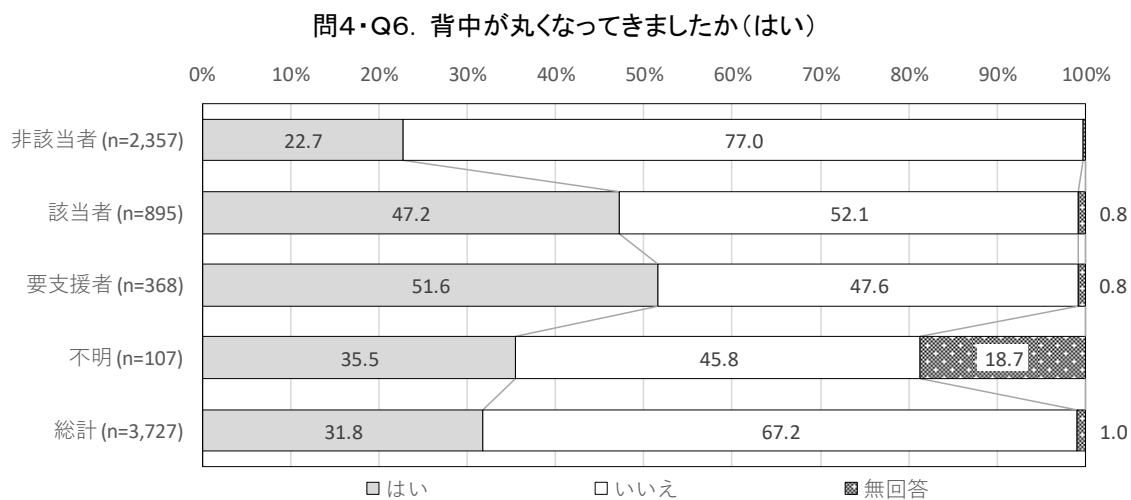
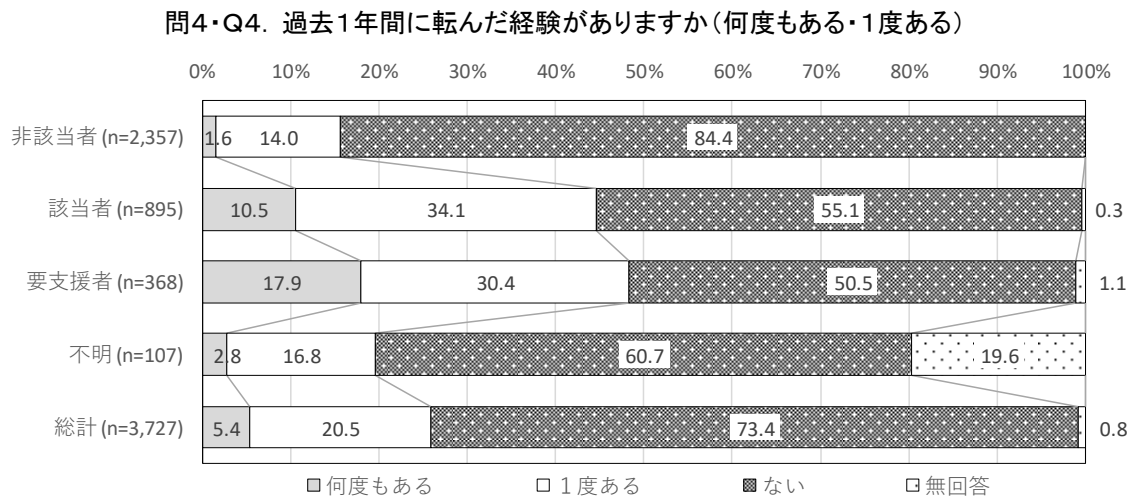


2 生活機能

ウ 回答結果

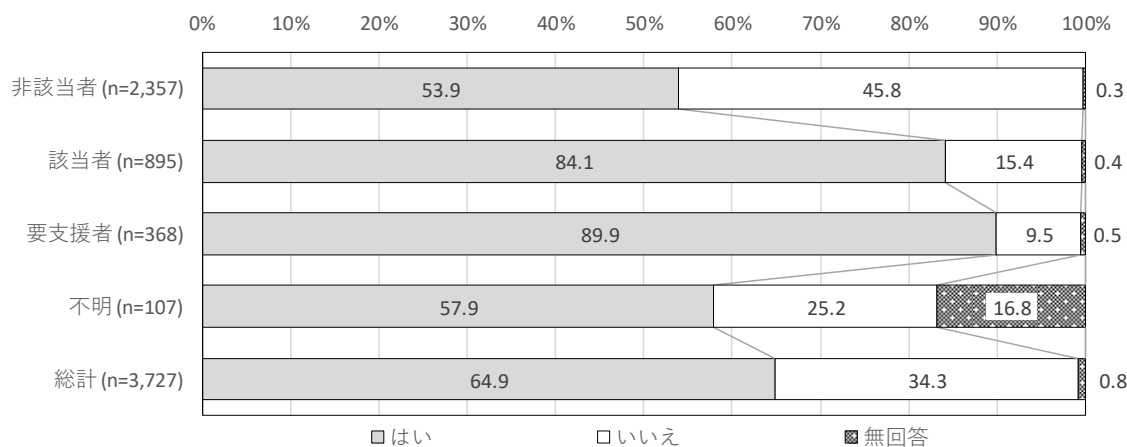
評価の基礎になった設問に対する回答をみると、最も該当率が高いのは歩行速度の変化に関する設問（問4・Q7）で、要支援者で89.9%、該当者で84.1%、非該当者でも53.9%が該当しています。一方、杖の使用（問4・Q8）については、非該当者で2.6%、該当者で13.5%、要支援者で50.5%と、要支援者で該当者割合が高くなっています。

図表 回答結果-1

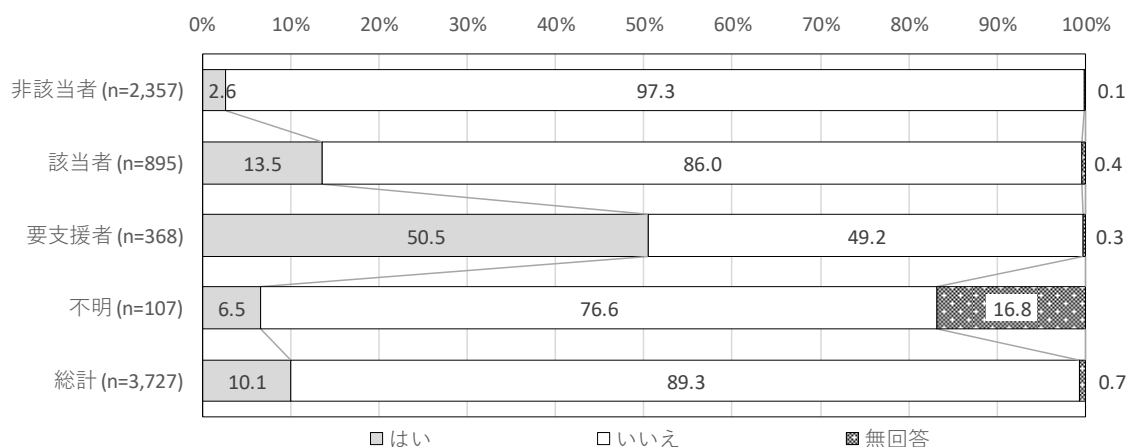


図表 回答結果-2

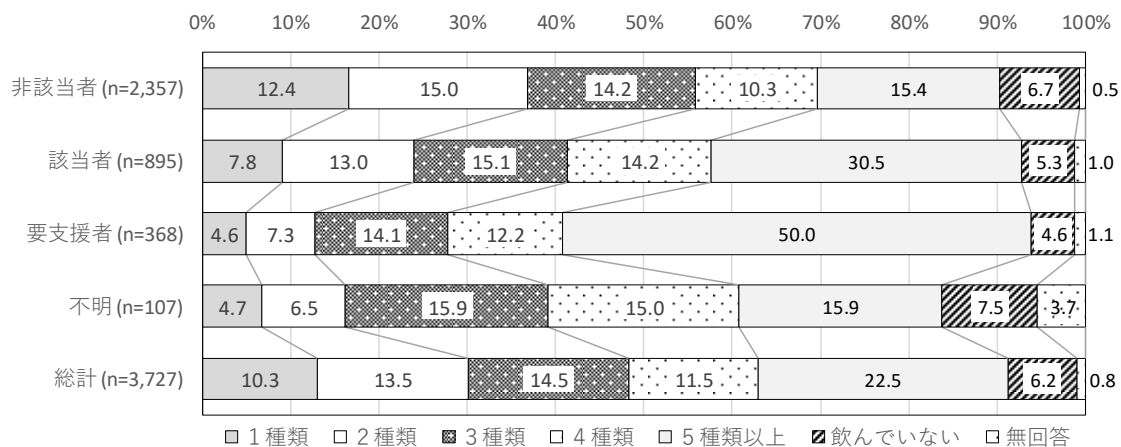
問4・Q7. 以前に比べて歩く速度が遅くなって来たと思いますか(はい)



問4・Q8. 杖を使っていますか(はい)



問10・Q5-5. 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでますか(5種類以上)
(Q5で通院していますか(はいと回答した方))



2 生活機能

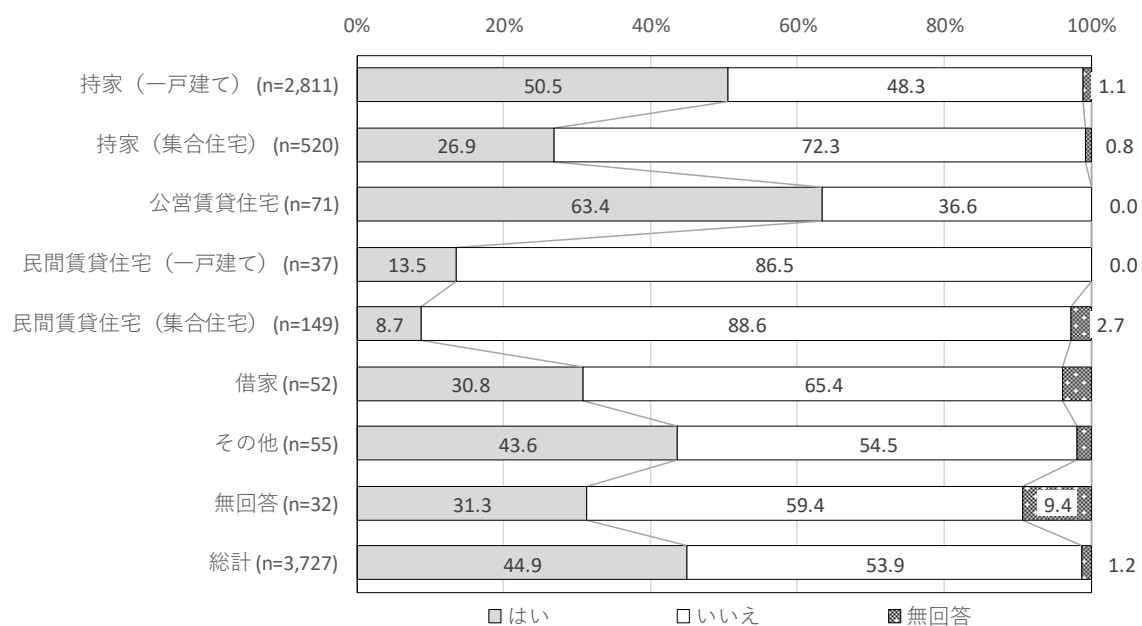
エ 関連設問

家の中は、手すりを付けたり敷居を低くするなど、移動しやすいようにつくられているかについては、持家（一戸建て）で 50.5%と多くなっている一方、民間賃貸住宅（一戸建て）では 8.7%となっており、「はい」の回答割合が、持家（一戸建て）が民間賃貸住宅（一戸建て）より 40 ポイント以上高くなっています。

家の周辺の環境により外出に不安があるかについては、要支援者で 58.7%、該当者で 36.8%が「はい」と回答しています。

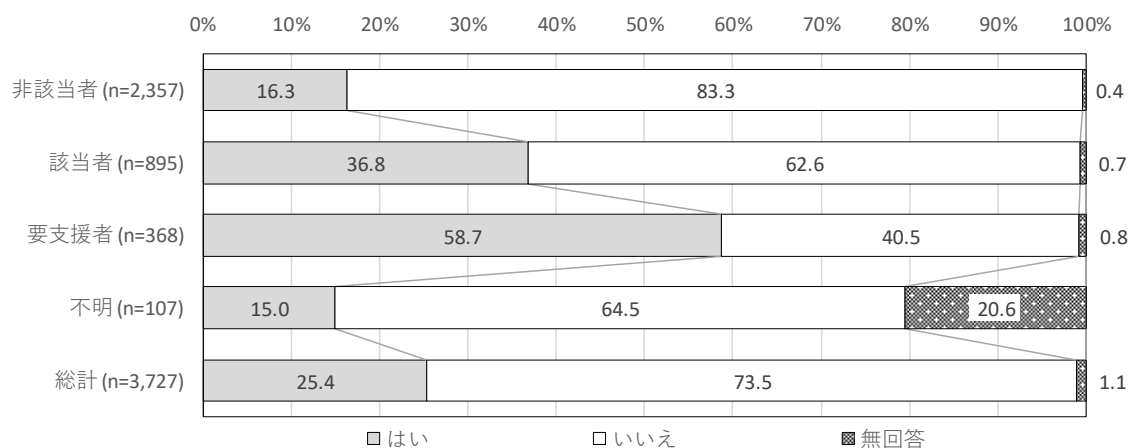
図表 家の中での移動

問4・Q9. 家の中は、手すりを付けたり敷居を低くするなど、移動しやすいようにつくられていますか（住宅所有関係別）



図表 家の周辺

問4・Q10. 家の周辺は、坂があったり車の交通量が多かったりなどで、外出に不安を感じることはありませんか



(4) 足のケア

ア 設問と評価

今回の調査では、日常生活圏域ニーズ調査の設問に加え、高齢者の運動機能、転倒リスクとも関連するといわれる足や爪のケアに関する設問が設けられています。

具体的には、以下の4問について、合計点が5点以上となった場合を足のケアのリスクありとして評価しています。

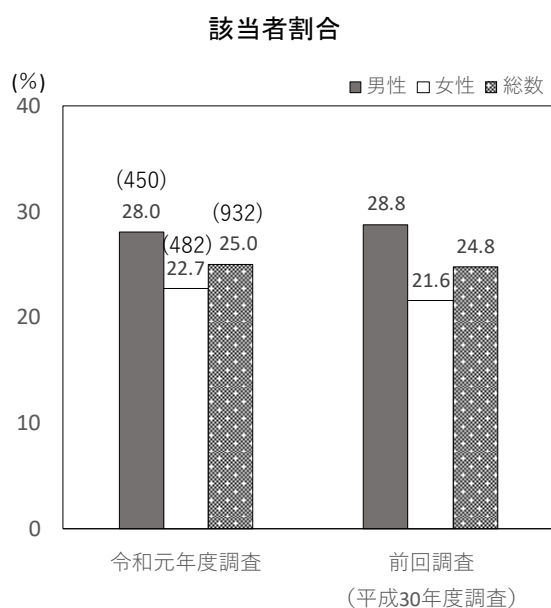
図表 足のケアに関する設問

問番号	設 問	配点と選択肢
問7・Q1	足や爪に水虫がありますか	2:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問7・Q2	足の皮膚の炎症、又はむくみや変色がありますか	3:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問7・Q3	爪の肥厚・変形などがありますか	3:「1. はい」 0:「2. いいえ」
問7・Q4	足の指の血流が悪い、又は機能障害などがありますか	3:「1. はい」 0:「2. いいえ」

イ 評価結果

結果をみると、全体で932人、25.0%（男性450人28.0%、女性482人22.7%）が足のケアに注意が必要なリスク者となっています。女性より男性で、リスク者割合が高くなっています。前回調査と比較すると全体で、0.2ポイント低くなっています。

図表 リスク状況－足のケア



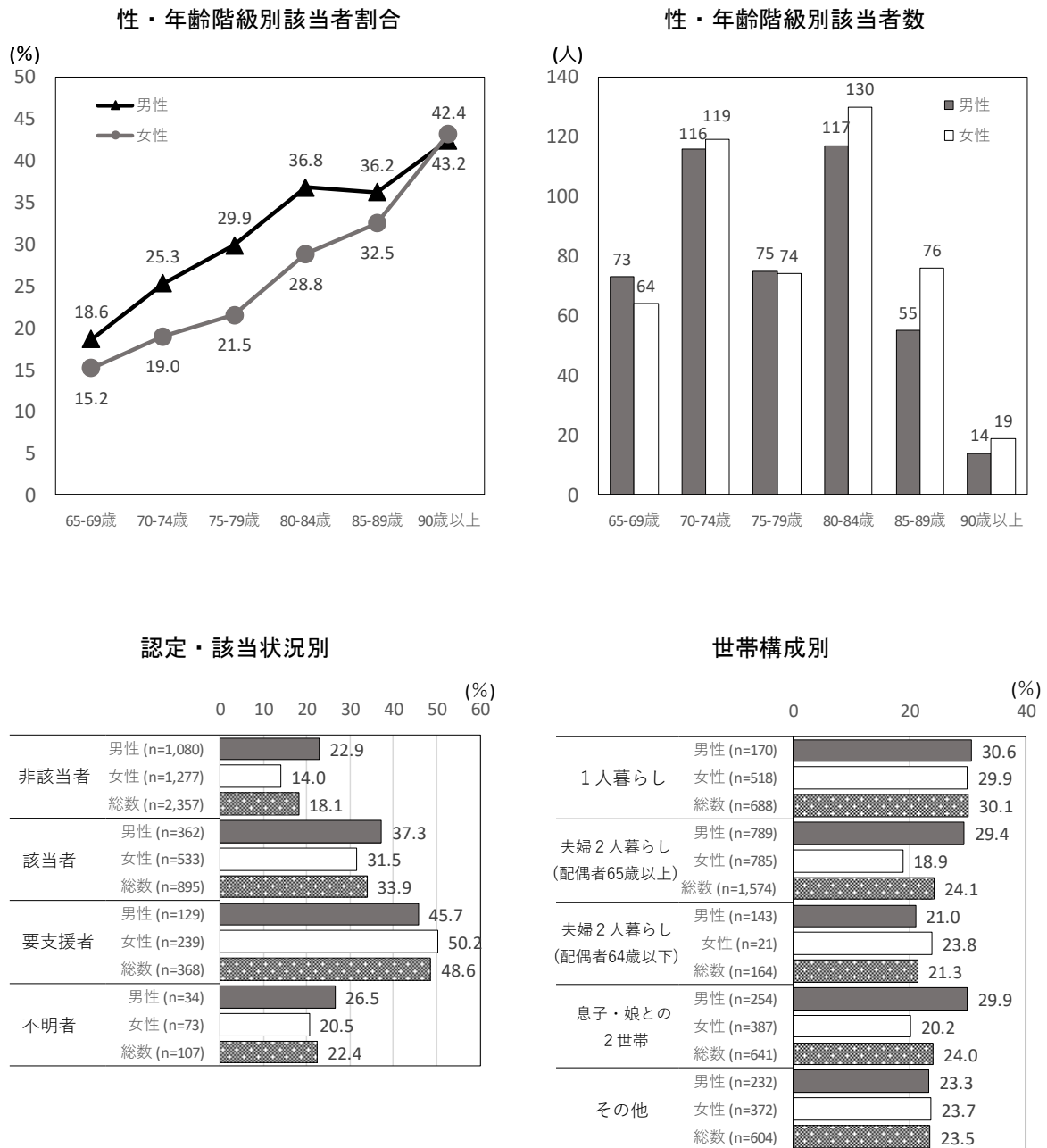
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男性では年齢とともにリスク者割合が高くなる傾向となっています。リスク者数でみると、男女ともに80～84歳で117人、130人と多くなっています。

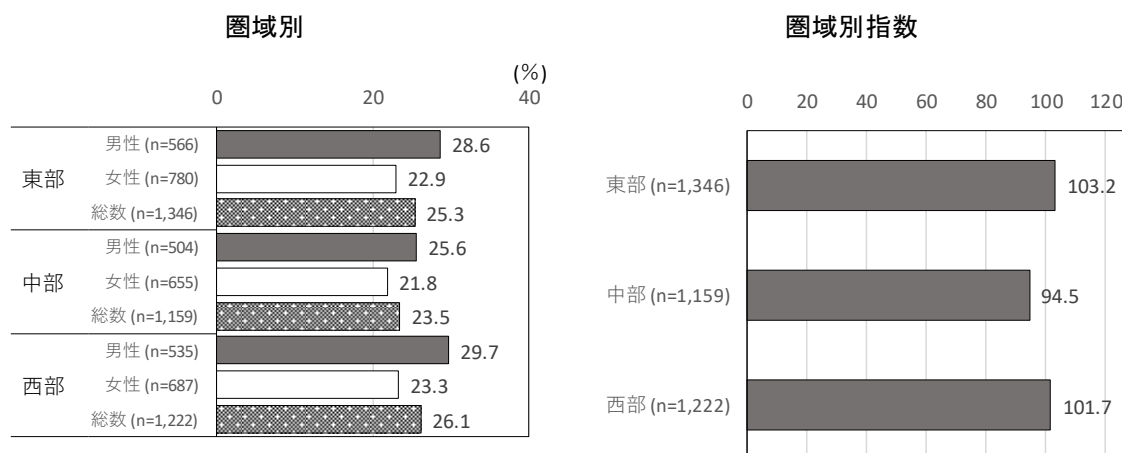
これを認定・該当状況別にみると、非該当者18.1%、該当者33.9%、要支援者48.6%、不明者22.4%と、要支援者でリスク者割合が高くなっています。

世帯構成別では、1人暮らし世帯でリスク者割合が高くなっています。

図表 足のケアのリスク状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別にみると、中部圏域が23.5%と他圏域に比べてリスク者割合がやや低くなっています。指数で比較すると、東部圏域が103.2と高くなっています。

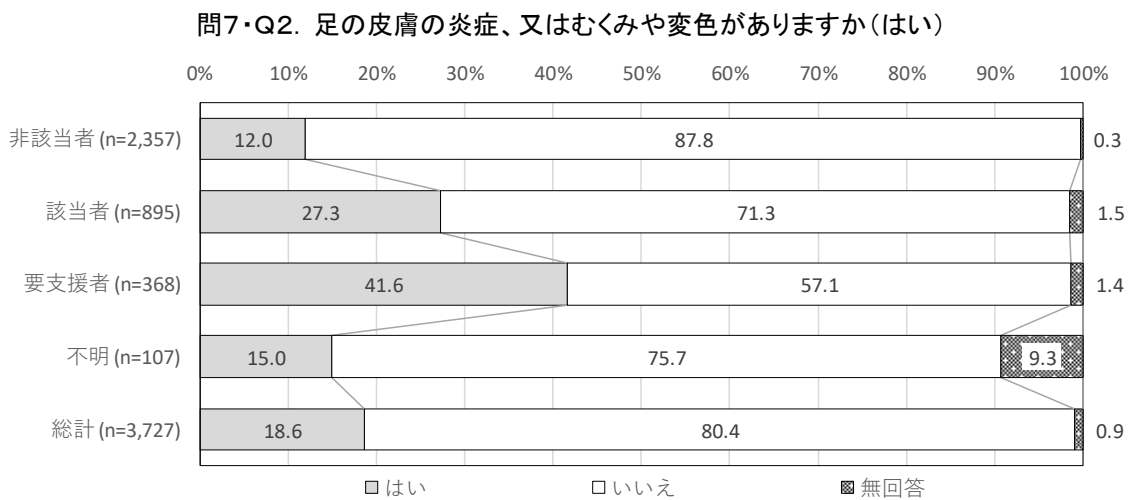
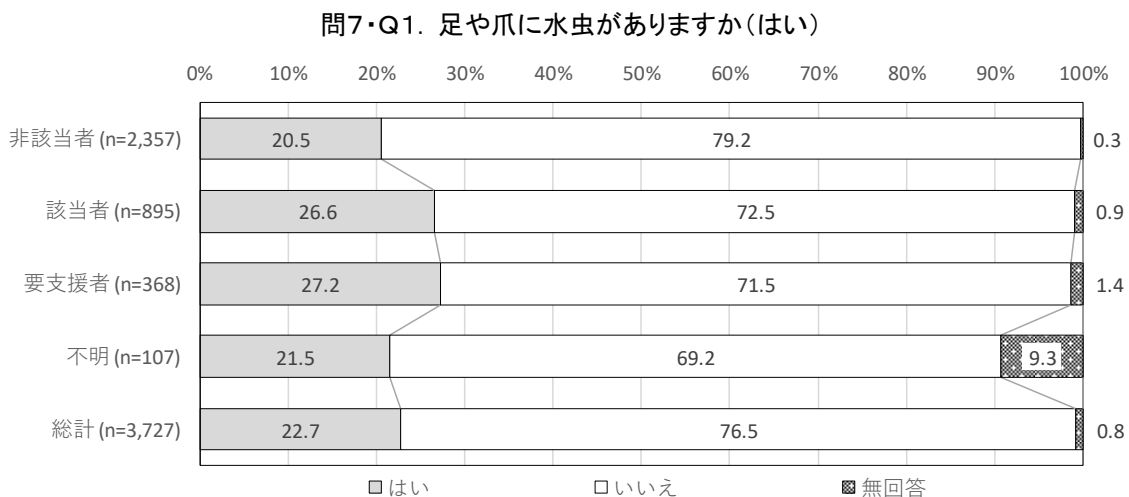


2 生活機能

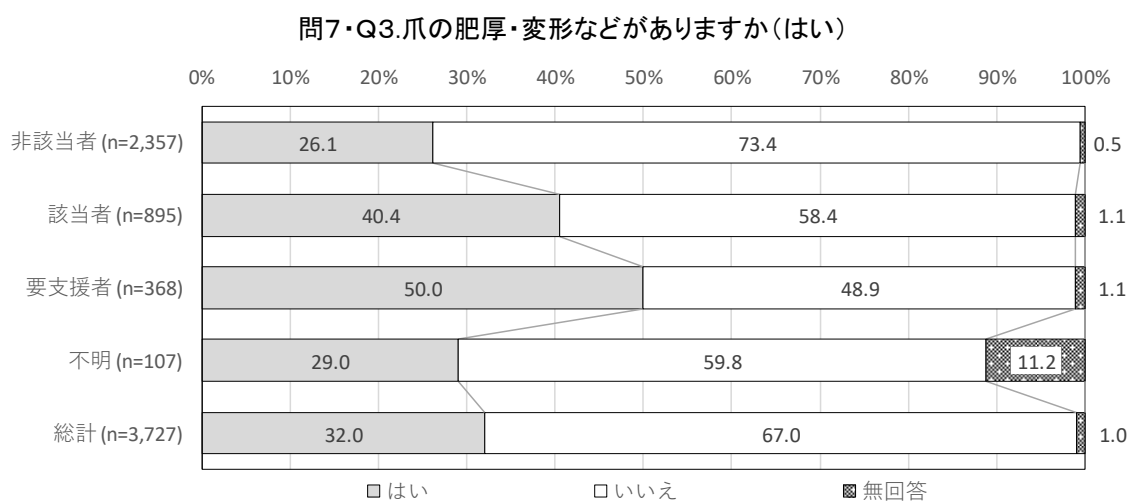
ウ 回答結果

評価の基礎になった設問に対する回答をみると、最も該当率が高いのは爪の肥厚や変形(問7・Q3)で、全体で32.0%が、該当者、要支援者ではそれぞれ40.4%、50.0%が該当しています。

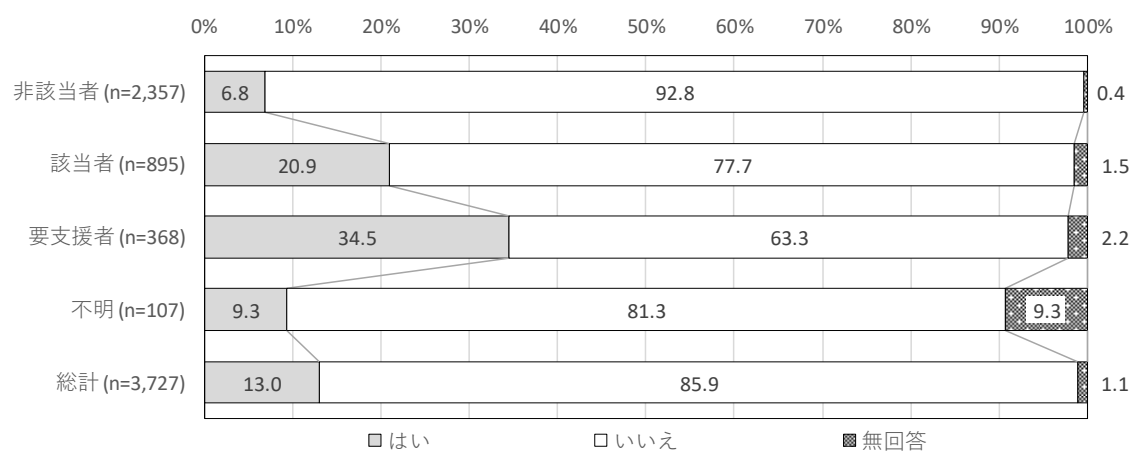
図表 回答結果-1



図表 回答結果-2



問7・Q4.足の指の血流が悪い、又は機能障害などがありますか(はい)



2 生活機能

(5) 栄養

ア 設問と評価

国の基本チェックリストでは、下の2つの設問に対する回答から、高齢者の低栄養リスクの判断を行っています。

具体的には、設問2問中2問に該当した場合（BMI＝体重kg／身長m／身長mが18.5未満で、ここ6か月間で2～3kg以上の体重減少があった場合）に低栄養状態と判定されます。

図表 栄養に関する設問（基本チェックリスト）

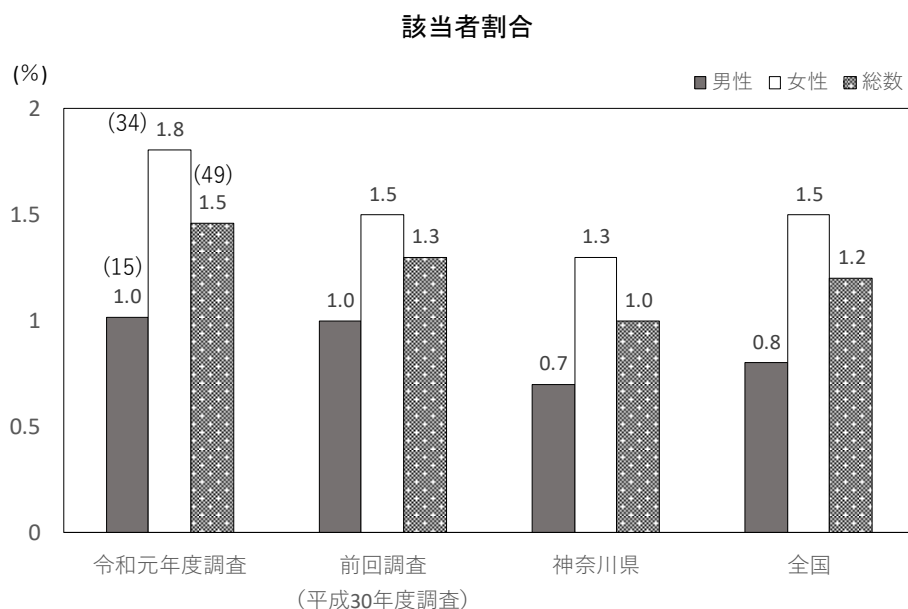
問番号	設問	該当する選択肢
問5・Q1	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問5・Q2	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5

※BMI（肥満指数）：体重（kg）／身長（m）／身長（m）によって求められる値。18.5未満が「やせ」、25以上が「肥満」。

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で49人、1.5%（男性15人1.0%、女性34人1.8%）が該当者となっており、他の項目と比較して該当者割合が非常に低くなっています。前回調査、全国、神奈川県の結果と比較すると、全体で前回調査より0.2ポイント、神奈川県より0.5ポイント、全国より0.3ポイント高くなっています。

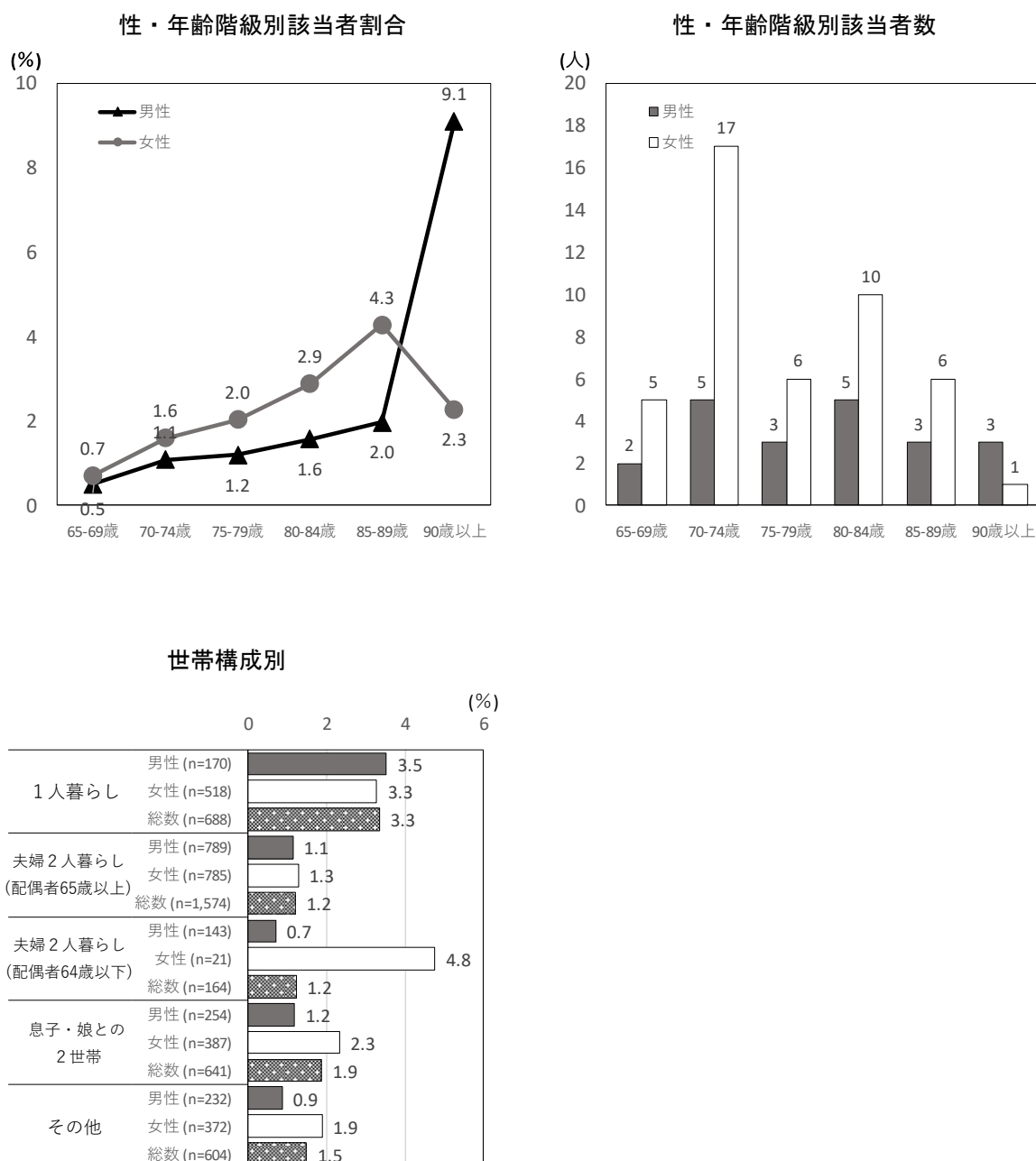
図表 該当状況－低栄養状態



性・年齢階級別にみると、90歳以上の女性を除き、男女ともに年齢とともにリスク者割合が高くなっています。該当者数をみると、女性では70～74歳が17人と最も多くなっています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性が4.8%と該当者割合が顕著に高くなっています。

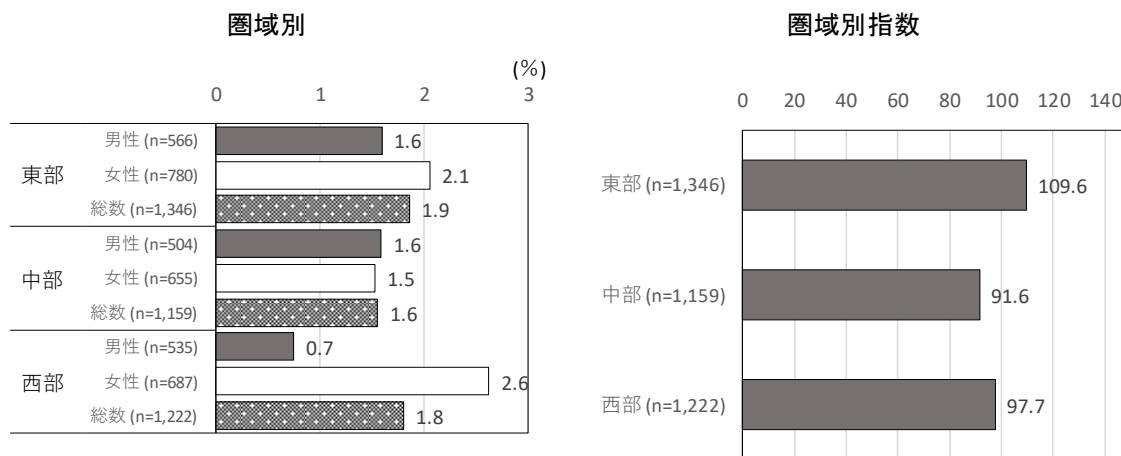
図表 低栄養状態該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

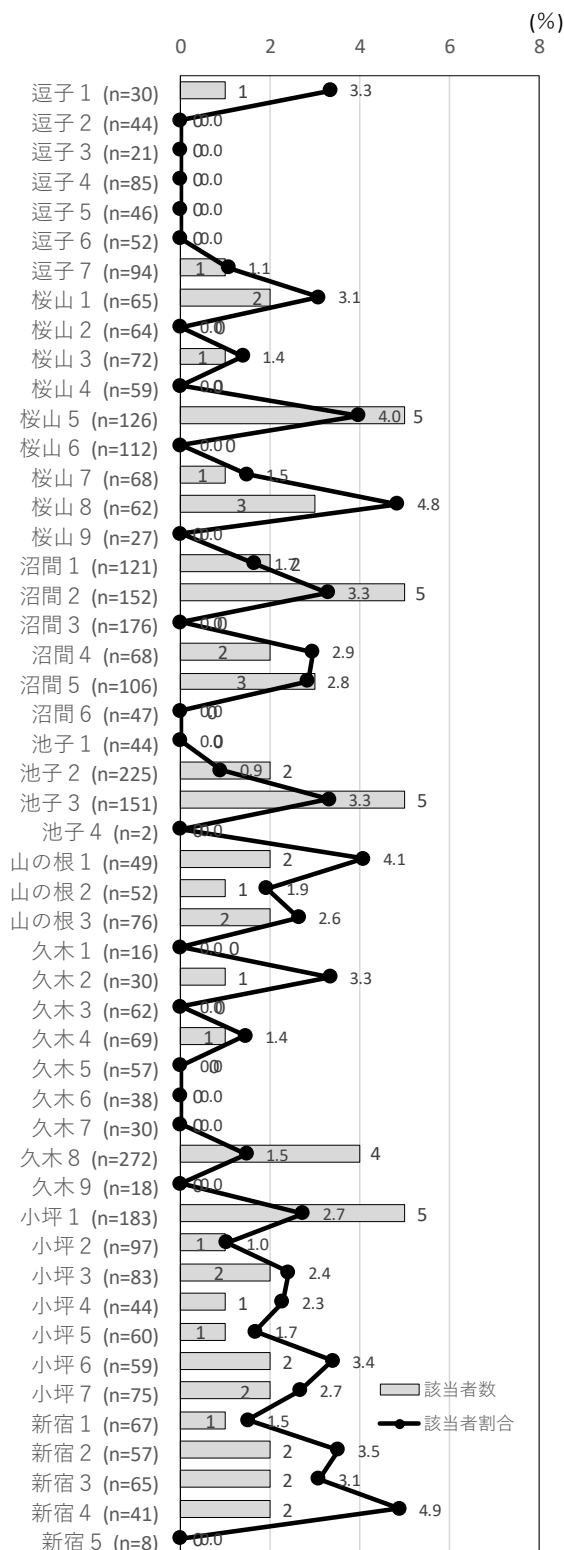
圏域別にみると、西部圏域の女性が2.6%と他圏域に比べて高くなっています。指数で見ると、東部圏域が109.6で最も高くなっています。

図表 低栄養状態該当状況—圏域別

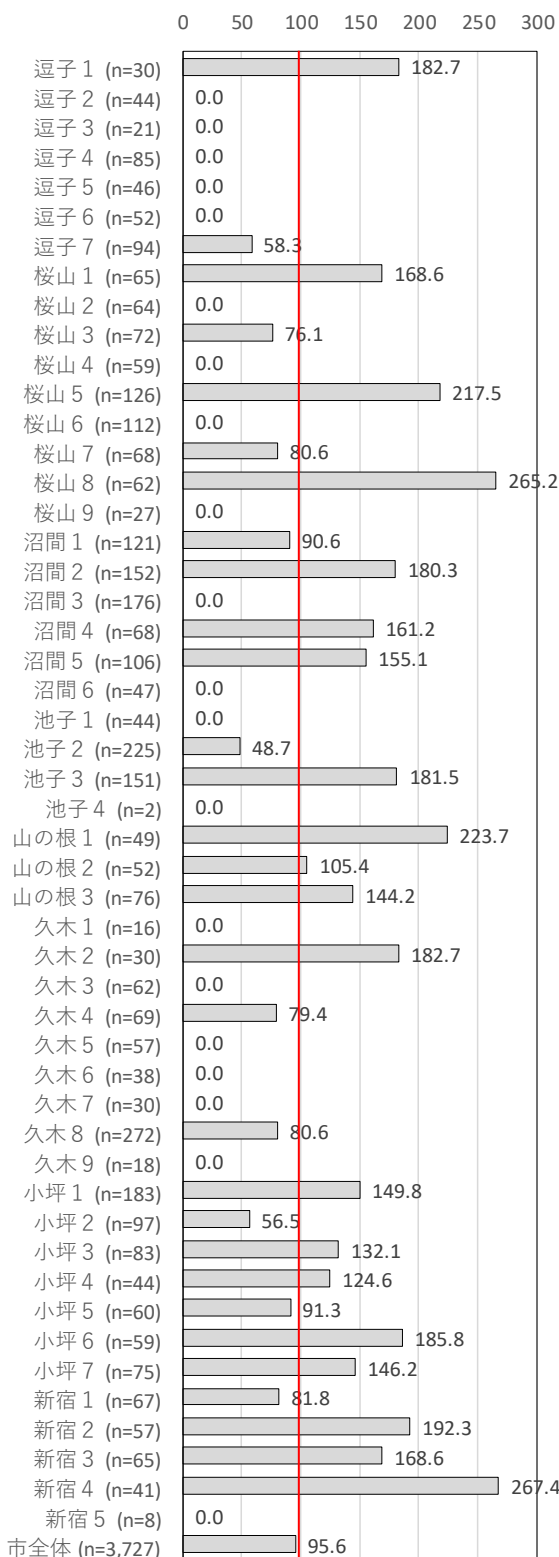


町丁別に該当状況を見ると、桜山5丁目、沼間2丁目、池子3丁目、小坪1丁目で該当者が5人と多くなっています。指数においては、桜山5丁目、桜山8丁目、山の根1丁目、新宿4丁目が200を超えて高くなっています。

図表 低栄養状態該当状況 町丁別該当者数・割合

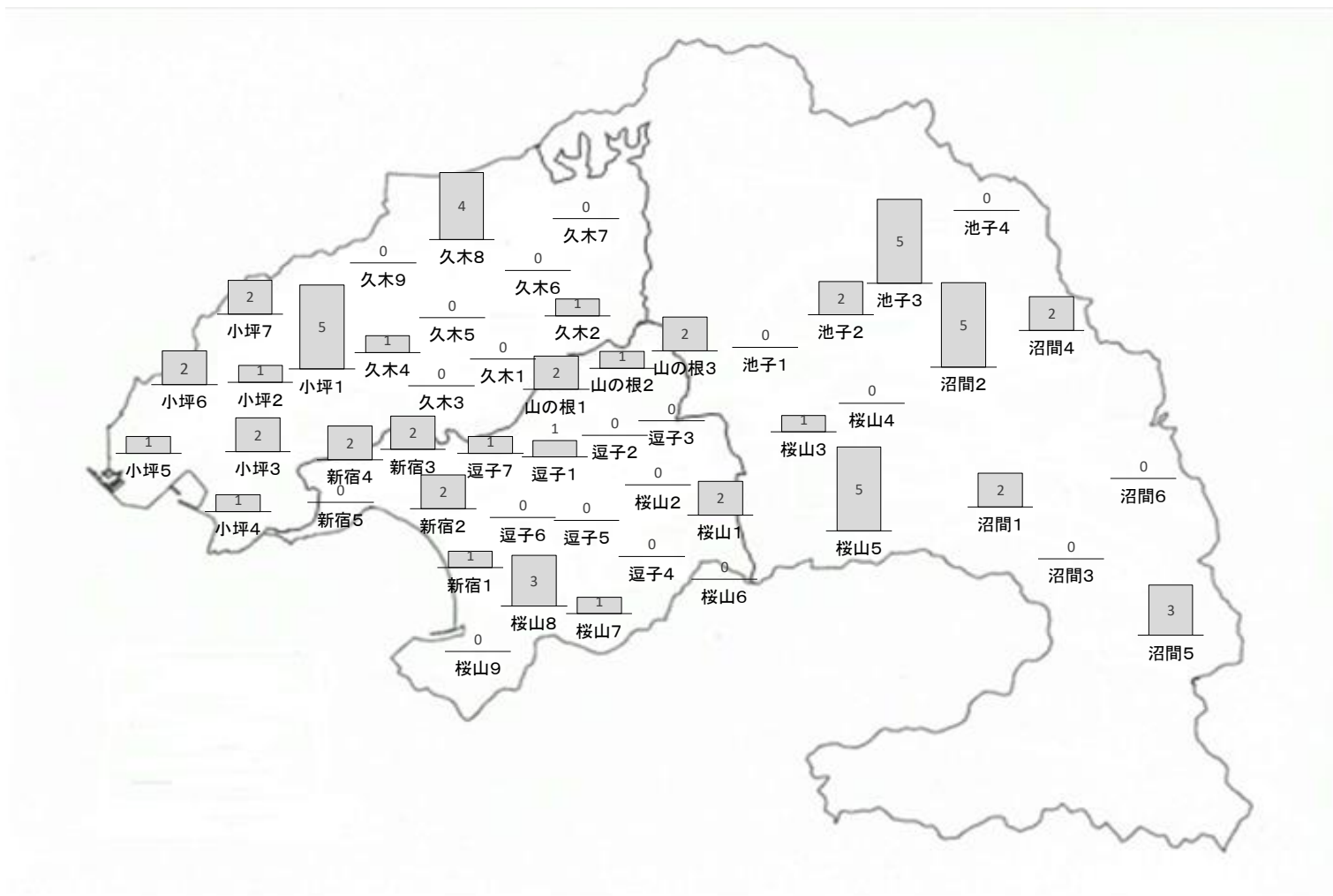


図表 低栄養状態該当状況 町丁別指数



2 生活機能

図表 町丁別該当者数の分布：低栄養状態

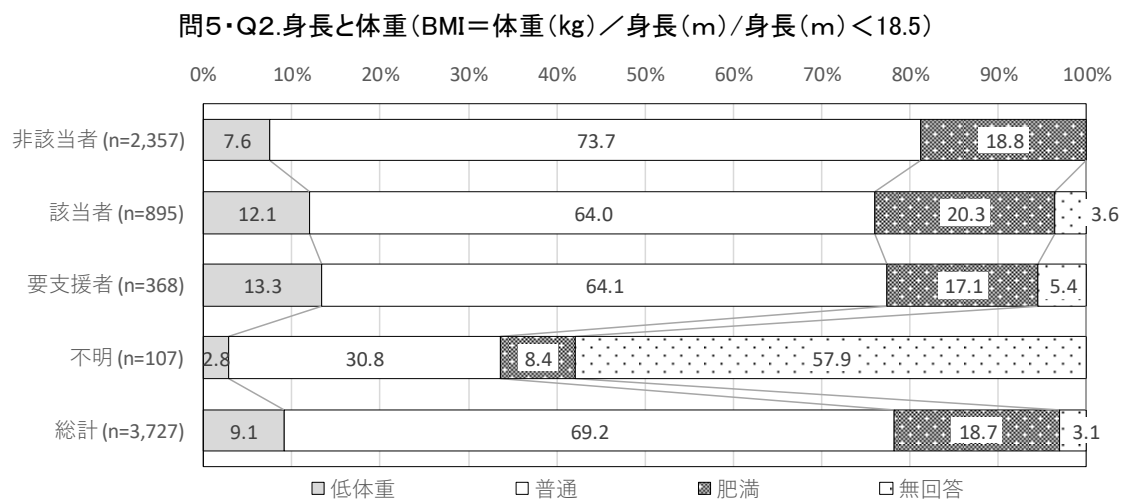
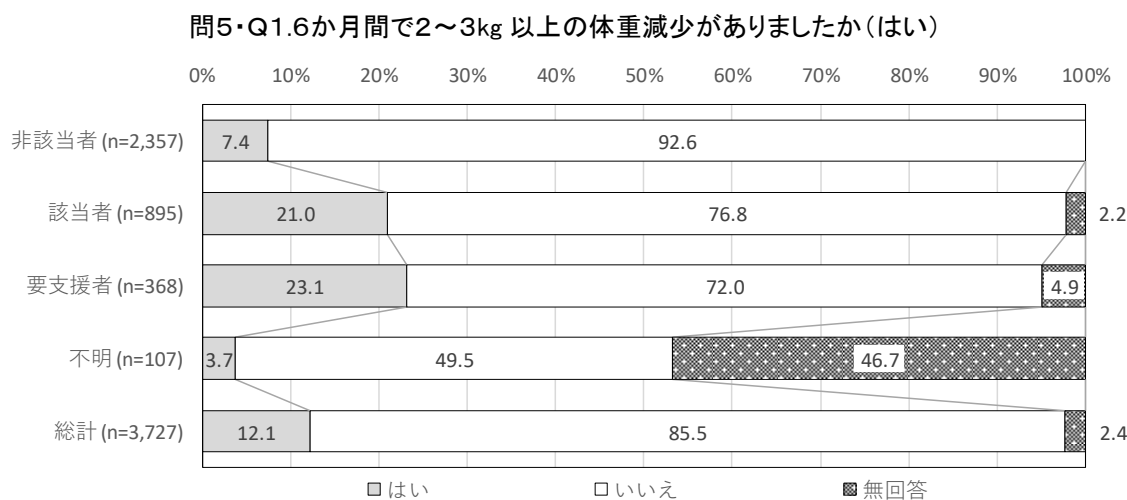


ウ 回答結果

評価の基礎になった設問に対する回答をみると、該当率が比較的高いのは2～3kg以上の体重減少に関する設問（問5・Q1）で、非該当者は7.4%、該当者は21.0%、要支援者は23.1%、不明者3.7%が該当しています。

体格指数（BMI）については、非該当者7.6%、該当者12.1%、要支援者13.3%不明者2.8%が該当しており、非該当者にも潜在的な低栄養リスク者がいることがうかがえます。

図表 回答結果

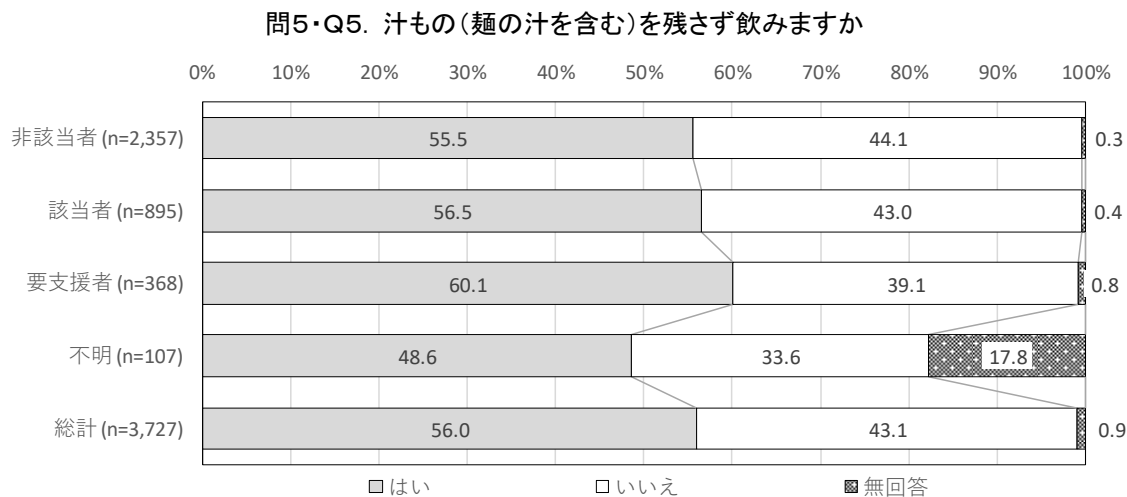
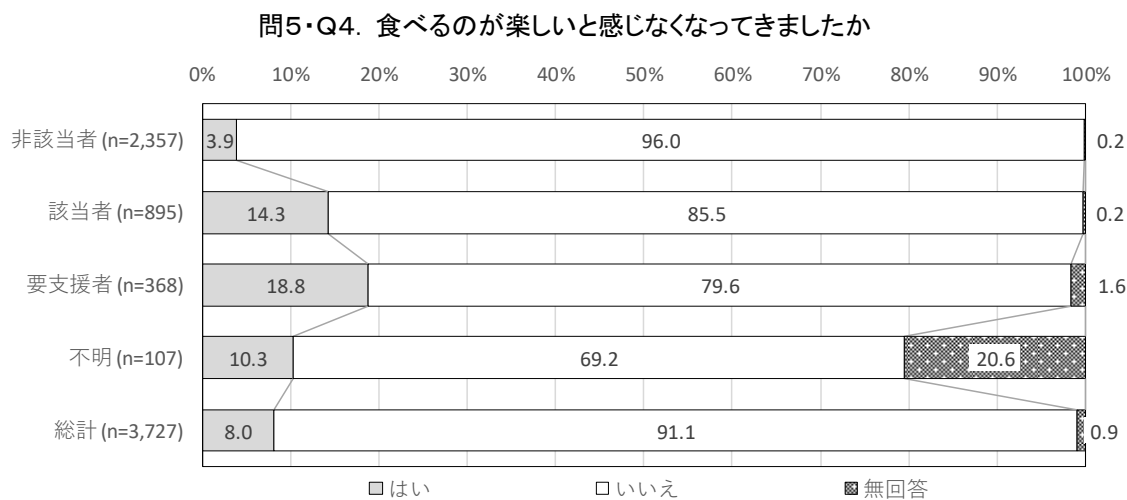
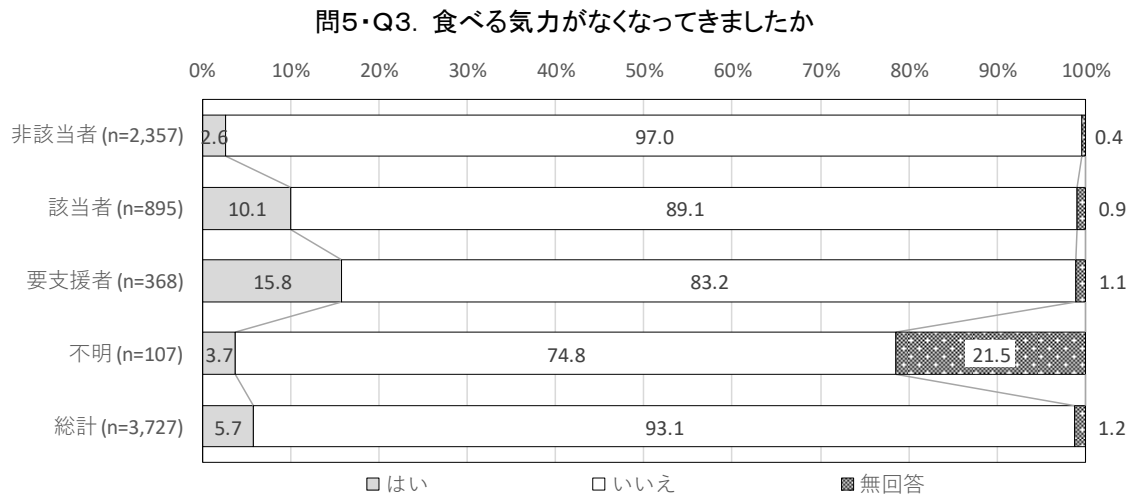


2 生活機能

エ 関連設問

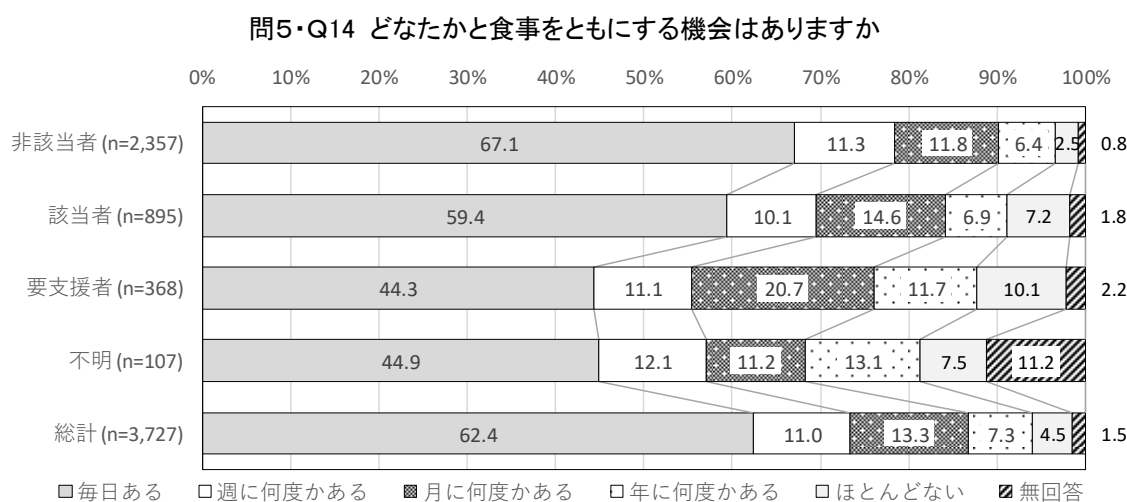
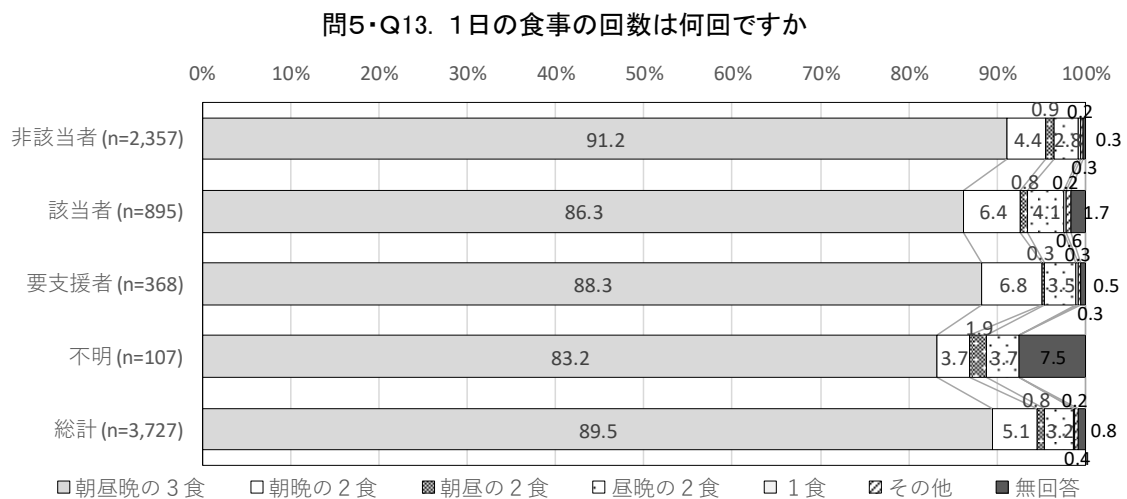
関連設問に対する回答をみると、低栄養に関する食べる気力（問5・Q3）や食べる楽しさ（問5・Q4）に関する設問では、該当者や要支援者で10%以上が「はい」と回答しています。

図表 回答結果-1



また、1日の食事の回数（問5・Q13）に関する設問では「朝昼晩の3食」がほとんどを占めていますが、誰かとともに食事をする機会（問5・Q14）に関する設問では、要支援者では「毎日ある」が半数を割っています。

図表 回答結果-2



2 生活機能

(6) 口腔

ア 設問と評価

国の基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、栄養と関連する指標として口腔機能のリスク判定がされます。

具体的には、3問中2問以上に該当した場合に口腔機能低下と判定されます。

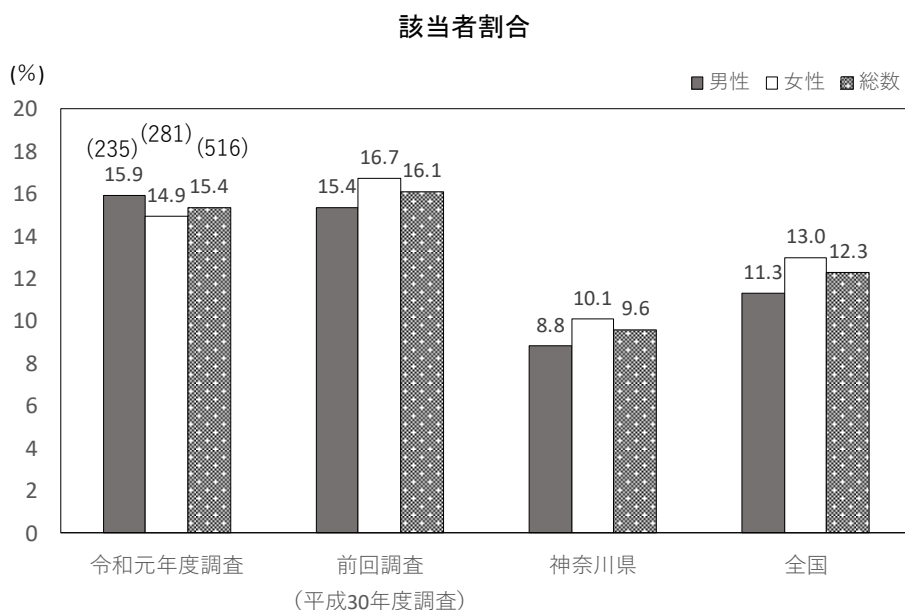
図表 口腔機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問5・Q6	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問5・Q7	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問5・Q8	口の渇きが気になりますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で 516 人、15.4%（男性 235 人 15.9%、女性 281 人 14.9%）が該当者となっています。男性より女性で該当者割合が高くなっています。前回調査、全国、神奈川県との調査結果と比較すると、全体で前回調査より 0.7 ポイント低くなっていますが、神奈川県より 5.8 ポイント、全国より 3.1 ポイント高くなっています。

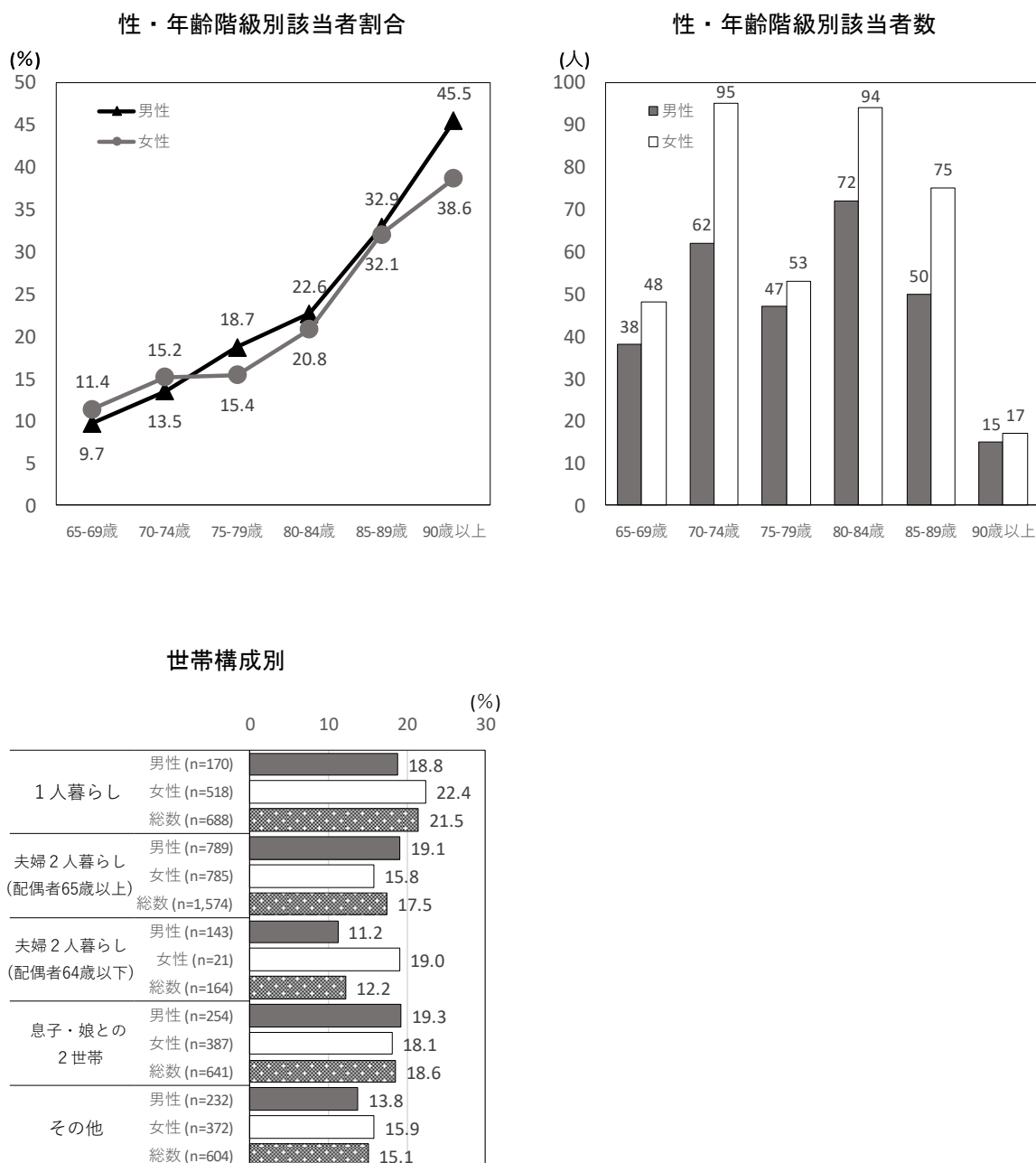
図表 該当状況－口腔機能の低下



性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともにリスク者割合が高くなる傾向がみられます。該当者数でみると、男性では80～84歳が72人、女性では70～74歳が95人で最も多くなっています。

これを世帯構成別にみると、1人暮らしの女性で該当者割合が比較的高くなっています。

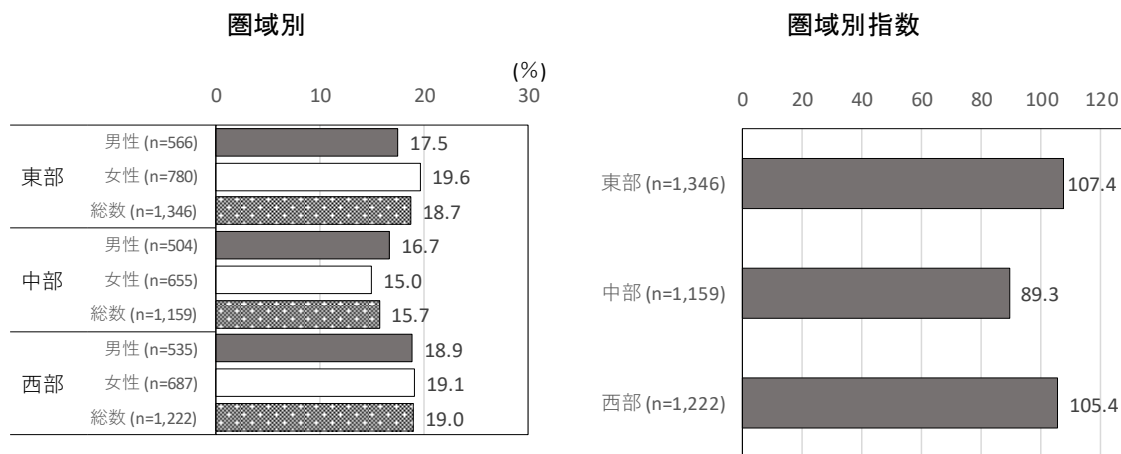
図表 口腔機能の低下 該当状況一性・年齢階級別、世帯構成別



2 生活機能

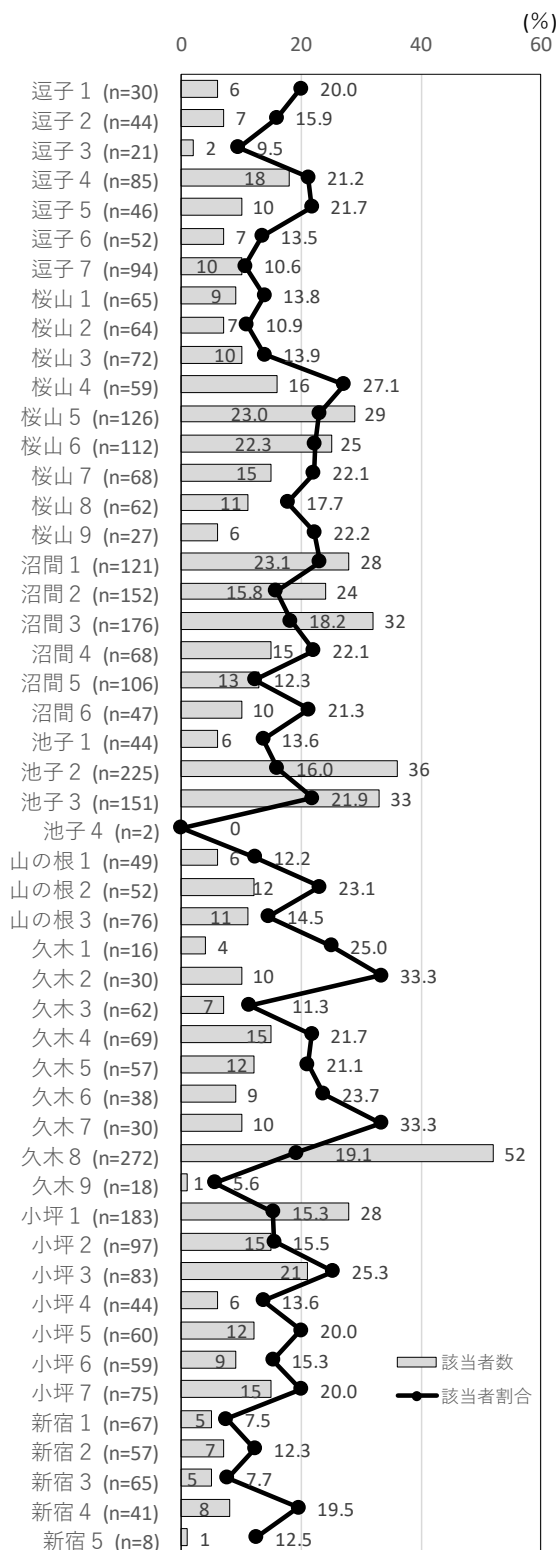
圏域別にみると、西部圏域では、19.0%と他の圏域より高くなっています。指数で比較すると、中部圏域が89.3と低くなっています。

図表 口腔機能の低下 該当状況一圏域別

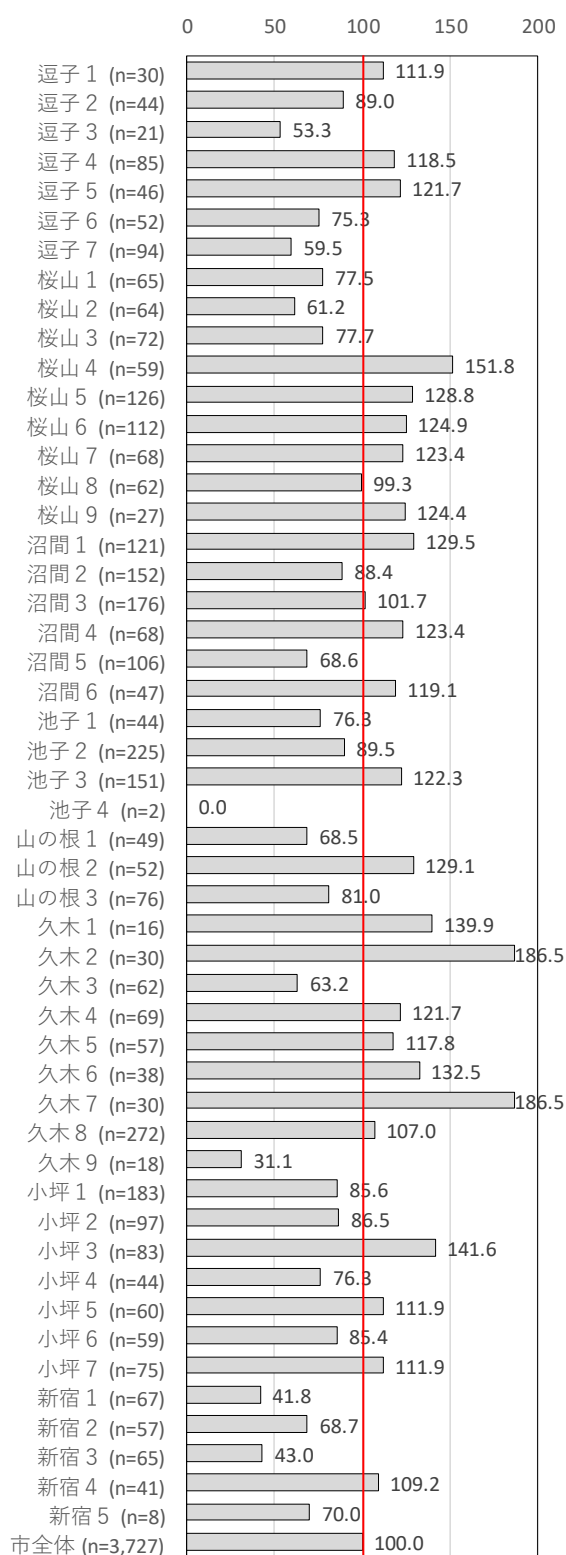


町丁別に該当状況をみると、久木8丁目の該当者が52人と最も多くなっています。指数でみると、久木2丁目、久木7丁目と最も高くなっています。

図表 口腔機能の低下 町丁別該当者数・割合

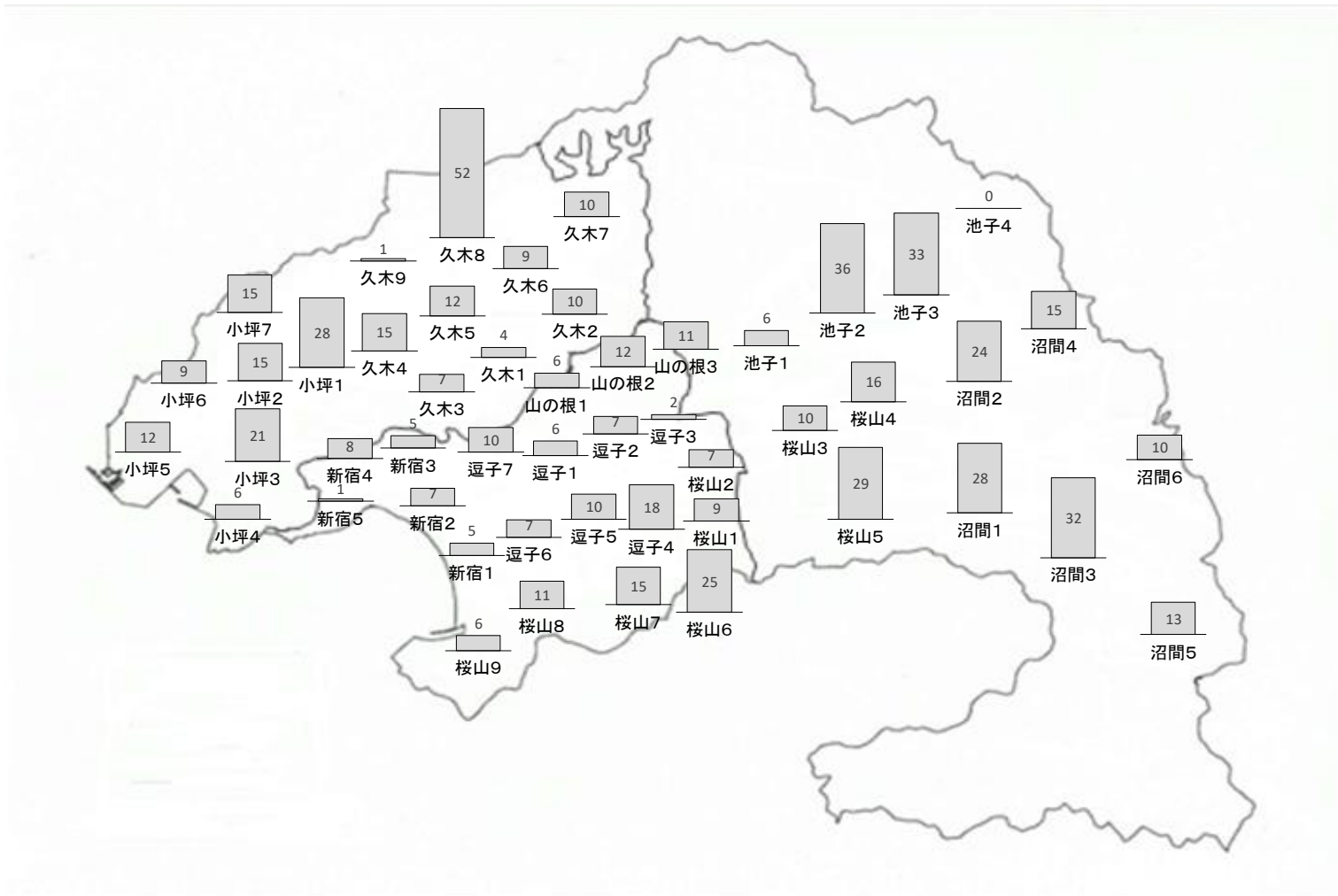


図表 口腔機能の低下 町丁別指数



2 生活機能

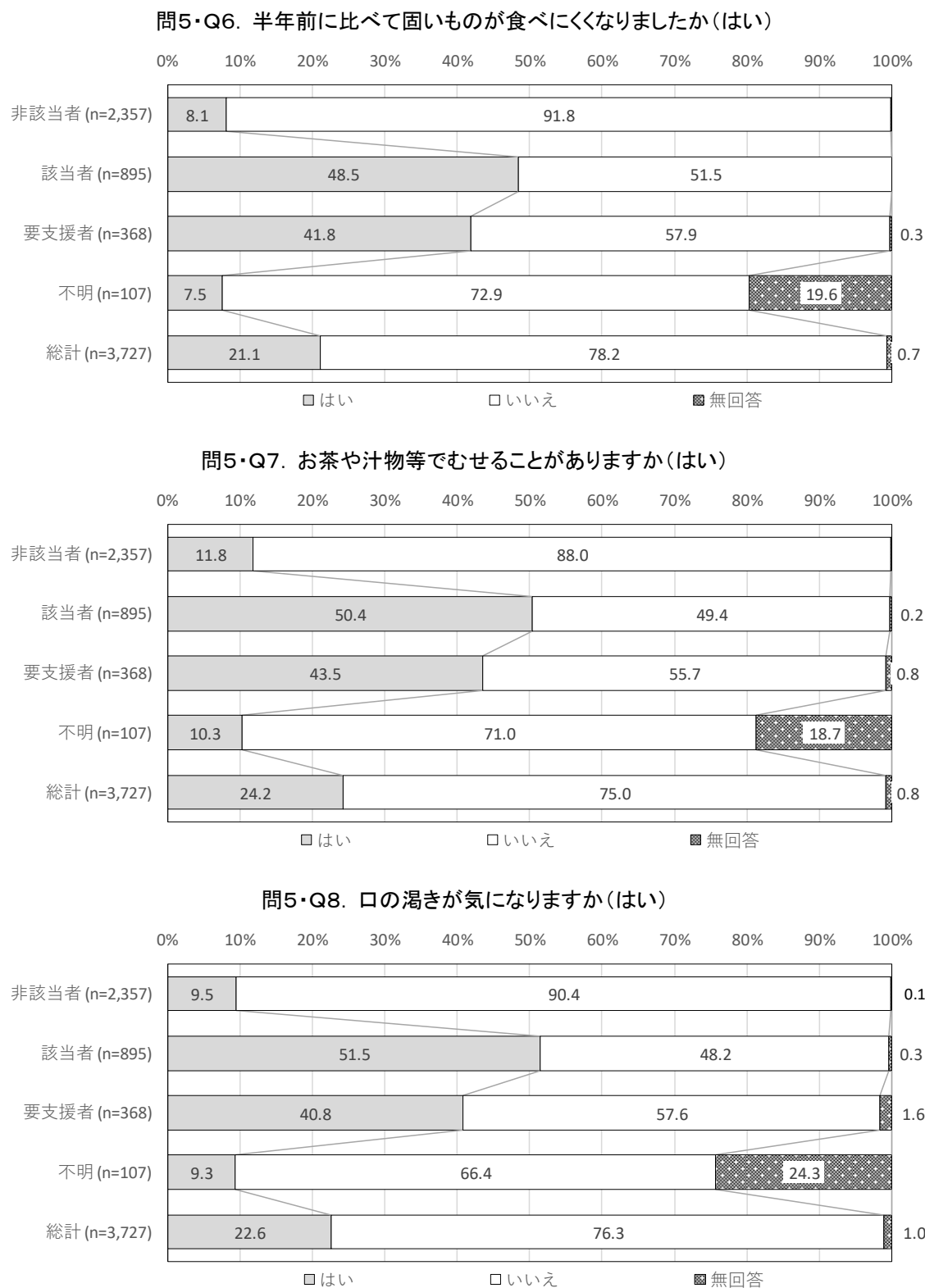
図表 町丁別該当者数の分布：口腔機能の低下



ウ 回答結果

評価の基礎になった設問に対する回答をみると、3問とも該当者で約半数、要支援者では約4割が該当しています。

図表 口腔に関する設問



2 生活機能

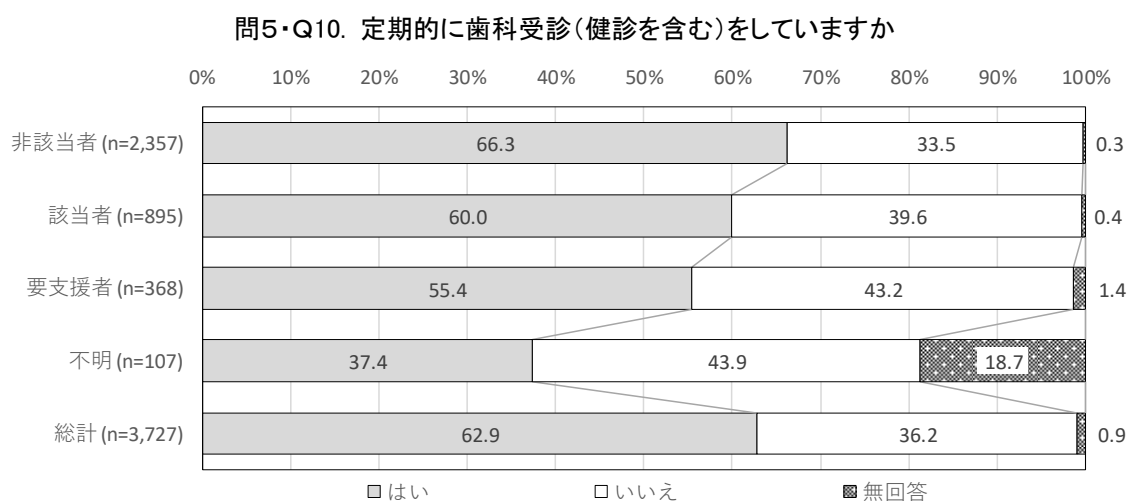
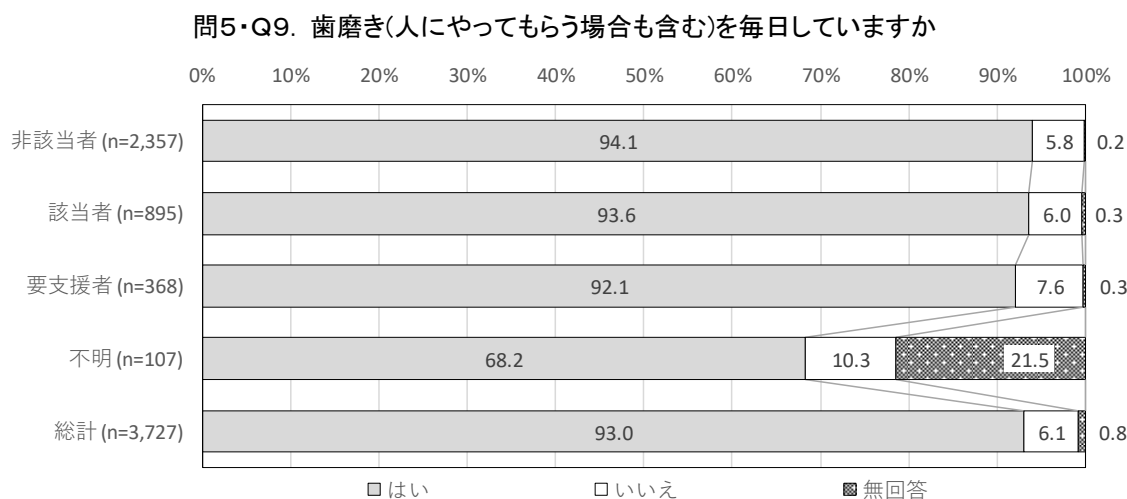
エ 関連設問

関連設問に対する回答をみると、毎日の歯磨きをしているかについては、全体で 6.1%が「いいえ」と回答しています。また、定期的に歯科受診（健診）をしているかについては、非該当者、該当者、要支援者の順に「はい」が少なくなっています。

歯の数と入れ歯使用の有無をみると、全体で比較的多いのは「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯の利用なし」（41.1%）、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を使用」（28.4%）となっています。「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（17.8%）も含めると、入れ歯を利用している人の割合は全体の 4 割を超えています。

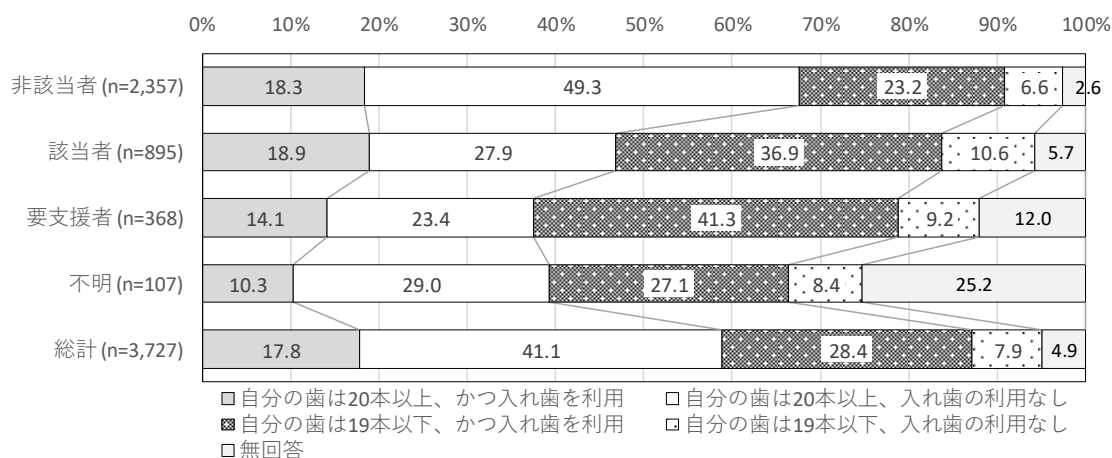
入れ歯を利用している方に、「毎日入れ歯の手入れをしているか」について聞くと、「はい」との回答が全体で 87.8%、「いいえ」との回答が 4.1%となっており、認定・該当状況別においても同様の割合となっていますが、噛み合わせが良いかについては、非該当者では「いいえ」が 7.6%に対し、該当者では 19.0%、要支援者では 18.2%、不明では 12.1%と多くなっています。

図表 口腔に関する設問・回答-1

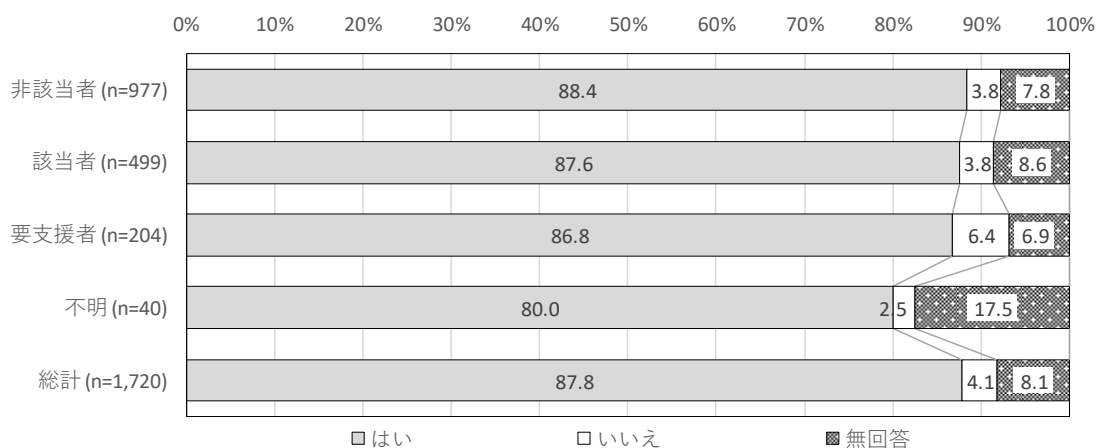


図表 口腔に関する設問・回答-2

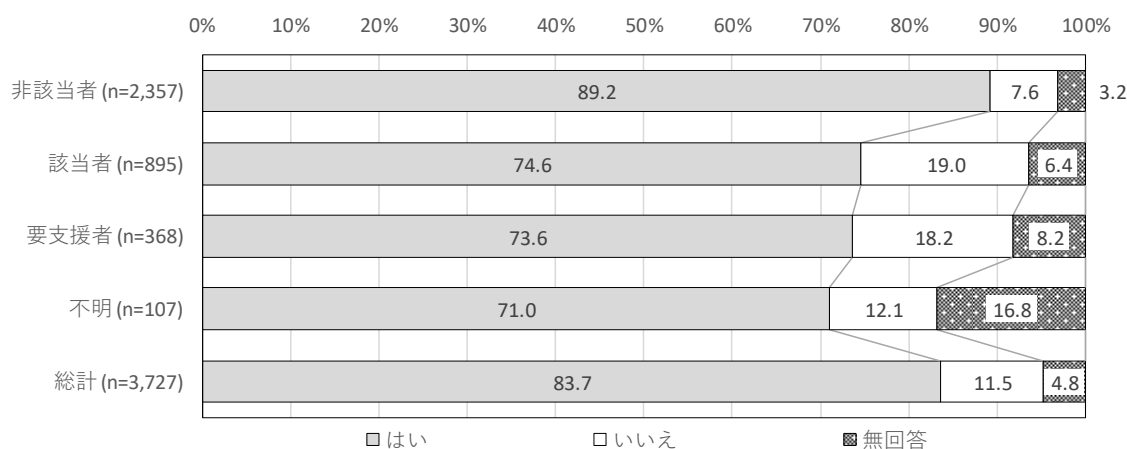
問5・Q11. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)



問5・Q11-1. (入れ歯のある方のみ) 毎日入れ歯の手入れをしていますか



問5・Q12. 噛み合わせは良いですか



2 生活機能

(7) 認知機能

ア 設問と評価

国の基本チェックリストでは、下の3つの設問に対する回答から、認知機能低下リスクの判定ができます。

具体的には、3問中1問以上に該当した場合に、認知機能低下と判定されます。

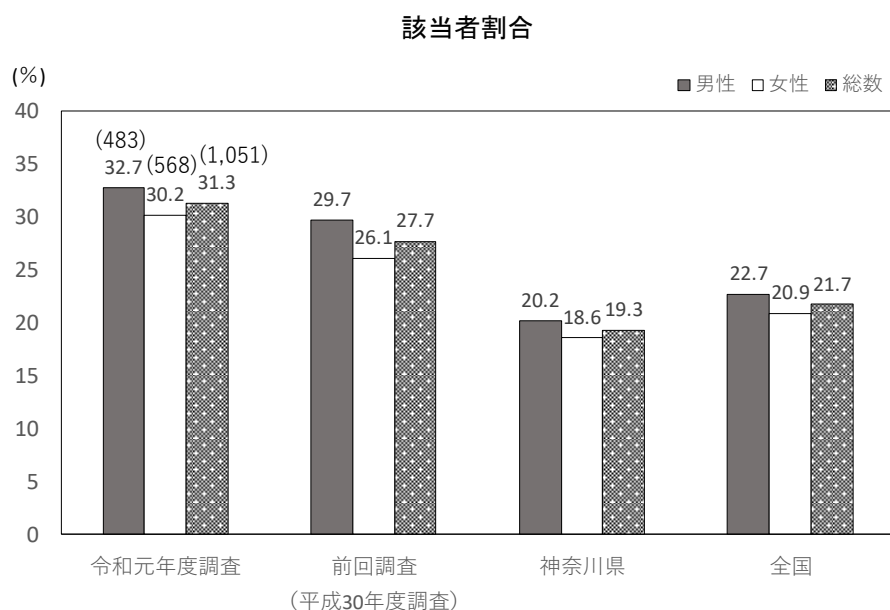
図表 認知機能に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問6・Q2	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	「1. はい」
問6・Q3	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問6・Q4	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

イ 評価結果

結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で 1,051 人 31.3%（男性 483 人 32.7%、女性 568 人 30.2%）が該当者となっています。女性より男性で、該当者割合が高くなっています。前回調査、全国、神奈川県との調査結果と比較すると、全体で前回調査では 3.6 ポイント、神奈川県では 12.0 ポイント、全国では 9.6 ポイント高くなっています。

図表 該当状況－認知機能低下

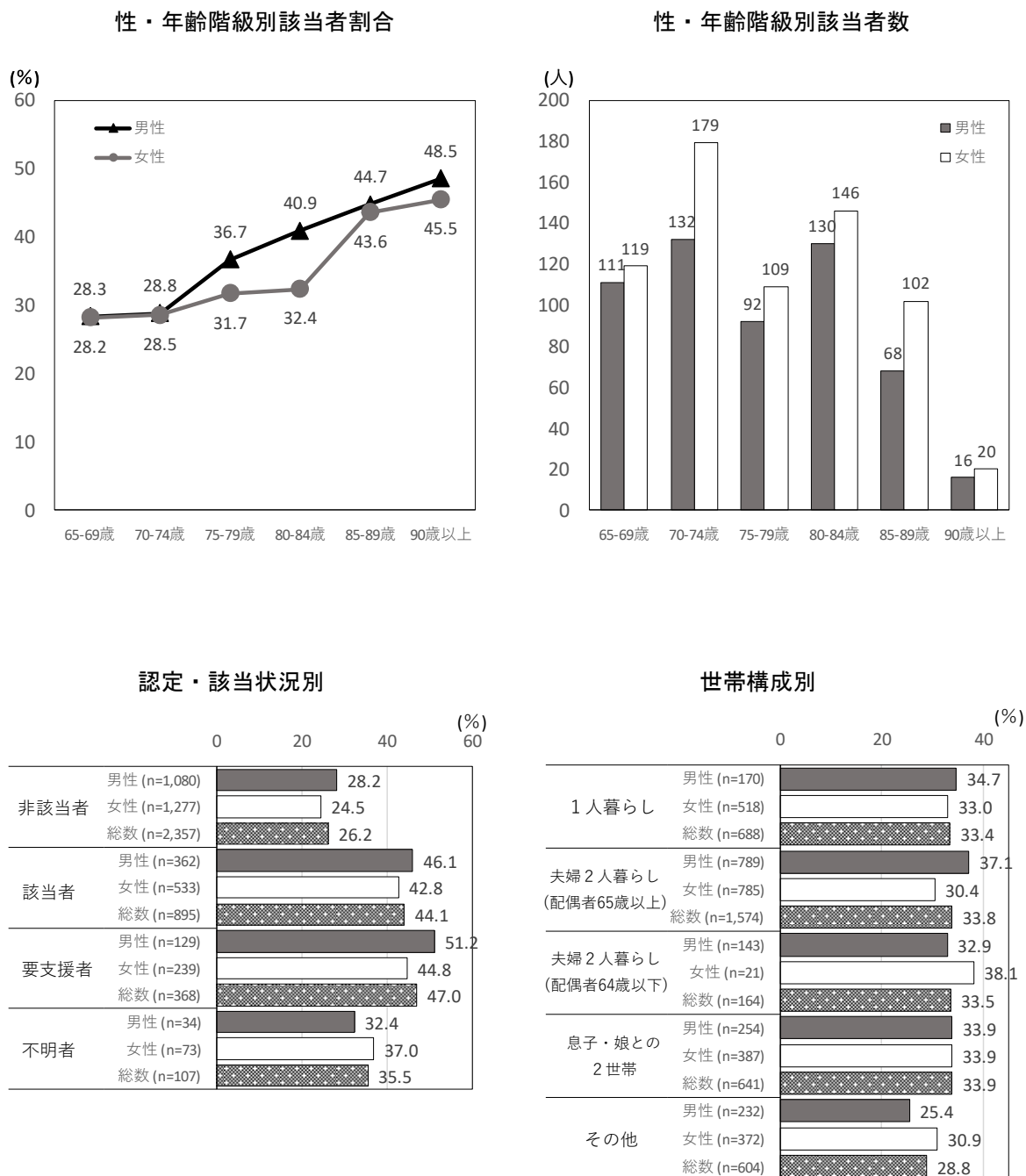


性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともにリスク者割合が高くなっています。該当者数でみると、男女ともに70～74歳と80～84歳が他の年齢と比べて多くなっています。

これを認定・該当状況別にみると、非該当者26.2%、該当者44.1%、要支援者47.0%、不明者35.5%と、該当者でリスク者割合が高くなっています。

世帯構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性でリスク者割合がやや高くなっています。

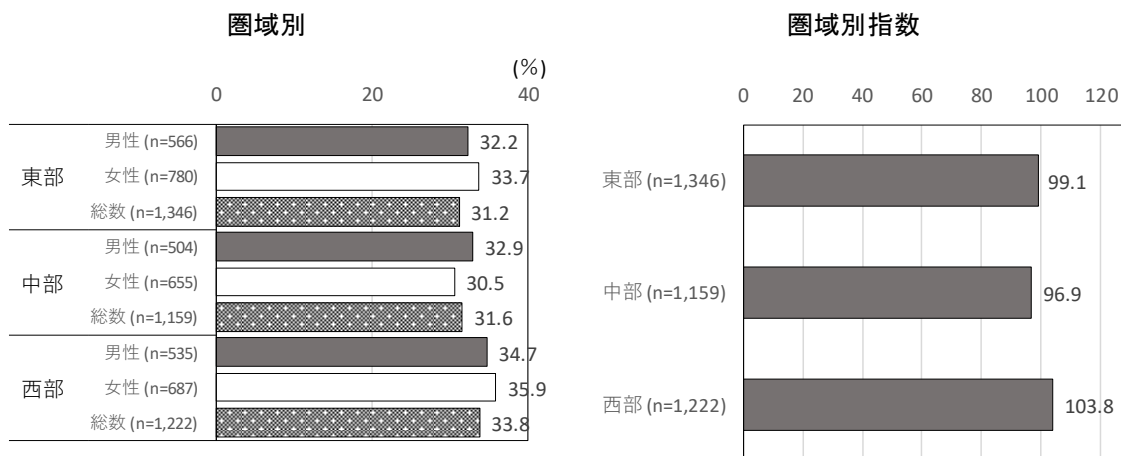
図表 認知機能低下 該当状況－性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



2 生活機能

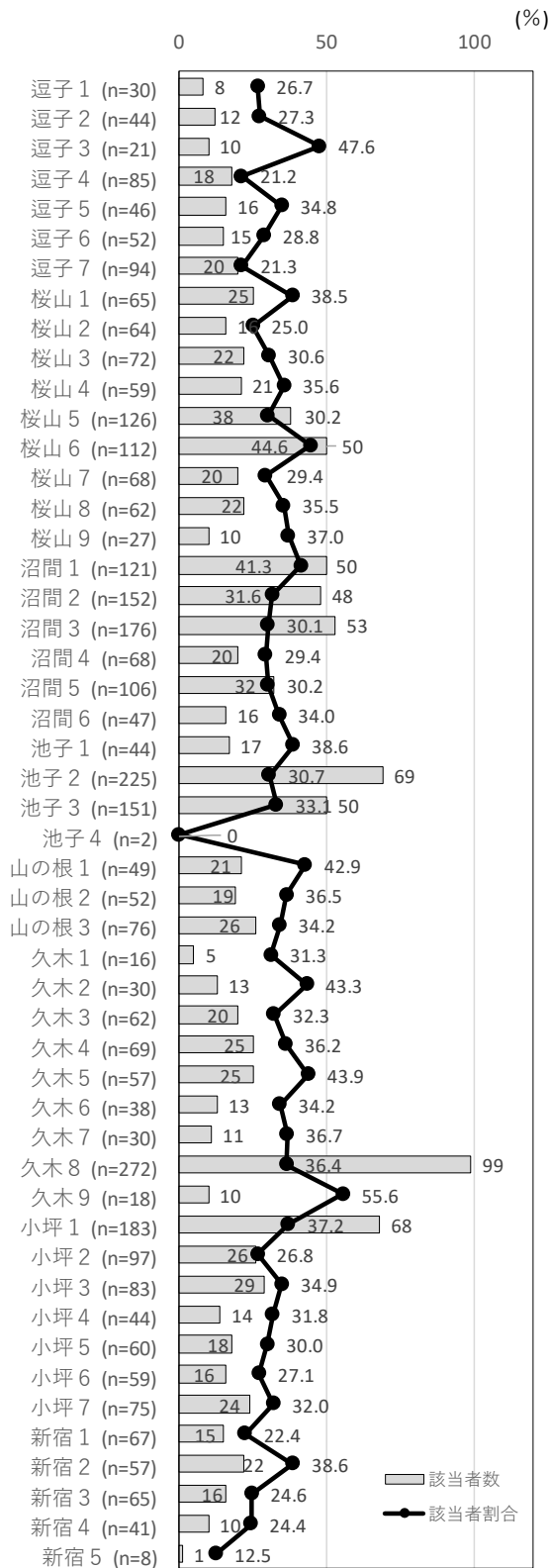
圏域別にみると、西部圏域が33.8%と他圏域に比べて該当者割合がやや高くなっています。指数で比較しても、西部圏域が103.8で比較的高くなっています。

図表 認知機能低下 該当状況－圏域別

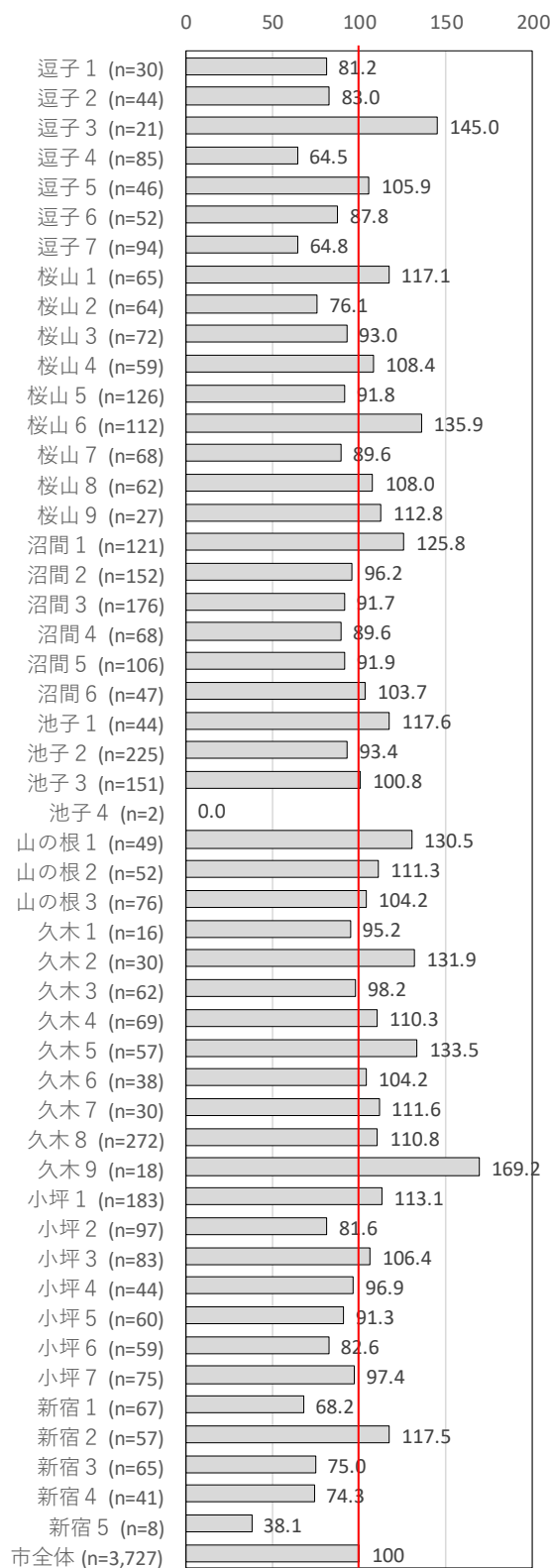


町丁別に該当状況をみると、久木8丁目で99人、池子2丁目で69人、小坪1丁目で68人と該当者が多くなっています。指数をみると、久木9丁目が169.2と最も高くなっています。

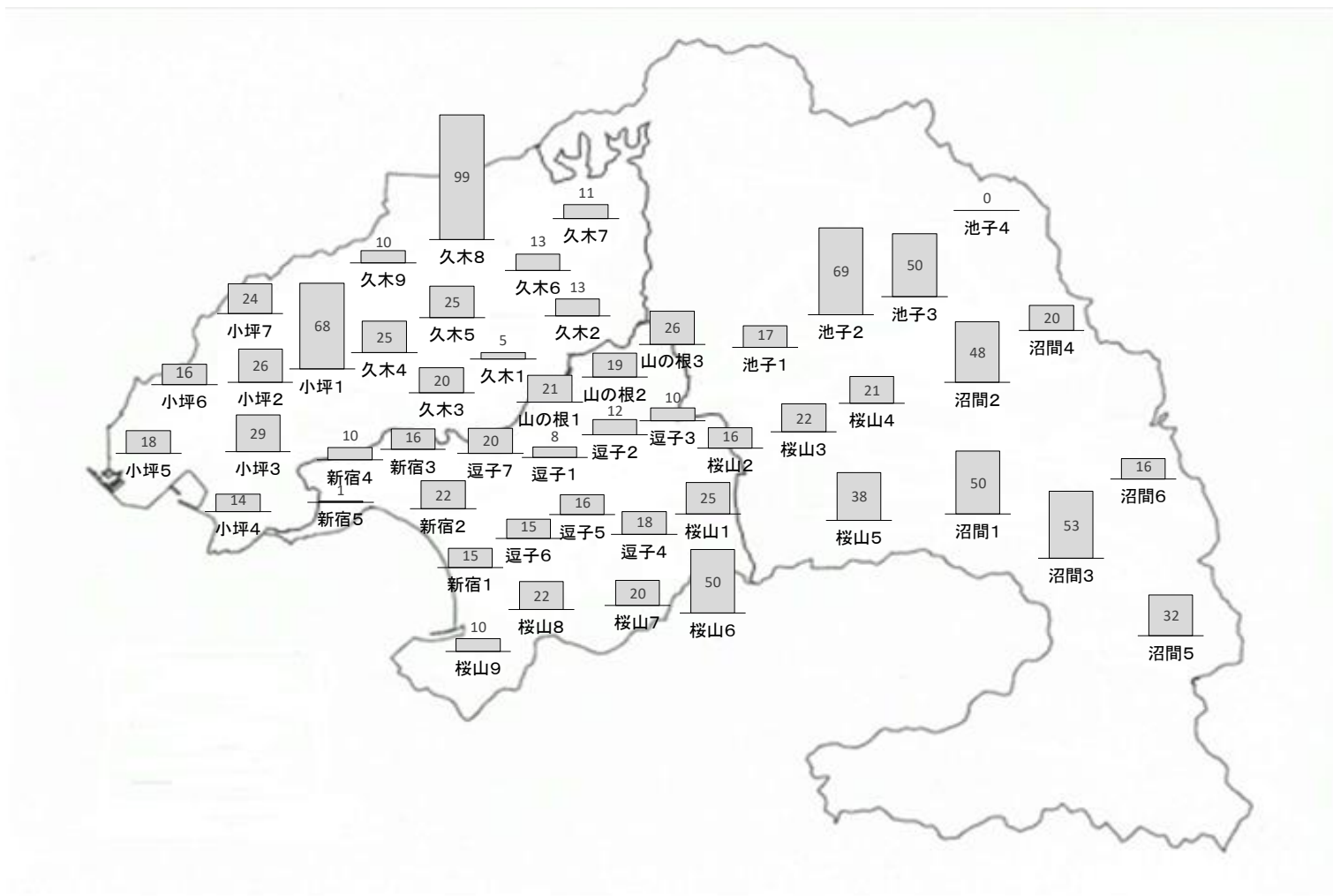
図表 認知機能低下 町丁別該当者数・割合



図表 認知機能低下 町丁別指数



図表 町丁別該当者数の分布：認知機能低下

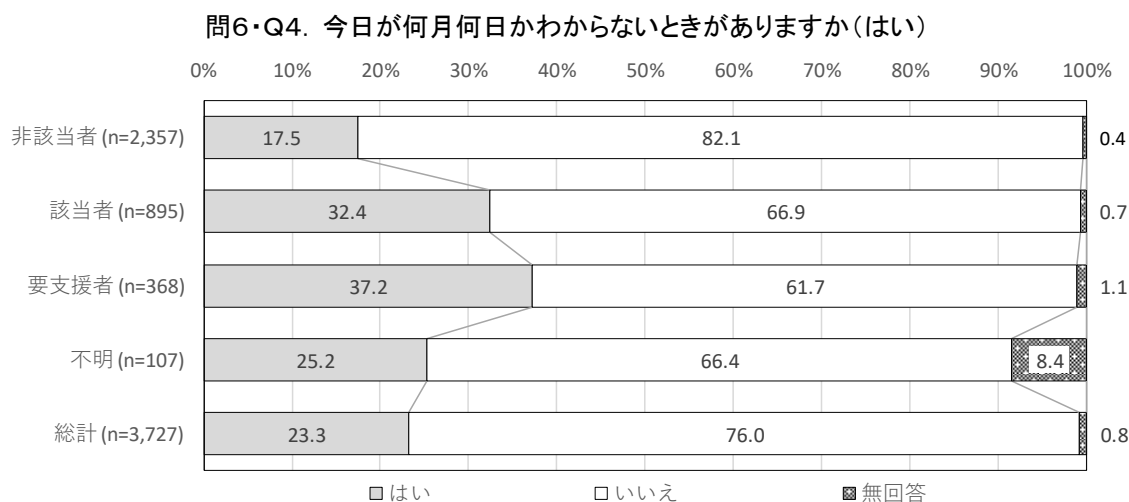
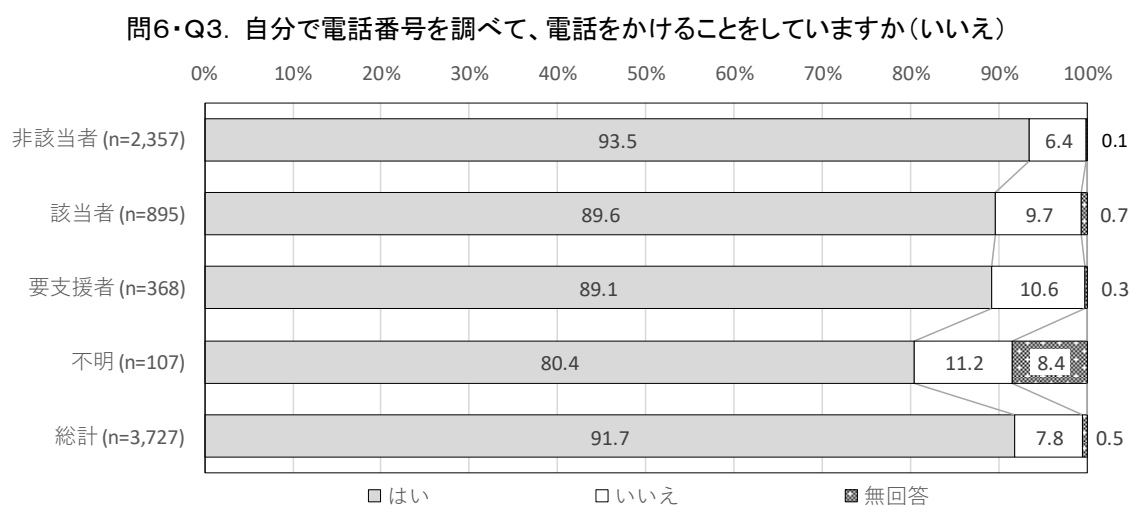
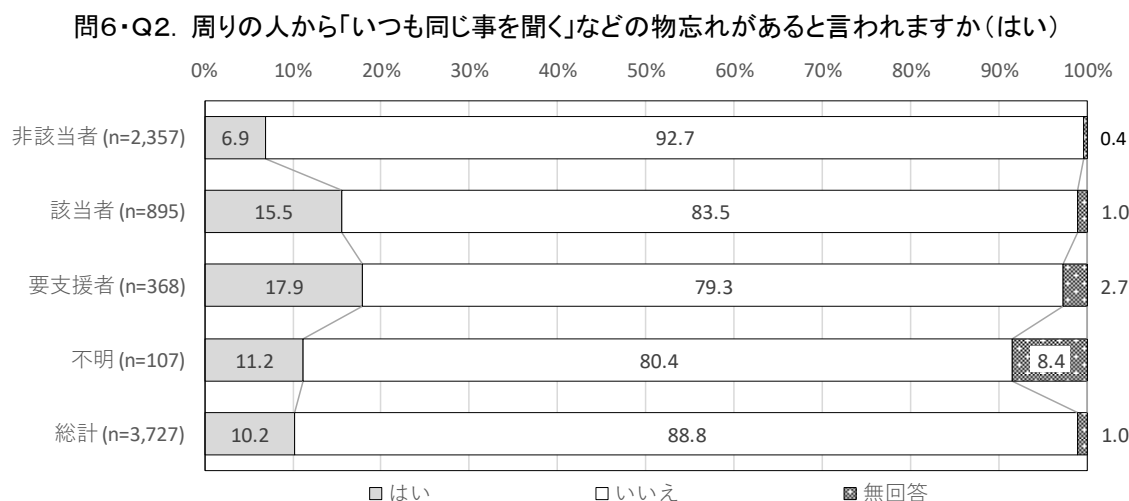


ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答をみると、電話番号を調べての電話利用（問6・Q3）では「いいえ」が7.8%と1割未満となっています。

一方、日付の認識（問6・Q4）については、全体の該当率が23.3%と比較的多くなっており、認定・該当状況別にみると、該当者と認定者では3割を超えて多くなっています。

図表 回答結果



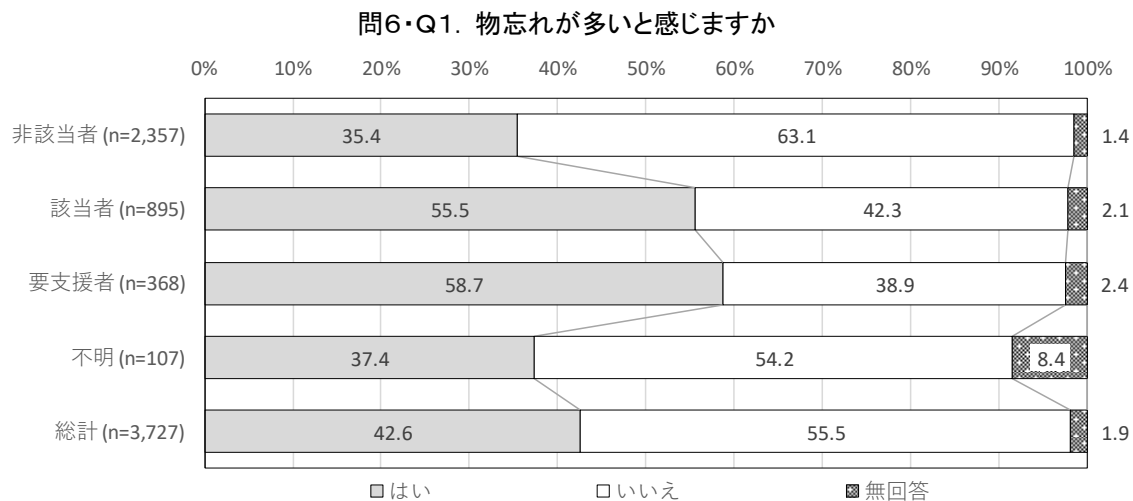
2 生活機能

エ 関連設問

物忘れが多いかについては、認知機能の低下を問う設問で、この設問に「はい」と回答した場合は、認知機能の低下が疑われる高齢者となります。全体では4割以上が「はい」と回答しています。

認定・該当状況別では、該当者で55.5%、要支援者で58.7%が「はい」と回答しており、認知機能の低下が疑われる高齢者が多いと考えられます。

図表 物忘れ



(8) 認知機能障害程度

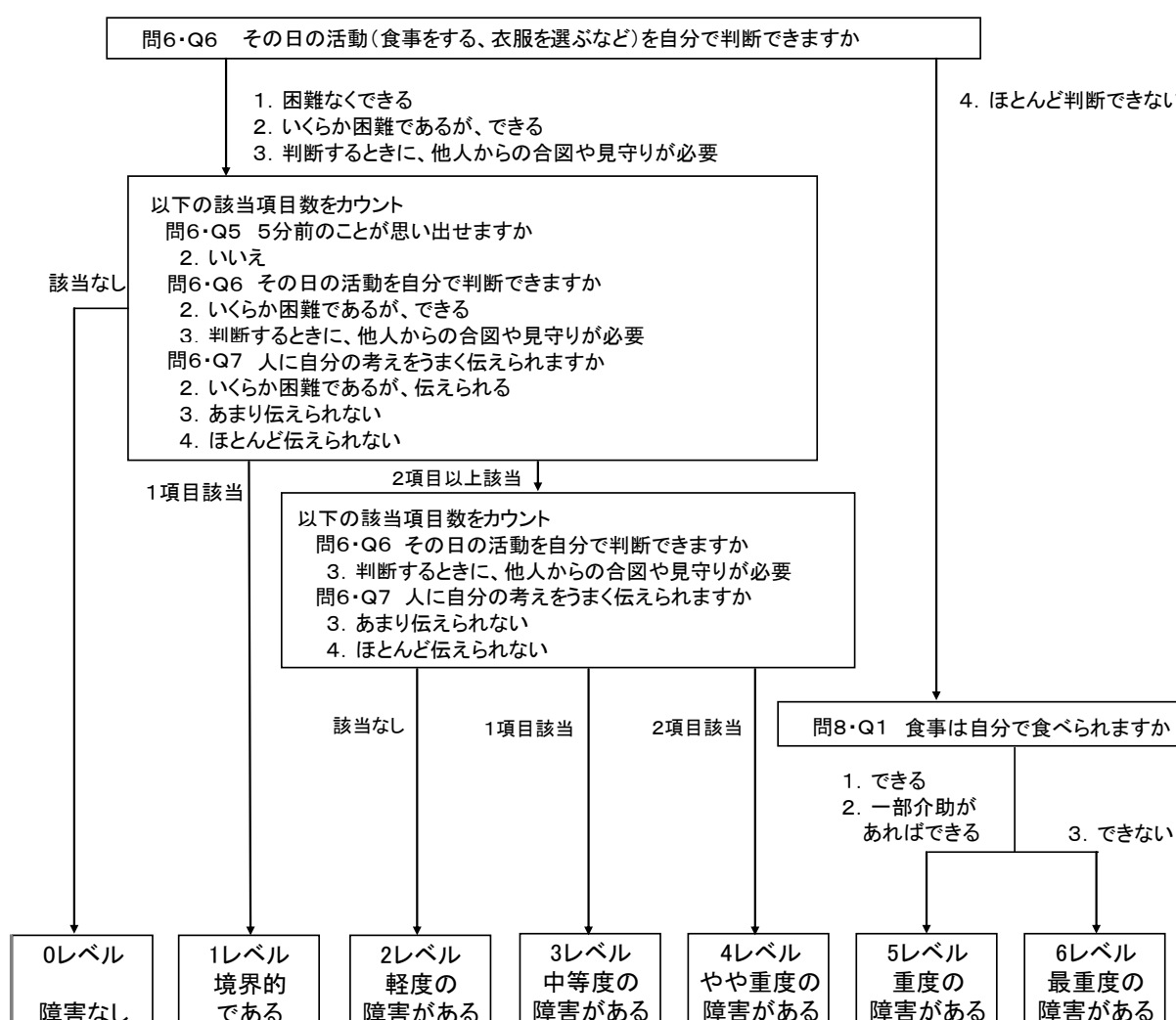
ア 設問と評価

今回の調査票には、認知機能の障害程度の指標として有用とされるC P S (Cognitive Performance Scale) に準じた設問が含まれています。

設問としては、調査票の問6・Q5～7及び問8・Q1で、比較的簡易に認知機能の障害程度の評価が可能であることから調査票に盛り込まれています。

設問に対する回答により、0レベル(障害なし)から6レベル(最重度の障害がある)までに評価が可能となっています。

図表 認知機能障害程度に関する評価



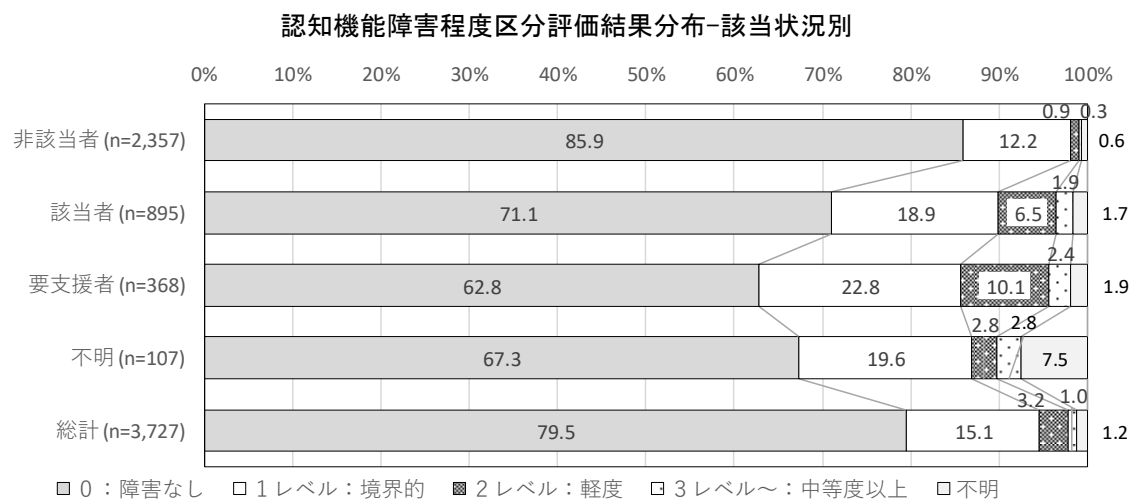
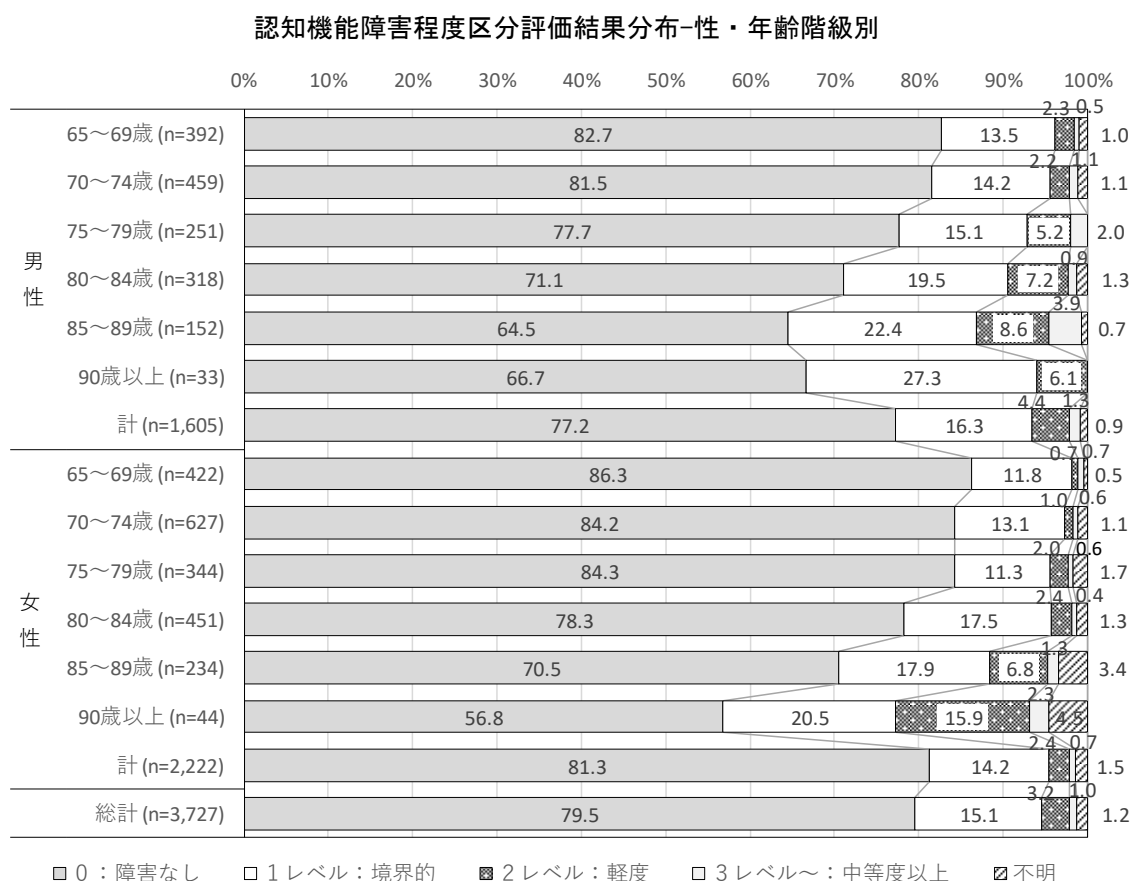
2 生活機能

イ 評価結果

評価結果をみると、全体では0レベル（障害ない）が79.5%で最も多く、次いで1レベル（境界的）15.1%、2レベル（軽度）3.2%、3レベル～（中等度以上）1.0%になっています。女性より男性で、また年齢が高いほどリスク者割合が高くなっています。中等度以上と評価される3レベル以上は、全体で36人となっています。

これを認定・該当状況別に1レベル以上の割合をみると、該当者27.3%（244人）、要支援者35.3%（130人）と、該当者と要支援者でリスク者割合が高くなっています。

図表 認知機能障害程度

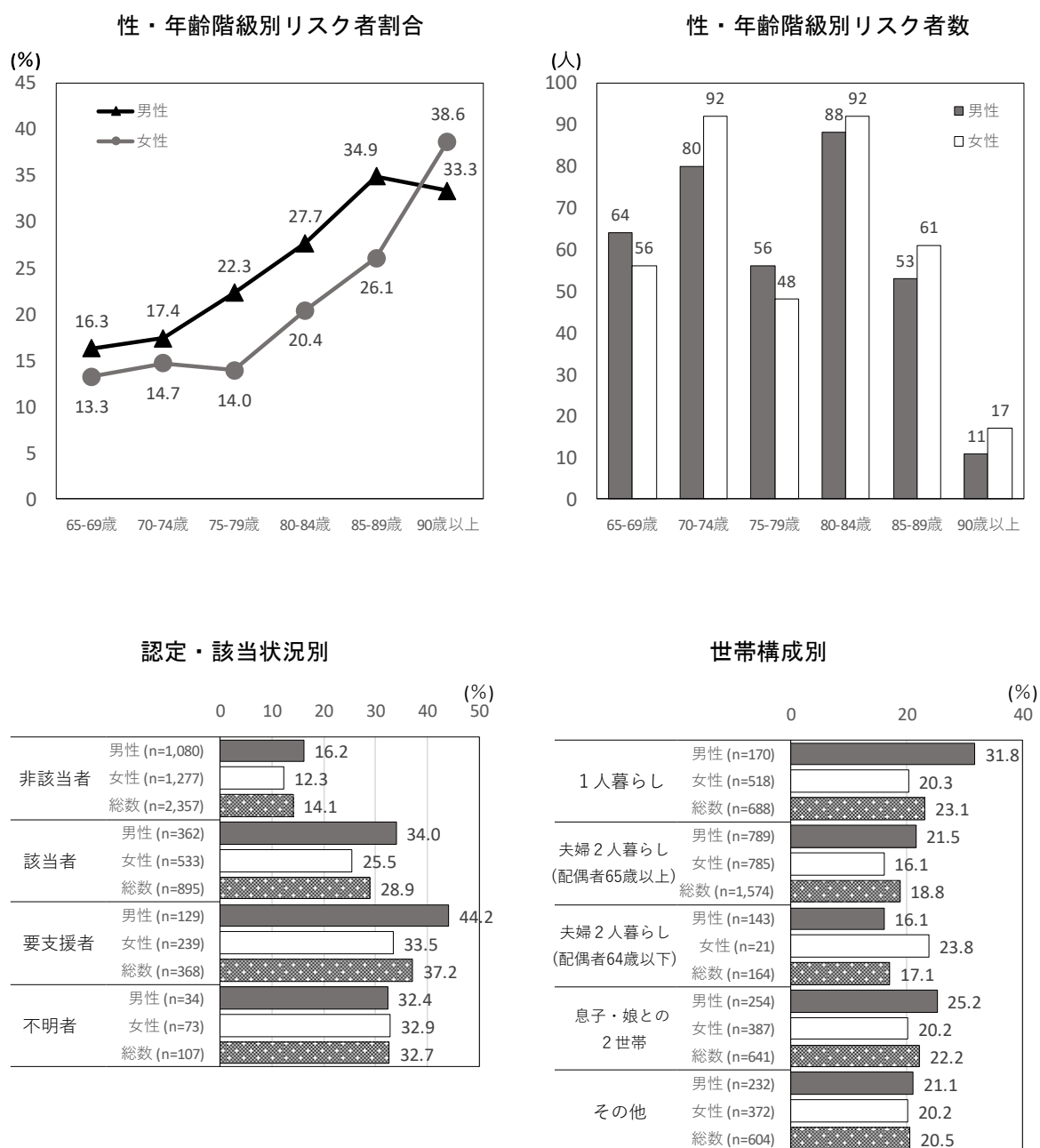


性・年齢階級別に1レベル以上のリスク者割合をみると、90歳以上の男性を除き、男女ともに年齢とともにリスク者割合が高くなっています。該当者数でみると、男女ともに70～74歳と80～84歳でそれぞれ80人以上と他の年齢を比べて多くなっています。

これを認定・該当状況別にみると、男性の要支援者が44.2%とリスク者割合が顕著に高くなっています。

世帯構成別では、1人暮らしの男性が31.8%とリスク者割合が高くなっています。

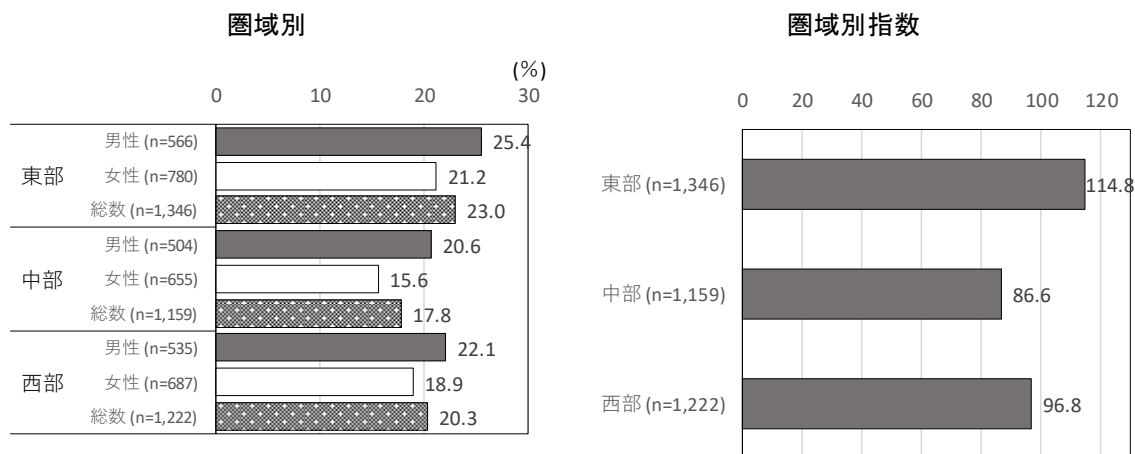
図表 認知機能低下 リスク状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



2 生活機能

圏域別にみると、東部圏域が 23.0%と比較的高くなっています。指数で比較しても、東部圏域が 114.8 で比較的高くなっています。

図表 認知機能低下 該当状況－圏域別



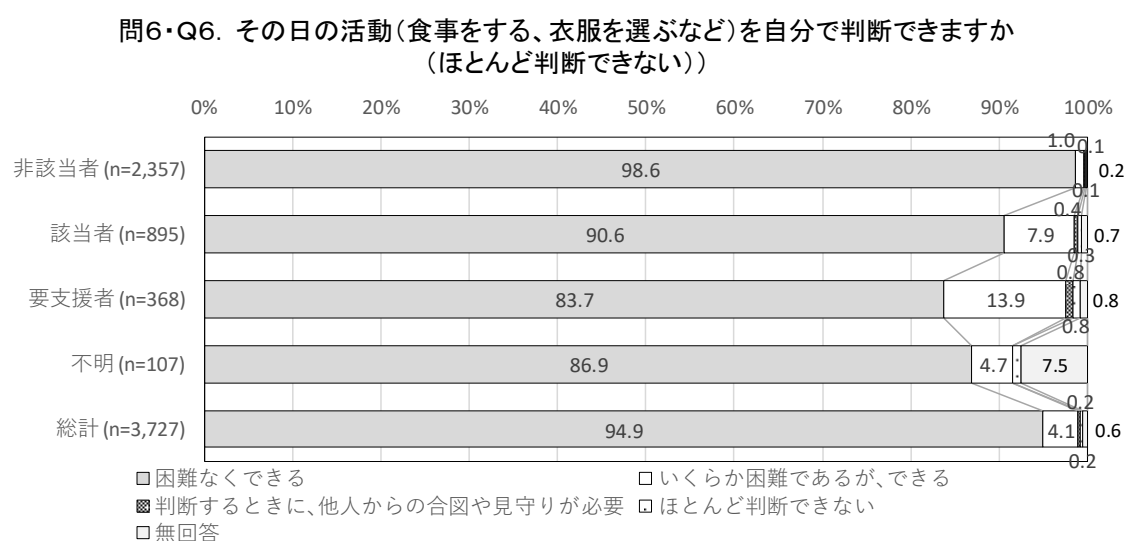
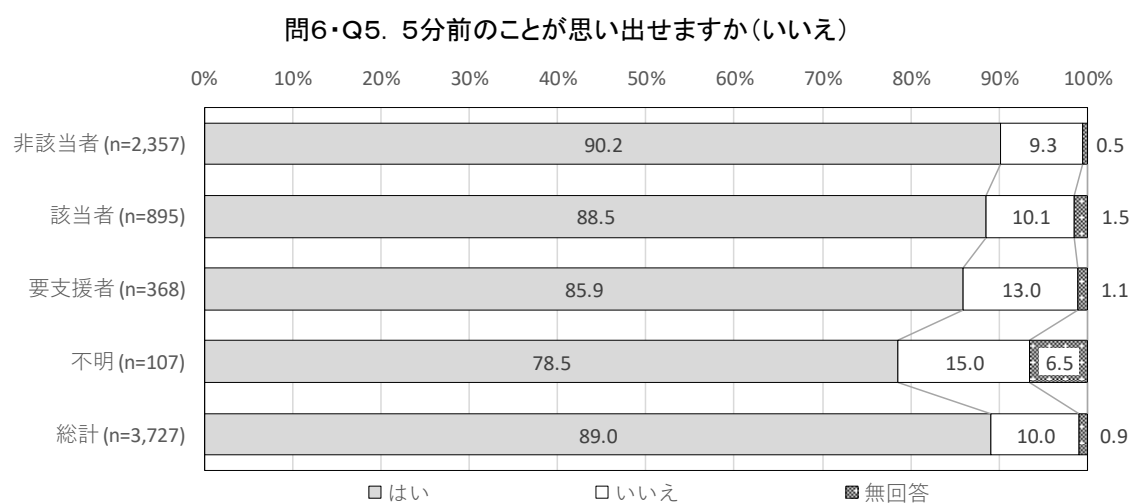
ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問6のQ5については「いいえ」が全体で10.0%となっており、認定・該当状況別にみると、非該当者、該当者、要支援者の順多くなっています。

問6のQ6・Q7については、「いづらか困難ではあるが、できる」、「いづらか困難ではあるが、伝えられる」が非該当者、該当者、要支援者の順に多くなっています。

また、問8のQ1については、認定・該当状況別にみてもリスク者割合に変化はほとんどありませんでした。

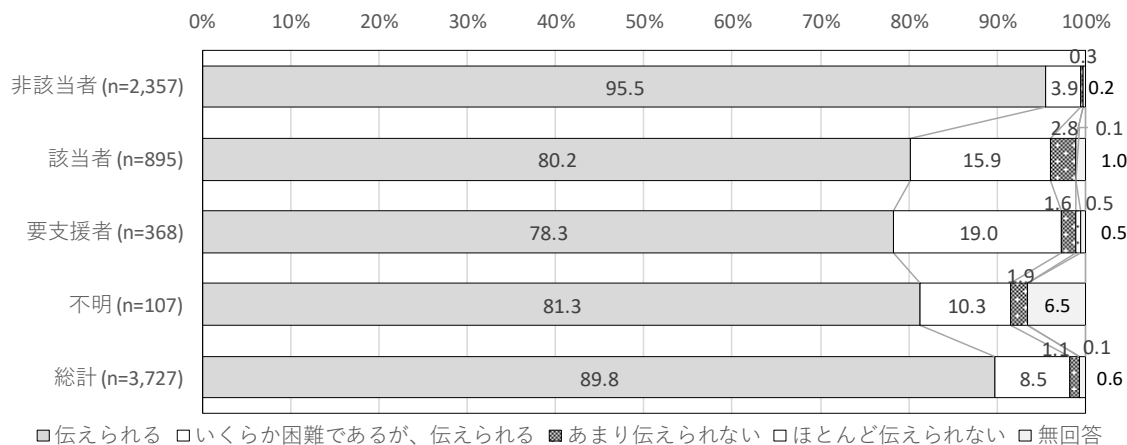
図表 認知機能障害回答結果-1



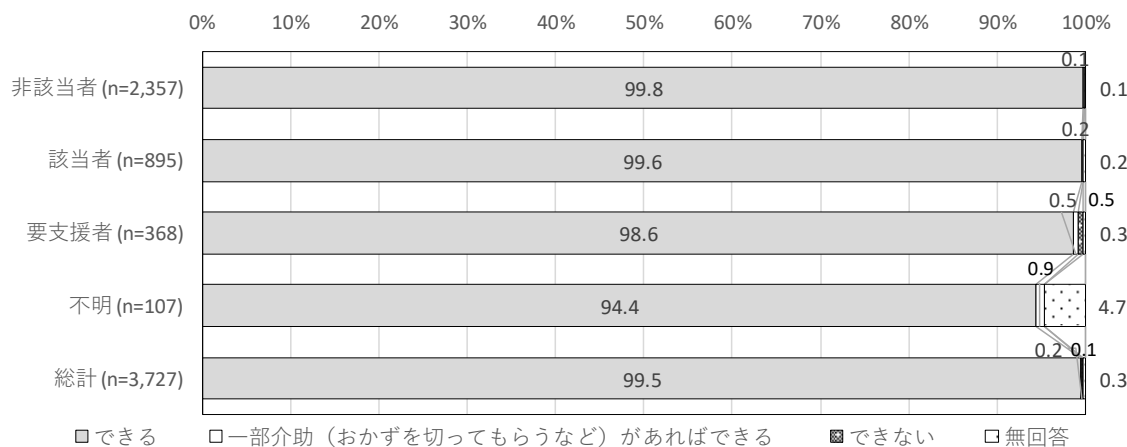
2 生活機能

図表 認知機能障害回答結果-2

問6・Q7. 人に自分の考えをうまく伝えられますか(ほとんど伝えられない)



問8-Q1. 食事は自分で食べられますか(できない)



(9) うつ予防

ア 設問と評価

国の基本チェックリストでは、前回までは5つの設問で判定していましたが、今回からは下の2つの設問に対する回答に変更され、うつリスクの判定をしています。

具体的には、2問中1問以上に該当した場合は、うつ予防の対象者となります。

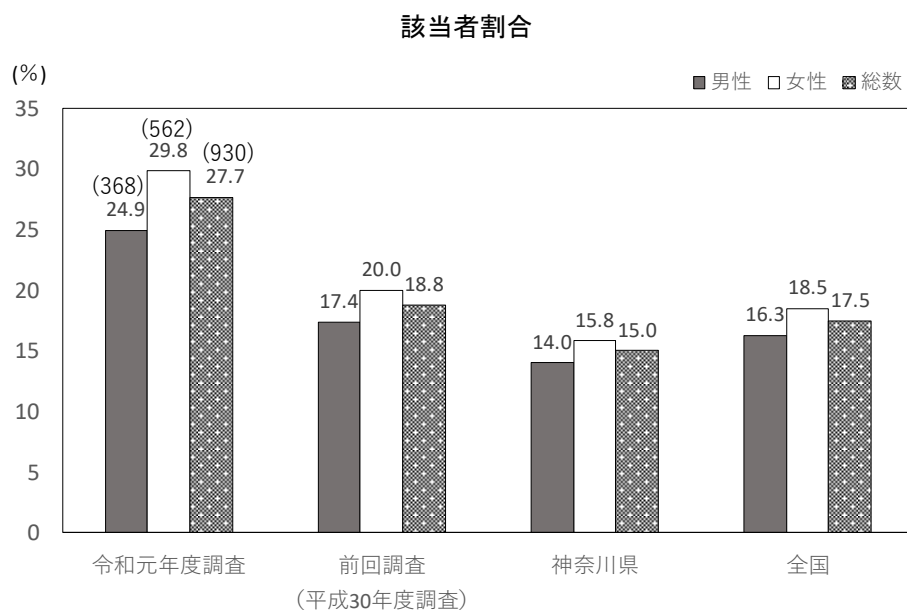
図表 うつ予防に関する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問 10・Q9	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問 10・Q10	この1か月間、どうしても物事に関して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で930人、27.7%（男性368人24.9%、女性562人29.8%）が該当者となっており、男性より女性で該当者割合が高くなっています。また、今回よりうつリスク基準の変更により、前回調査、全国、神奈川県の高齢者割合よりも高くなっています。

図表 該当状況—うつ予防



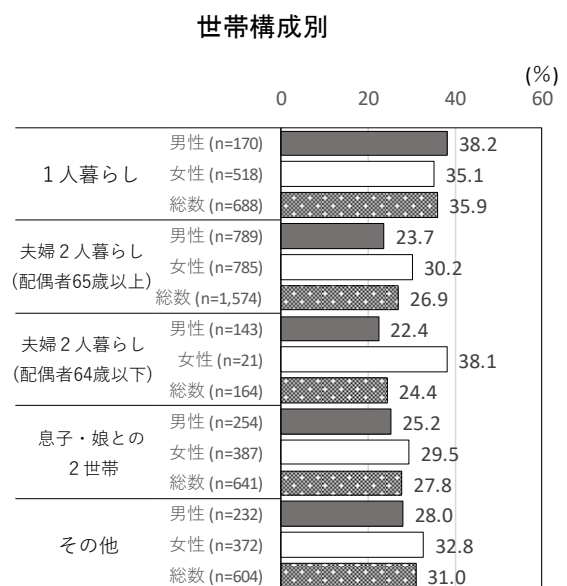
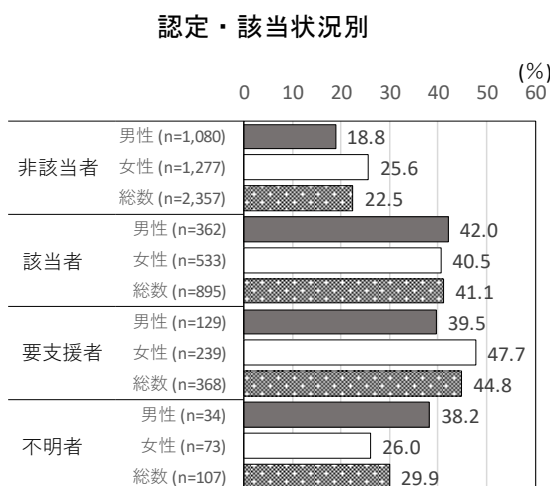
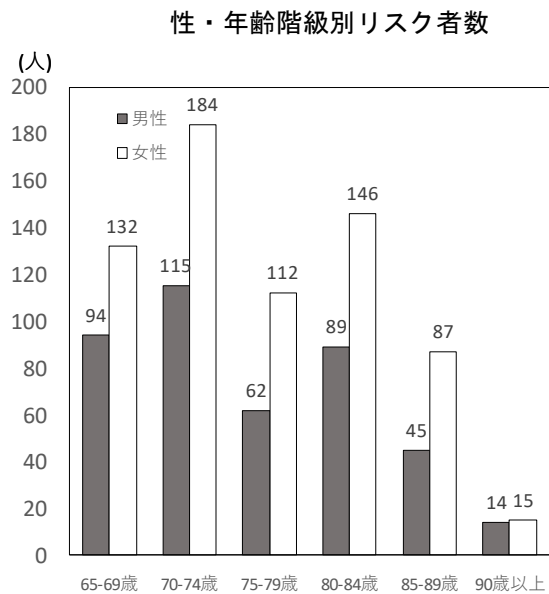
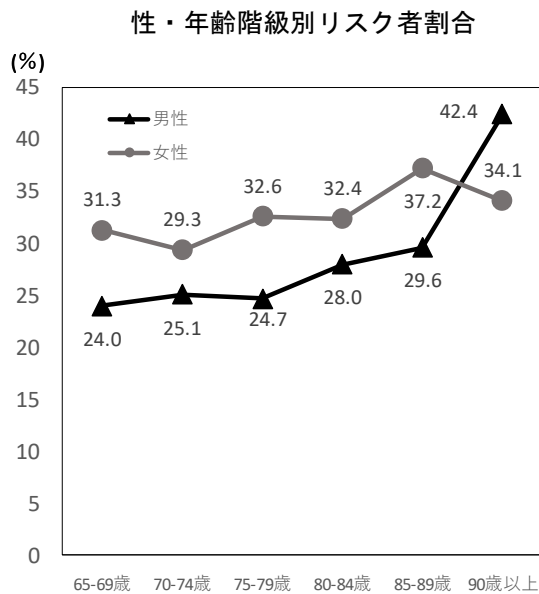
2 生活機能

性・年齢階級別にみると、対象者の少ない90歳以上を除くと男女ともに年齢とともに該当者割合が高くなっています。該当者数でみると、男女ともに70～74歳がそれぞれ115人、184人でピークになっています。

これを認定・該当状況別にみると、非該当者は22.5%、該当者は41.1%、要支援者は44.8%、不明者は29.9%と、該当者、要支援者で該当者割合が高くなっています。

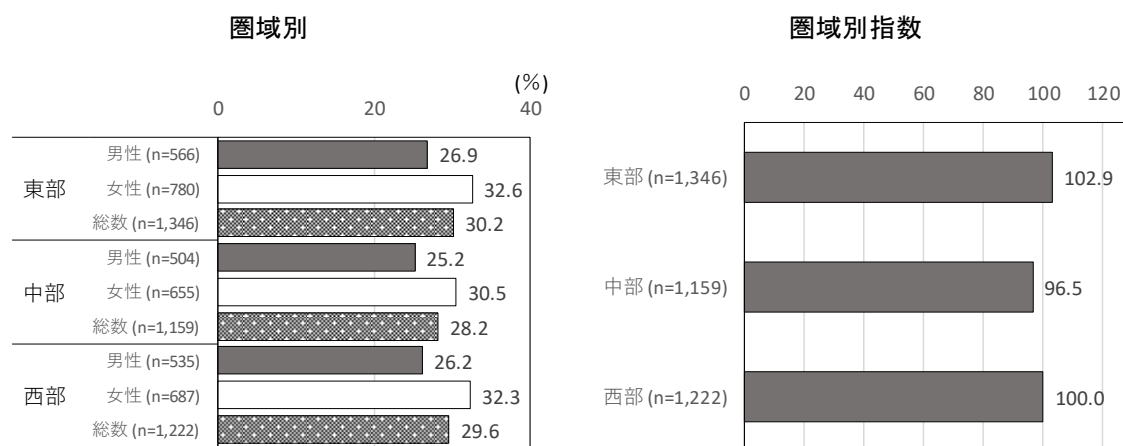
世帯構成別では、1人暮らしの男性が38.2%、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）の女性が38.1%と該当者割合が比較的高くなっています。

図表 うつ予防 該当状況一性・年齢階級別、認定・該当状況別、世帯構成別



圏域別にみると、東部圏域が30.2%と他圏域に比べて該当者割合が若干高くなっています。指数でも東部が102.9と高くなっています。

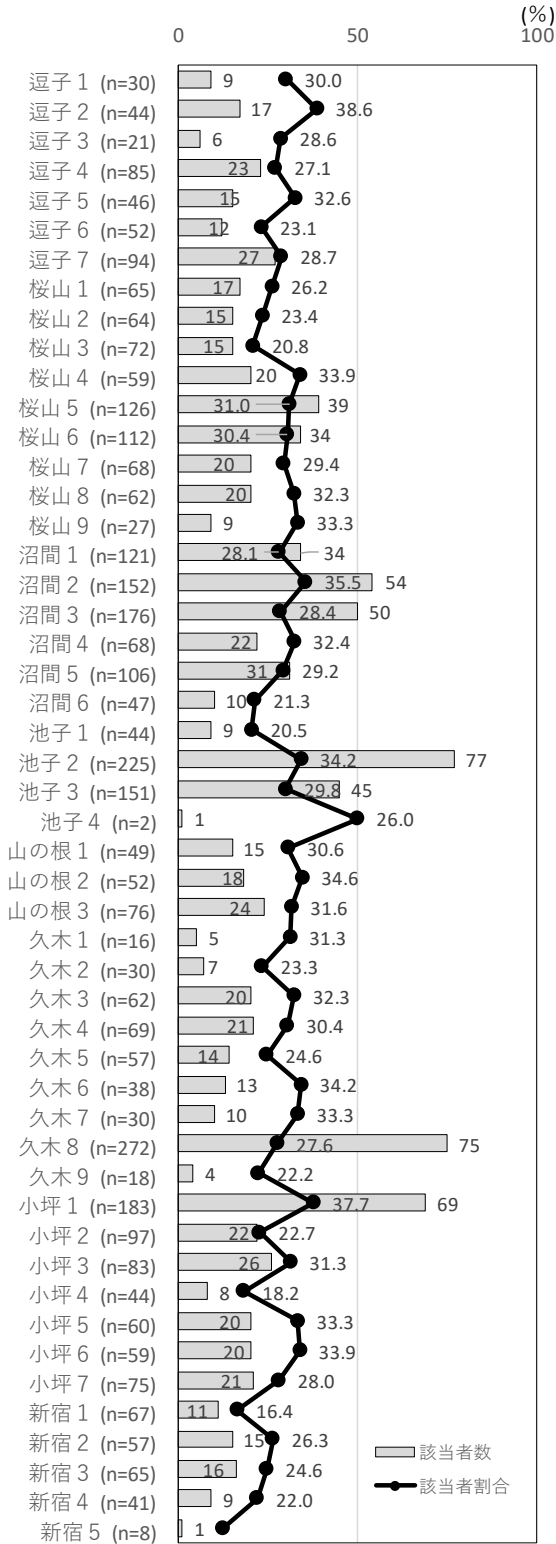
図表 うつ予防 該当状況—圏域別



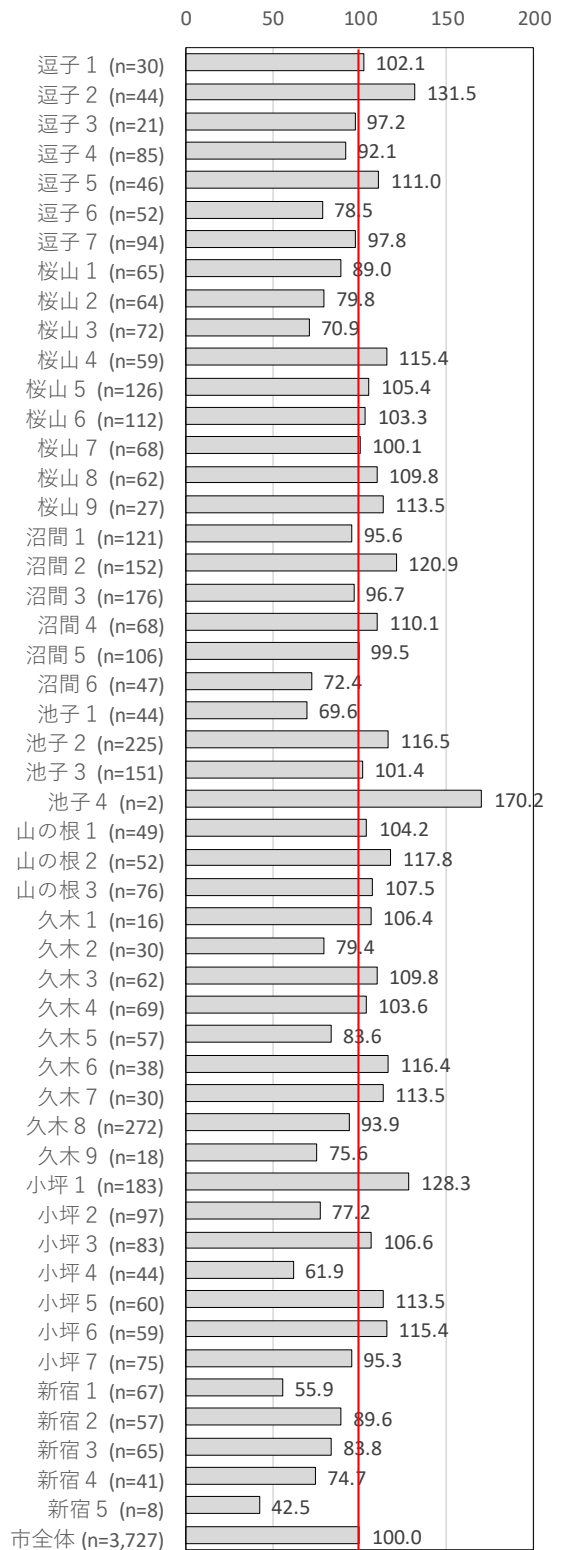
2 生活機能

町丁別に該当状況をみると、池子2丁目77人、久木8丁目75人、小坪1丁目69人と該当者が多くなっています。指数においては池子4丁目170.2と最も高くなっています。

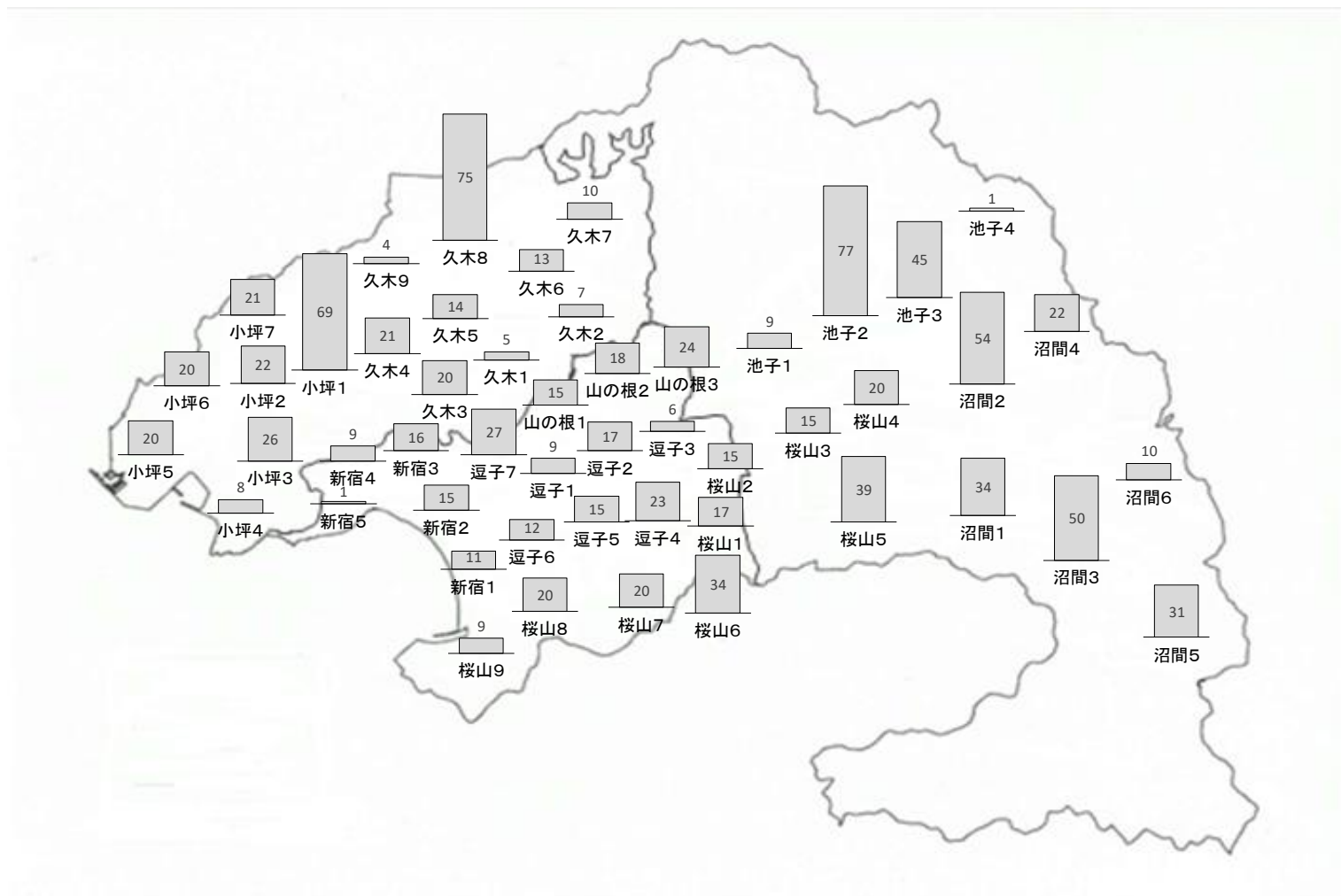
図表 うつ予防 町丁別該当者数・割合



図表 うつ予防 町丁別指数



図表 町丁別該当者数の分布：うつ予防

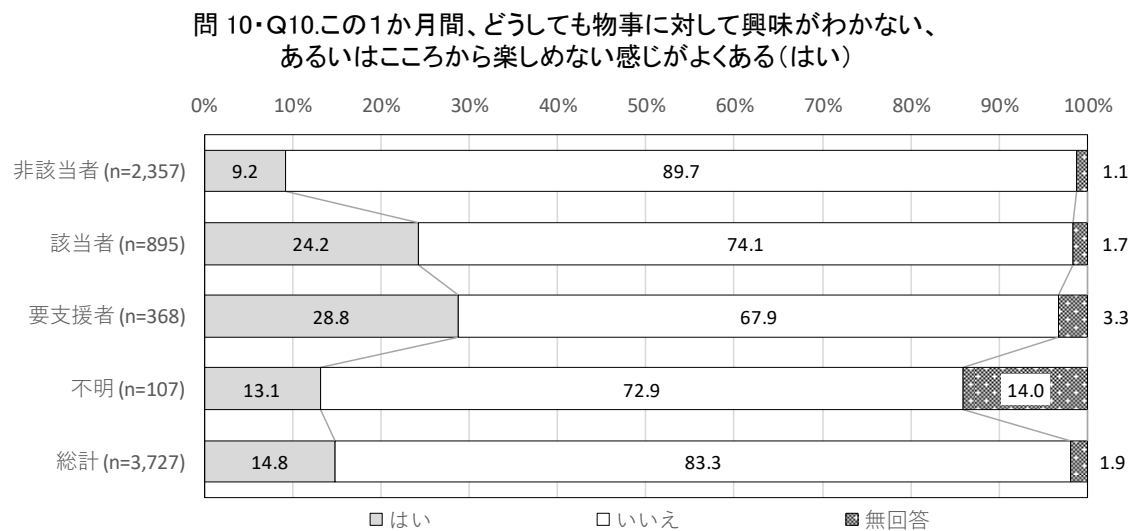
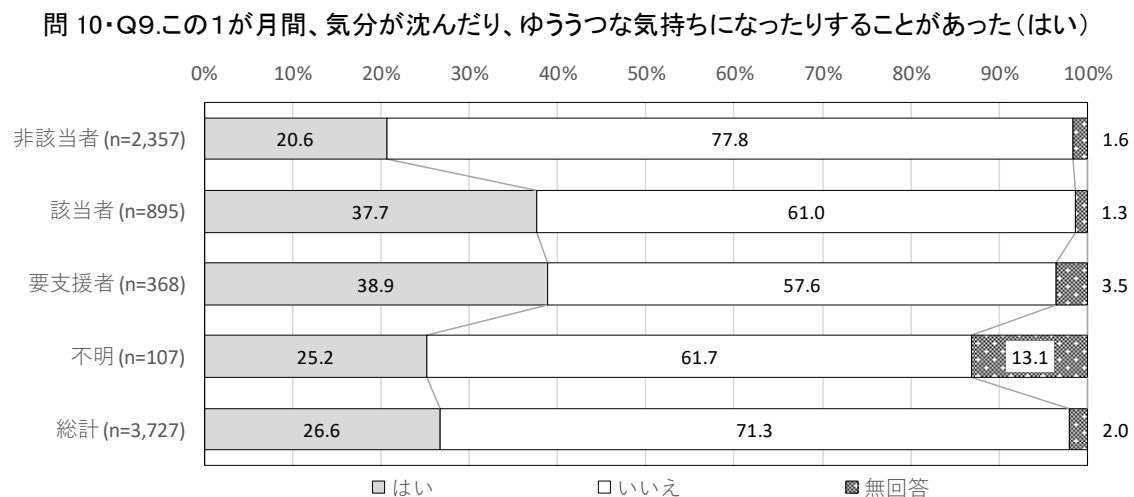


2 生活機能

ウ 回答結果

評価の基礎となった設問に対する回答結果をみると、問 10・Q9、Q10 とともに非該当者、該当者要支援者の順に該当率が高くなっています。特に非該当者と該当者での該当率に大きな差があります。

図表 回答結果



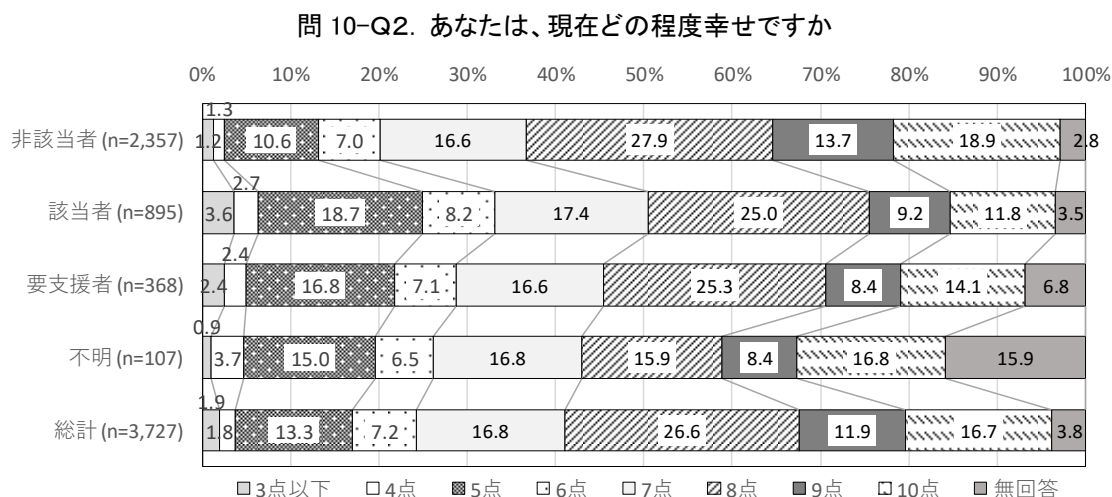
エ 関連設問

うつ傾向と関係すると言われている主観的幸福感についてみると、全体を11段階に点数化した回答で「8点」が26.6%で最も多く、次いで「7点」(16.8%)、「10点」(16.7%)、「5点」(13.3%)、「9点」(11.9%)等が続いています。

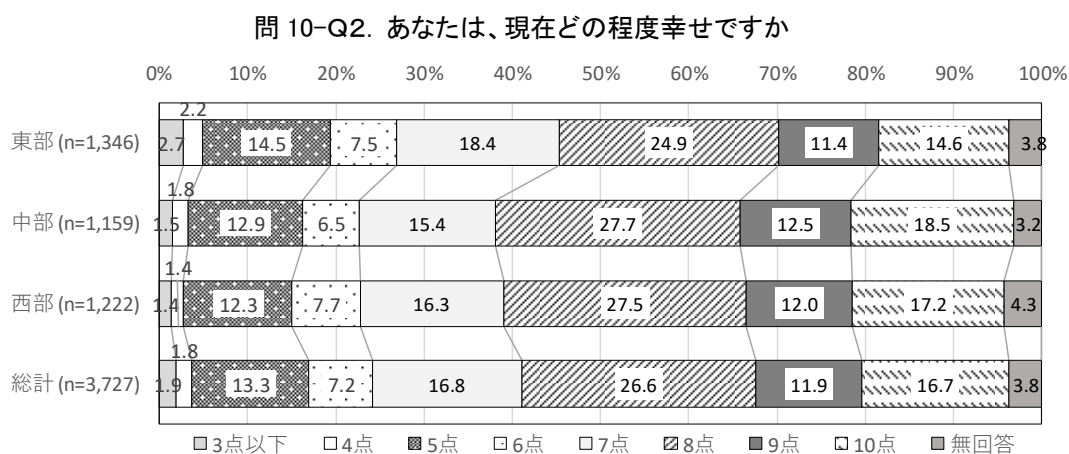
認定・該当状況別に5点以下の割合をみると、非該当者は13.1%、該当者は25.0%、要支援者は21.6%、不明者は19.6%と、生活機能が低下しているほど主観的幸福感も低下している方が多いことがうかがえます。

そのため、主観的幸福感はその地域の精神面での健康度のアウトカム指標として活用できると考えられ、圏域別に5点以下の割合をみると、東部圏域では19.4%と最も高く、次に、中部圏域が16.2%、西部圏域が15.1%となっており、東部圏域の幸福感が他の地域よりもやや低くなっています。

図表 幸福感-認定・該当状況別



図表 幸福感-圏域別



2 生活機能

(10) 虚弱

ア 設問と評価

基本チェックリストでは、うつ予防に関する2問を除いた20問中10問以上に該当した場合、虚弱リスク対象者となります。

この項目は、運動や栄養などの個別の評価項目にIADLや社会生活に関する設問を加えた生活機能の総合評価としての位置づけになります。

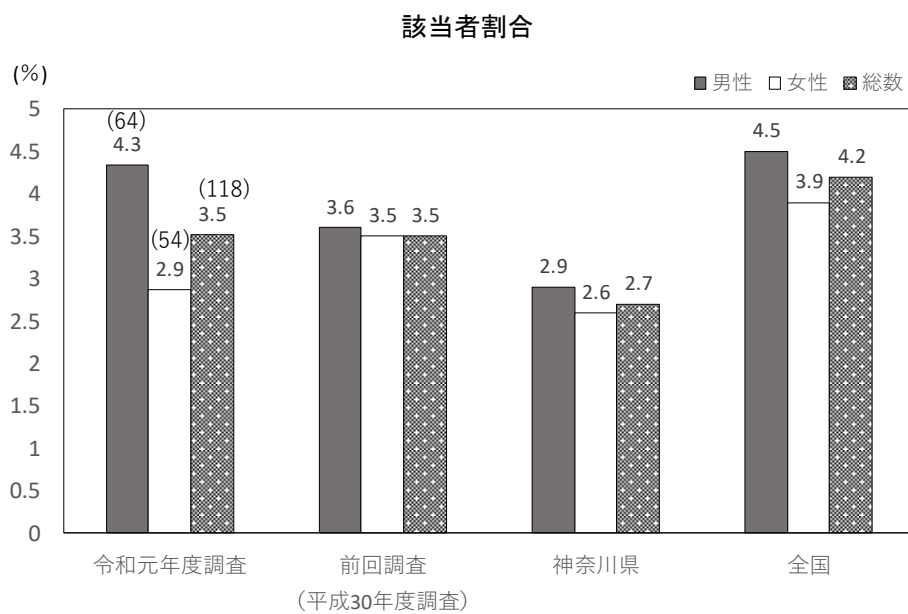
図表 評価に使用する設問（基本チェックリスト）

問番号	設問	該当する選択肢
問2・Q1	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問2・Q11	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問2・Q12	家族や友人の相談にのっていますか	「2. いいえ」
問4・Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q3	15分位続けて歩いていますか	「2. できるだけしていない」 または「3. できない」
問4・Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または「2. 1度ある」
問4・Q5	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 または「2. やや不安である」
問5・Q1	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問5・Q2	身長()cm、体重()kg	BMI<18.5
問5・Q6	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問5・Q7	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
問5・Q8	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
問3・Q1	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問3・Q2	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 または「2. 減っている」
問6・Q2	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	「1. はい」
問6・Q3	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問6・Q4	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」

イ 評価結果

評価結果をみると、回答のあった要介護・要支援認定を受けていない高齢者全体で118人、3.5%（男性64人4.3%、女性54人2.9%）が該当者となっています。前回調査、全国、神奈川県との調査結果と比較すると、全体で前回調査と同率ですが、神奈川県より0.8ポイント高く、全国より0.7ポイント低くなっています。

図表 該当状況－虚弱

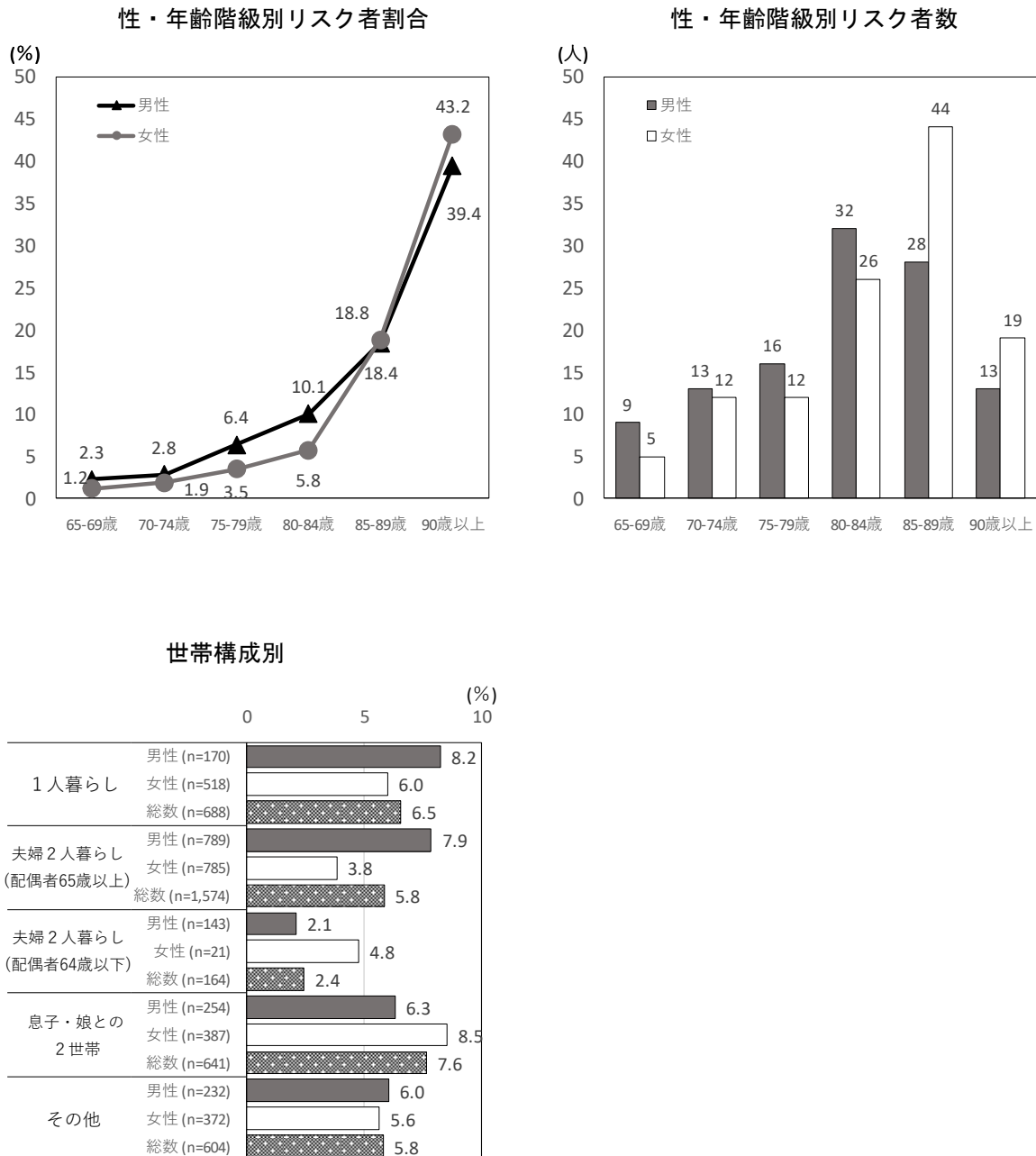


2 生活機能

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢とともに該当者割合が高くなっています。該当者数でみると、男性では80～84歳で32人、女性では85～89歳で44人がピークになっています。

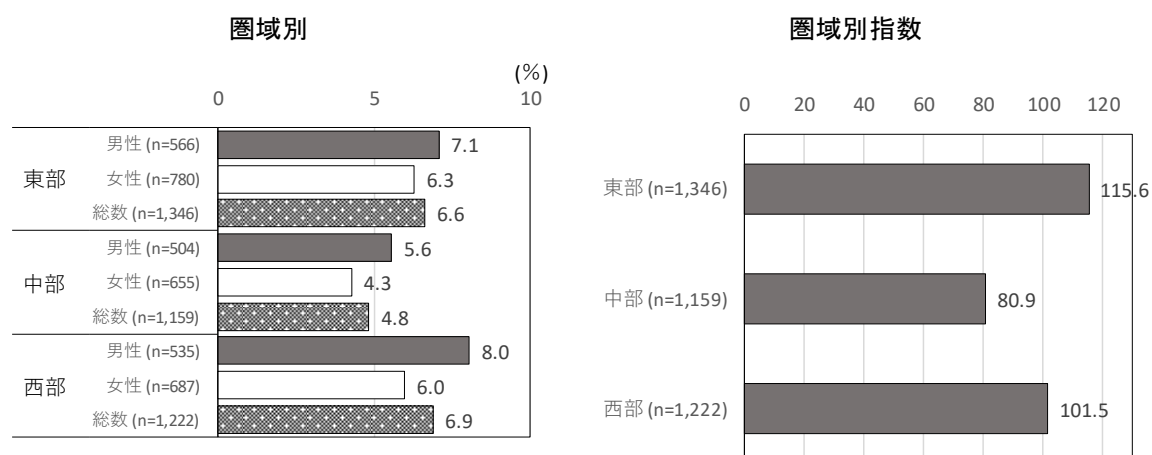
世帯構成別では、息子・娘との2世帯で該当者割合が高くなっています。

図表 虚弱 該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



圏域別にみると、西部圏域の男性で8.0%と他圏域に比べて該当者割合が高い一方、中部圏域の女性では4.3%で低くなっています。指数で見ると東部圏域が115.6と高くなっています。

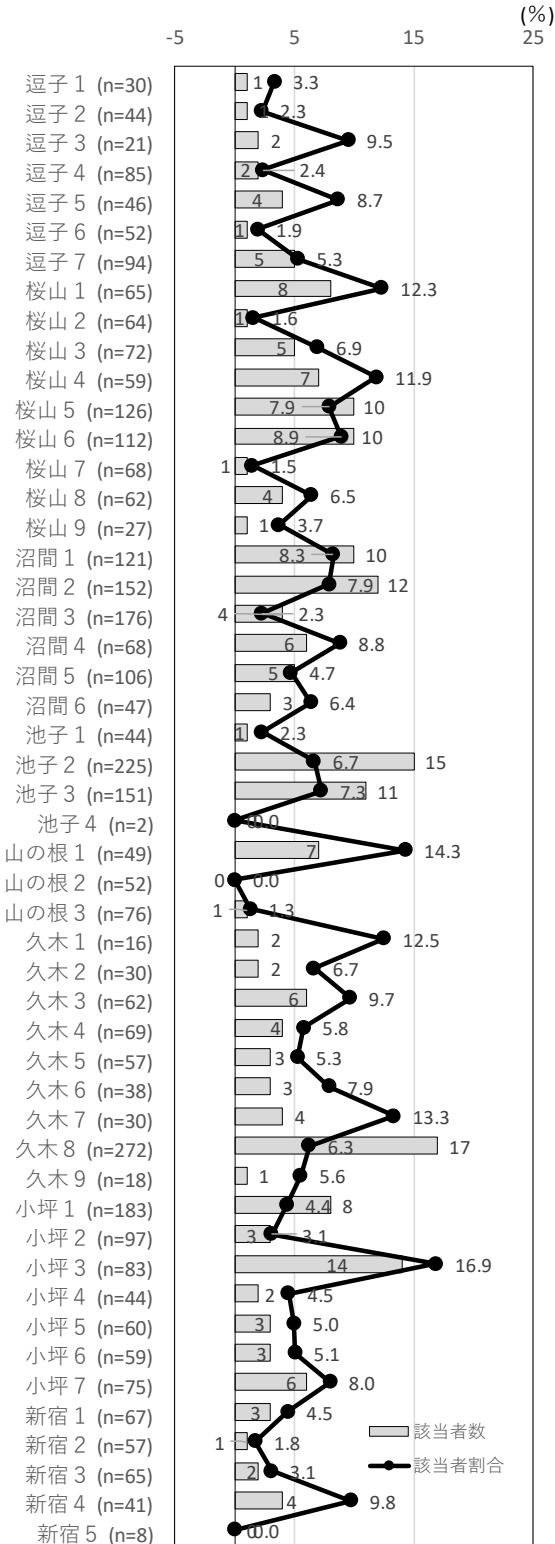
図表 虚弱 該当状況－圏域別



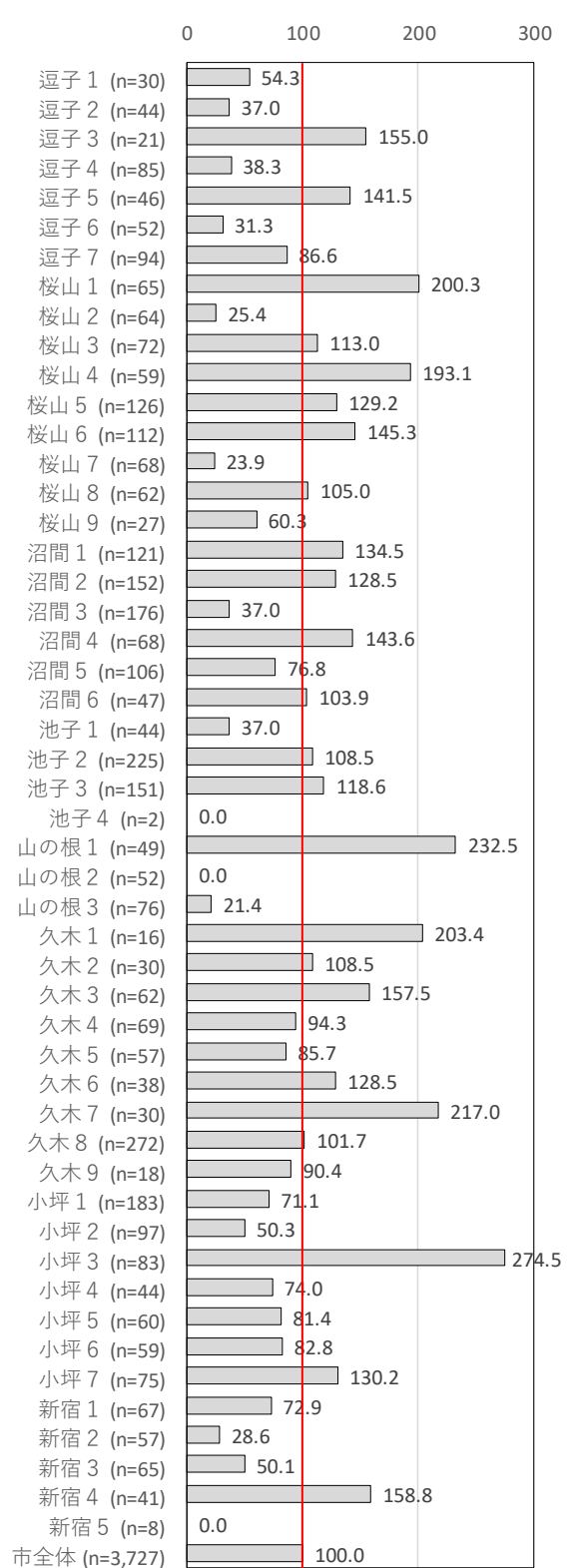
2 生活機能

町丁別に該当状況をみると、久木8丁目が17人、池子2丁目が15人と該当者数が多くなっています。

図表 虚弱 町丁別該当者数・割合



図表 虚弱 町丁別指数



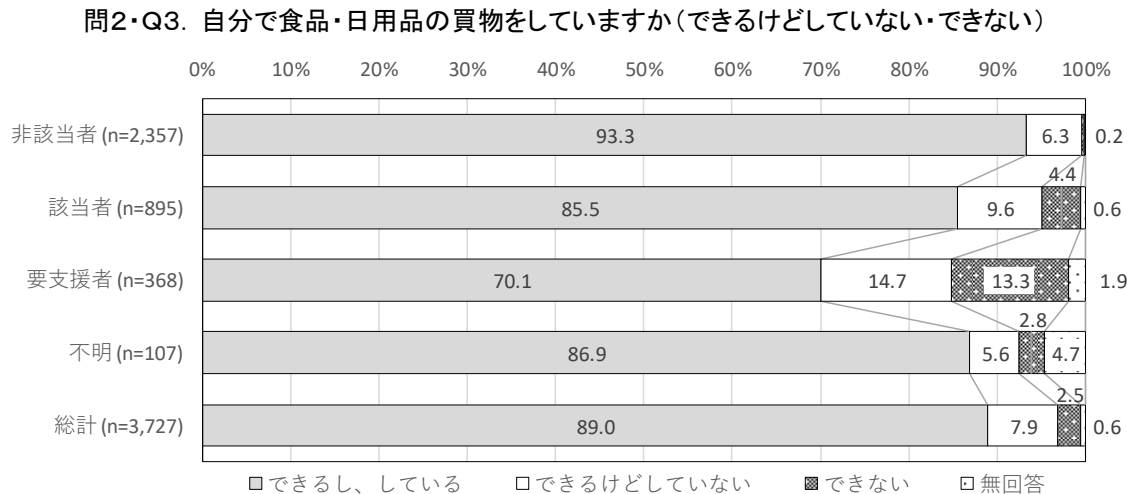
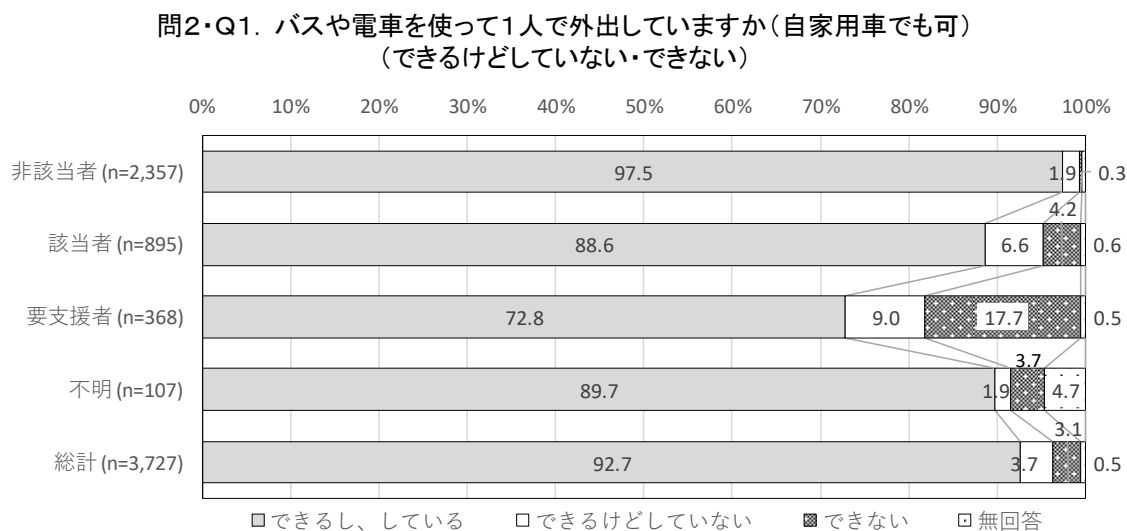
2 生活機能

ウ 回答結果

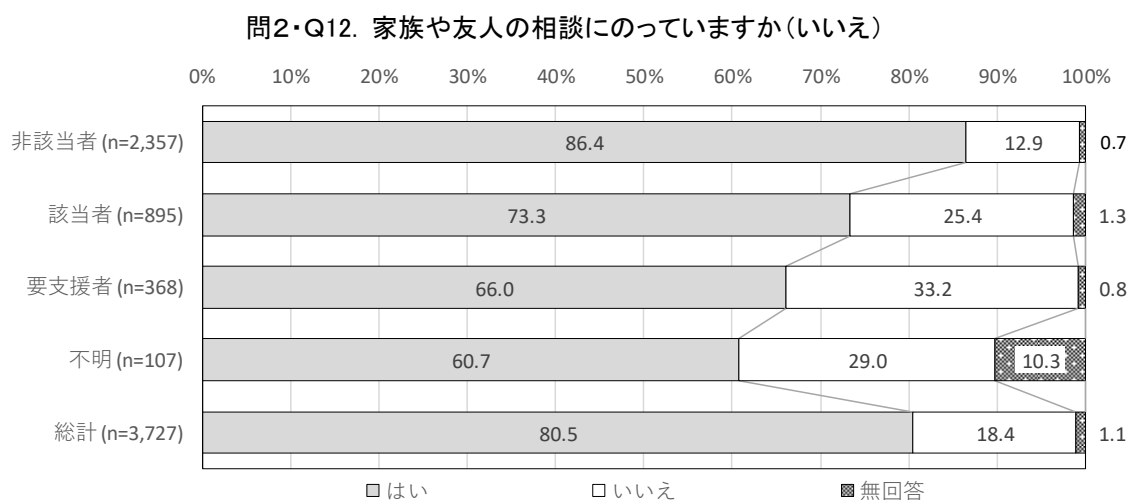
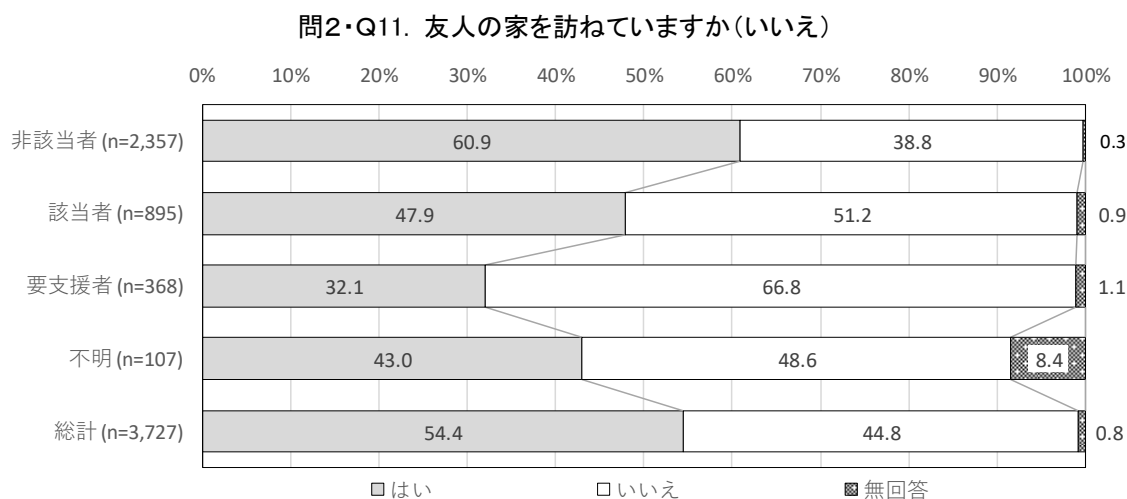
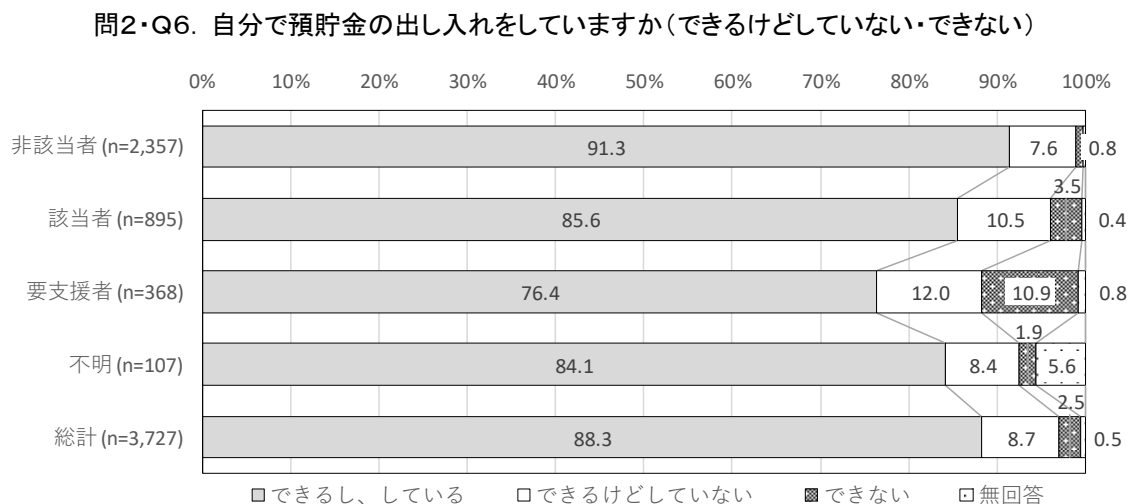
評価の基礎になった 20 問のうち、他の評価項目に含まれない 5 問についてそれぞれの回答結果をみてみます。

いずれの設問についても、要支援者で該当率が最も高くなっていますが、要支援者で最も該当率が高いのは、友人宅への訪問（問 2・Q10）で 66.8%が該当しています。

図表 回答結果-1



図表 回答結果-2

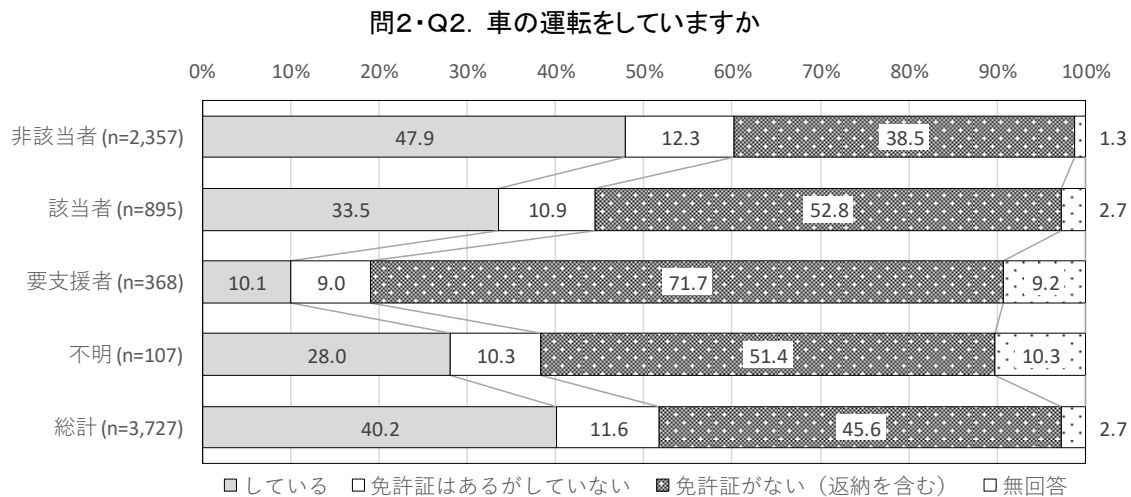


2 生活機能

エ 関連設問

車の運転をしているかについては、全体では「している」「免許証はあるがしていない」がそれぞれ 40.2%、11.6%と回答している一方、「免許証がない（返納を含む）」が 45.6%となっています。特に、要支援者では、7割以上で免許証がない（返納を含む）と回答しています。

図表 車の運転



(11) 旧二次予防事業対象者

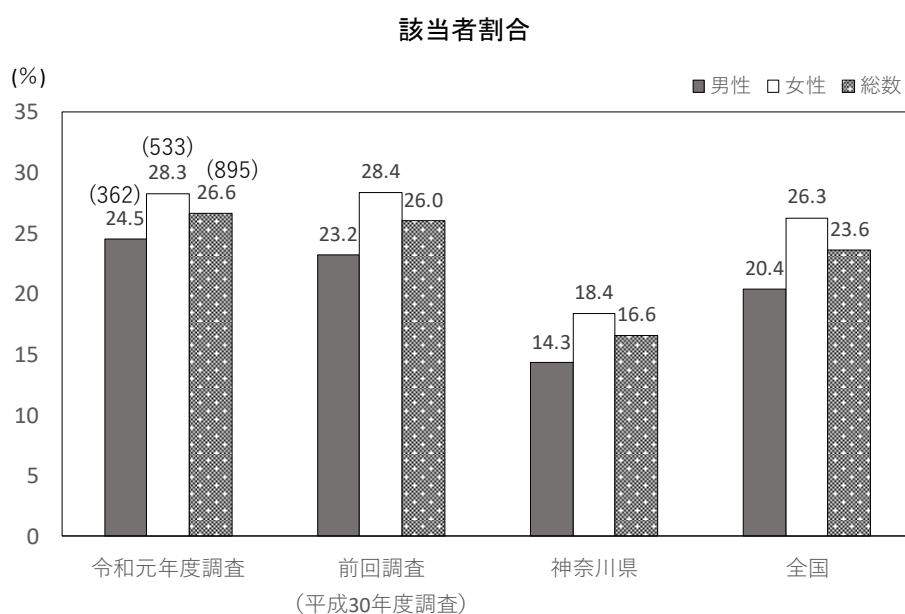
ア 設問と評価

従来の二次予防事業では、これまでに述べた運動、栄養、口腔、虚弱で該当した場合にその対象者となりますが、同一人が重複して該当している場合があるため、ここではこうした重複を除いて評価します。

イ 評価結果

全体で 895 人、26.6%（男性 362 人 24.5%、女性 533 人 28.3%）が該当者となっています。男性より女性で該当者割合が高くなっています。前回調査、全国、神奈川県調査結果と比較すると、全体で前回調査より 0.6 ポイント、神奈川県より 10.0 ポイント、全国より 3.0 ポイント高くなっています。

図表 該当状況—旧二次予防事業対象

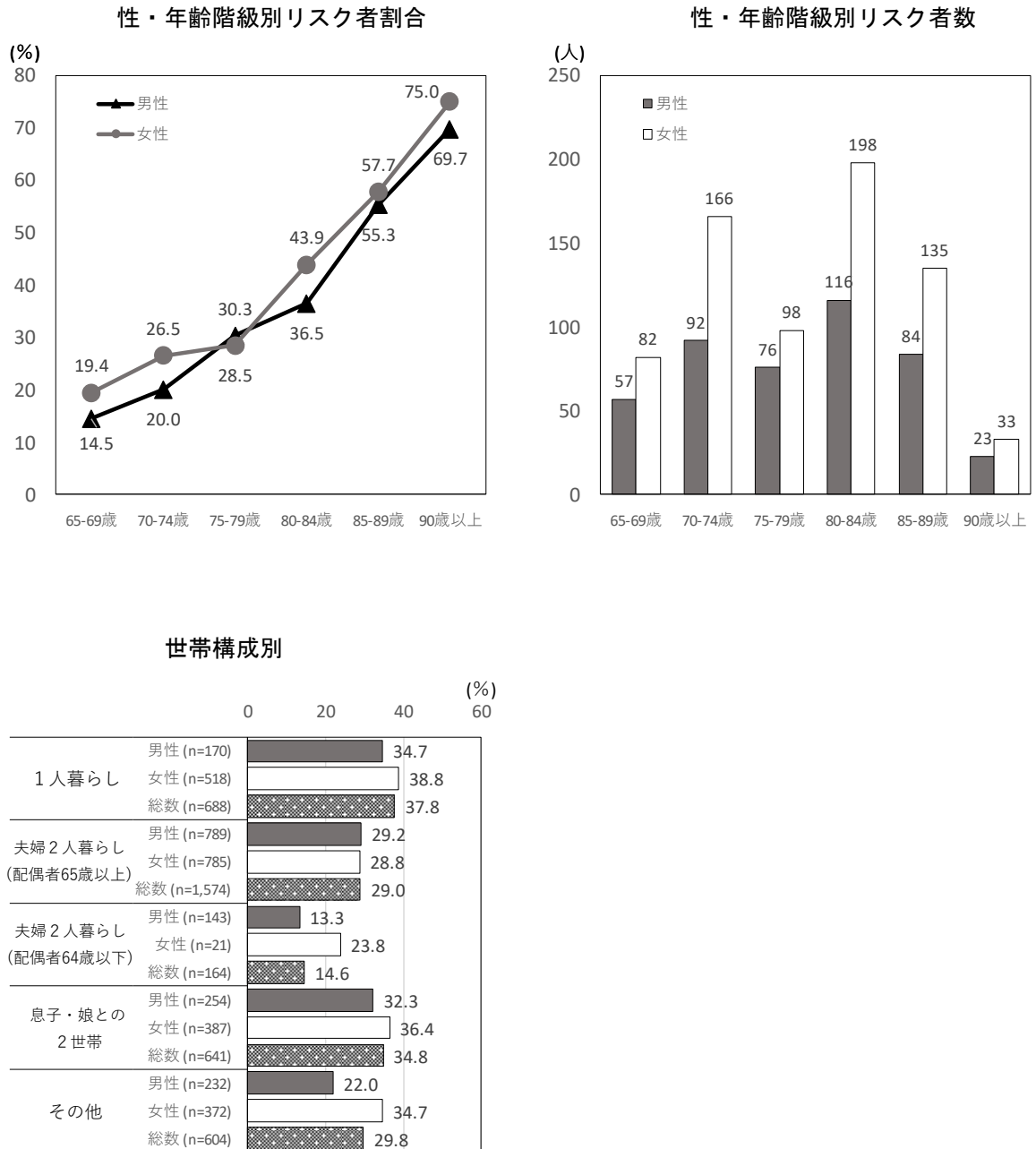


2 生活機能

性・年齢階級別にみると、年齢とともに該当者割合が高くなっています。該当者数で見ると、男女ともに80～84歳で116人、198人とピークになっています。

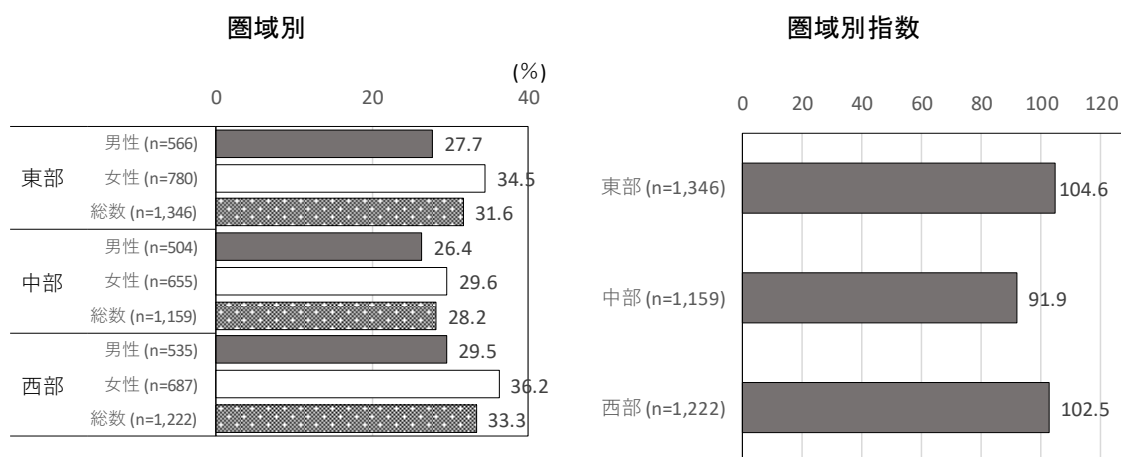
世帯構成別にみると、1人暮らしで該当者割合が比較的高くなっています。

図表 旧二次予防事業対象 該当状況－性・年齢階級別、世帯構成別



圏域別にみると、西部圏域が33.3%と他圏域に比べて若干該当者割合が高くなっています。指数でみると東部圏域が104.6と高くなっています。

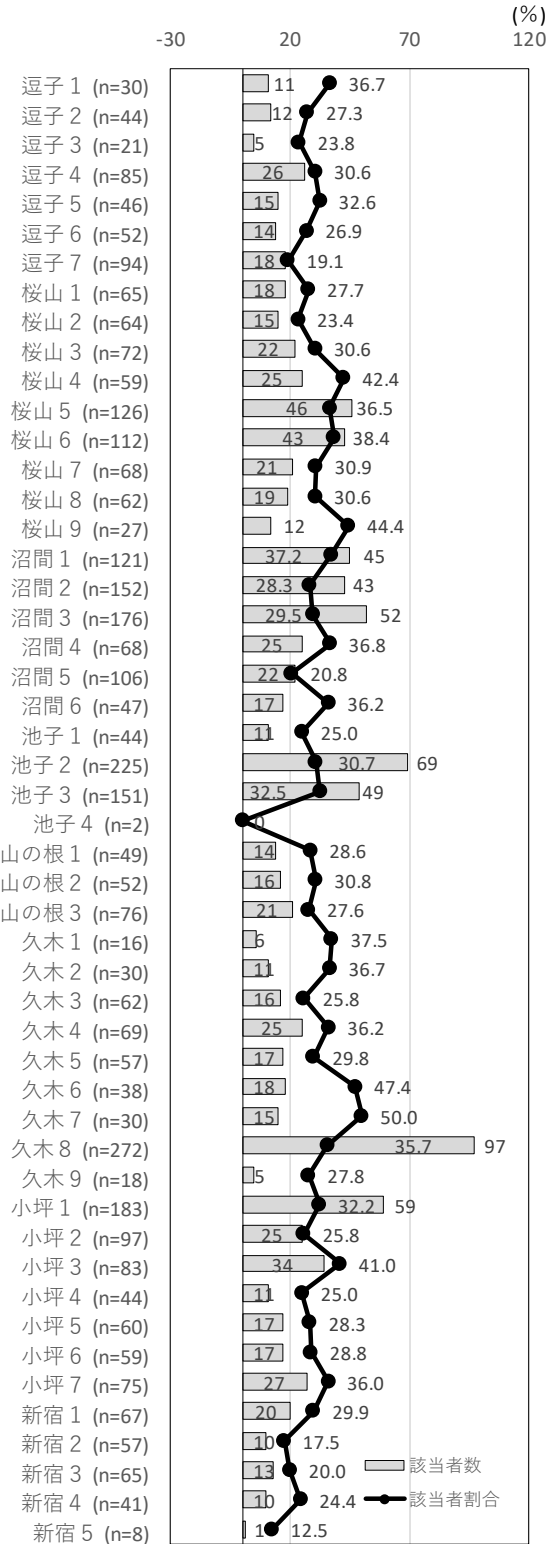
図表 旧二次予防事業対象 該当状況－圏域別



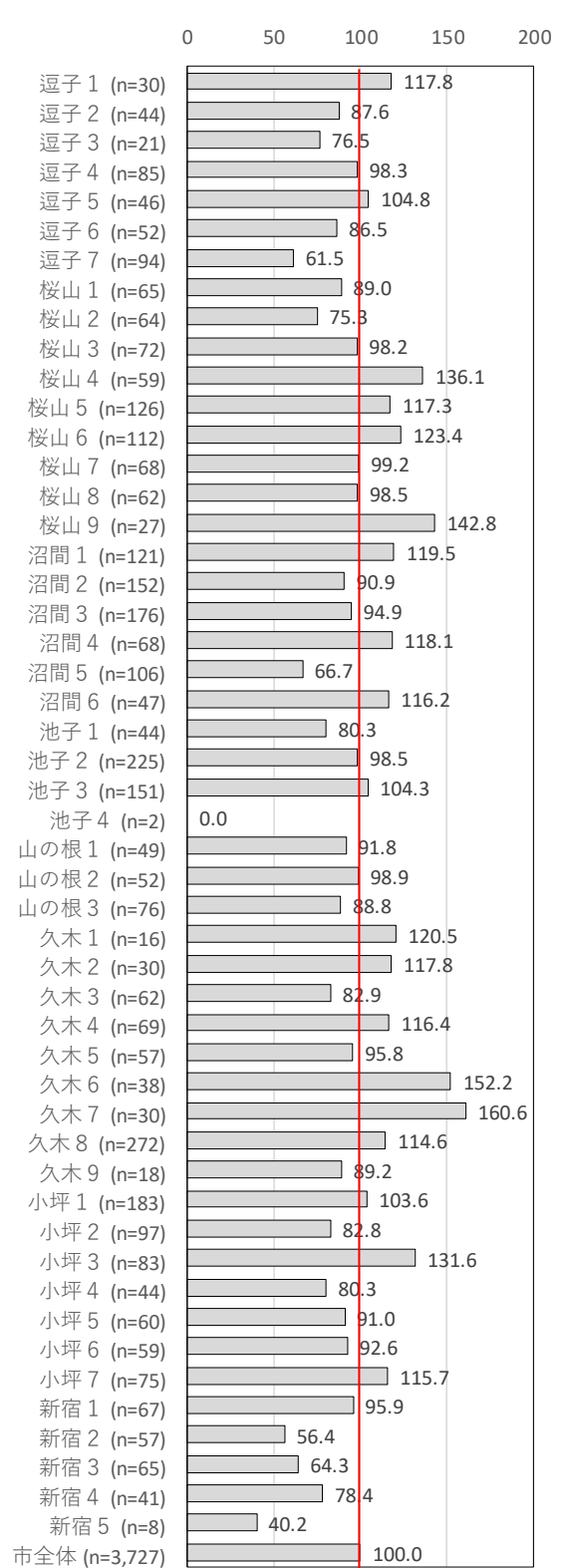
2 生活機能

町丁別に該当状況をみると、久木8丁目で97人、池子2丁目で69人と該当者数が多くなっています。指数では、久木7丁目で160.6と最も高くなっています。

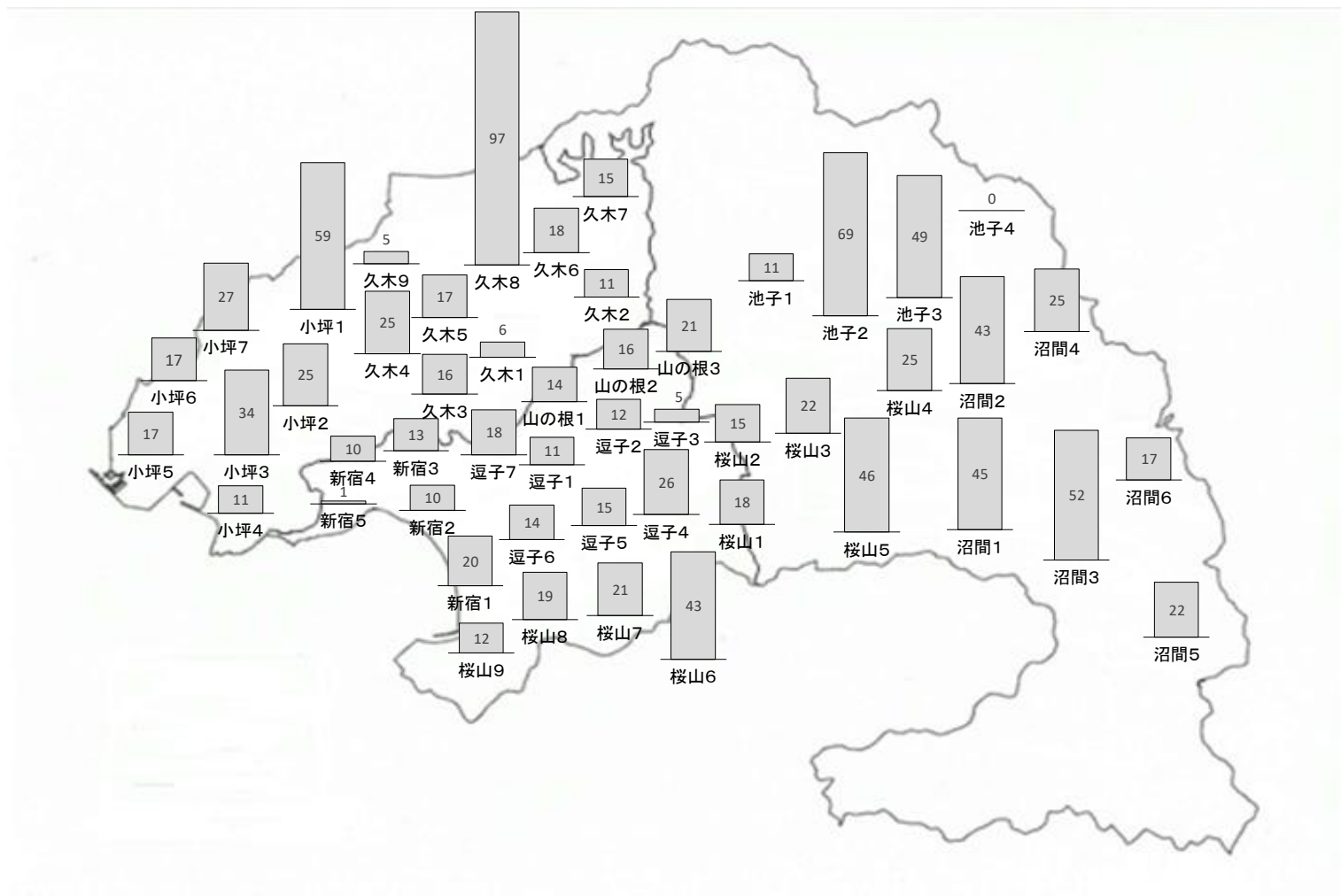
図表 旧二次予防事業対象 町丁別該当者数・割合



図表 旧二次予防事業対象 町丁別指数



図表 町丁別該当者数の分布：旧二次予防事業対象



2 生活機能

ウ 該当項目組合せ

従来の二次予防事業対象者選定のための評価項目（運動、栄養、口腔、虚弱）については、重複して該当している方がかなりいます。

そうした該当項目の組合せ別の回答者数をまとめたのが以下の図表となっています。

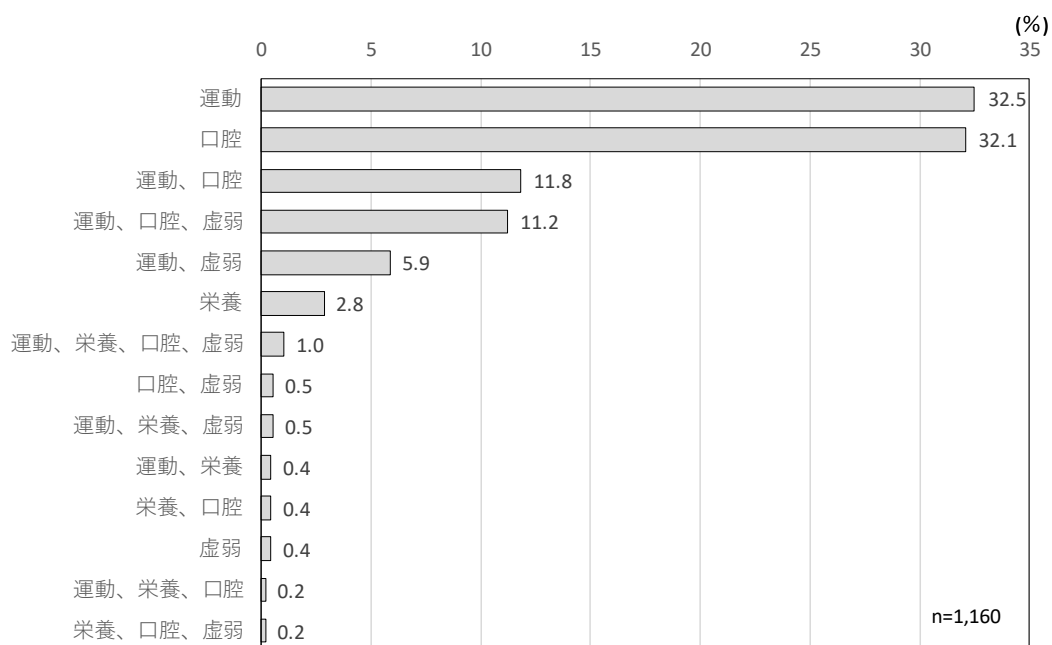
評価項目組合せで最も多いのは運動のみで該当者全体の 32.5%（377 人）となっており、次いで口腔のみが 32.1%（372 人）となっています。

2 項目以上の組み合わせで最も多いのは、運動・口腔で 11.8%（137 人）、次いで運動・口腔・虚弱が 11.2%（136 人）となっています。

4 項目いずれにも該当する方は、該当者の 1.0%（12 人）となっています。

こうした該当項目の組合せをベースに、複合型のプログラムの実施も検討していく必要があると考えられます。

図表 該当項目組合せ別構成比



3 日常生活

(1) 手段的自立度 (IADL)

ア 設問と評価

ニーズ調査では、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問が設けられています。

このうち、手段的自立度 (IADL) については、各設問に「している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価が可能です。

図表 手段的自立度に関する設問 (老研指標)

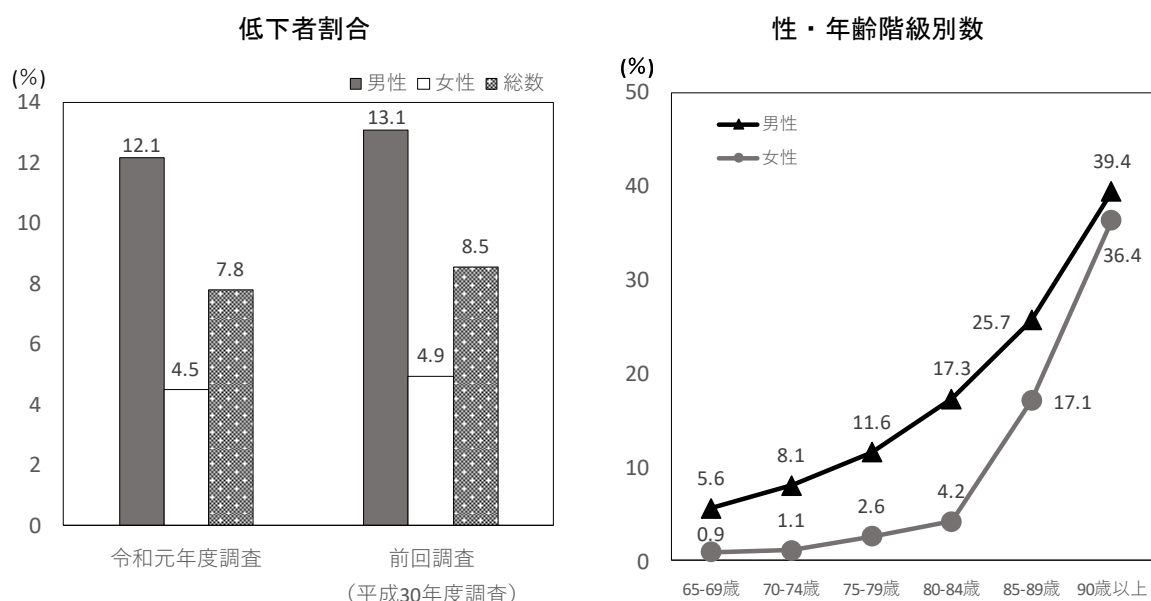
問番号	設問	配点と選択肢
問2・Q1	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1:「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問2・Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問2・Q4	自分で食事の用意をしていますか	1:「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問2・Q5	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「1. している」または「2. できるけどしていない」
問2・Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「1. している」または「2. できるけどしていない」

イ 評価結果

4点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で7.8% (男性12.1%、女性4.5%) が低下者となっており、女性より男性で低下者割合が顕著に高くなっています。前回調査と比較すると、全体で0.7ポイント低くなっています。

性・年齢階級別にみると、年齢が高いほど低下者割合が高くなっています。

図表 低下者割合—手段的自立度 (IADL)



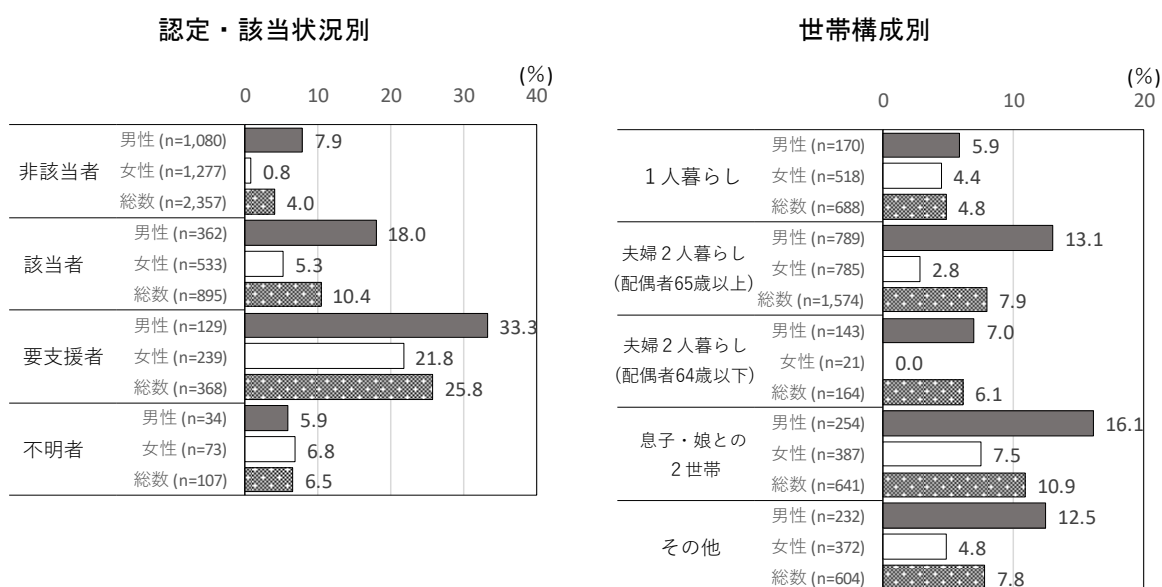
(1) 手段的自立度 (IADL)

3 日常生活

これを認定・該当状況別にみると、非該当者 4.0%、該当者 10.4%、要支援者 25.8%、不明者 6.5%と、要支援者で低下者割合が比較的高くなっています。

世帯構成別にみると、息子・娘との2世帯の男性で低下者割合が 16.1%と顕著に高くなっています。

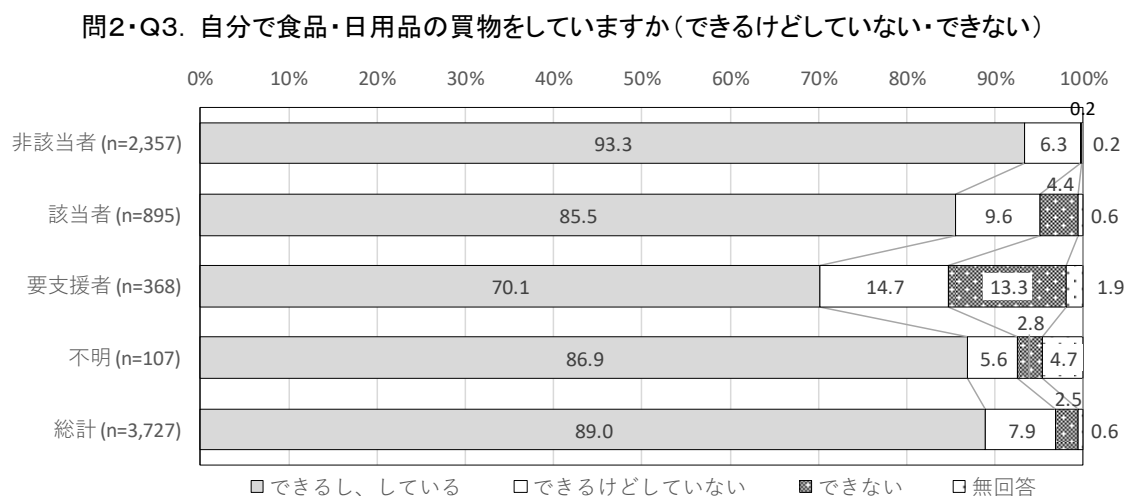
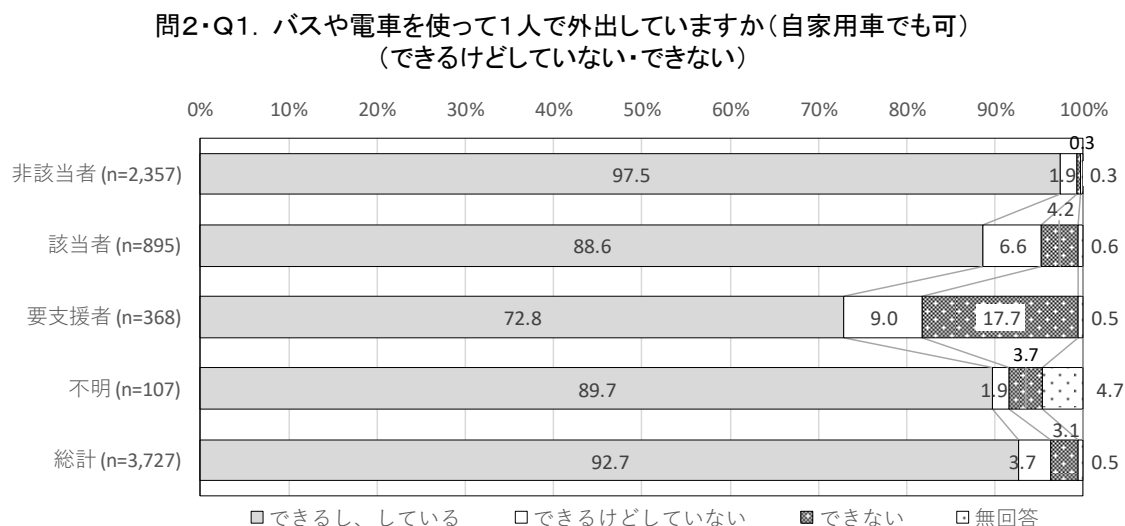
図表 IADL 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



ウ 回答結果

評価の基礎になった回答結果をみると、全体で「できるし、している」との回答は、食事の用意（問2・Q3）のみが80%を切っています。

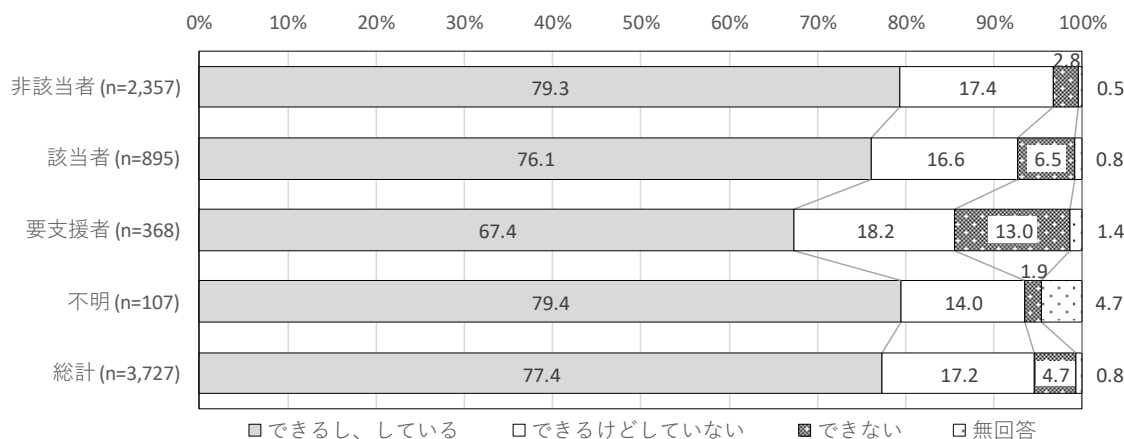
図表 回答結果-1



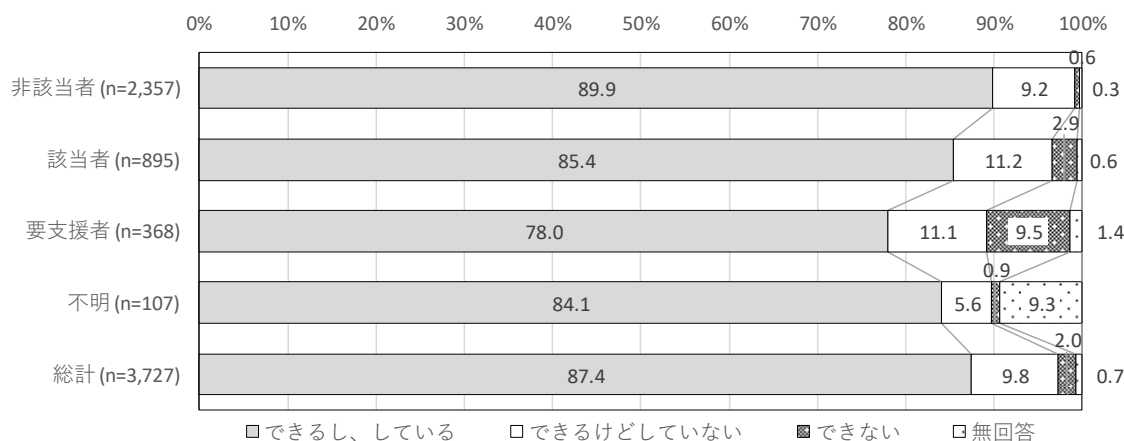
3 日常生活

図表 回答結果-2

問2・Q4. 自分で食事の用意をしていますか(できるけどしていない・できない)



問2・Q5. 自分で請求書の支払いをしていますか(できるけどしていない・できない)



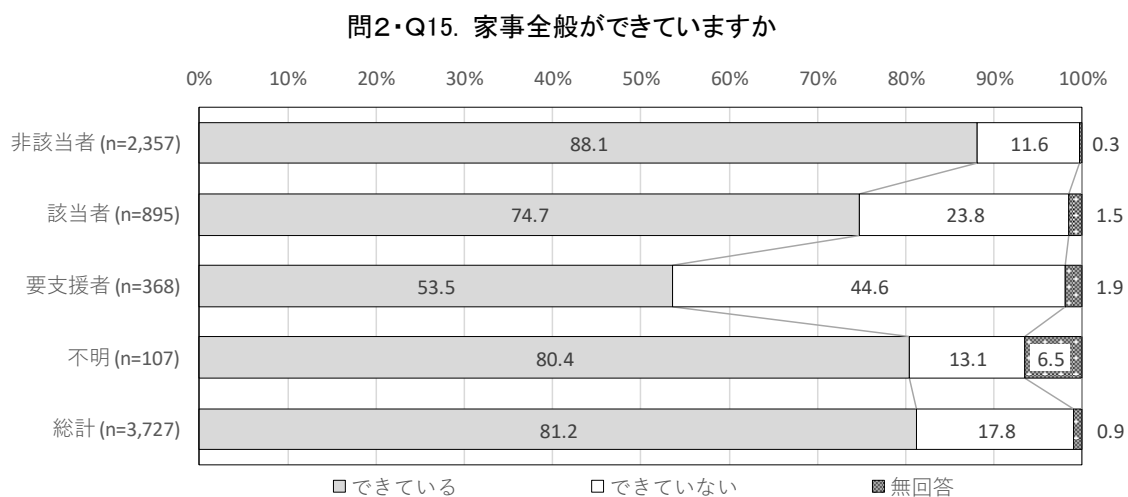
問2・Q6. 自分で預貯金の出し入れをしていますか(できるけどしていない・できない)



エ 関連設問

家事全般ができていないかについてみると、非該当者で 11.6%、該当者 23.8%、要支援者 44.6%、不明者 13.1%が「できていない」と回答しています。要支援者でその割合が高くなっています。

図表 家事全般



3 日常生活

(2) 日常生活動作 (ADL)

ア 設問と評価

今回の調査では、調査項目に日常生活動作 (ADL) に関する設問が含まれています。

内容としては、食事、寝床への移動、整容、トイレ動作、入浴、歩行、階段昇降、着替え、排便、排尿の 10 項目で (問 8・Q1～2・4～11)、ADL 評価指標として広く用いられているバーセルインデックスに準じた設問内容となっています。

各設問の配点は、バーセルインデックスの評価方法に従って、各設問で自立を 5～15 点とし 10 項目の合計が 100 点満点となるよう評価しています。

図表 日常生活動作に関する設問と評価

問番号	項目	配点	選択肢
問8・Q1	食事	10	「1. できる」
		5	「2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる」
		0	「3. できない」
問8・Q2	寝床への移動	15	「1. 受けない」
		10	「2. 一部介助があればできる」
		5	「3. 全面的な介助が必要」 (問8・Q3の回答が「1. できる」または「2. 支えが必要」の場合)
		0	「3. 全面的な介助が必要」 (問8・Q3の回答が「3. できない」の場合)
問8・Q4	整容	5	「1. できる」
		0	「2. 一部介助があればできる」または「3. できない」
問8・Q5	トイレ動作	10	「1. できる」
		5	「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」
		0	「3. できない」
問8・Q6	入浴	5	「1. できる」
		0	「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」 または「3. できない」
問8・Q7	歩行	15	「1. できる」
		10	「2. 一部介助(他人に支えてもらう)があればできる」
		0	「3. できない」
問8・Q8	階段昇降	10	「1. できる」
		5	「2. 介助があればできる」
		0	「3. できない」
問8・Q9	着替え	10	「1. できる」
		5	「2. 介助があればできる」
		0	「3. できない」
問8・Q10	大便の失敗	10	「1. ない」
		5	「2. ときどきある」
		0	「3. よくある」
問8・Q11	尿もれ・尿失禁	10	「1. ない」
		5	「2. ときどきある」
		0	「3. よくある」

イ 評価結果

高齢者の日常生活動作（ADL）の状況を見ると、全項目自立（100点）の割合は、非該当者で81.0%、該当者で57.7%、要支援者44.6%、不明者で75.7%となっています。

図表 ADL得点分布

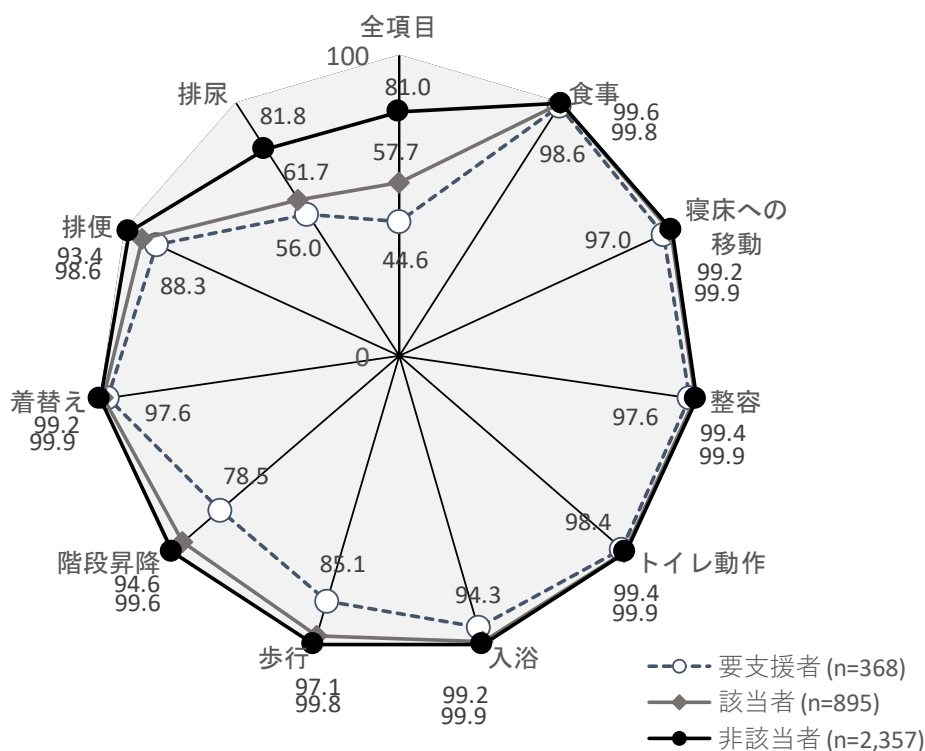
上段：%/下段：人

	全項目自立 (100点)	85~95点	65~80点	60点以下	不明	総数
非該当	81.0	18.5	0.1	0.0	0.5	100.0
	1,908	436	2	0	11	2,357
該当	57.7	39.4	1.7	0.1	1.1	100.0
	516	353	15	1	10	895
要支援者	44.6	44.8	5.7	1.9	3.0	100.0
	164	165	21	7	11	368
不明	75.7	17.8	0.9	0.0	5.6	100.0
	81	19	1	0	6	107
総数	71.6	26.1	1.0	0.2	1.0	100.0
	2,669	973	39	8	38	4,251

ウ 回答結果

各設問に対する回答を見ると、該当者で自立者割合が比較的低いのは排尿で61.7%、要支援者では排尿56.0%、階段昇降78.5%となっています。

図表 回答結果



4 社会参加

4 社会参加

(1) 知的能動性

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されています。

評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

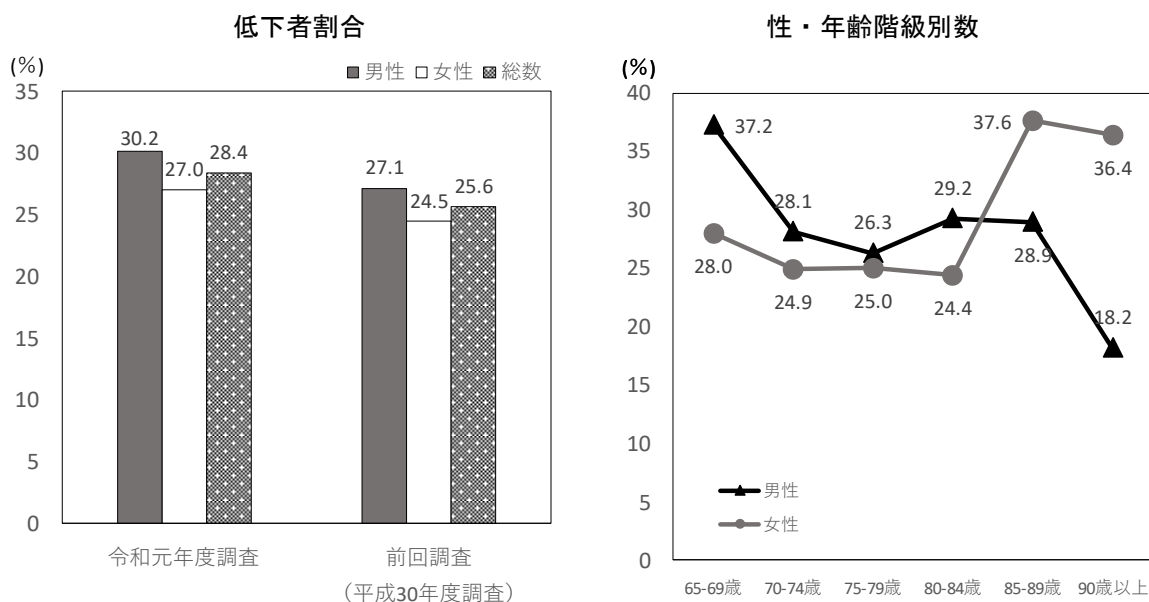
図表 知的能動性に関する設問（老研指標）

問番号	設 問	配点と選択肢
問2・Q7	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「1. はい」
問2・Q8	新聞を読んでいますか	1:「1. はい」
問2・Q9	本や雑誌を読んでいますか	1:「1. はい」
問2・Q10	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で28.4%（男性30.2%、女性27.0%）が低下者となっており、女性より男性で低下者割合が高くなっています。前回調査と比較すると、全体で2.8ポイント高くなっています。

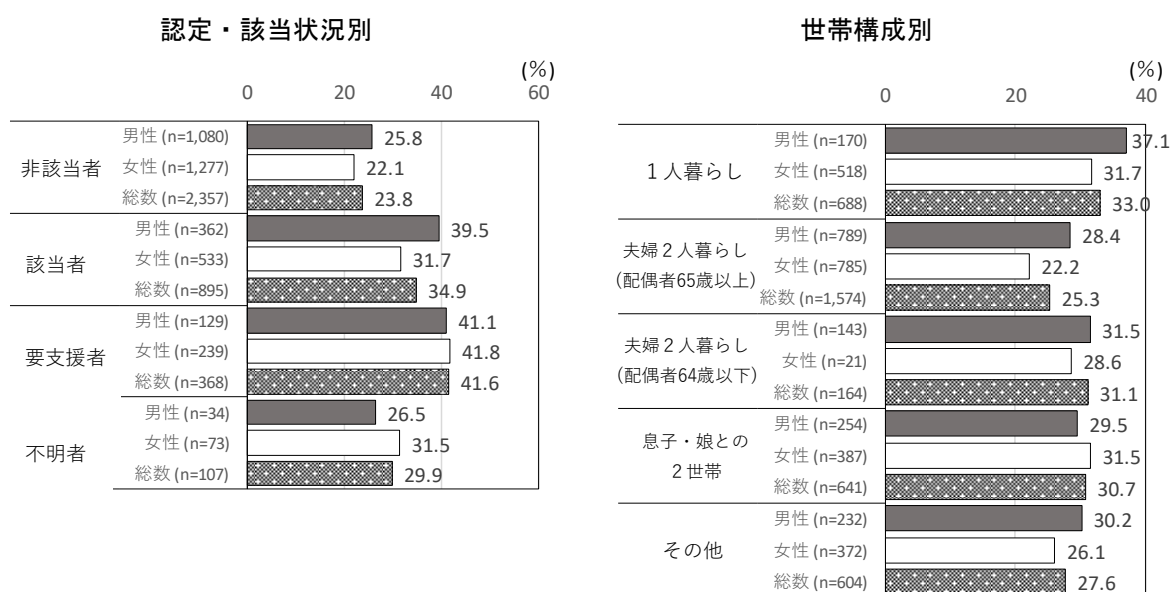
図表 低下者割合—知的能動性



認定・該当状況別にみると、非該当者 23.8%、該当者 34.9%、要支援者 41.6%、不明者 29.9%が低下者になっています。

世帯構成別にみると、1人暮らし世帯の男性で知的能動性の低下者割合が高くなっています。

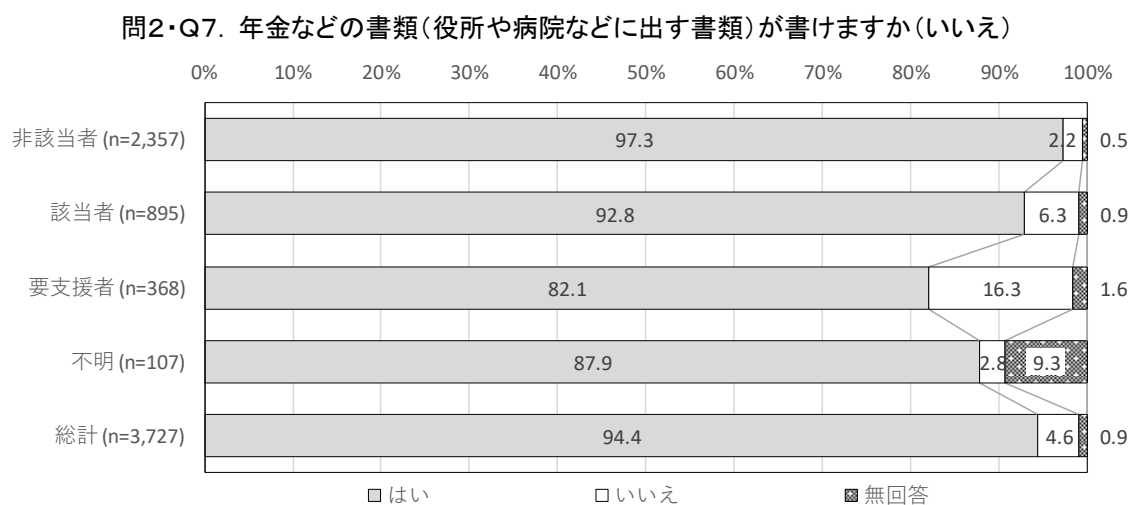
図表 知的能動性 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



ウ 回答結果

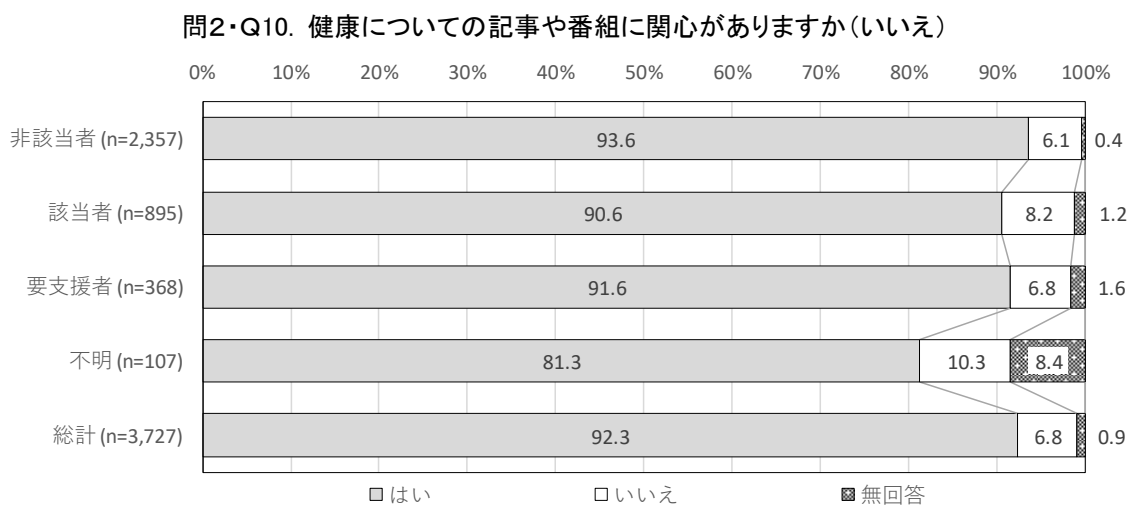
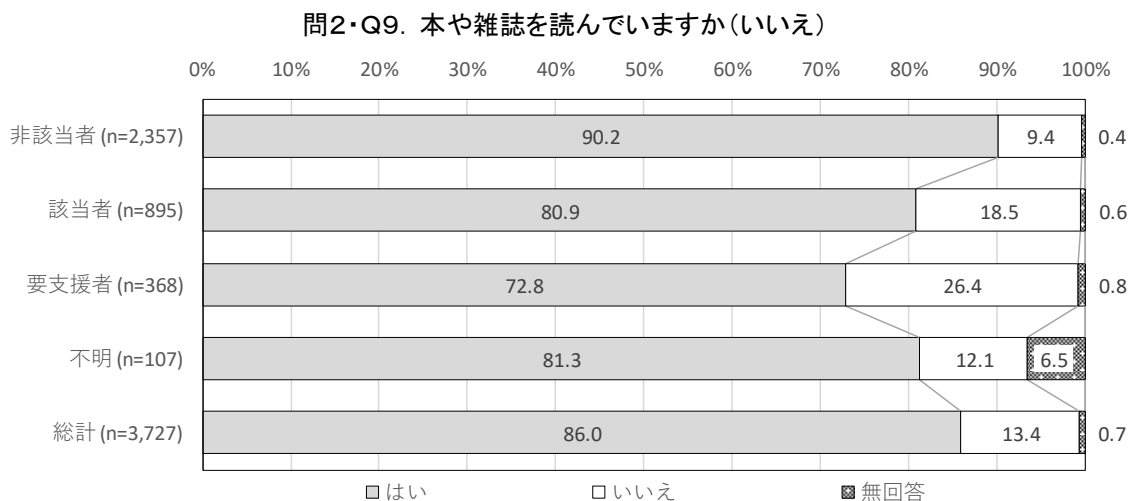
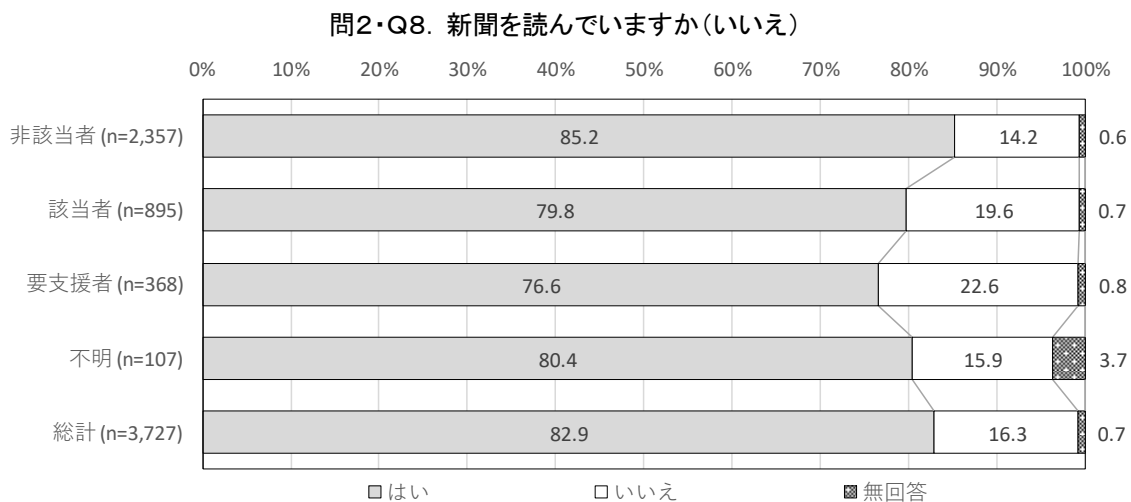
評価の基礎となっている4問の回答結果をみてみると、(問2・Q6)年金などの書類が書けますか、(問2・Q9)健康についての記事や番組に対する関心がありますかについては、「はい」との回答が全体で90%以上と他の設問と比較して高くなっています。

図表 回答結果-1



4 社会参加

図表 回答結果-2



(2) 社会的役割

ア 設問と評価

老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されています（問2・Q10～13）。

評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価しています。

図表 社会的役割に関する設問（老研指標）

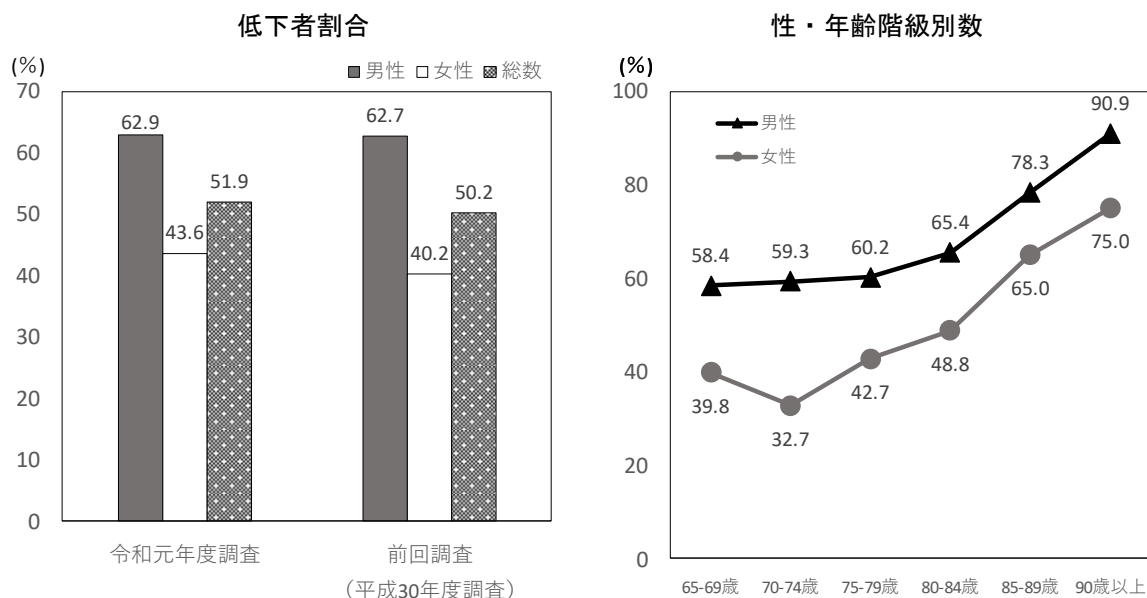
問番号	設問	配点と選択肢
問2・Q11	友人の家を訪ねていますか	1:「1. はい」
問2・Q12	家族や友人の相談にのっていますか	1:「1. はい」
問2・Q13	病人を見舞うことができますか	1:「1. はい」
問2・Q14	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「1. はい」

イ 評価結果

3点以下を低下者とした評価結果をみると、全体で51.9%（男性62.9%、女性43.6%）が低下者となっています。女性より男性で、また年齢が高いほど低下者割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、全体で1.7ポイント高くなっています。

図表 低下者割合—社会的役割

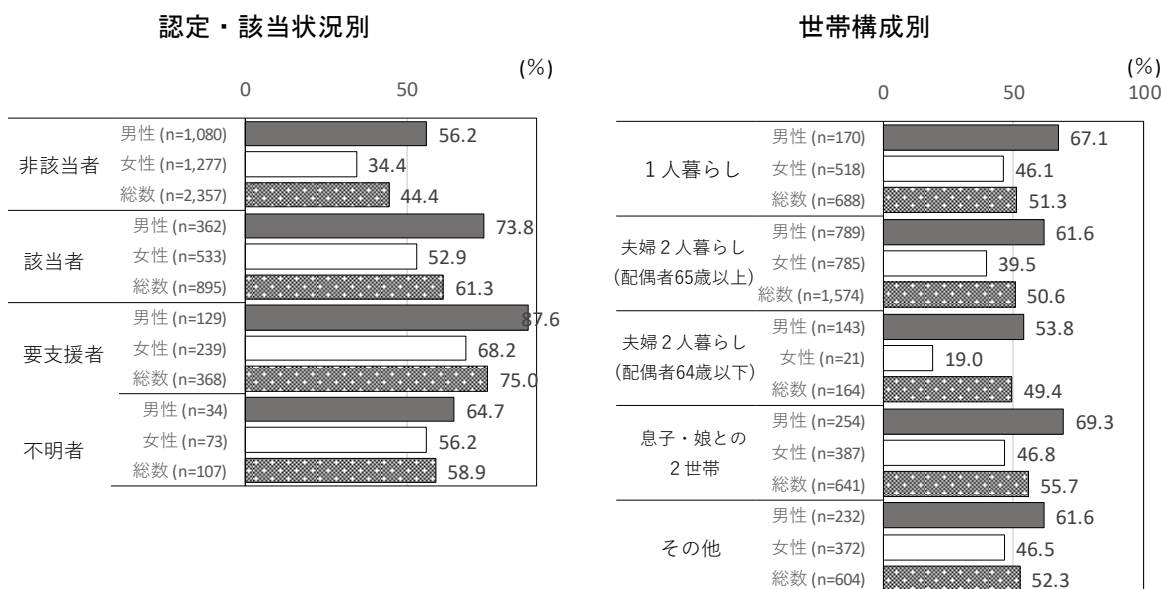


4 社会参加

これを認定・該当状況別にみると、非該当者 44.4%、該当者 61.3%、要支援者 75.0%、不明者 58.9%が低下者となっています。非該当者でも低下者の割合は 40%を超えています。

また世帯構成別では、いずれの世帯構成でも男性の低下者割合が 50%以上と、高くなっています。

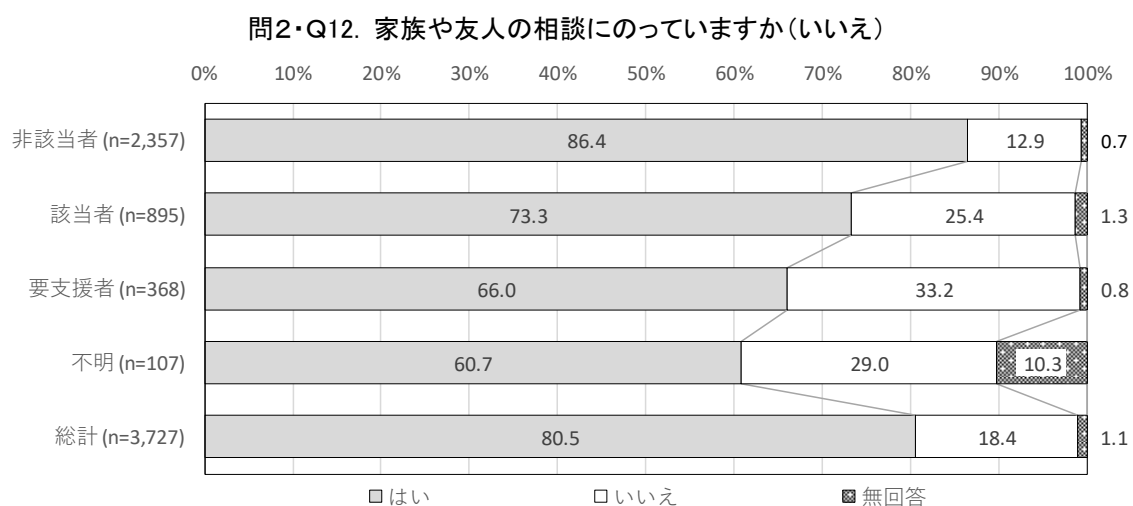
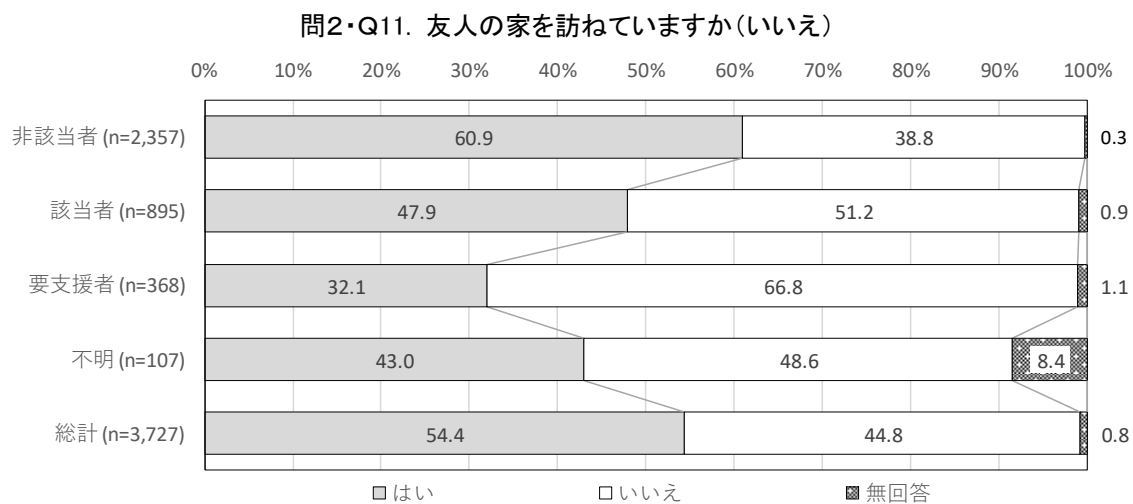
図表 社会的役割 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



ウ 回答結果

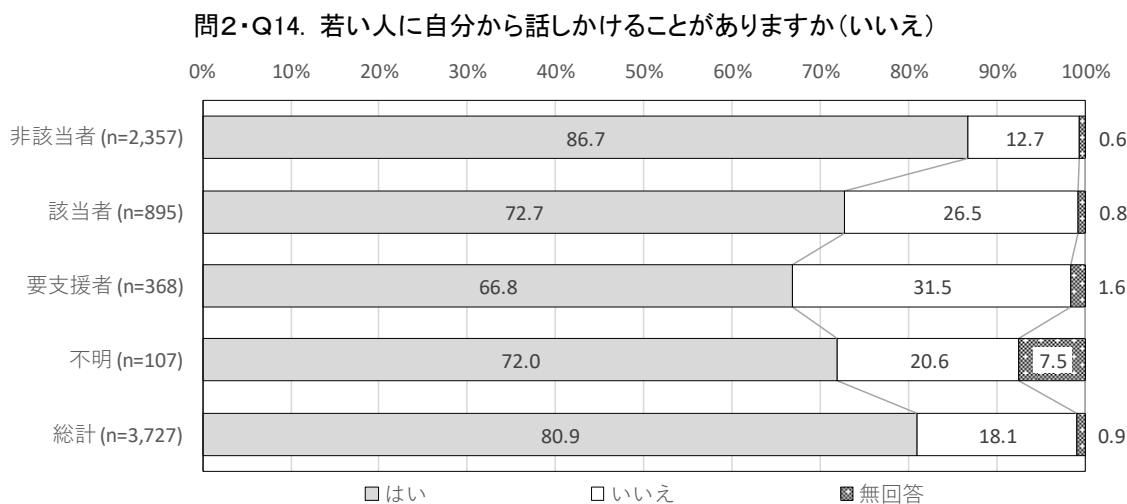
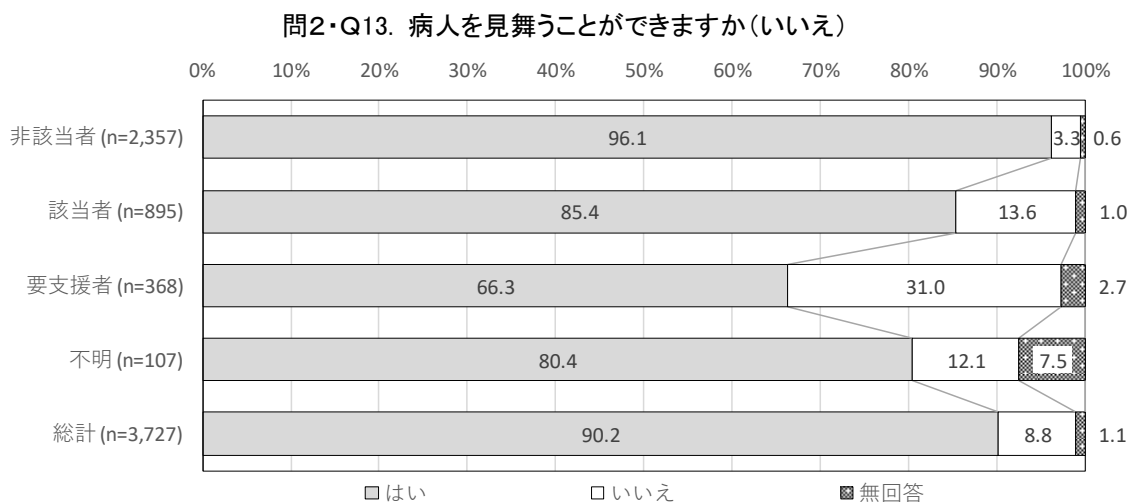
評価の基礎となっている4問の回答結果をみると、友人の家を訪ねているか（問2・Q10）との設問で「はい」との回答が最も少なくなっています。

図表 回答結果-1



4 社会参加

図表 回答結果-2



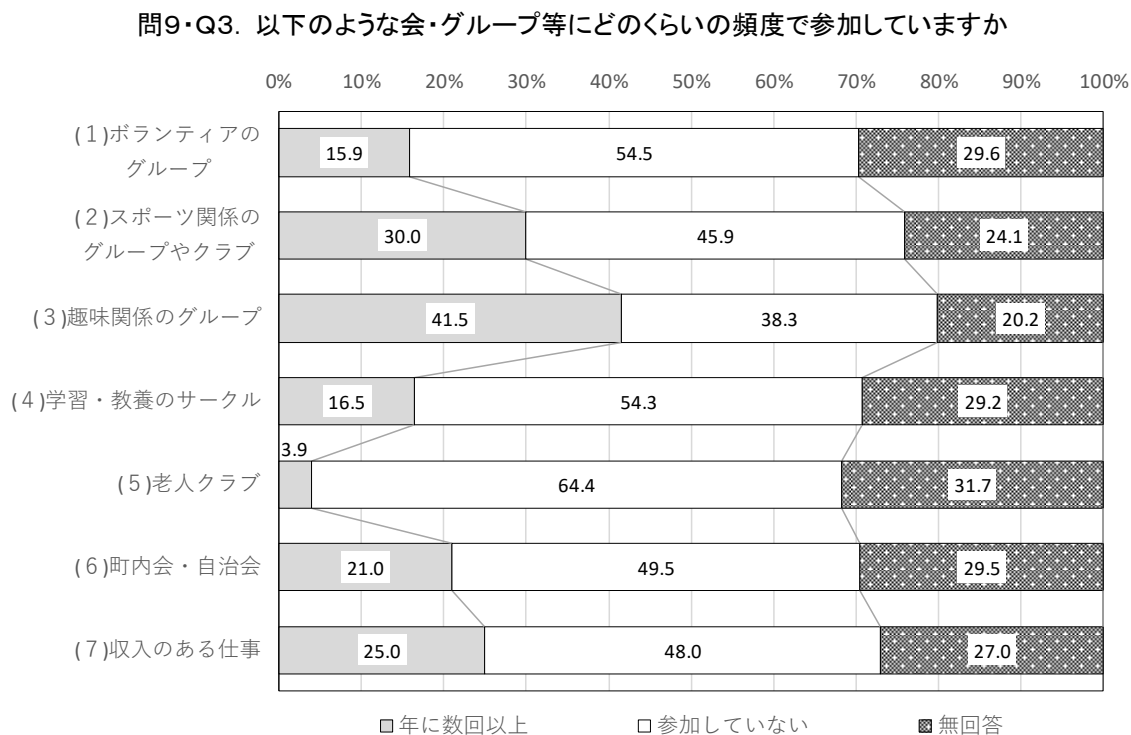
エ 関連設問

① 会の活動

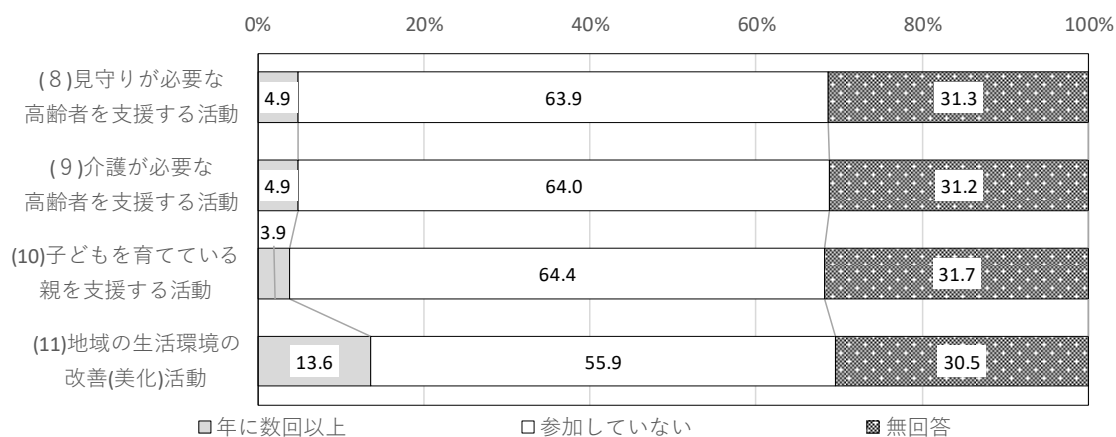
関連設問である参加している会・グループについてみると、比較的多いのは「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」となっています。「老人クラブ」は「年に数回以上」が3.9%と他の会・グループ等と比べて低い割合となっています。

行っている活動としては、「地域の生活環境の改善（美化）活動」が13.6%（週1回以上から年数回までの合計）で最も多くなっています。

図表 参加している会・グループ 1



図表 参加している会・グループ 2



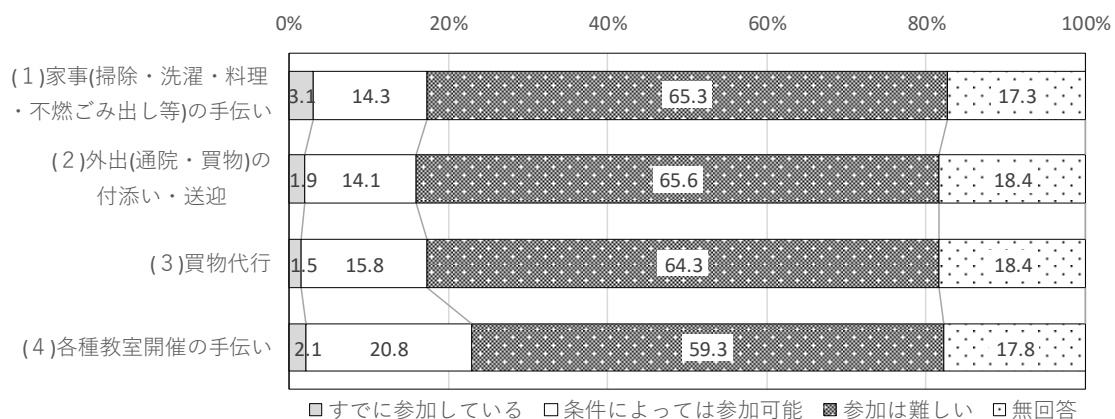
4 社会参加

今後参加できそうな活動についてみると、「条件によっては参加可能」との回答が多い順は、「各種教室開催の手伝い」「買物代行」「家事（掃除・洗濯・料理・不燃ごみ出し等）の手伝い」「外出（通院・買物）の付添い・送迎」の順になっています。

さらに、今後活動に参加する際に重視する条件としては、「参加の回数・時間・曜日の融通がきく」が39.8%で最も多く、次いで「自宅から近い」（38.8%）、「支援方法などを教えてくれる講習がある」（22.2%）、「事故があった場合の対応がしっかりしている」（21.5%）などが続いています。

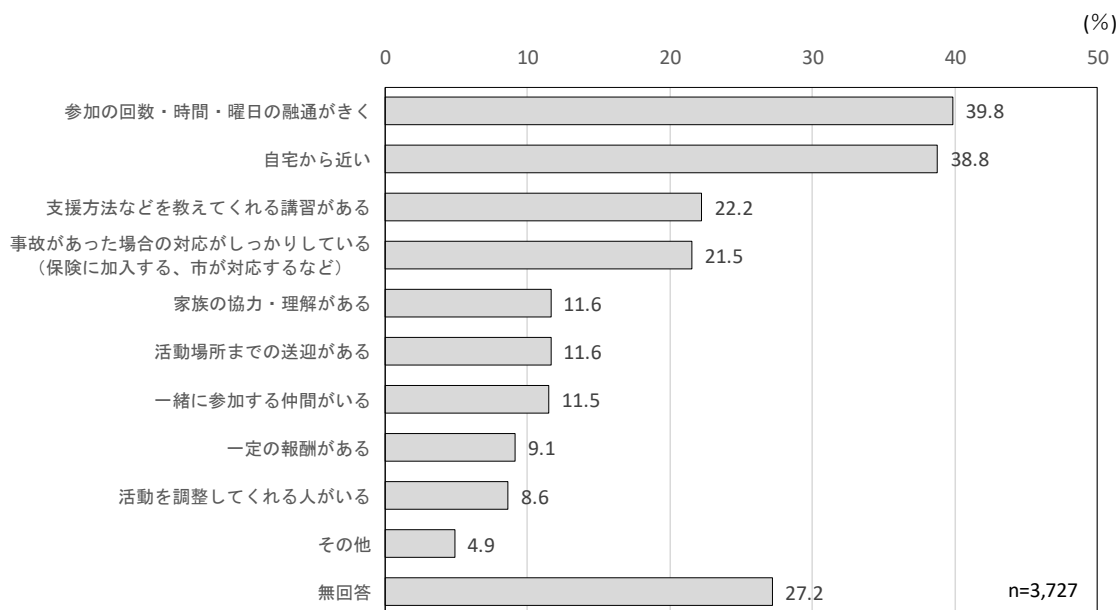
図表 支援活動への参加可能性

問 11・Q7. 以下のような高齢者支援、子育て支援や、障がい者の支援活動に参加ができそうですか



図表 活動参加の場合に重視する条件

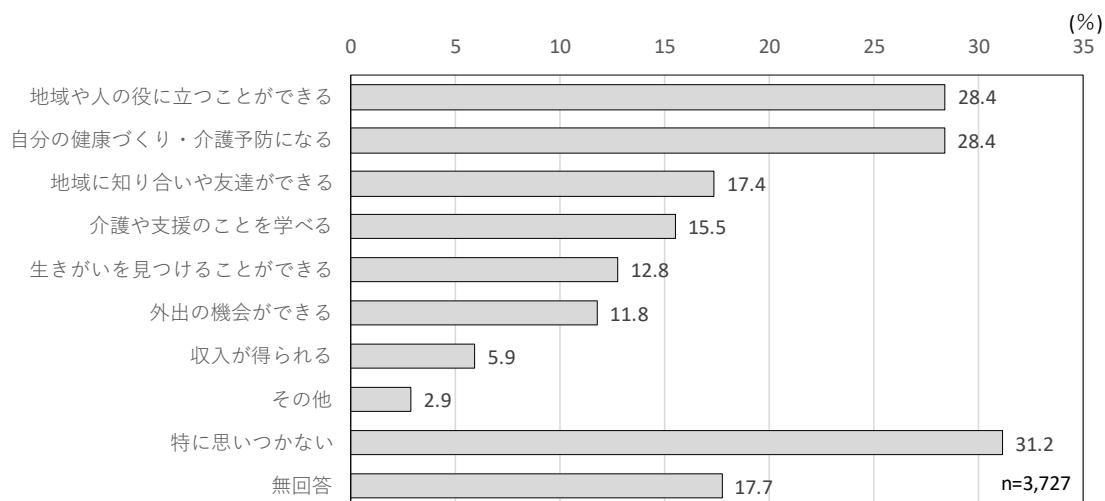
問 11・Q9. 高齢者支援、子ども子育ての支援や障害者の支援に関する活動にあなたが参加する場合、どのような条件を重視しますか。以下の条件の中から、あなたにとって重要なものを3つ以内で選んでください



支援活動に参加することで期待できることは何かについてみると、「地域や人の役に立つことができる」と「自分の健康づくり・介護予防になる」が28.4%と多くなっています。また、「特に思いつかない」が31.2%となっています。

図表 支援活動参加で期待できること

問 11・Q8. 高齢者支援、子ども子育ての支援や障害者の支援に関する活動に参加することで期待できることは何ですか(いくつでも)



4 社会参加

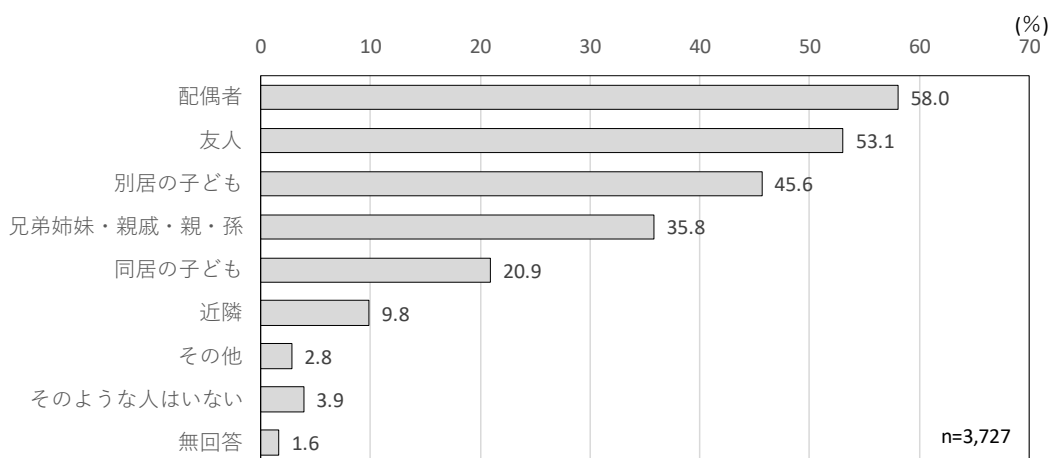
② まわりの人との助け合い

「心配事や愚痴を聞いてくれる人」としては、「配偶者」が58.0%と最も多く、次いで「友人」(53.1%)、「別居の子ども」(45.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(35.8%)などが続いています。

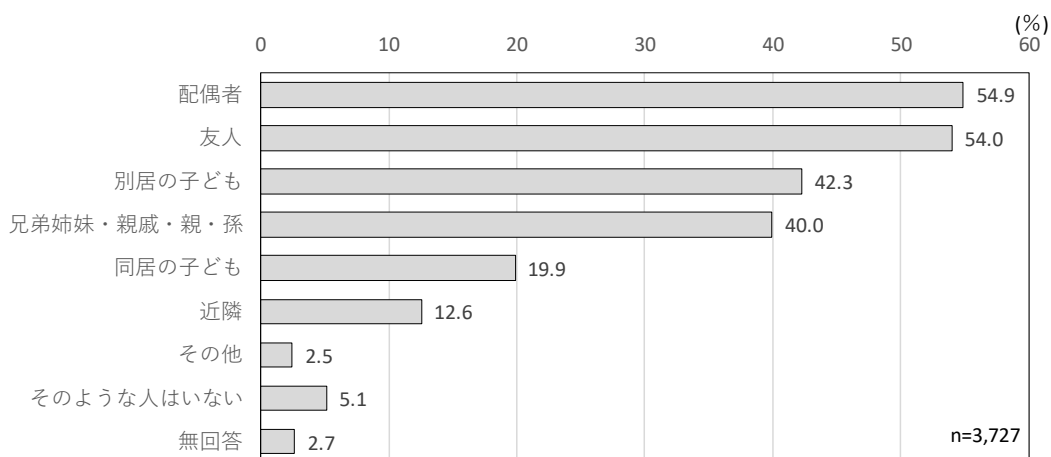
「心配事や愚痴を聞いてあげる人」も、「配偶者」が54.9%で最も多く、次いで「友人」(54.0%)、「別居の子ども」(42.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(40.0%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-1

問9・Q6. あなたとまわりの方の「たすけあい」についておうかがいします。
(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)



問9・Q6. あなたとまわりの方の「たすけあい」についておうかがいします。
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

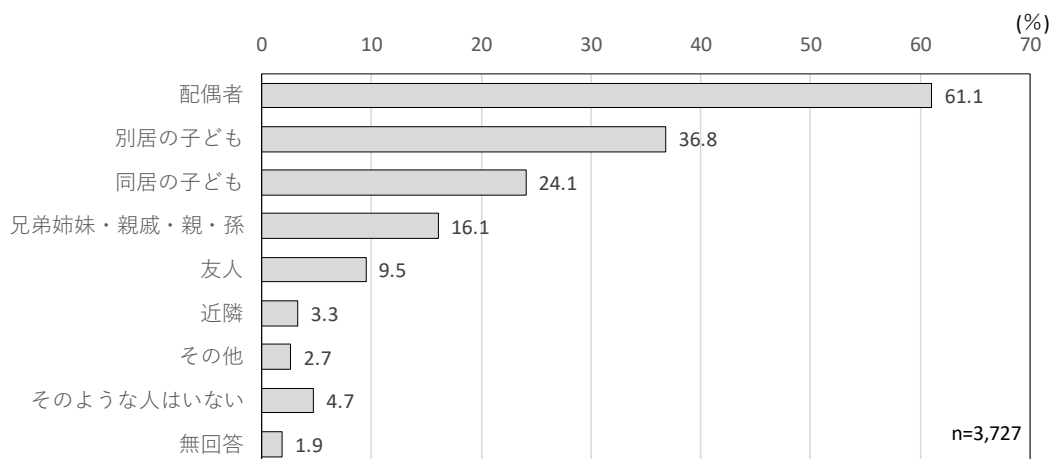


「看病や世話をしてくれる人」は、「配偶者」が61.1%で最も多く、次いで「別居の子ども」(36.8%)、「同居の子ども」(24.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(16.1%)が続いています。

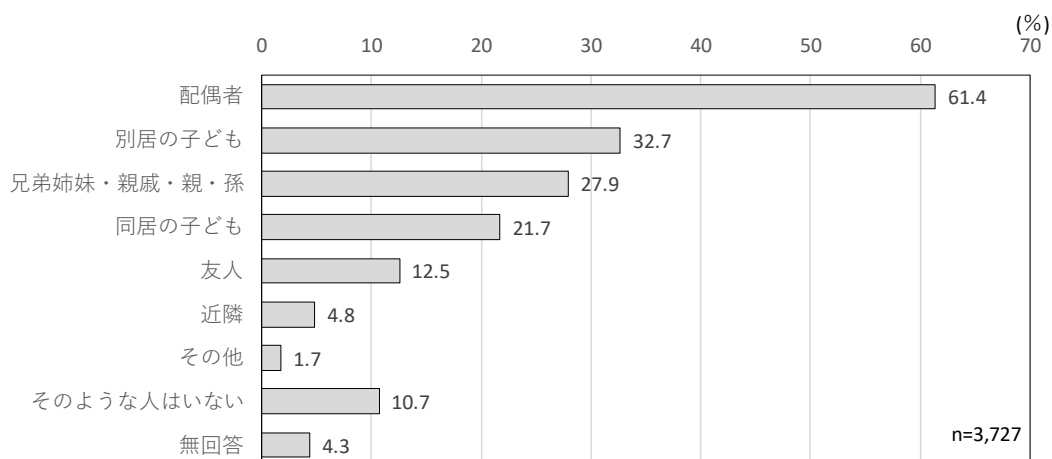
「看病や世話をしてあげる人」も、「配偶者」が61.4%で最も多く、次いで「別居の子ども」(32.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親」(27.9%)、「同居の子ども」(21.7%)の順になっています。

図表 まわりの人との助け合い-2

問9・Q6. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(3)あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)



問9・Q6. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
(4)反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)



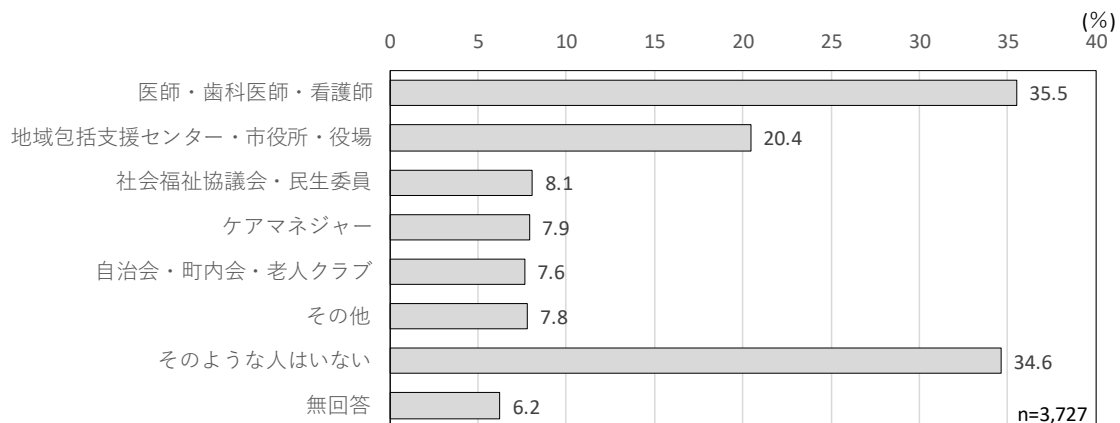
4 社会参加

③相談相手

家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が35.5%で最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(20.4%)と続いています。「そのような人はいない」との回答は34.6%となっています。

図表 何かあったときの相談相手

問9・Q7. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)



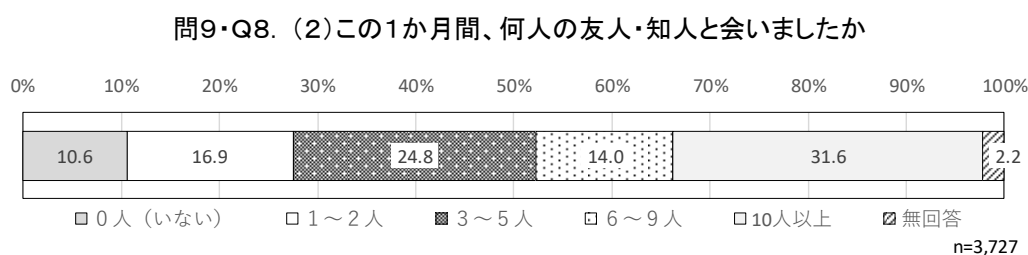
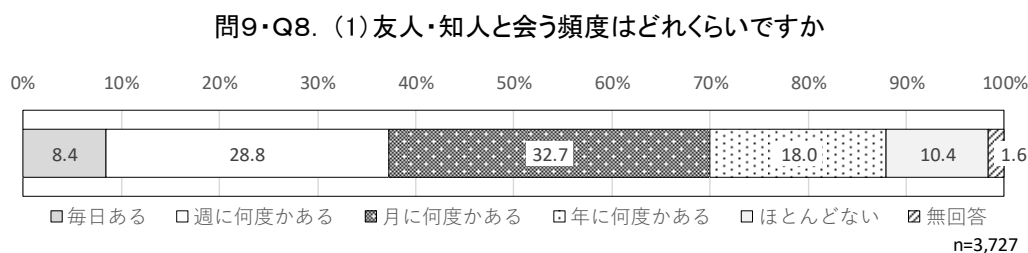
④知人・友人

「知人・友人に会う頻度」については、「月に何度かある」が32.7%で最も多く、次いで「週に何度かある」(28.8%)、「年に何度かある」(18.0%)などの順になっています。「ほとんどない」との回答も10.4%になっています。

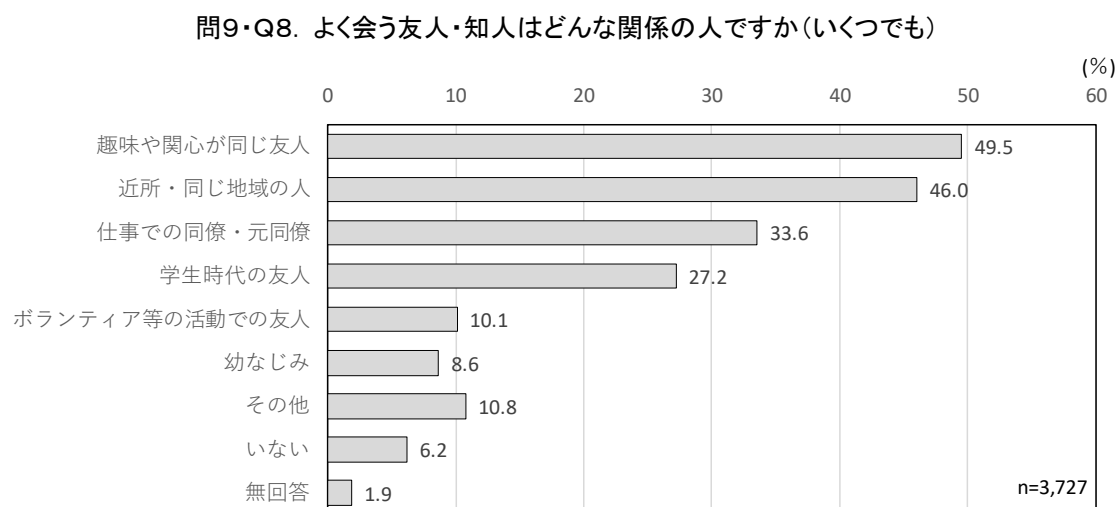
1か月に会った友人・知人の数としては、「10人以上」が31.6%で最も多く、次いで「3～5人」(24.8%)、「1～2人」(16.9%)、「6～9人」(14.0%)と続いています。

「よく会う友人・知人」としては、「趣味や関心が同じ人」が49.5%で最も多く、次いで「近所・同じ地域の人」(46.0%)、「仕事での同僚・元同僚」(33.6%)と続いています。

図表 知人・友人と会う頻度・人数



図表 知人・友人の関係



4 社会参加

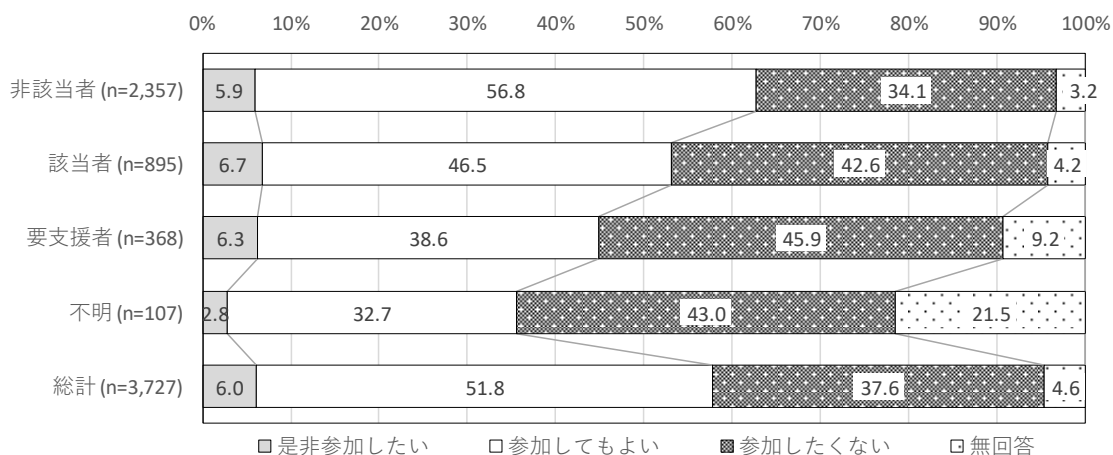
⑤地域づくり

「地域づくりを進めるために、あなたはその活動に参加者として参加したいか」については、全体では「参加してもよい」が51.8%と最も多く、次いで「参加したくない」(37.6%)、「是非参加したい」(6.0%)となっています。要支援者では、半数近くが「参加したくない」と回答しています。

「地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加したいか」については、全体では「参加したくない」が57.7%と最も多く、次いで「参加してもよい」(34.9%)、「是非参加したい」(2.4%)となっています。要支援者では、「参加したくない」との回答が約6割になっています。

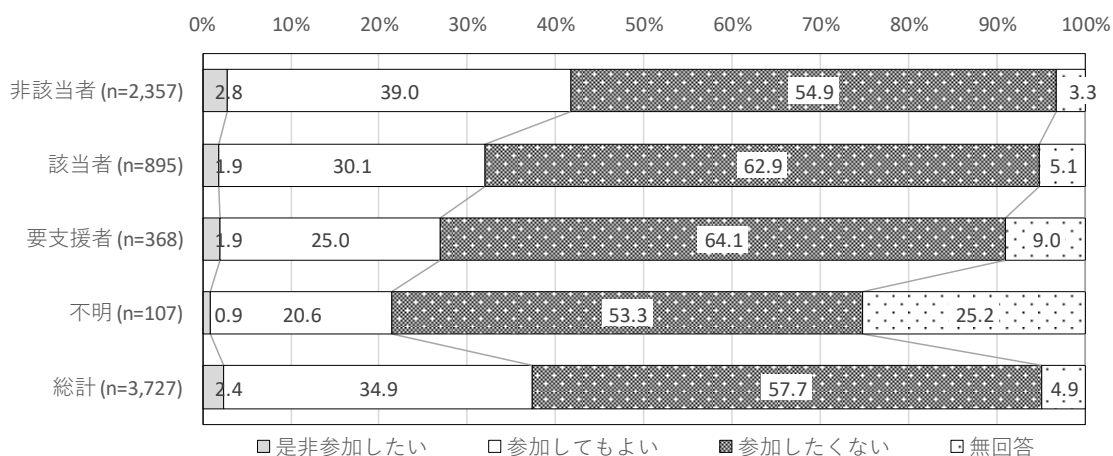
図表 活動に参加者として参加

問9・Q4. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか



図表 活動に企画・運営（お世話役）として参加

問9・Q5. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか



(3) 生活機能総合評価

ア 設問と評価

老研指標では、全13問の合計得点で生活機能の総合評価ができます。

評価は13点満点で行いますが、ここでは11点以上を「高い」、9、10点を「やや低い」、8点以下を「低い」として評価しています。(設問の実行している状況の評価)

図表 (老研式) 老研式活動能力指標総合評価に関する設問

問番号	設 問	配点と選択肢
問2・Q1	バスや電車で使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問2・Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問2・Q4	自分で食事の用意をしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問2・Q5	自分で請求書の支払いをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問2・Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1:「できるし、している」または「できるけどしていない」
問2・Q7	年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1:「はい」
問2・Q8	新聞を読んでいますか	1:「はい」
問2・Q9	本や雑誌を読んでいますか	1:「はい」
問2・Q10	健康についての記事や番組に関心がありますか	1:「はい」
問2・Q11	友人の家を訪ねていますか	1:「はい」
問2・Q12	家族や友人の相談にのっていますか	1:「はい」
問2・Q13	病人を見舞うことができますか	1:「はい」
問2・Q14	若い人に自分から話しかけることがありますか	1:「はい」

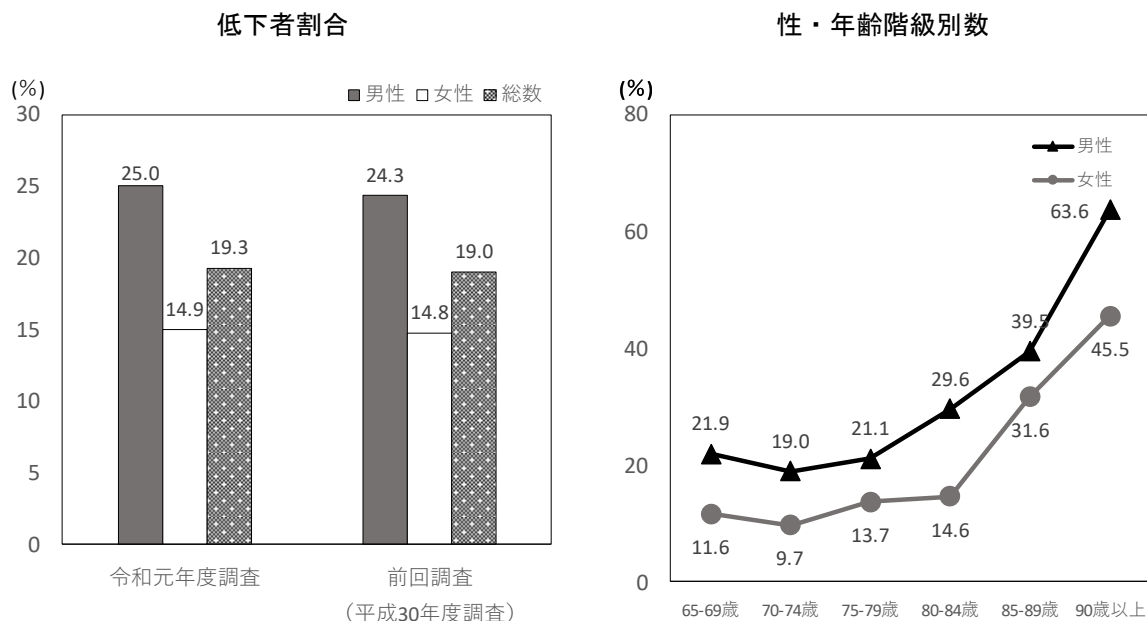
4 社会参加

イ 評価結果

10点以下を低下者とした結果をみると、全体で19.2%（男性25.0%、女性14.9%）が低下者となっており、女性より男性で低下者割合が高くなっています。前回調査と比較すると、全体で0.3ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢が上がるほど低下者割合が高くなっています。

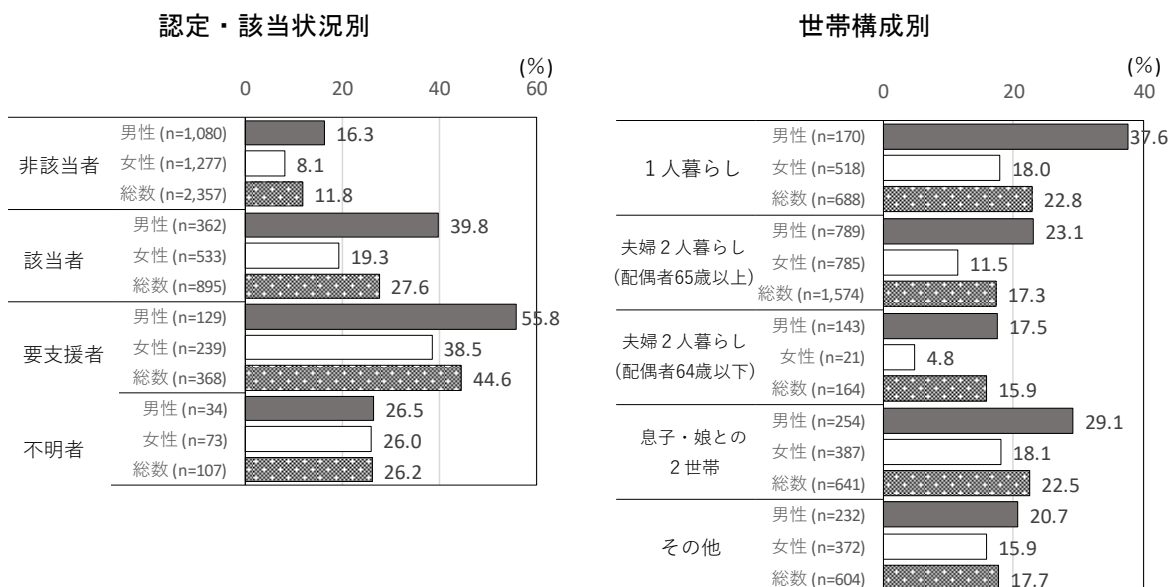
図表 低下者割合－老研指標総合評価



これを認定・該当状況別にみると、非該当者11.8%、該当者27.6%、要支援者44.6%、不明者26.2%が低下者となっています。

また世帯構成別では、1人暮らし世帯の男性で低下者割合が37.6%と高くなっています。

図表 低下者割合－認定・該当状況別、世帯構成別



(4) 生きがい

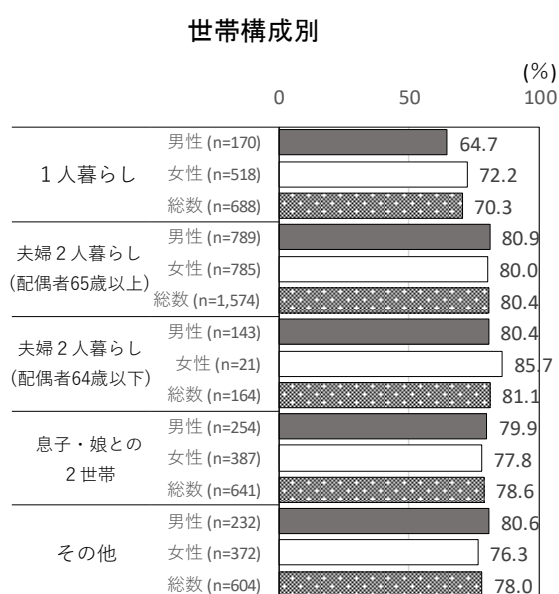
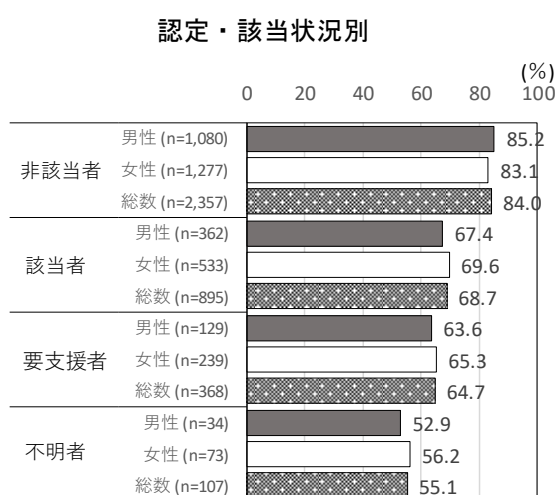
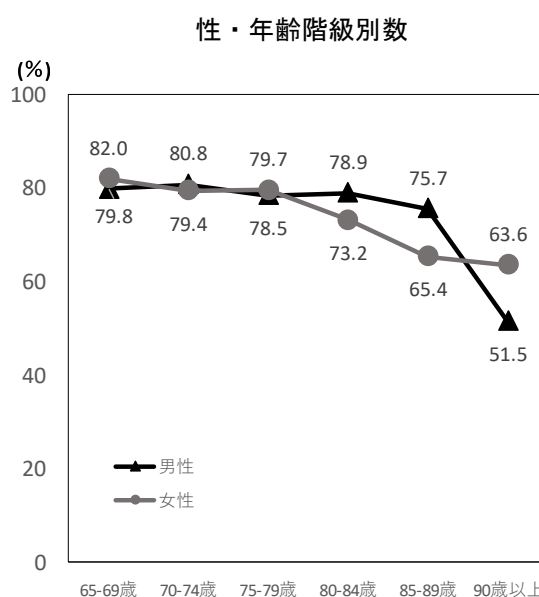
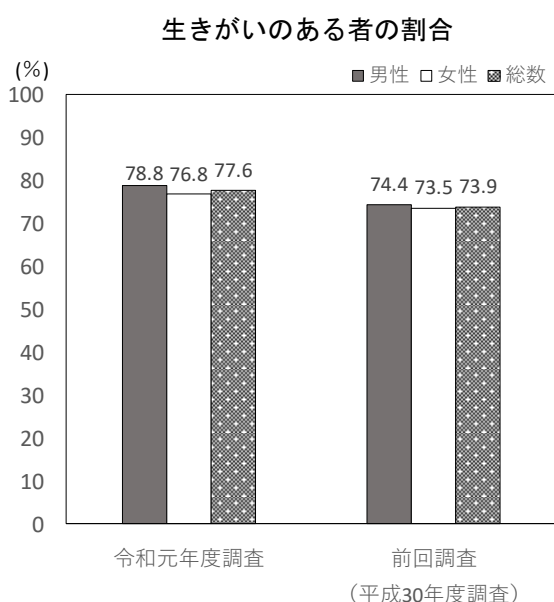
日常生活圏域ニーズ調査では、いきがいの有無についての設問が設けられています。「生きがいはありますか」(問9・Q2)との設問に「はい」と回答したのは、全体で77.6%(男性78.8%、女性76.8%)となっています。また、前回調査と比較すると、全体で3.7ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、90歳以上では5割以上でいきがいがあると回答しています。

認定・該当状況別では、要支援者では64.7%が「はい」と回答しており、非該当者より約20ポイント低くなっています。

世帯構成別にみると、1人暮らし世帯で70.3%と、他の世帯構成より低くなっています。

図表 生きがいがある者の割合



4 社会参加

(5) 趣味

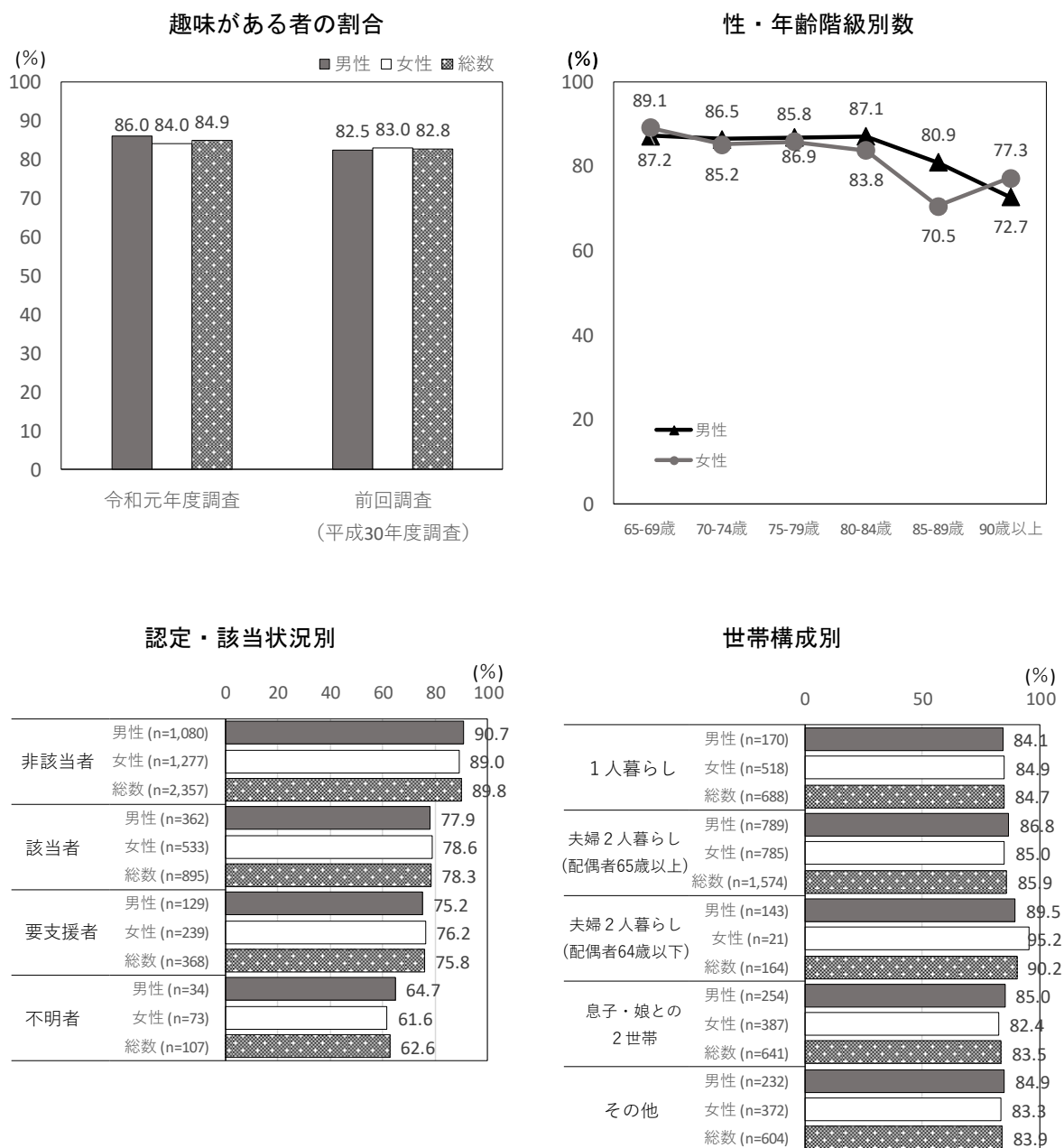
日常生活圏域ニーズ調査では、趣味の有無についての設問が設けられています。「趣味はありますか」(問9・Q1)との設問に「はい」と回答したのは、全体で84.9%(男性86.0%、女性84.0%)となっています。また、前回調査と比較すると、全体で2.1ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、90歳以上でも7割以上で趣味があると回答しています。

認定・該当状況別では、要支援者では75.8%が「はい」と回答しており、非該当者より10ポイント以上低くなっています。

世帯構成別にみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)の女性が95.2%と、比較的高くなっています。

図表 趣味ある者の割合



5 疾病

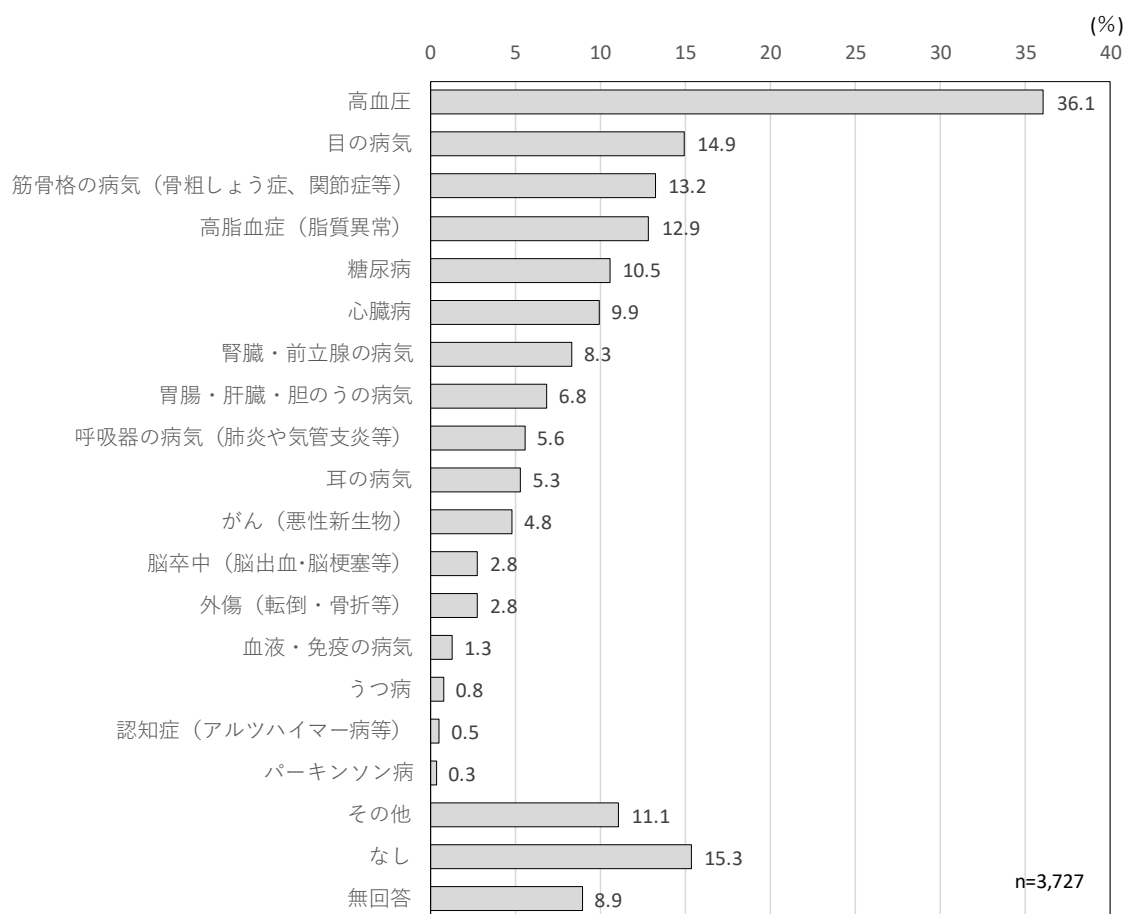
(1) 病気全体

現在治療中、又は後遺症のある病気はあるかについて聞いてみると、「高血圧」が36.1%で最も多く、次いで「目の病気」(14.9%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(13.2%)、「高脂血症(脂質異常)」(12.9%)、「糖尿病」(10.5%)、「心臓病」(9.9%)等が続いています。「なし」の回答も15.3%を占めています。

目の病気を除くと生活習慣病が多くなっています。

図表 病気全体

問10・Q4現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか(いくつでも)



5 疾病

(2) 高血圧

疾病に関する回答結果をみてみます（問10・Q4）。

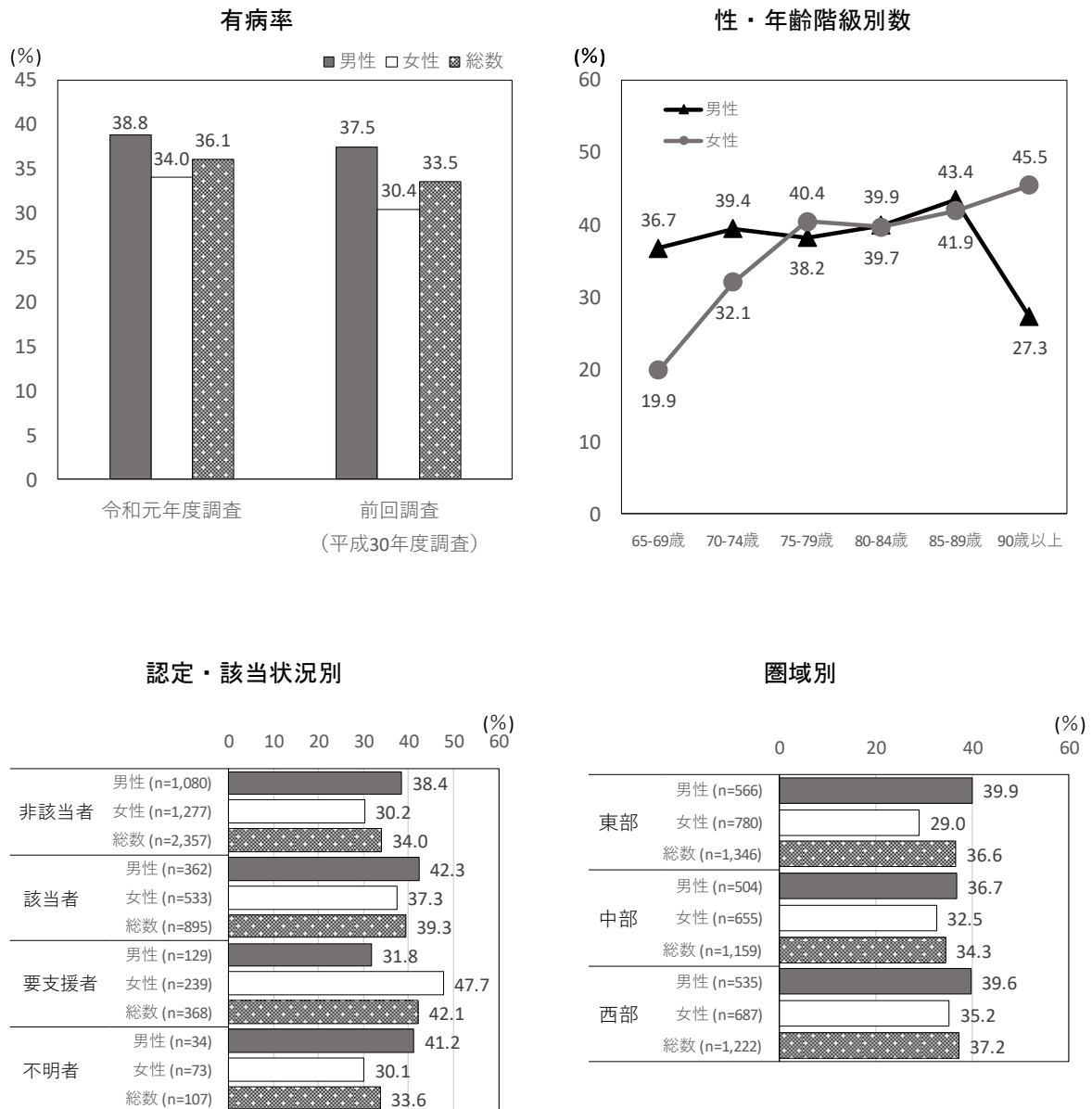
「現在治療中、または後遺症のある病気」があるとする割合（有病率）は、最も高いのが「高血圧」で、全体で36.1%（男性38.8%、女性34.0%）となっており、女性より男性のほうが高くなっています。前回調査と比較すると、全体で2.6ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、男性では85～89歳、女性では90歳以上で有病率が最も高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者で最も有病率が高くなっています。

圏域別では、東部圏域の男性が39.9%と高くなっています。一方、東部の女性は29.0%と低くなっています。また、西部圏域では男女ともに35%を超えています。

図表 有病率—高血圧



(3) 脳卒中

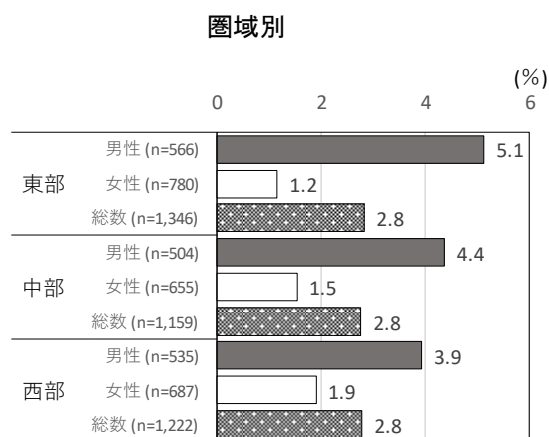
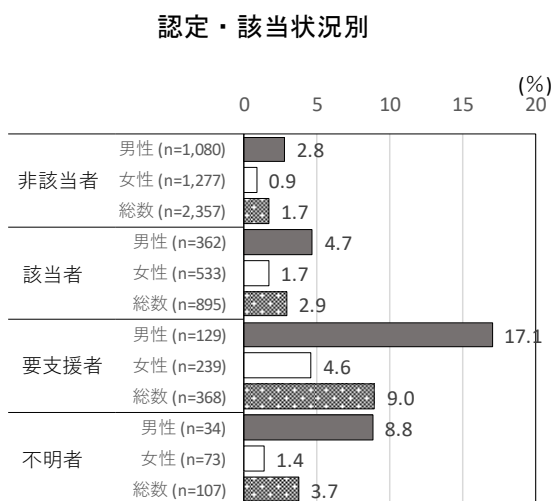
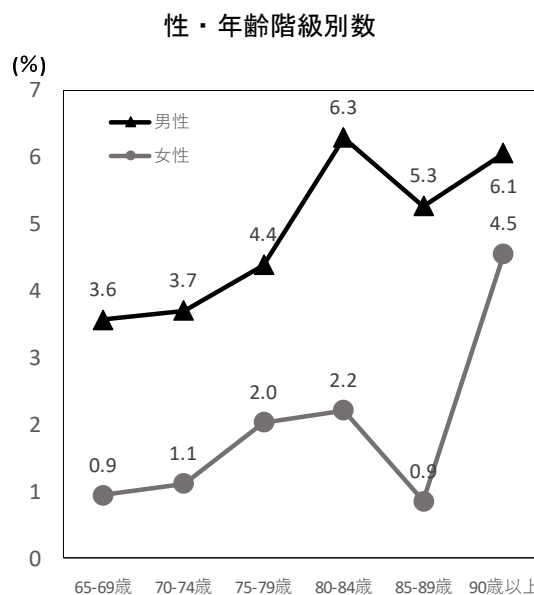
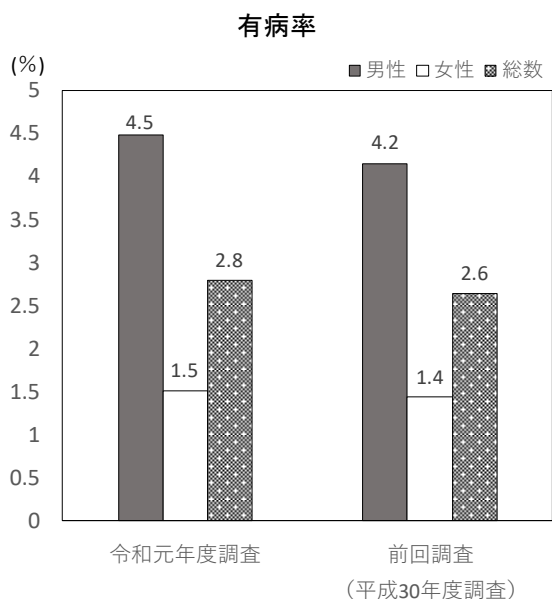
要介護の主原因となる「脳卒中」の有病率は、全体で2.8%（男性4.5%、女性1.5%）で、女性より男性で有病率が高くなっています。前回調査と比較すると、全体で0.2ポイント高くなっています。

性・年齢階級別にみると、80～84歳の男性の有病率が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が17.1%と顕著に高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で男性の有病率が女性よりも高くなっています。特に東部圏域の男性で有病率が5.1%となっています。

図表 有病率－脳卒中



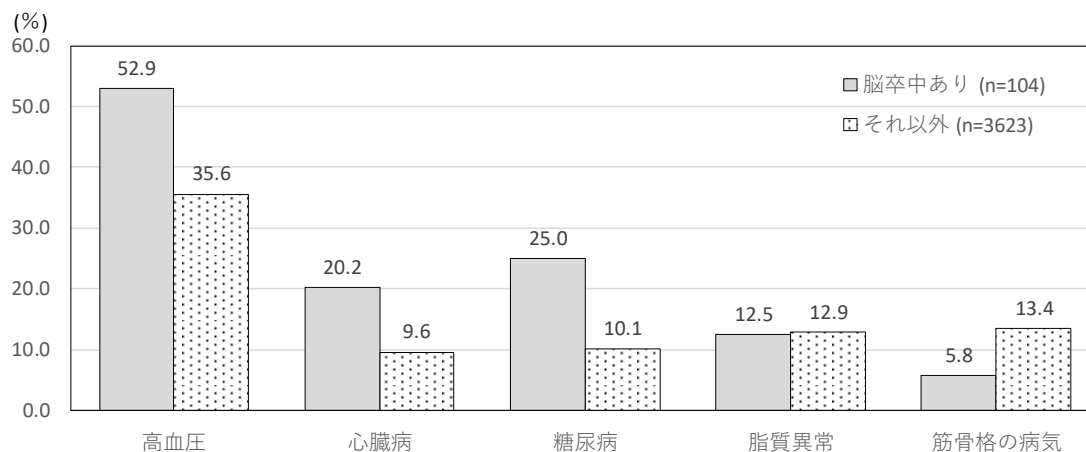
5 疾病

脳卒中については、リスク要因が概ね明らかとなっています。具体的には、加齢、性別、喫煙、肥満、高血圧、糖尿病などです。

今回の調査結果でも、「現在治療中、または後遺症のある病気」として「脳卒中」と回答した方とそれ以外の方の他の病気の有病率をみると以下の図表のとおりとなっており、高血圧、心臓病、糖尿病については、脳卒中有病者でそれぞれの有病率が顕著に高くなっています。

こうした疾病と脳卒中の関連が今回の調査結果からもうかがえます。

図表 脳卒中有病者の他の疾病（有病率）



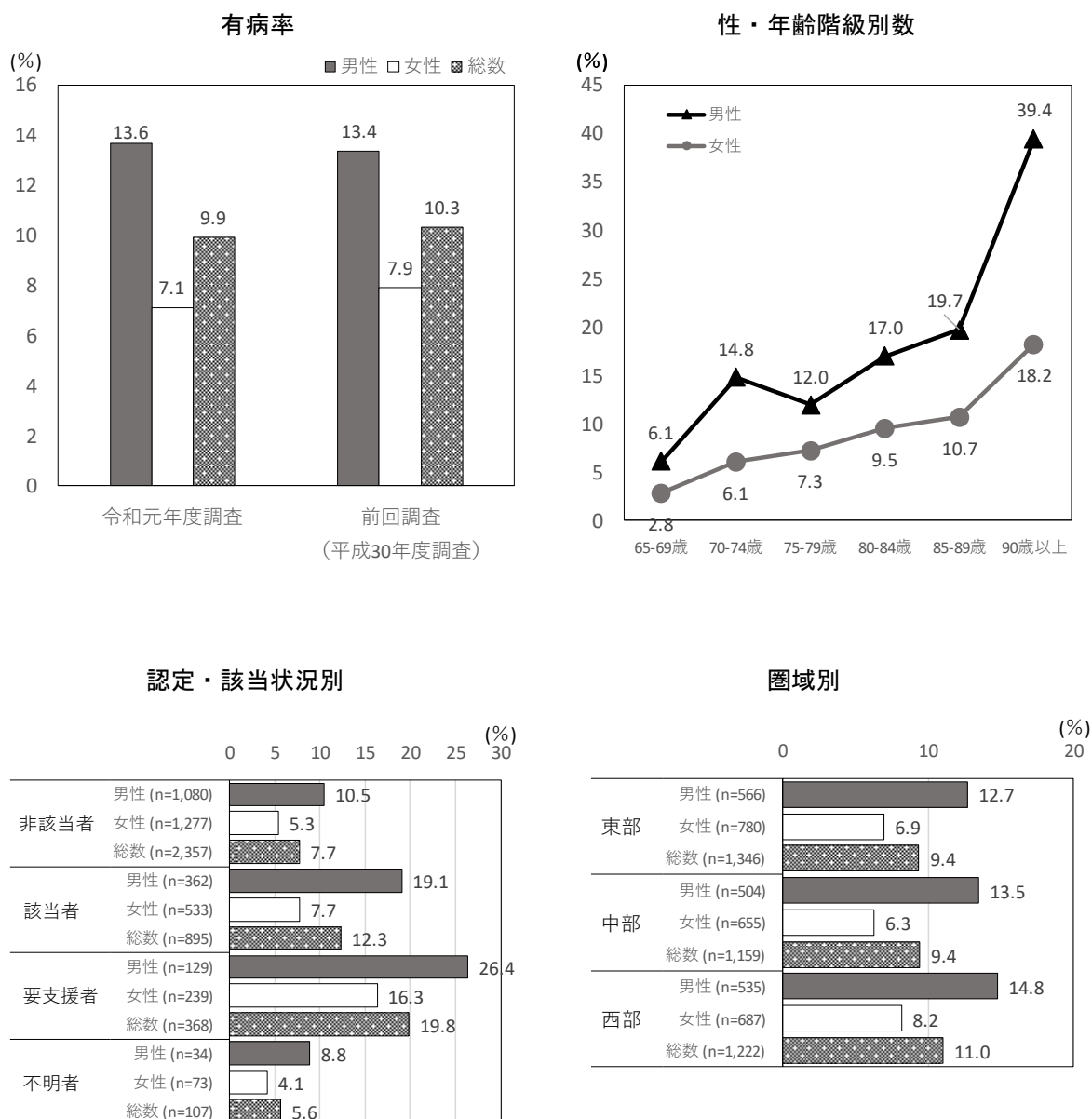
(4) 心臓病

主な生活習慣病で要介護の原因ともなる「心臓病」の有病率は、全体で9.9%（男性13.6%、女性7.1%）となっています。女性より男性で、また年齢が高いほど有病率が高くなる傾向がみられます。前回調査と比較すると、全体で0.4ポイント低くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の男性で有病率が26.4%と比較的高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で男性の有病率が女性よりも高くなっています。特に西部圏域の男性で有病率が14.8%となっています。

図表 有病率—心臓病



5 疾病

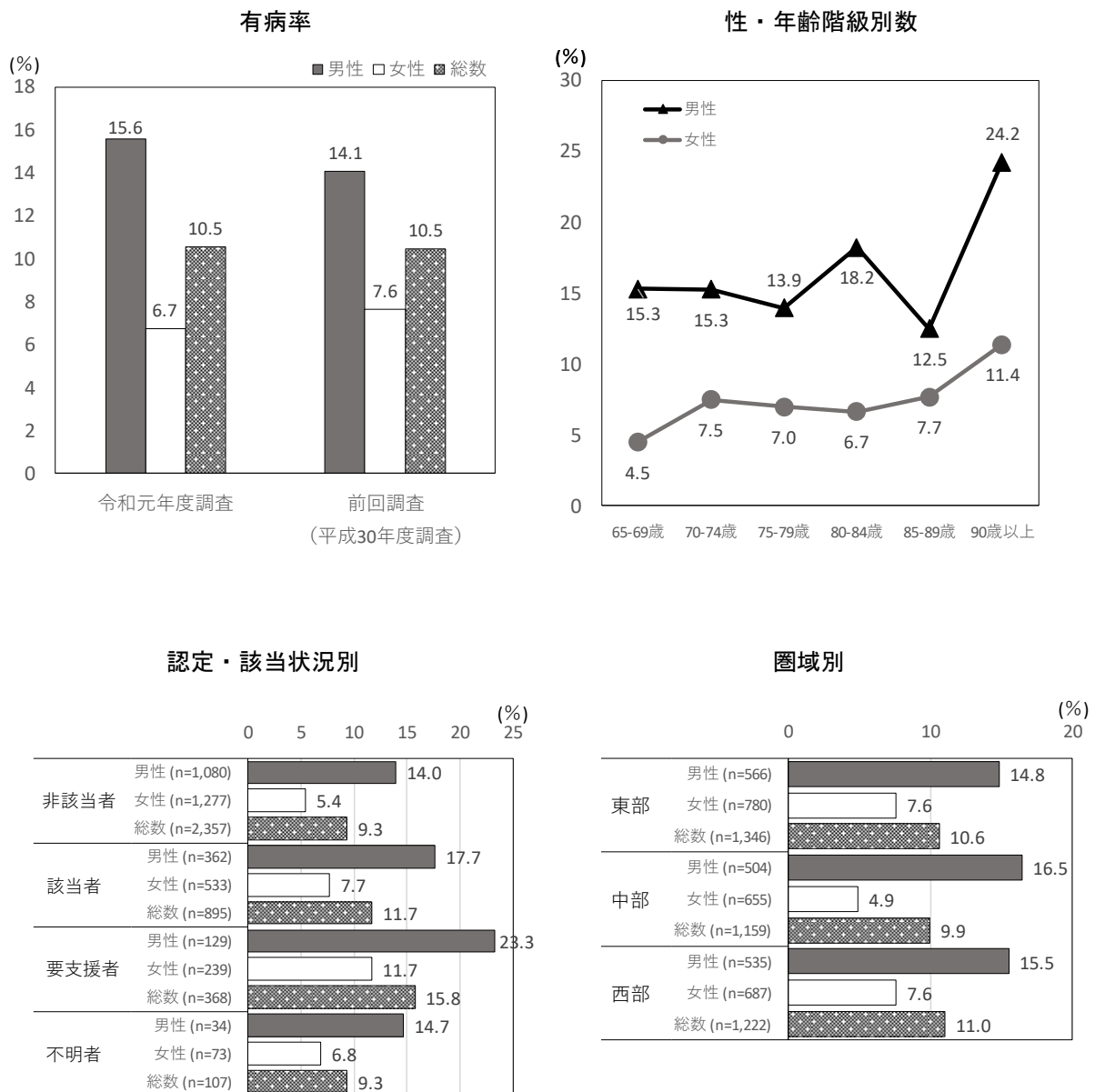
(5) 糖尿病

同様に要介護の原因となる「糖尿病」の有病率は、全体で 10.5% (男性 15.6%、女性 6.7%) で、女性より男性で有病率が高くなっています。前回調査と比較すると、全体では同数ですが、男性では 1.5 ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、非該当者 9.3%、該当者 11.7%、要支援者 15.8%と、該当者で有病率が高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で男性の有病率が女性よりも高くなっています。特に中部圏域の男性で有病率が 16.5%となっています。一方、全ての圏域での女性の有病率は 8%未満となっていますが、特に中部圏域の女性が 4.9%と顕著に低くなっています。

図表 有病率—糖尿病



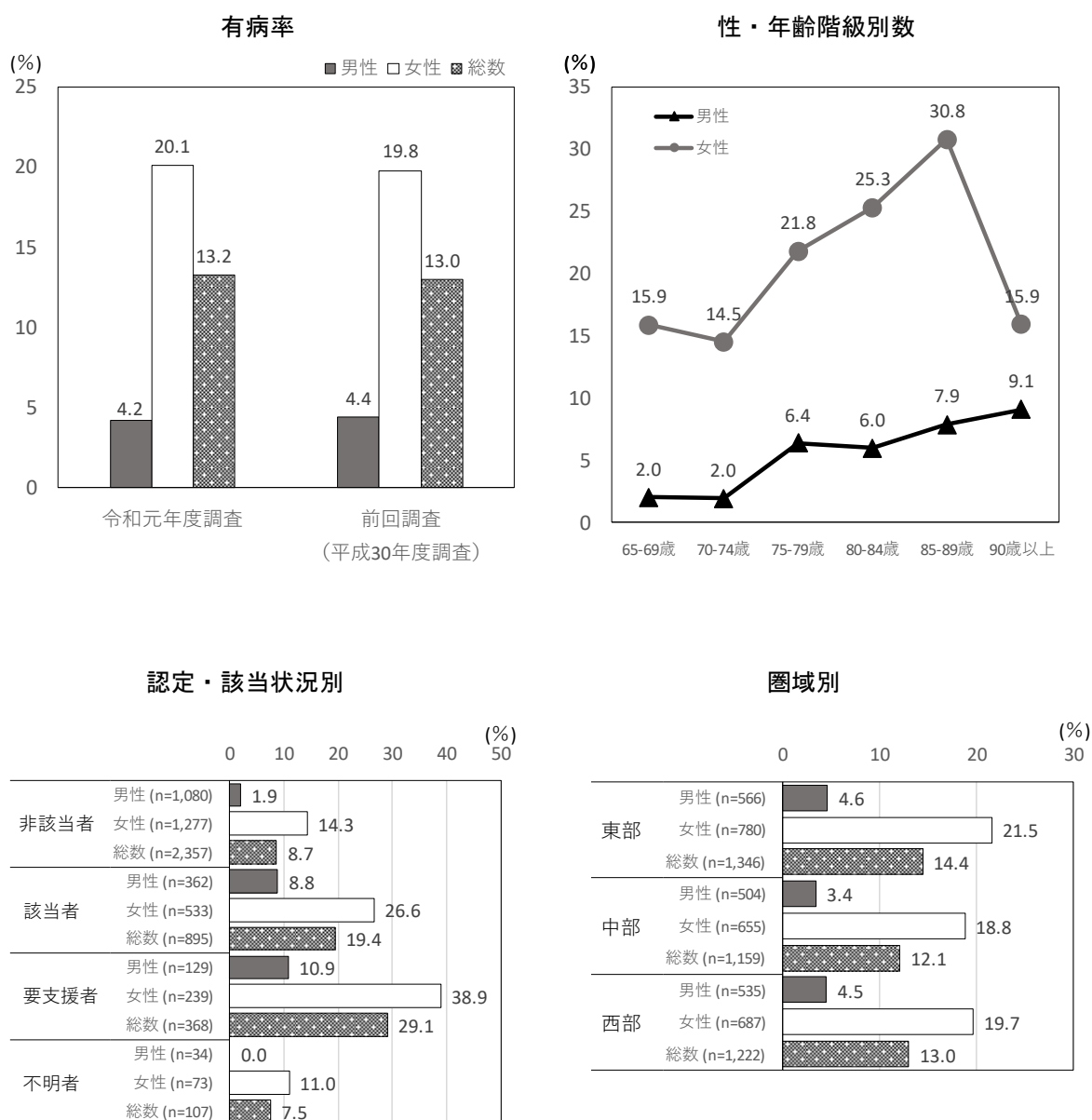
(6) 筋骨格の病気

要介護の原因となりうる「筋骨格の病気」の有病率は、全体で 13.2%（男性 4.2%、女性 20.1%）となっており、男性より女性のほうが顕著に高くなっています。また、年齢が高いほど有病率が高くなる傾向がみられます。前回調査と比較すると、全体で 0.2 ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が 38.9%と高くなっています。

圏域別では、全ての圏域で女性の有病率が男性よりも高くなっています。特に東部圏域の女性で有病率が 21.5%となっています。一方、全ての圏域での男性の有病率は 5%未満となっており、特に中部圏域の男性が 3.4%と低くなっています。

図表 有病率－筋骨格の病気



5 疾病

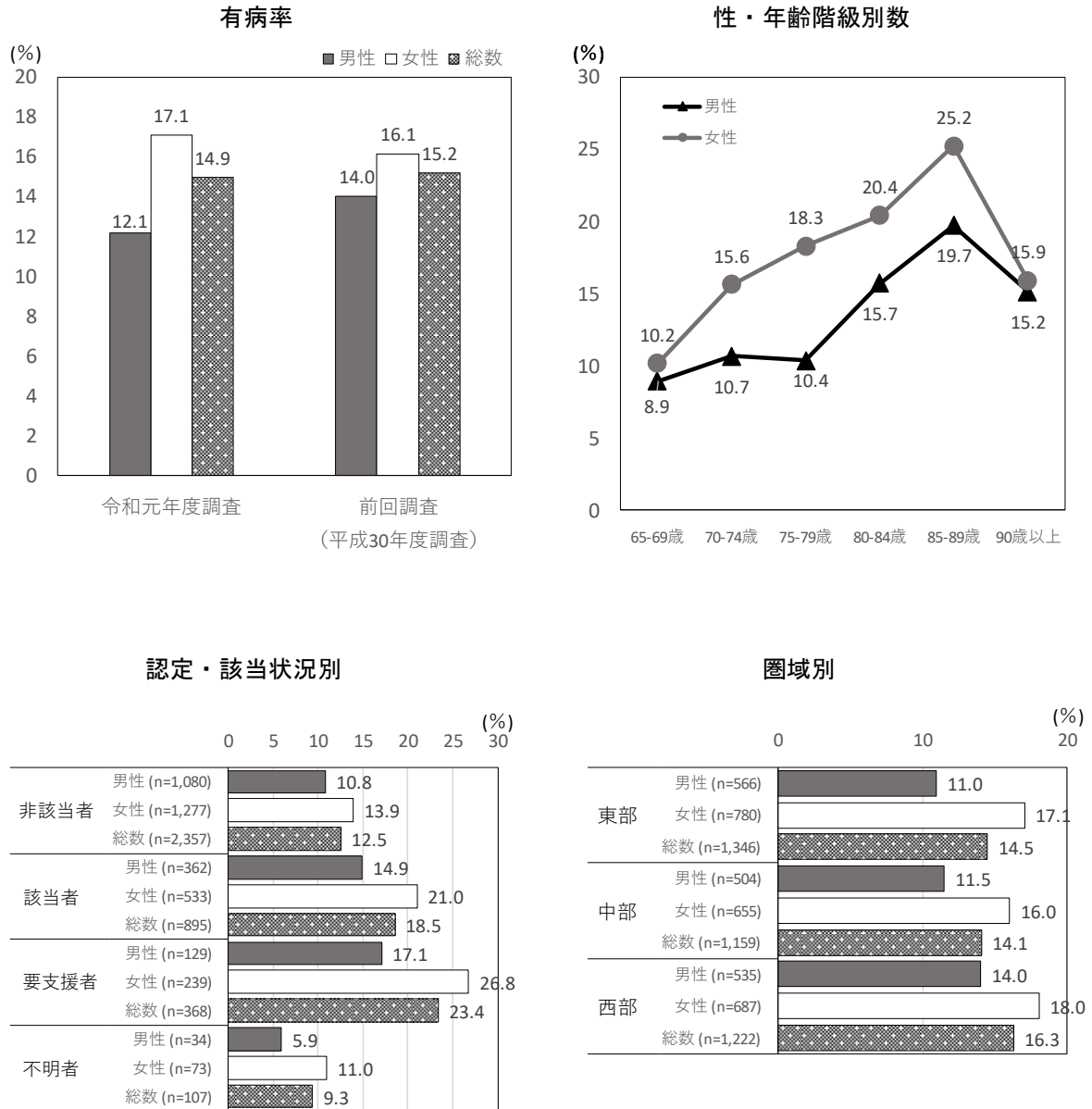
(7) 目の病気

高齢者に多い「目の病気」の有病率は、全体で14.9%（男性12.1%、女性17.1%）となっています。また、80歳後半までは年齢が高いほど有病率が高くなる傾向がみられます。前回調査と比較すると、全体で0.3ポイント高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者の女性で有病率が26.8%と高くなっています。

圏域別では、西部圏域の女性で有病率が他圏域より低くなっています。

図表 有病率—目の病気



(8) 通院

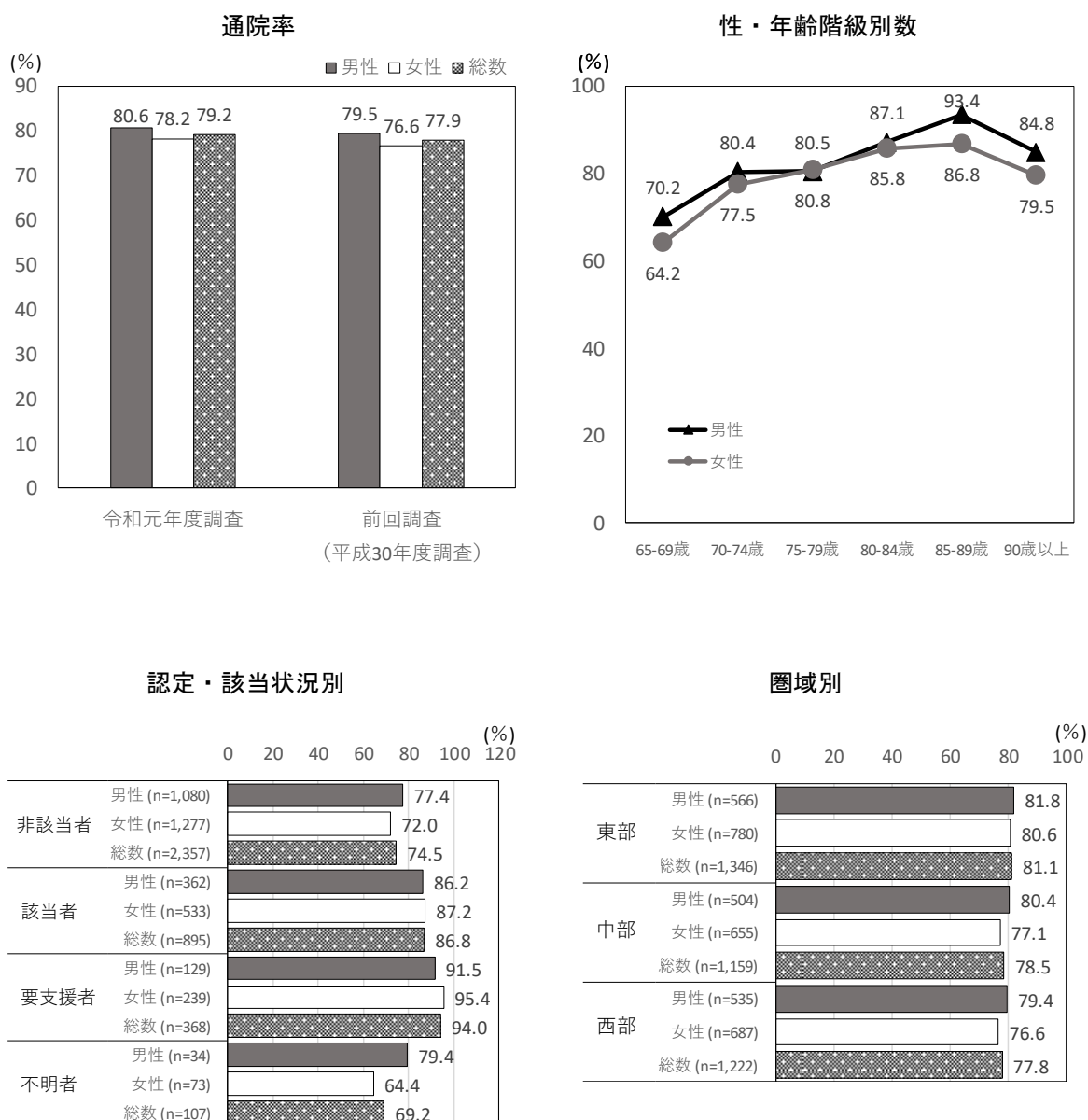
病院・医院（診療所、クリニック）への通院についてみます。

通院者の割合（通院率）についてみると、全体で79.2%（男性80.6%、女性78.2%）となっており、女性より男性でやや高くなっています。前回調査と比較すると、全体で1.3ポイント高くなっています。

認定・該当状況別では、要支援者で通院率が94.0%と非該当者より約20ポイント以上高くなっています。

圏域別では、東部圏域で通院率が他圏域より若干高くなっています。

図表 通院状況



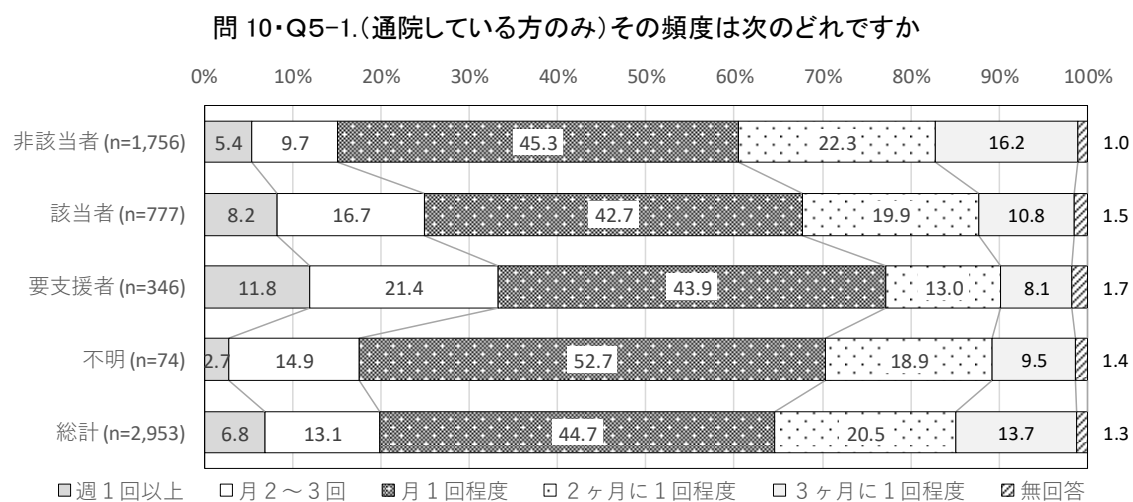
5 疾病

通院している方とその頻度について質問したところ、「月1回程度」が44.7%を占めており、以下「2か月に1回程度」(20.5%)、「3か月に1回程度」(13.7%)などが続いています。

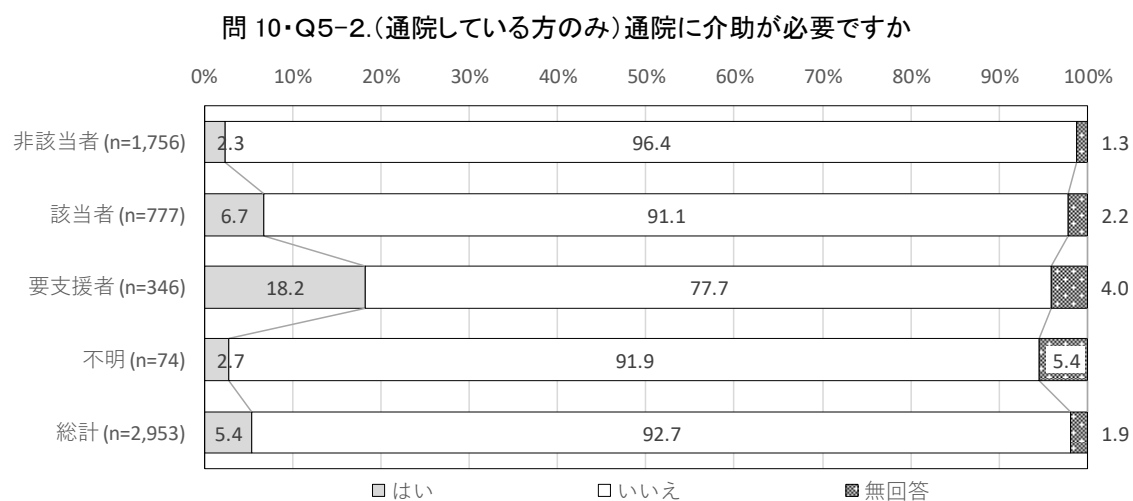
認定・該当状況別にみると、要支援者で通院頻度の高い方が多くなっています。

また、通院に介助が必要であるかを質問したところ、「はい」(必要)であるとの回答は全体で5.4%となっています。認定・該当状況別では、非該当者の2.3%に対し、該当者では0.7%、要支援者では18.2%が「はい」(必要)と回答しています。

図表 通院している頻度



図表 通院への介助の必要性

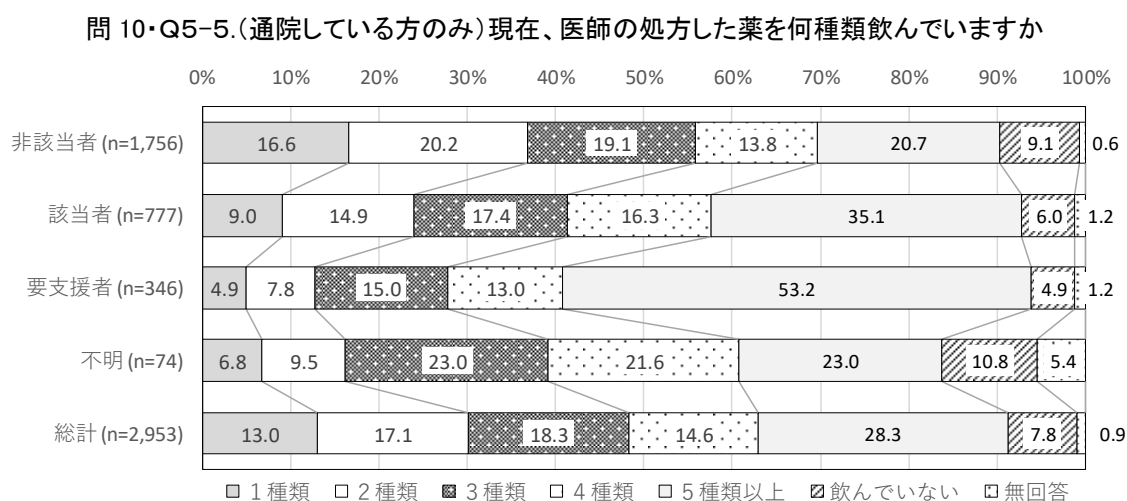


次に、通院している方に医師の処方した薬を何種類飲んでしているかについて質問したところ、「5種類以上」が28.3%で最も多く、次いで「3種類」(18.3%)、「2種類」(17.1%)、「4種類」(14.6%)となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者で5種類以上飲んでいる方が53.2%を占めています。

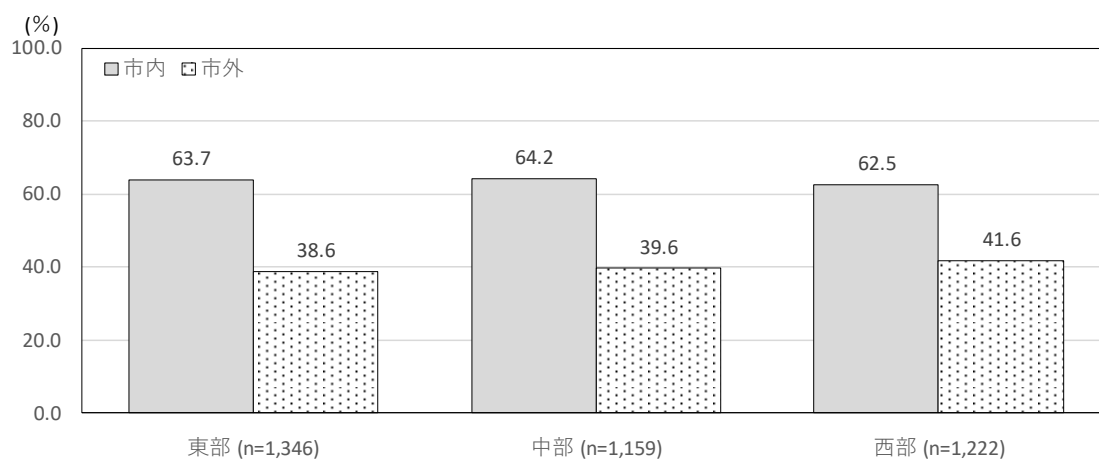
また、通院している病院や診療所は市内か市外かについて質問したところ、「市外」との回答は、西部圏域が41.6%で最も多く、次いで、中部圏域(39.6%)、東部圏域(38.6%)となっています。

図表 薬を飲む種類



図表 病院・診療所の場所

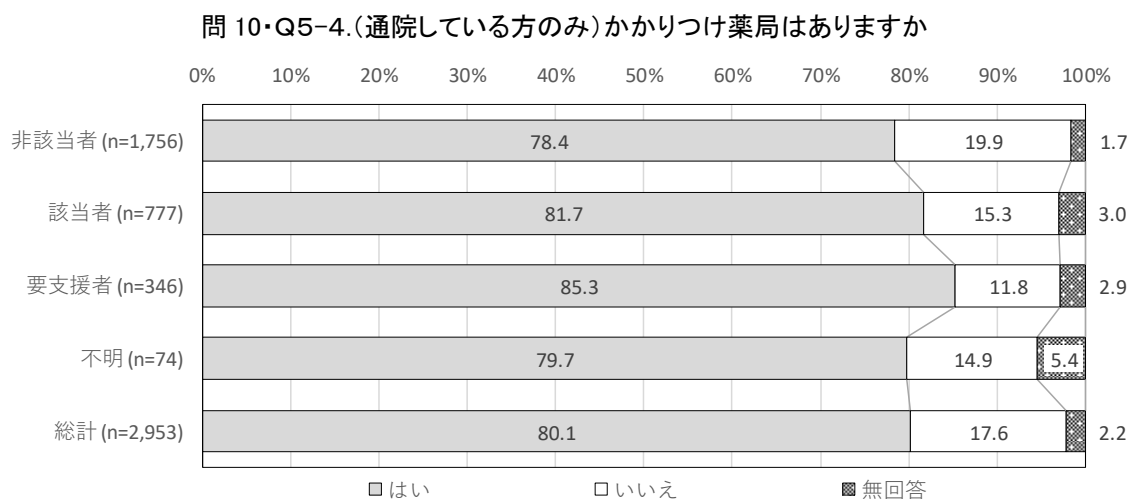
問 10・Q5-3.(通院している方のみ)主に通院している病院や診療所は、市内、市外のどちらですか (複数回答)



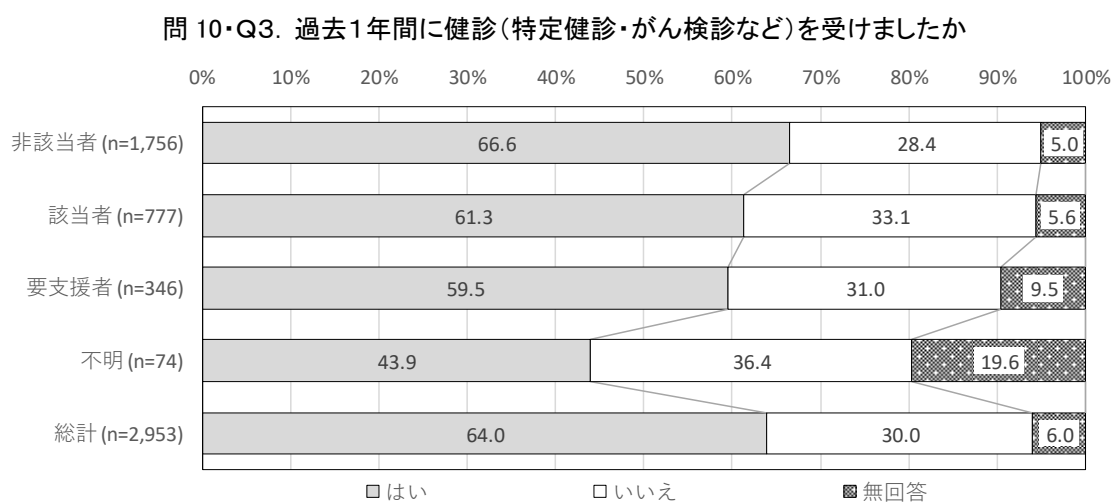
5 疾病

次に、通院している方にかかりつけ薬局はあるかについて質問したところ、全体で80.1%が「はい」（ある）と回答しています。また、検診についてこの1年の間に健診を受けたのは全体で64.0%となっています。

図表 かかりつけ薬局



図表 健診について

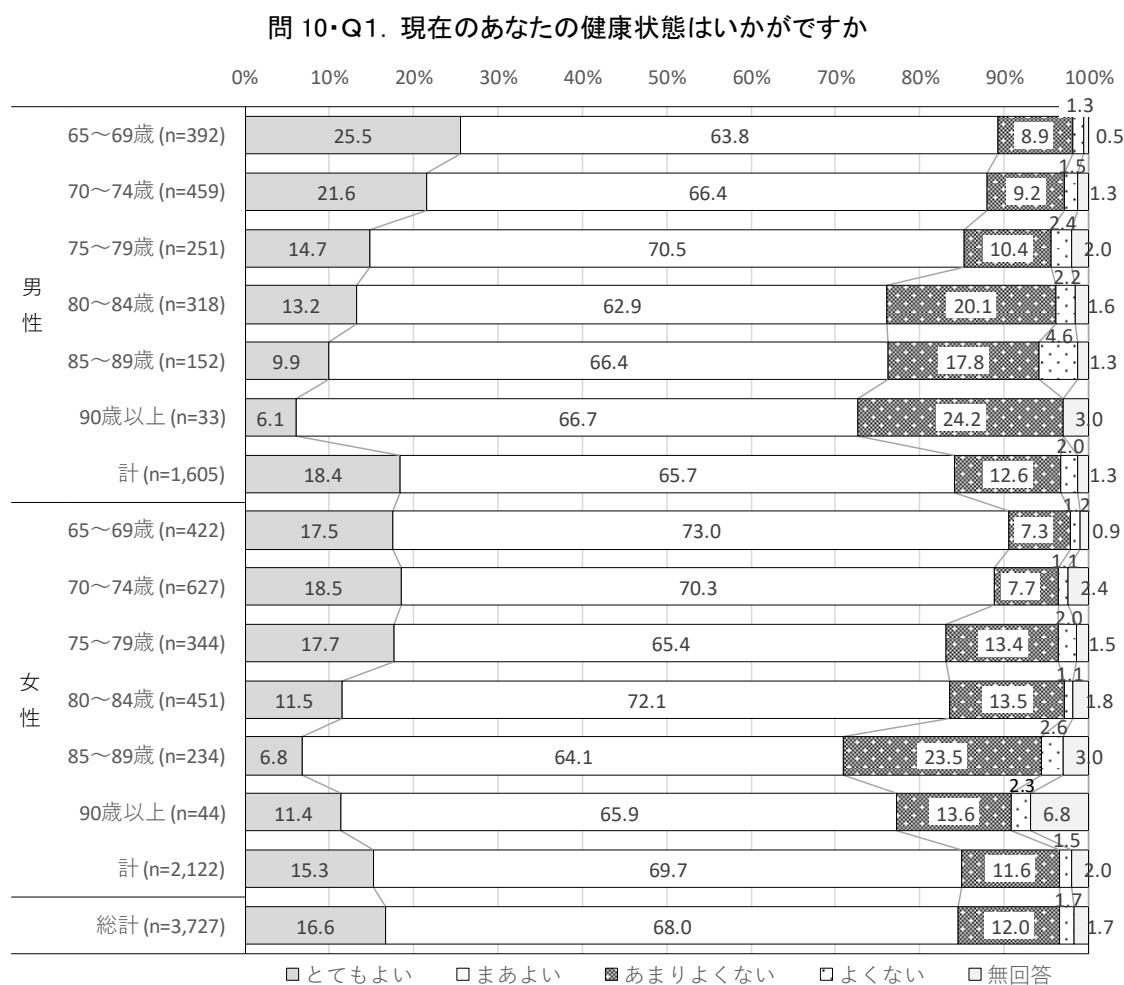


6 健康・生活習慣

(1) 主観的健康感

高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感（問10・Q1）の回答結果をみると、「とても健康」「まあまあ健康」との回答（健康群）は、全体でそれぞれ16.6%、68.0%、「あまり健康でない」「健康でない」（不健康群）はそれぞれ12.0%、1.7%となっています。また、年齢が高くなるほど健康群の割合が低くなる傾向がみられます。

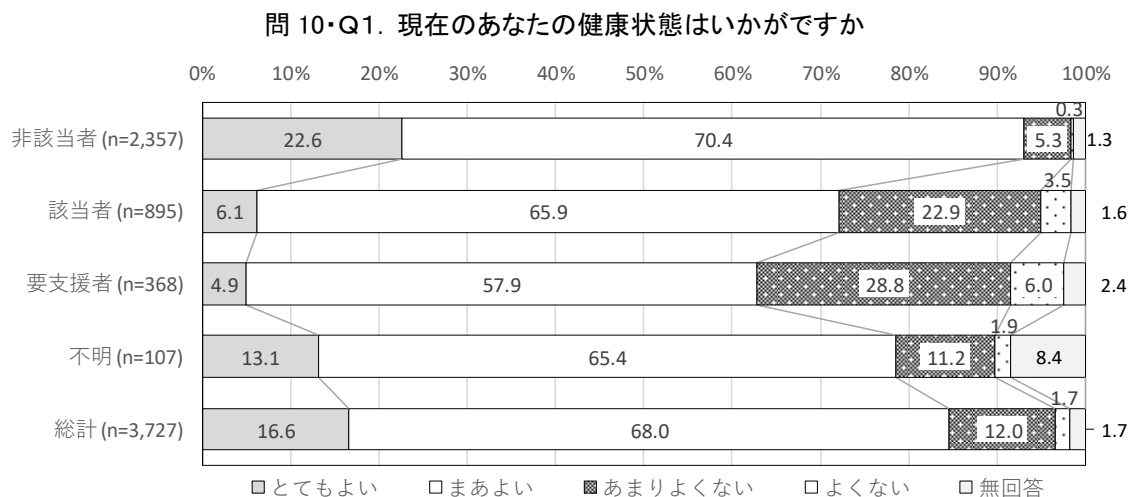
図表 主観的健康感—性・年齢階級別



6 健康・生活習慣

認定・該当状況別では、「(あまり)よくない」との回答は、該当者、要支援者がそれぞれ22.9%、28.8%と比較的高くなっている一方、「とてもよい」の回答は非該当者が22.6%と高くなっています。

図表 主観的健康感



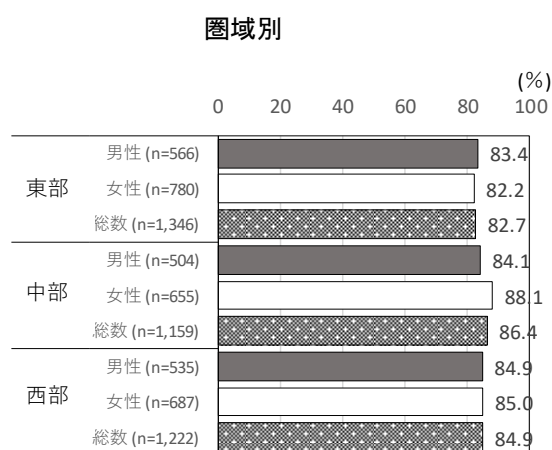
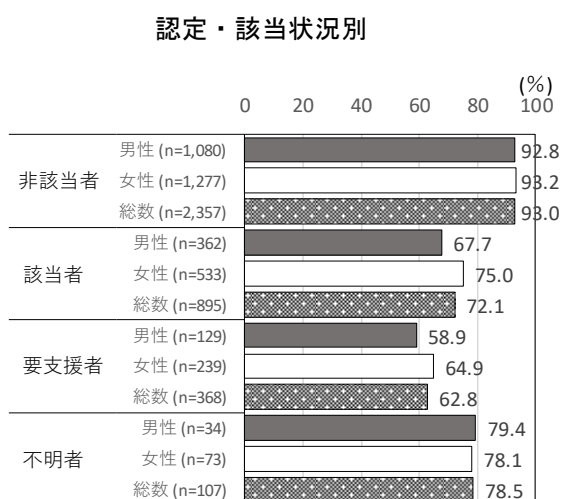
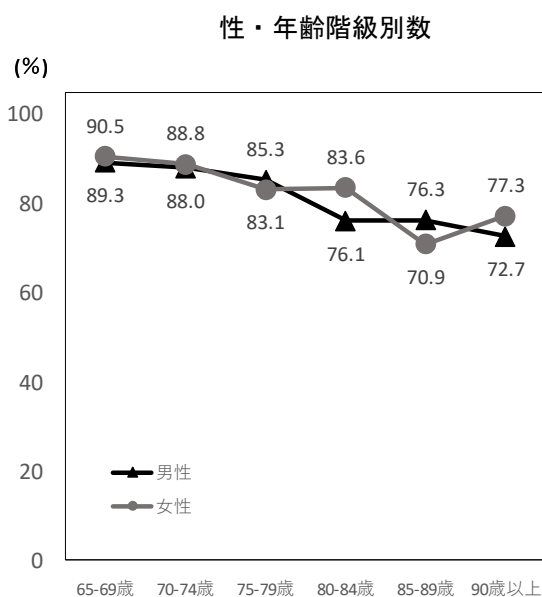
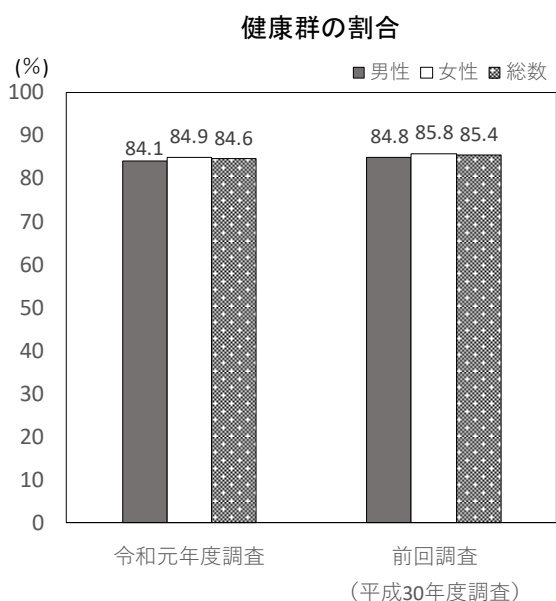
要支援者を除いて「(とても・まあ) よい」とする肯定的な回答をした者(健康群)についてまとめると、全体では3,152人、84.6%(男性84.1%、女性84.9%)が健康群となっています。

性・年齢階級別では、年齢が高いほど健康群の割合が低くなる傾向がみられます。

認定・該当状況別に健康群の割合をみると、男女ともに非該当者が高く、該当者、要支援者で低くなっています。

圏域別では、中部圏域が86.4%とやや高くなっています。

図表 主観的健康感—健康群の割合



6 健康・生活習慣

(2) 肥満度

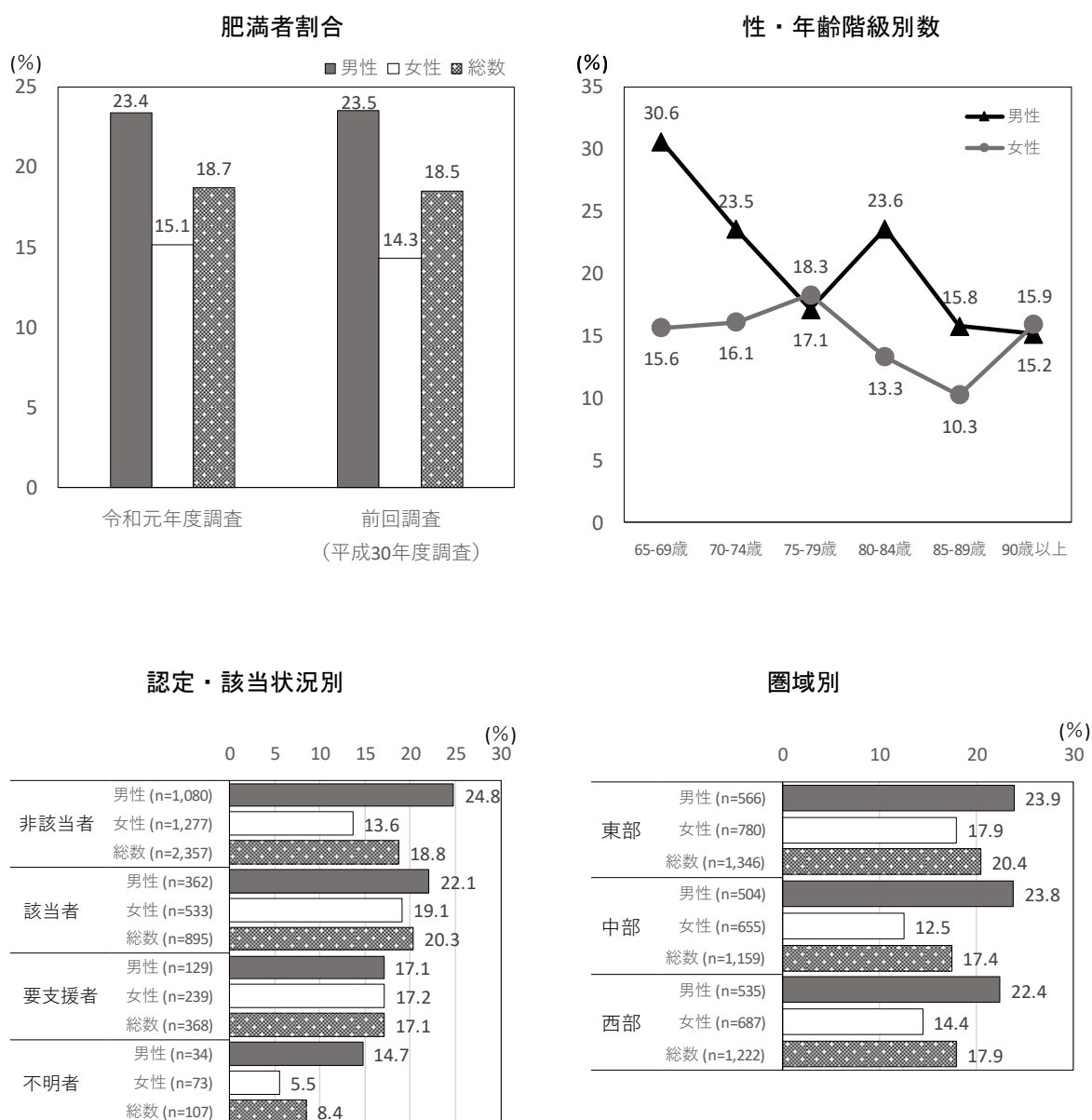
生活習慣に関連する項目の1つとして、肥満度についてみます（問5・Q2）。

肥満者（BMI＝体重kg／身長m／身長m \geq 25）の割合は全体で18.7%（男性23.4%、女性15.1%）となっています。特に男性では65～69歳で肥満者割合が高くなっています。前回調査と比較すると、全体で0.2ポイント高くなっています。

認定・該当状況別では、男性でみると非該当者の肥満者割合が24.8%と高く、該当者、要支援者の順に低くなっていますが、女性では、非該当者の肥満者割合が13.6%と低く、該当者では19.1%、要支援者では17.2%となっています。

圏域別にみると、東部圏域で肥満者割合が20.4%と比較的高くなっています。

図表 肥満者割合



(3) 飲酒

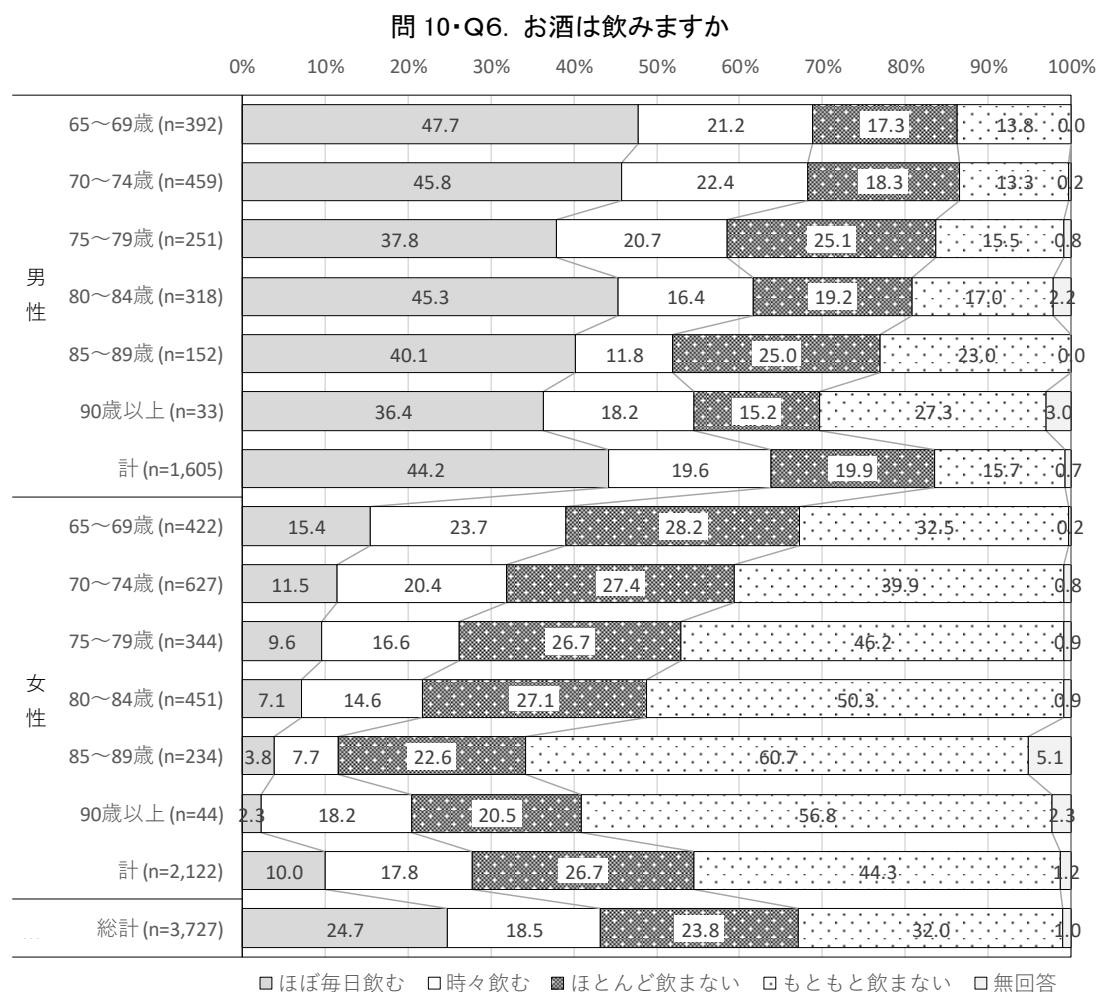
飲酒習慣についてみます（問 10・Q6）。

「ほぼ毎日飲む」との回答は、全体で 24.7%（男性 44.2%、女性 10.0%）となっており、性別による差が非常に大きくなっています。

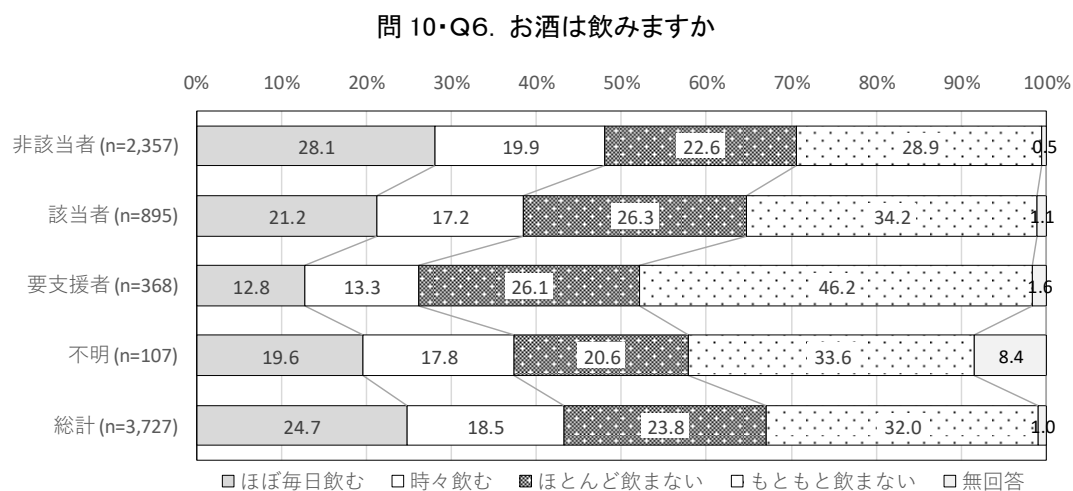
年齢階級別では、年齢が高いほどその割合が低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者でその割合が高くなっています。

図表 飲酒習慣一性・年齢階級別



図表 飲酒習慣一認定・該当状況別



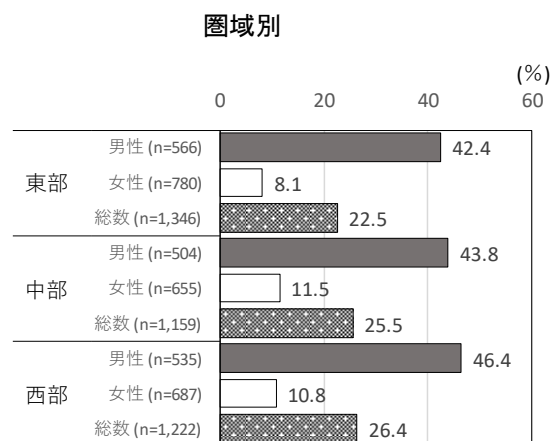
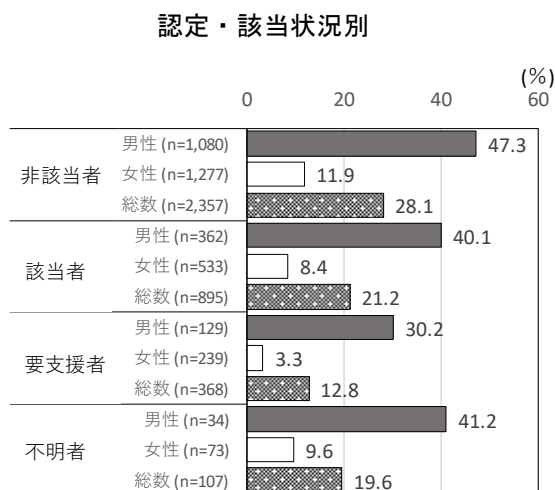
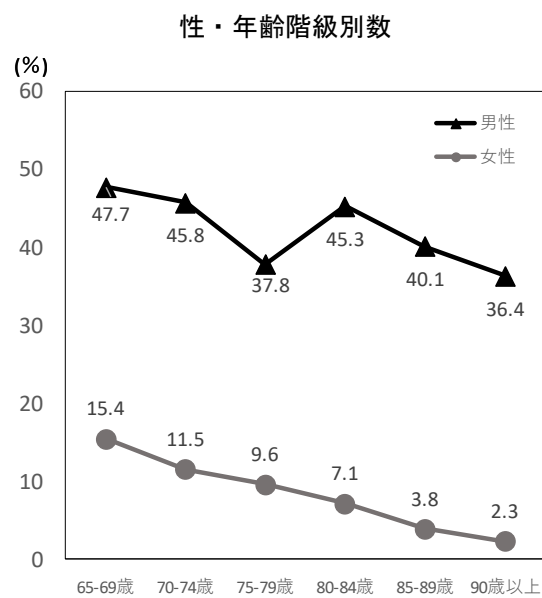
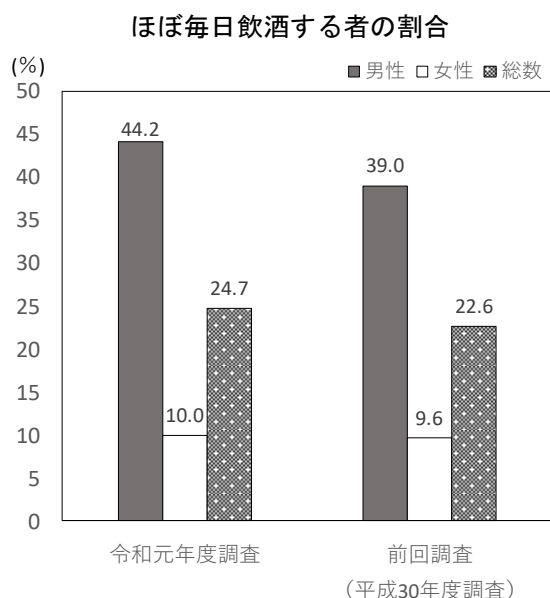
6 健康・生活習慣

前回調査と比較すると、全体で2.1ポイント高くなっています。

ほぼ毎日飲む者を認定・該当状況別でみると、非該当者の男性で「ほぼ毎日飲む」との回答が47.3%と高くなっています。

圏域別にみると、西部圏域の男性で飲酒する割合が46.4%と比較的高くなっています。

図表 飲酒習慣



(4) 喫煙

喫煙習慣についてみます（問 10・Q 7）。

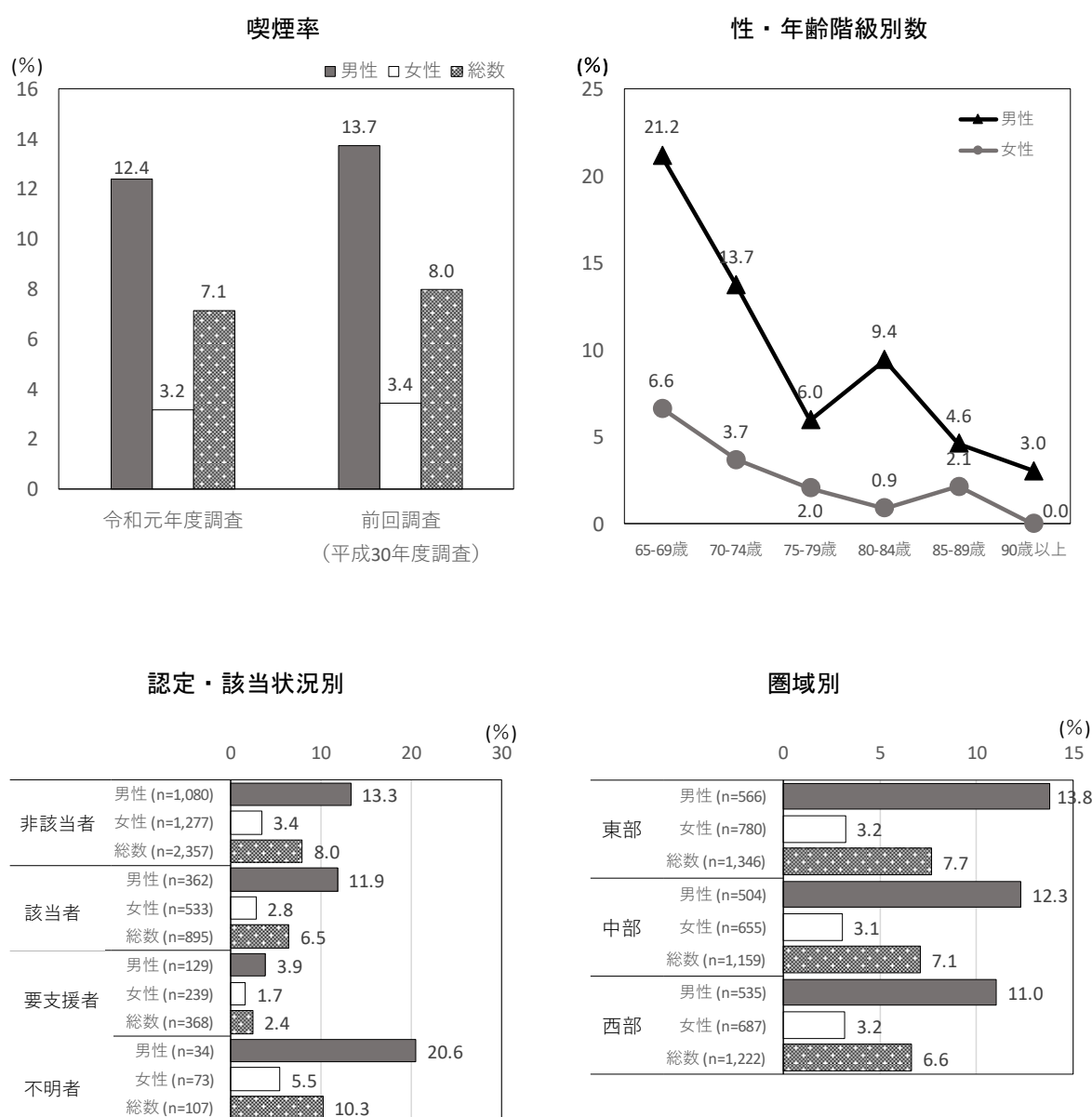
「ほぼ毎日（時々）吸っている」との回答の割合（喫煙率）は、全体で7.1%（男性12.4%、女性3.2%）となっており、飲酒同様、性別による差が非常に大きくなっています。前回調査と比較すると、全体で0.9ポイント低くなっています。

年齢別にみると、年齢が高いほど喫煙率は低くなっています。

認定・該当状況別では、非該当者8.0%、該当者6.5%、要支援者2.4%と、非該当者と該当者で喫煙率が比較的高くなっています。

圏域別では、東部圏域の男性で喫煙率が13.8%と比較的高くなっています。

図表 喫煙習慣



6 健康・生活習慣

(5) 運動習慣

運動習慣についてみます（問 10・Q8）。

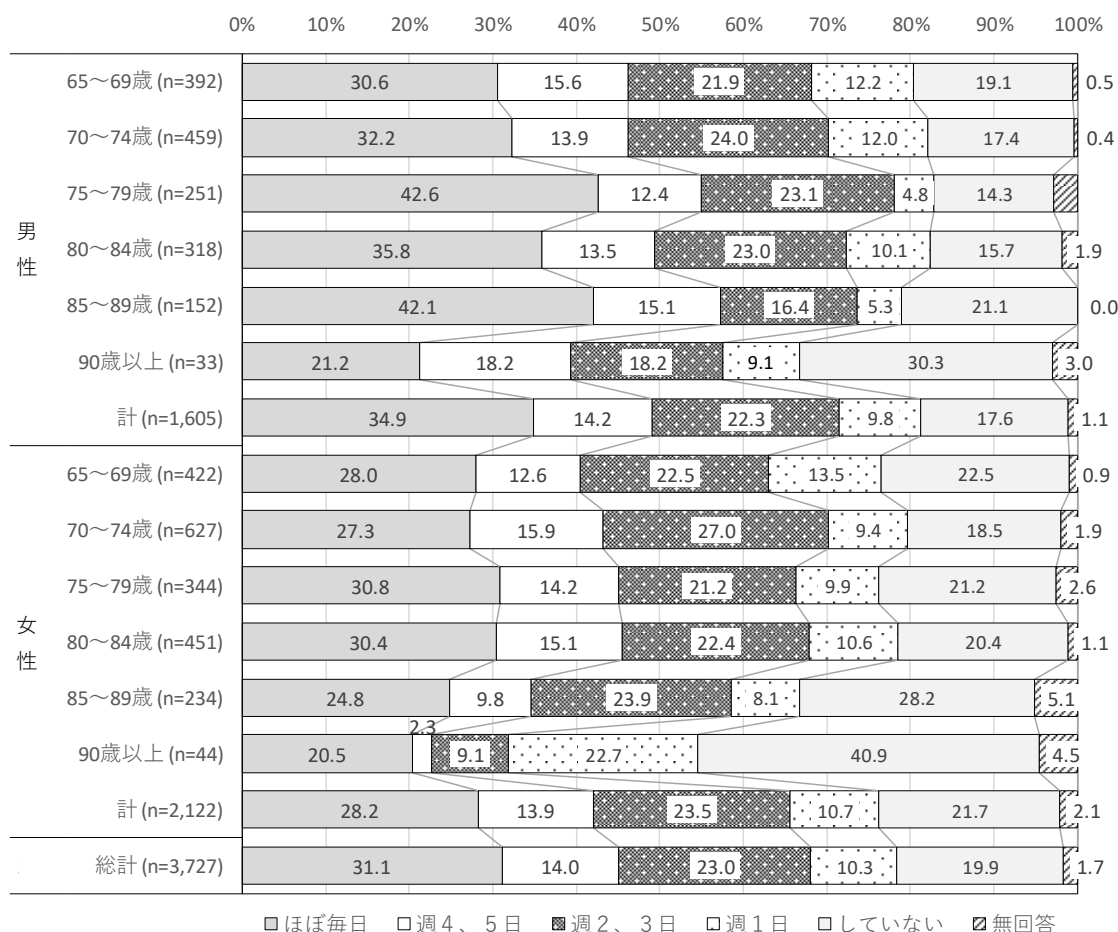
「ほぼ毎日」との回答は、全体で 31.1%（男性 34.9%、女性 28.2%）となっています。

性・年齢階級別でみると、「ほぼ毎日」との回答は、男女ともに 70～74 歳で高くなっています。

認定・該当状況別でみると、週 1 日以上運動している人は非該当者で 82.3%、該当者で 72.2%、要支援者で 71.2%と 7 割以上となっています。

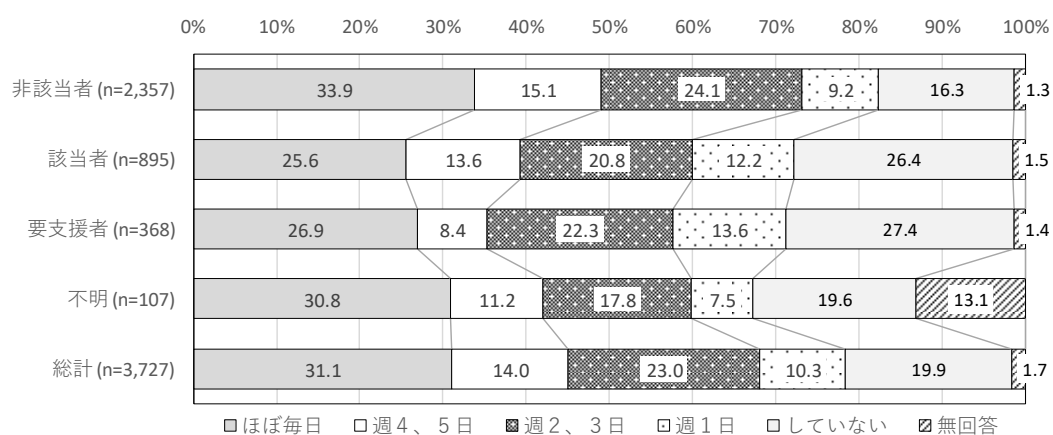
図表 運動習慣一性・年齢階級別

問 10・Q8. 習慣として運動(散歩などを含む)をしていますか



図表 運動習慣一認定・該当状況別

問 10・Q8. 習慣として運動(散歩などを含む)をしていますか



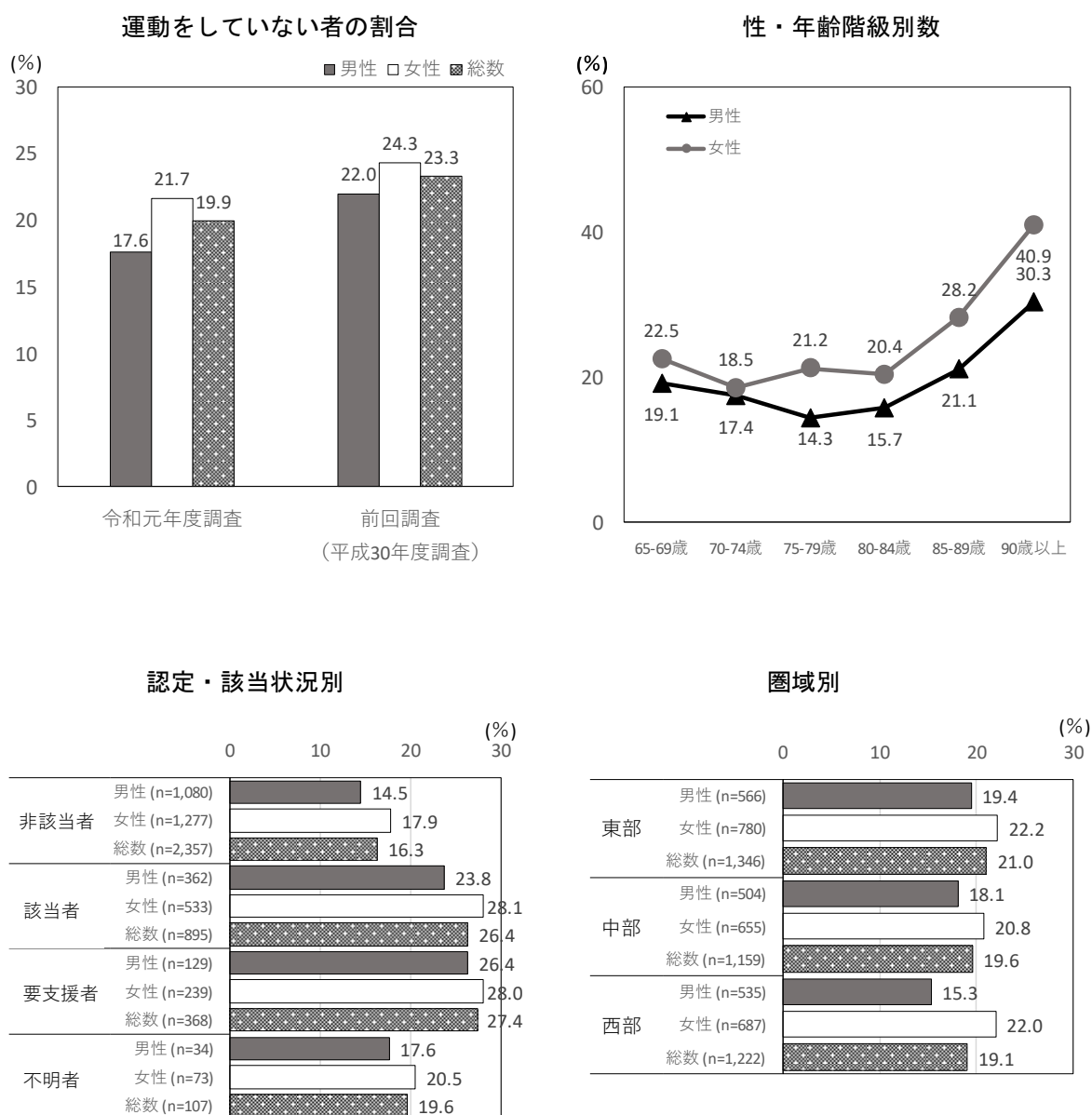
(5) 運動習慣

習慣として運動を「していない」との回答は、全体で19.9%（男性17.6%、女性21.7%）となっており、前回調査と比較すると、3.4ポイント低くなっています。

年齢とともに運動をしていない方の割合は高くなっており、90歳以上の女性では4割を超えています。

認定・該当状況別にみると、該当者では26.4%、要支援者では27.4%と高くなっています。圏域別では、東部圏域でその割合が21.0%と高くなっています。

図表 運動習慣



6 健康・生活習慣

(6) 携帯電話の利用

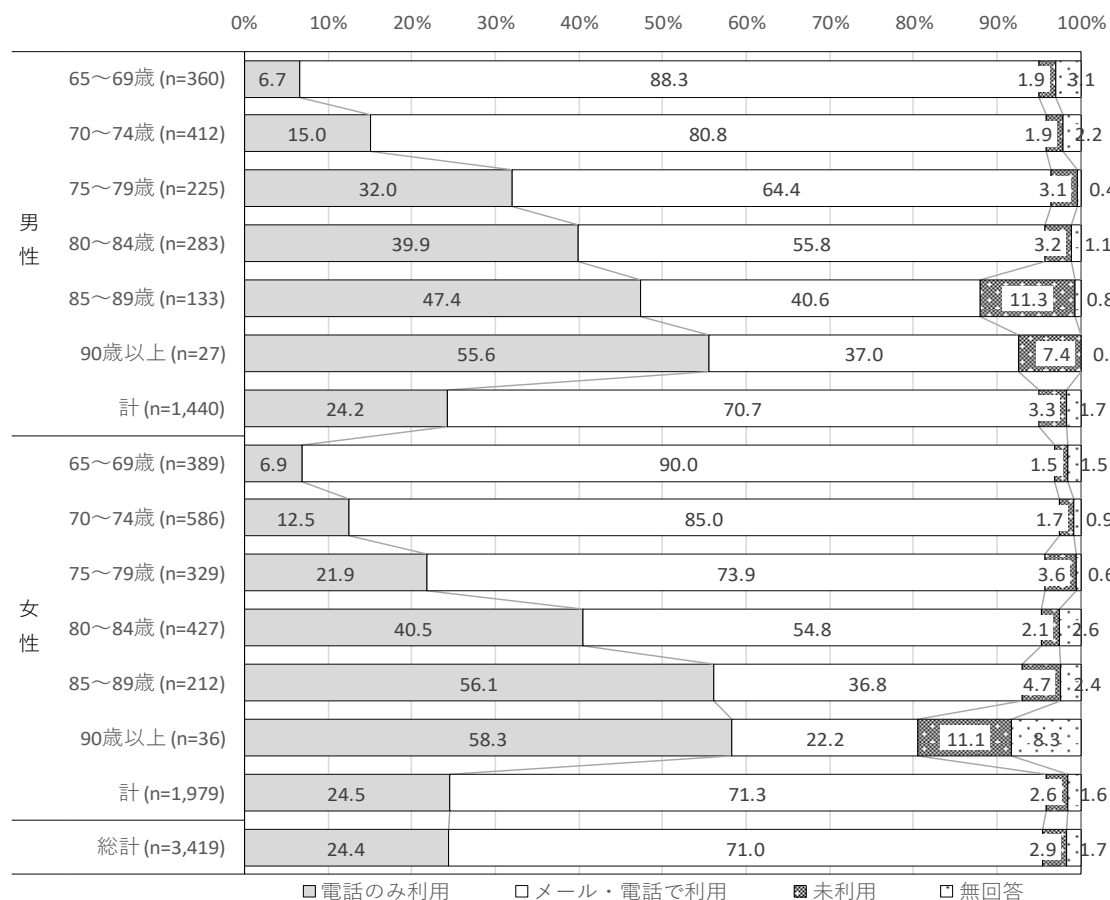
電話をかけることをしていると回答のあった 3,419 人について、携帯電話の利用状況を見ると、最も多いのは「メール・電話で利用」(71.0%)で、次いで「電話のみ利用」(24.4%)、「未利用」(2.9%)となっており、全体で9割以上の方が携帯電話を利用しています。

性・年齢階級別にみると、年齢が高くなるほどメールの利用率が低下しています。65～69歳では、男女とも9割近くが携帯電話やスマートフォンのメールを利用しているとの結果となっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者でメールの利用率が低くなっています。

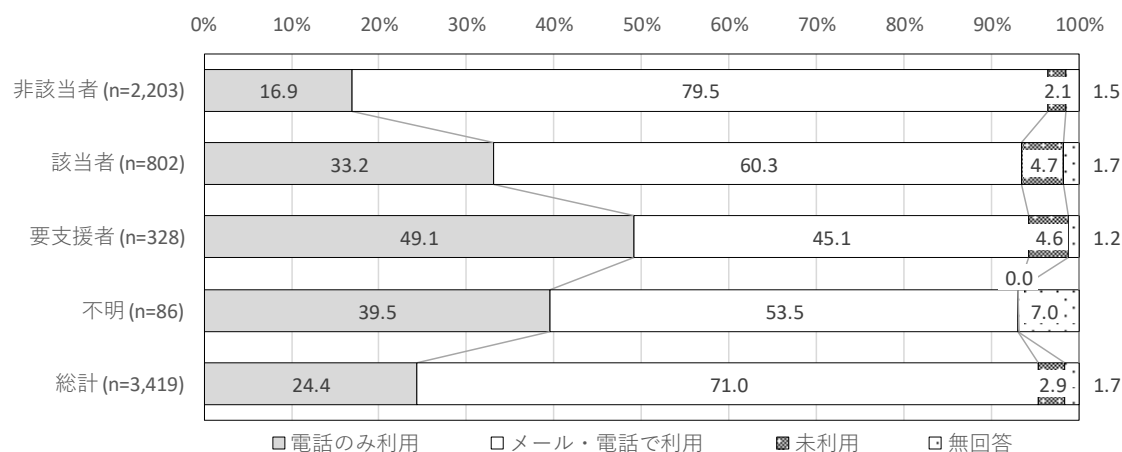
図表 携帯電話の利用—携帯電話の利用

問6・Q3-1. (電話をかける方のみ)携帯電話やスマートフォンを利用していますか



図表 携帯電話の利用—認定・該当状況別

問6・Q3-1. (電話をかける方のみ)携帯電話やスマートフォンを利用していますか



(6) 携帯電話の利用

(7) 就労

今回の調査では、収入を伴う仕事の有無について設問が設けられています。

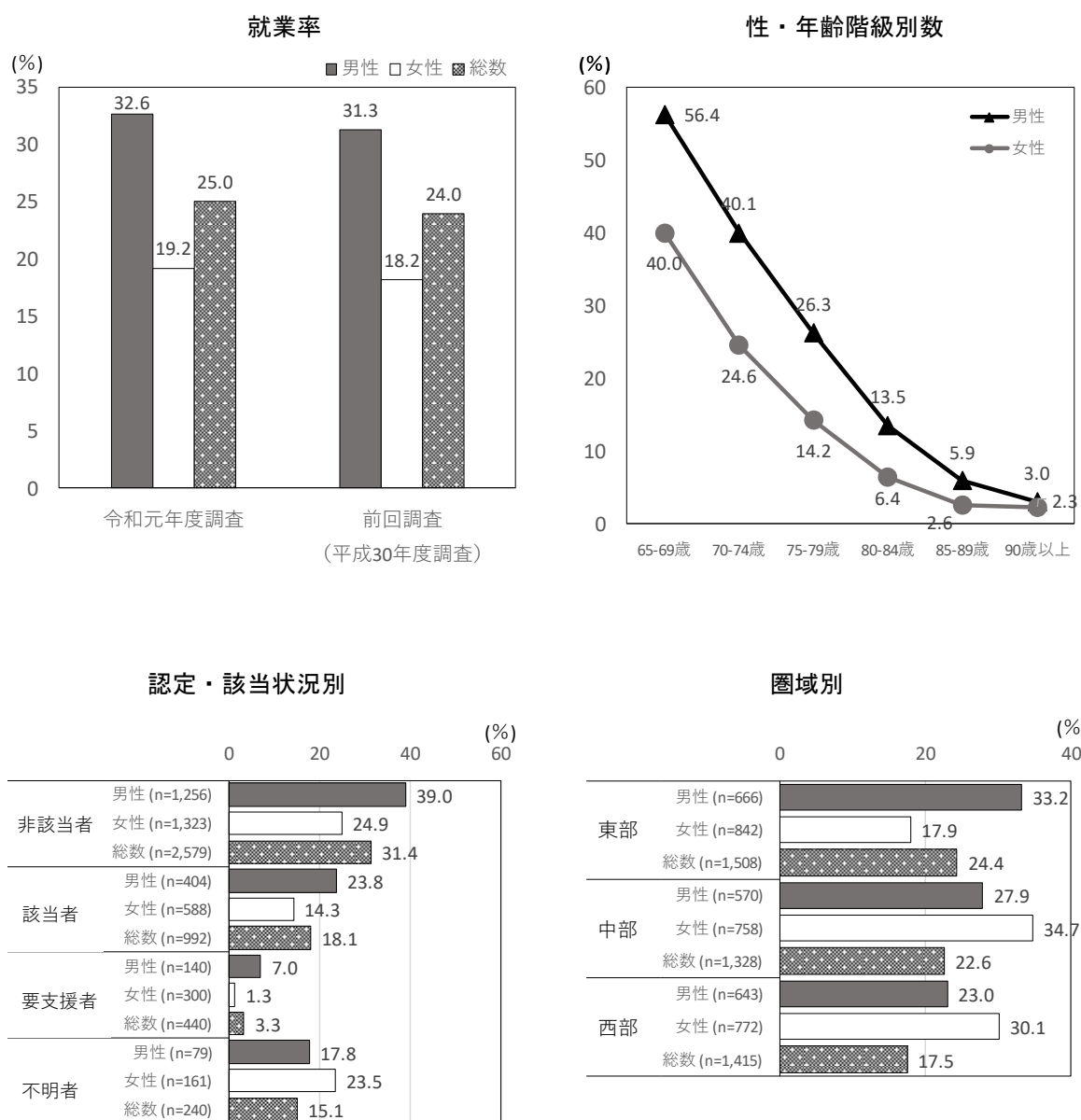
「収入のある仕事」(問9・Q4(7))を「週4回以上」～「年数回」と回答したのは、全体で25.0%(男性32.6%、女性19.2%)となっています。女性より男性で収入のある仕事をしている割合が高くなっています。

性・年齢階級別にみると、75～79歳の男性で26.3%、70～74歳の女性で24.6%と4人に1人前後が収入のある仕事をしているとの結果になっています。

認定・該当状況別では、非該当者の31.4%、該当者の18.1%、要支援者の3.3%が収入のある仕事をしていると回答しています。

圏域別でみると、東部圏域で24.4%と比較的高くなっています。

図表 就業率



7 介護の状況

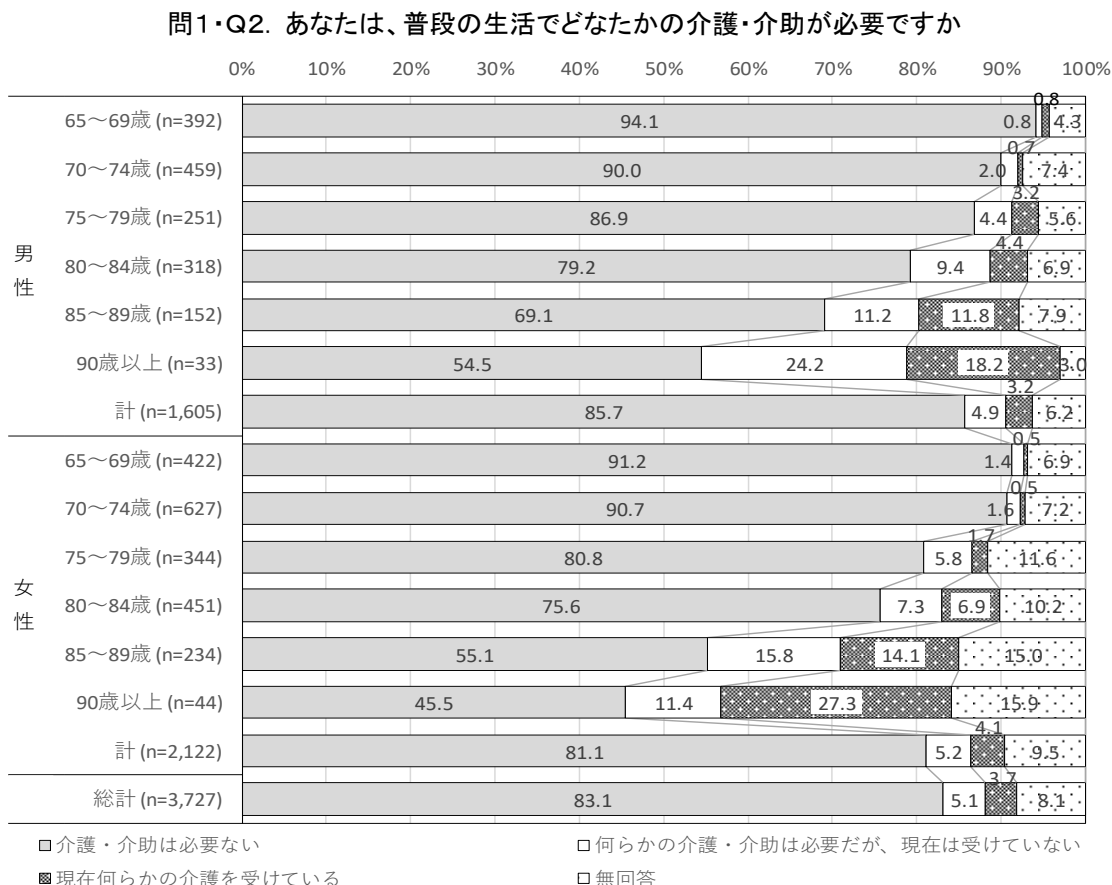
7 介護の状況

(1) 介護・介助の必要性

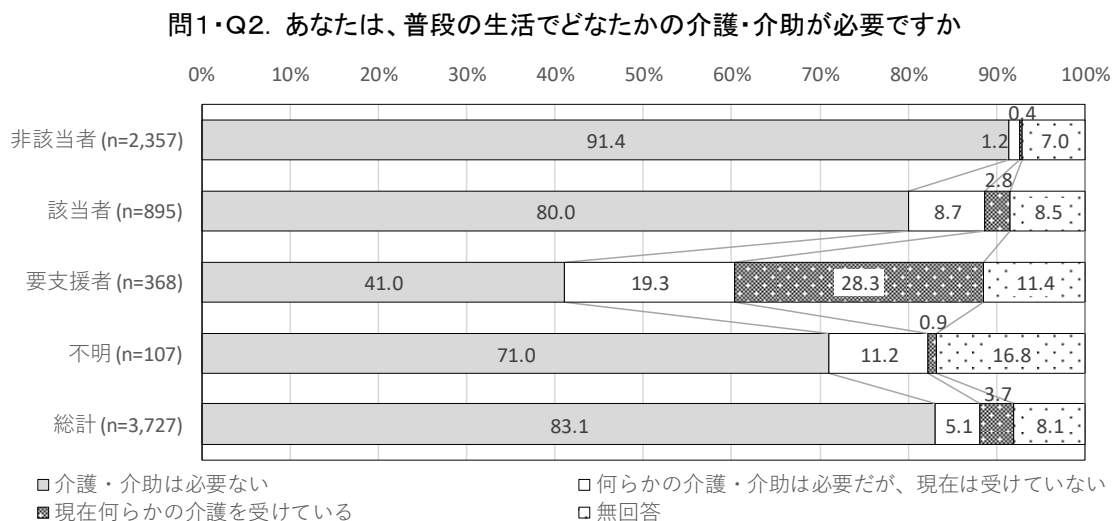
介護・介助（手助け）の必要性に関する設問（問1・Q2）に対する回答をみると、年齢が高いほど介護・介助を必要とする方の割合が高くなっています。

認定・該当状況別にみると、要支援者では「介護・介助は必要ない」が41.0%、「現在、何らかの介護を受けている」が28.3%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が19.3%と回答しています。

図表 介護・介助の必要性—性・年齢階級別



図表 介護・介助の必要性—認定・該当状況別



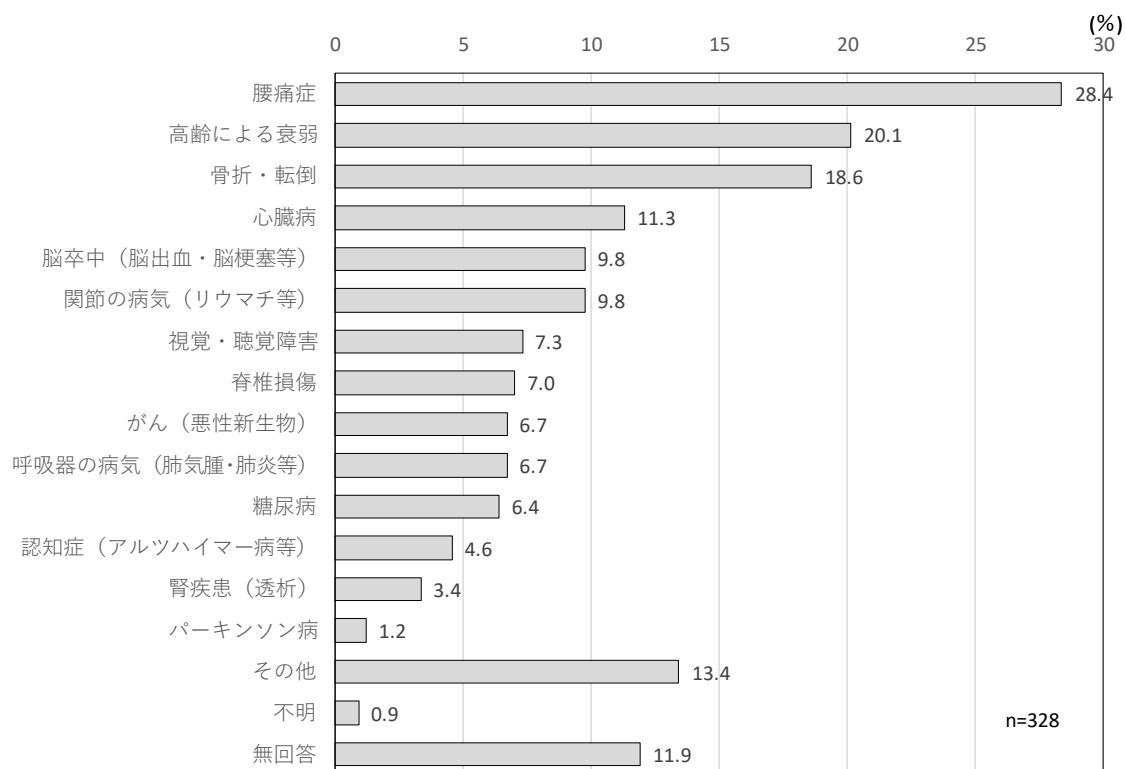
(1) 介護・介助の必要性

(2) 要介護・介助の原因

「介護・介助は必要」（「介護を受けている」を含む。）と回答した方について、その主な原因みると、最も多いのは「腰痛症」が28.4%、次いで「高齢による衰弱」（20.1%）、「骨折・転倒」（18.6%）、「心臓病」（11.3%）と続いています。

図表 介護・介助が必要になった原因

問1・Q2-1. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)



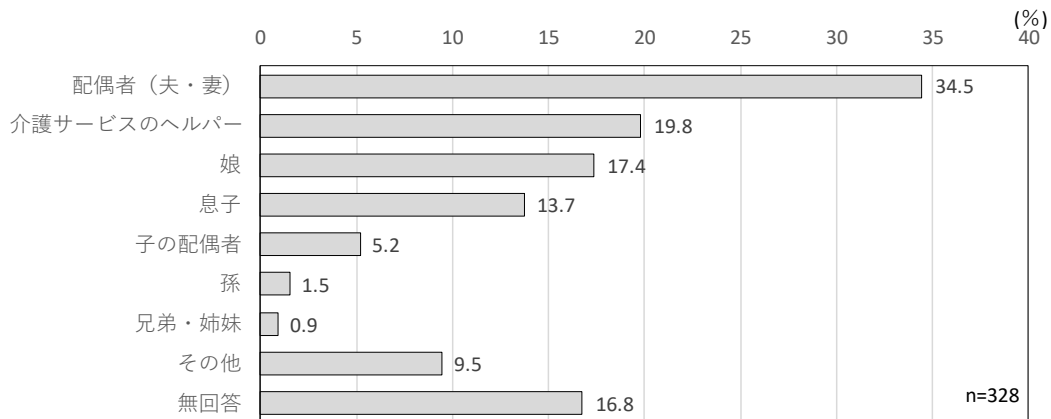
7 介護の状況

(3) 介護者

問1・Q2で「介護を受けている」と回答している方の介護者は、「配偶者(夫・妻)」(34.5%)が最も多く、次いで「介護のサービスヘルパー」(19.8%)、「娘」(17.4%)、「息子」(13.7%)となっています。

図表 主な介護者

問1・Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか(複数回答)



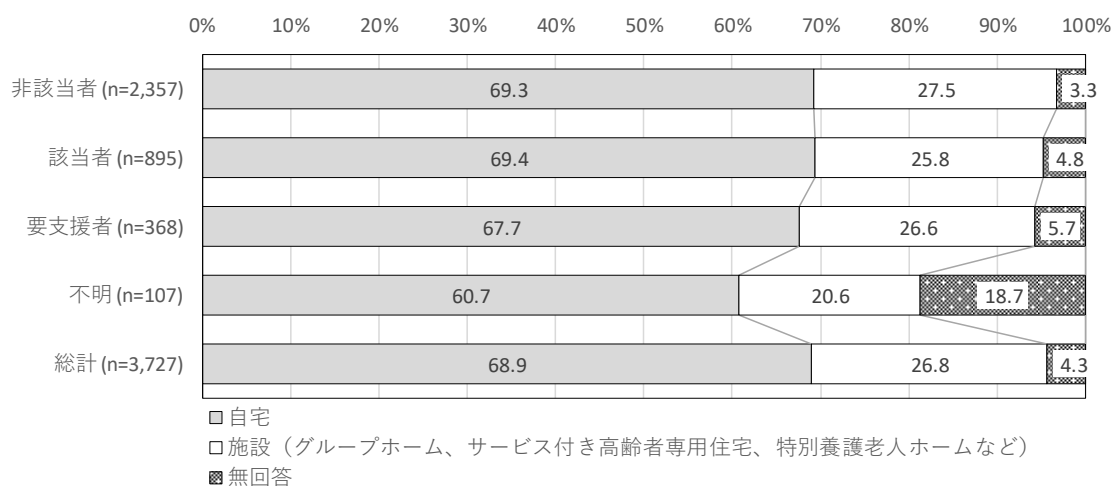
(4) 介護状態になった後の暮らし

介護が必要な状態になった後暮らしたい場所については、「自宅」が68.9%で多く、「施設」は26.8%となっています。

自宅に暮らすにあたり、どのようなサービスを受けたいかについては、「介護保険のサービスを受けたい」71.4%が最も多く、次いで「家族による介護を受けたい」(27.0%)、「民間事業者が提供する自費サービス」(4.4%)が続いています。

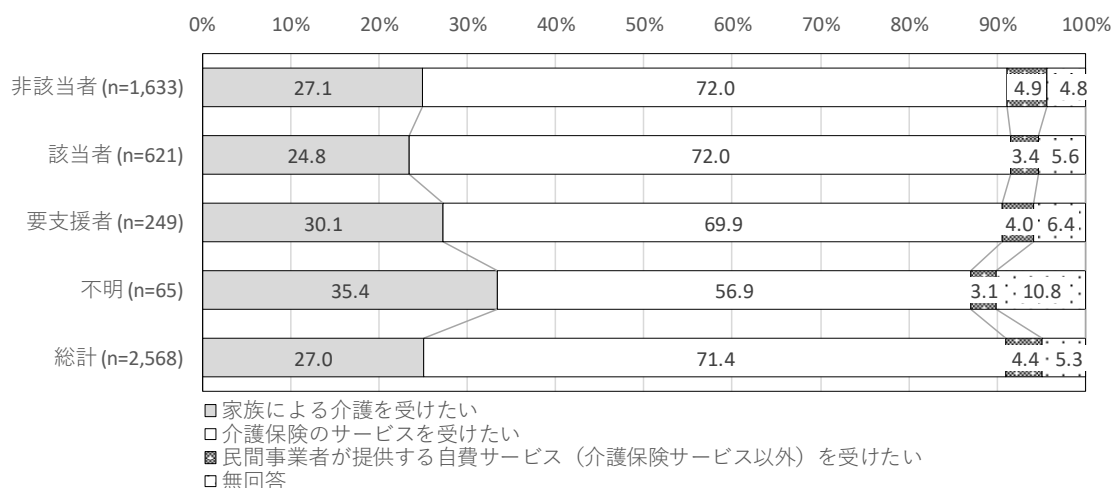
図表 暮らす場所

問1・Q5. 介護が必要な状態になったら(既に必要な状態の場合も含む)、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか



図表 サービス (支援)

問1・Q5-1.(自宅で暮らしたい方のみ) 自宅で暮らすにあたり、どのようなサービス(支援)を受けたいですか



8 保健福祉サービス

8 保健福祉サービス

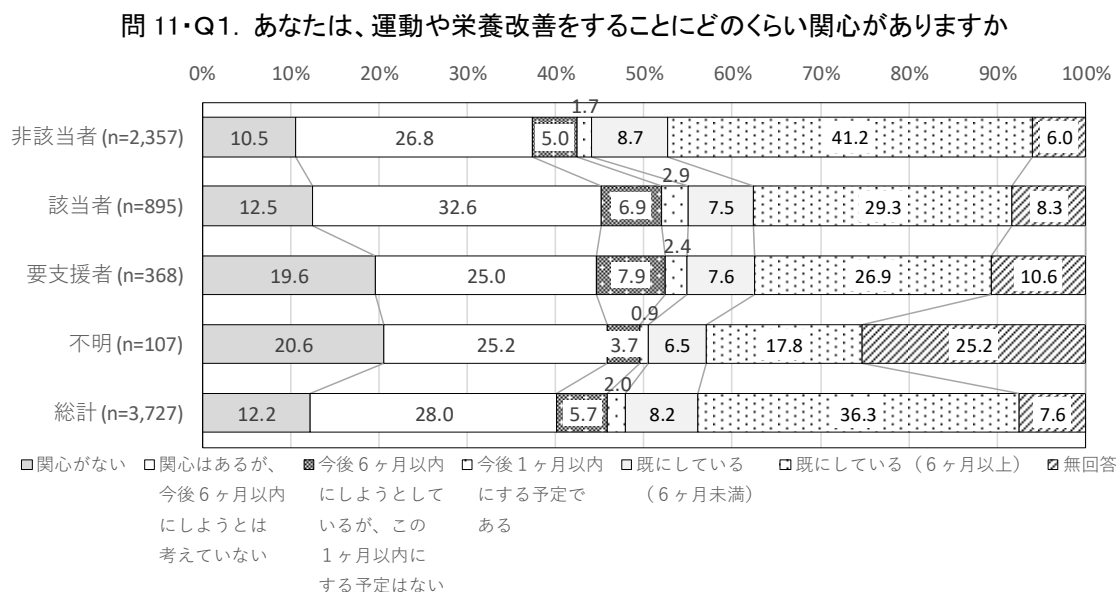
(1) 運動や栄養改善への関心度

介護予防事業への参加意向と関連する運動・栄養改善への関心度についてみてみます。

全体では、「既になっている」が36.3%、「関心はあるが、今後（6ヶ月以内に）しようとは考えていない」が28.0%、「関心がない」が12.2%と続いています。

該当者と非該当者を比較すると、「関心はあるが今後6ヶ月以内にしようとは考えていない」や「関心がない」といった消極的な回答の割合は、該当者で45.1%となっており、非該当者（37.3%）より高くなっています。

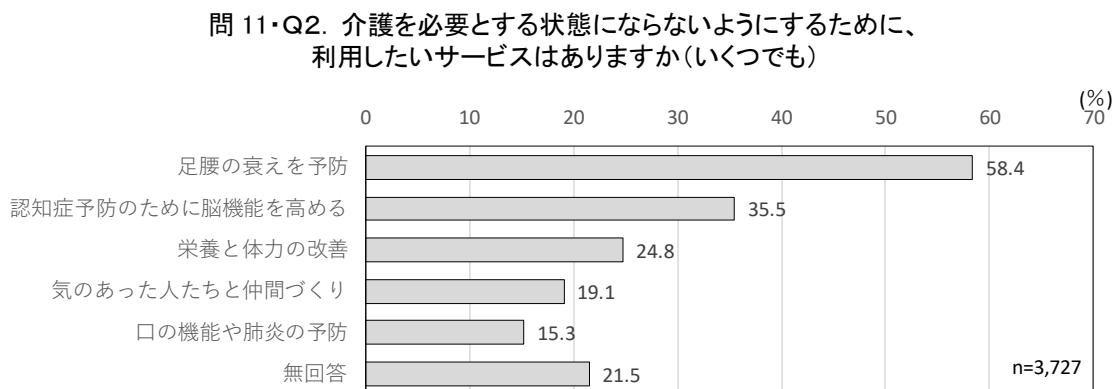
図表 運動・栄養改善への関心度



(2) 介護状態にならないためのサービス

介護を必要とする状態にならないようにするために、利用したいサービスとしては、「足腰の衰え予防」が58.4%と最も多く、次いで「認知症予防のために脳機能を高める」(35.5%)、「栄養と体力の改善」(24.8%)、「気のあった人たちとの仲間づくり」(19.1%)などが続いています。

図表 介護状態にならないためのサービス



(1) 運動や栄養改善への関心度

(2) 介護状態にならないためのサービス

(3) 利用しているサービス

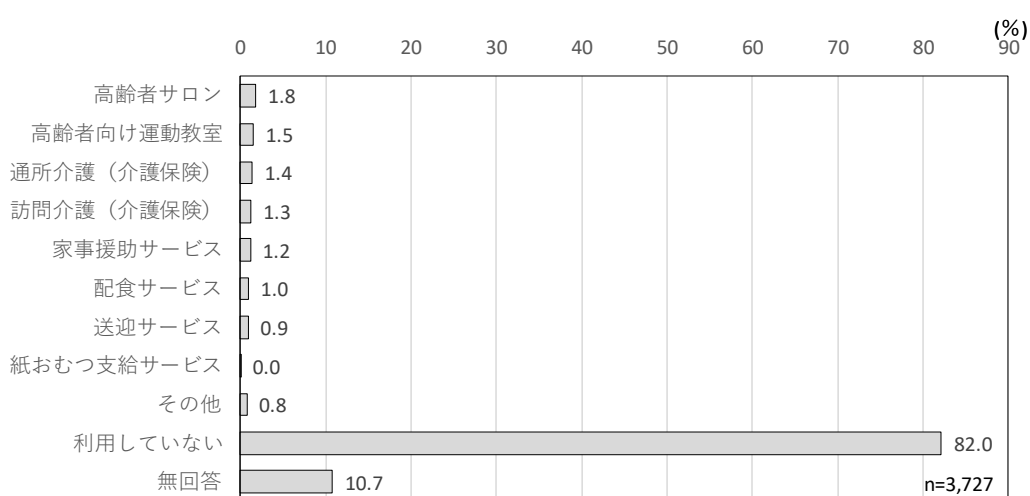
利用しているサービスとしては、「高齢者サロン」が1.8%で最も多く、次いで「高齢者向け運動教室」(1.5%)、「通所介護(介護保険)」(1.4%)、「訪問介護(介護保険)」(1.3%)などとなっています。「利用していない」との回答は82.0%となっています。

生活援助サービスを利用しているかについては、「掃除」が74.5%で最も多く、「食事の支度」が25.5%となっています。

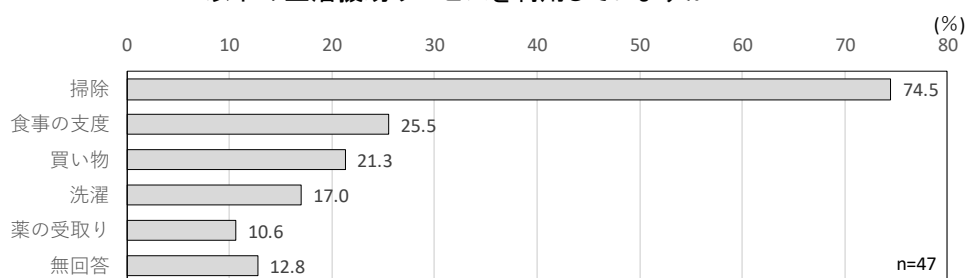
介護保険サービス対象外サービスの利用については、「自費で民間事業者の提供するサービスを利用する」と「有償ボランティアによるサービスを利用する」がそれぞれ29.8%となっています。

図表 利用しているサービス

問 11・Q3. 以下のサービスを利用していますか(いくつでも)

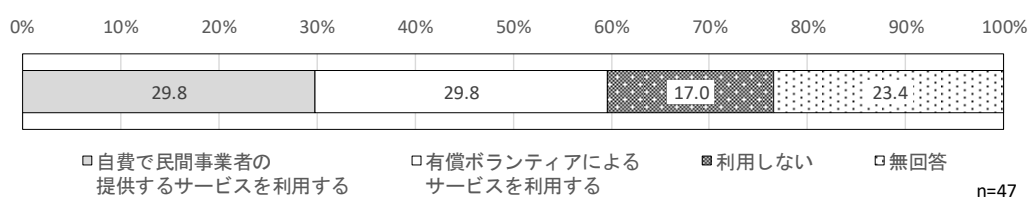


図表 生活援助サービスの利用

問 11・Q3-1.(Q3で「訪問介護(介護保険)」と回答された方のみ)
以下の生活援助サービスを利用していますか

図表 介護保険サービス対象外サービスの利用

問 11・Q3-2. (Q3で「1. 訪問介護(介護保険)」と回答された方のみ)仮に生活援助サービスが介護保険サービスの対象外となった場合、以下のどのサービスを利用しますか



8 保健福祉サービス

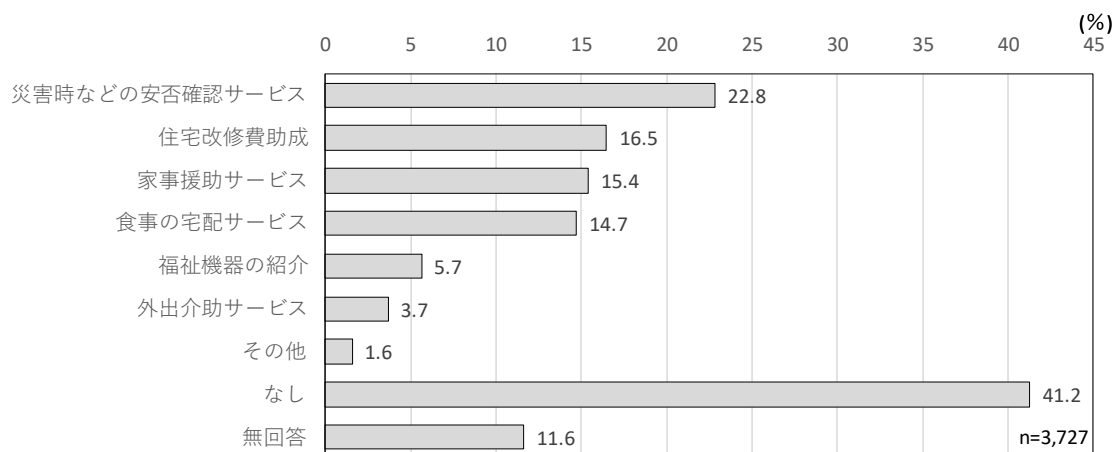
(4) 利用してみたい保健福祉サービス

利用してみたい保健福祉サービスとしては、「災害時などの安否確認サービス」が22.8%で最も多く、次いで「住宅改修費助成」(16.5%)、「家事援助サービス」(15.4%)、「食事の宅配サービス」(14.7%)などとなっています。

「なし」との回答も、41.2%となっています。

図表 利用してみたい保健福祉サービス

問 11・Q4. 次の保健福祉サービスのうち、あなたが利用してみたいと思うものはどれですか(いくつでも)



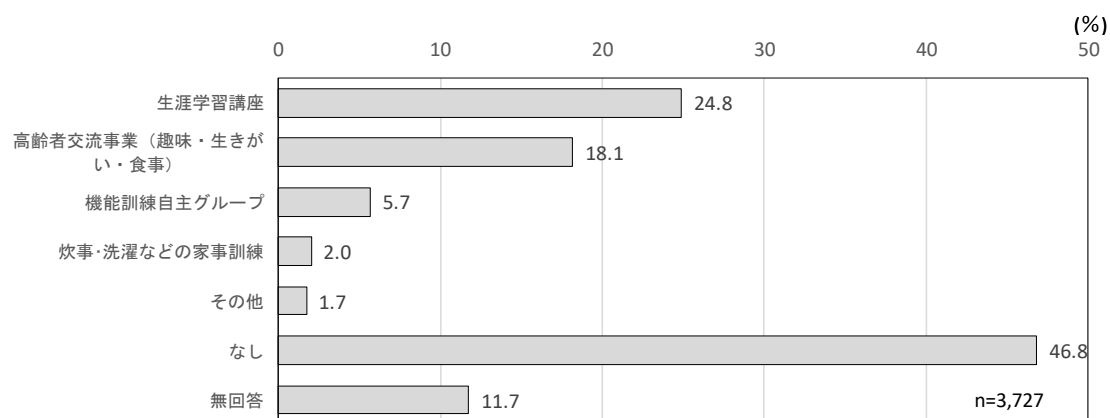
(5) 参加したい事業

参加したい事業としては、「生涯学習講座」が24.8%で最も多く、次いで「高齢者交流事業(趣味・生きがい・食事)」(18.1%)、「機能訓練自主グループ」(5.7%)、「炊事・洗濯などの家事訓練」(2.0%)の順となっています。

「なし」との回答も、46.8%となっています。

図表 参加したい事業

問 11・Q5. 次の事業のうち、あなたが参加してみたいと思うものはどれですか(いくつでも)



(4) 利用してみたい保健福祉サービス

(5) 参加したい事業

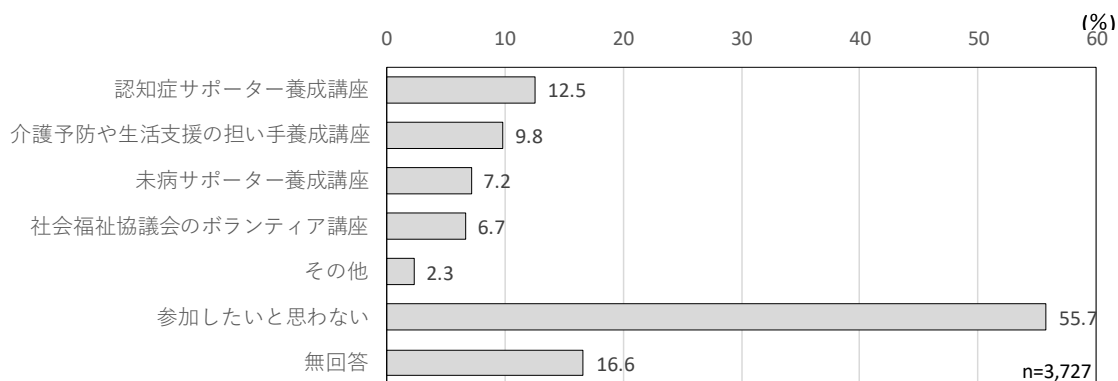
(6) 市が開催している講座等への参加意向

参加したい市主催の講座としては、「認知症サポーター養成講座」が12.5%で最も多く、次いで「介護予防や生活支援の担い手養成講座」(9.8%)、「未病サポーター養成講座」(7.2%)などとなっています。

「参加したいと思わない」との回答も、55.7%となっています。

図表 参加したい事業

問 11・Q6. 介護予防や生活支援の担い手養成講座や認知症サポーター養成講座など、市などにより開催された場合、参加してみたいと思うものをお答えください(いくつでも)

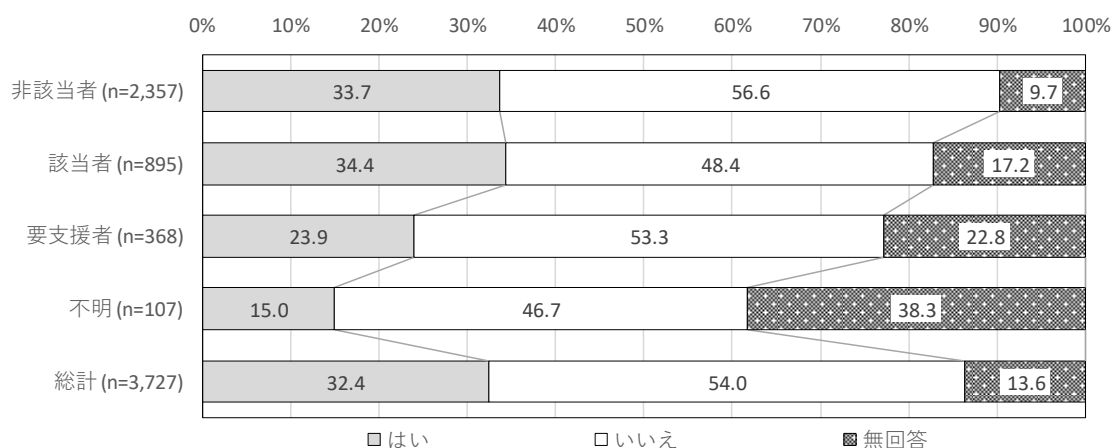


(7) 介護予防教室への参加意向

逗子市で行う介護予防のための教室に参加したいかについては、「はい」(参加したい)が32.4%、「いいえ」が54.0%となっています。

図表 介護予防教室への参加意向

問 11・Q10. この調査の結果、教室等への参加が望ましいとわかった場合、逗子市で行う次のような教室へ参加したいですか(介護予防機能向上トレーニング・シニアヘルスアップ運動教室)



(6) 市が開催している講座等への参加意向
(7) 介護予防教室への参加意向

9 住宅・暮らし

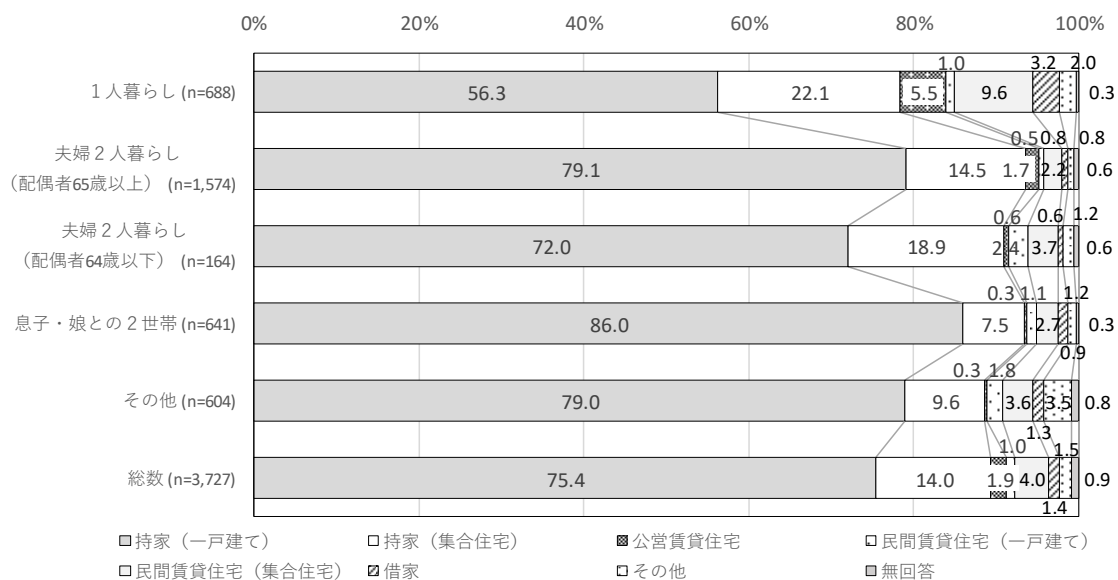
9 住宅・暮らし

(1) 住宅の所有関係

住宅の所有関係をみると、最も多いのは「持家（一戸建て）」（75.4%）、次いで「持家（集合住宅）」（14.0%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（4.0%）の順となっています。（問1・Q4）。

図表 住宅の所有関係

問1・Q4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらにあたりますか

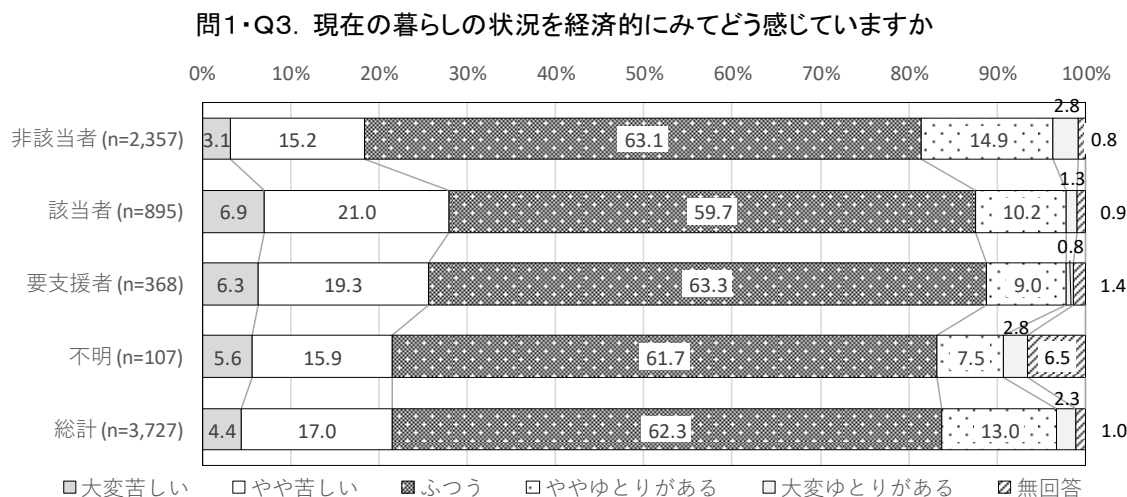


(2) 現在の暮らしの状況

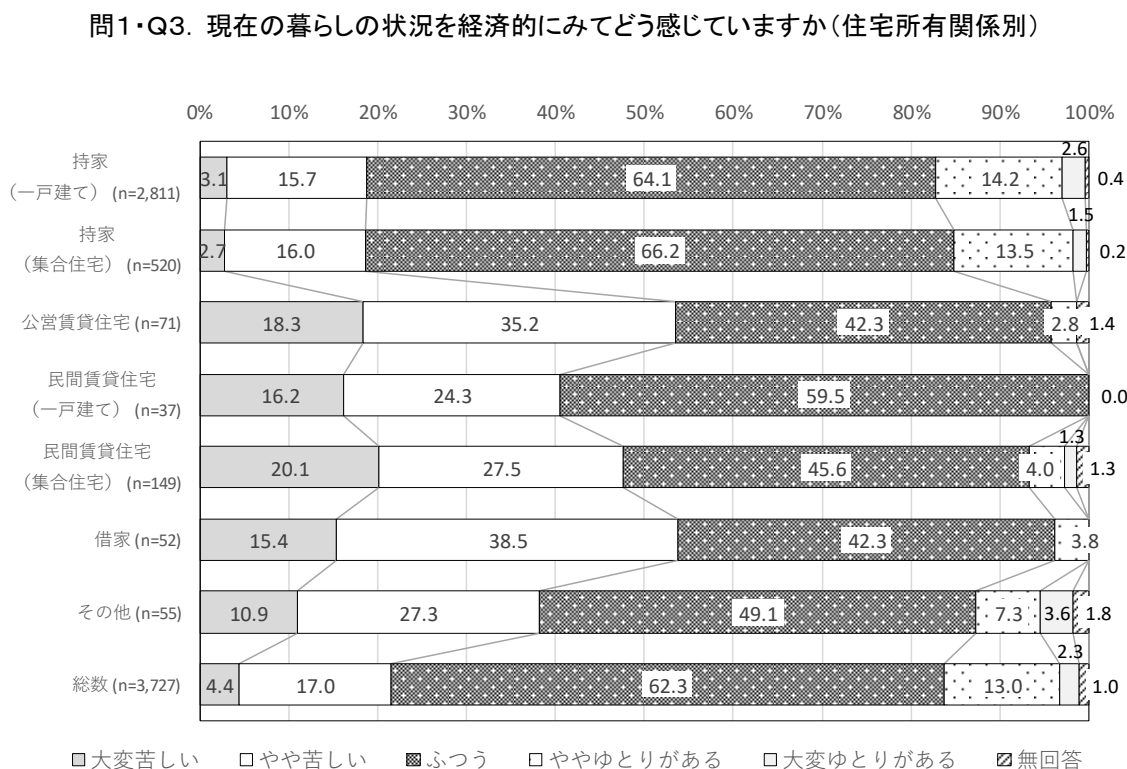
現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかについては、「ふつう」が62.3%で最も多く、次いで「やや苦しい」(17.0%)、「ややゆとりがある」(13.0%)、「大変苦しい」(4.4%)となっています。

住宅の所有関係別にみると、公営賃貸住宅、民間賃貸住宅（集合住宅）、借家と回答した者では「(大変・やや) 苦しい」との回答が約半数となっている一方、持家と回答した者では2割以下と低くなっています。

図表 現在の暮らしの状況－認定・該当状況別



図表 現在の暮らしの状況－住宅所有関係別



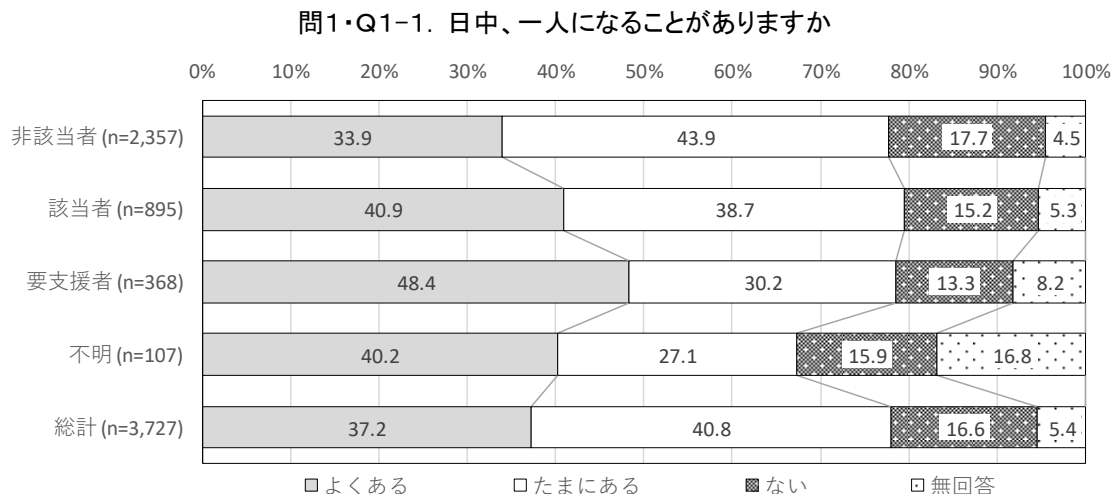
9 住宅・暮らし

(3) 日中、一人になること

日中、一人になることについてみると、全体で「たまにある」が40.8%で最も多く、次いで「よくある」(37.2%)、「ない」(16.6%)となっています。

また、認定・該当状況別では、要支援者や該当者で「よくある」が4割前後と、比較的高くなっています。

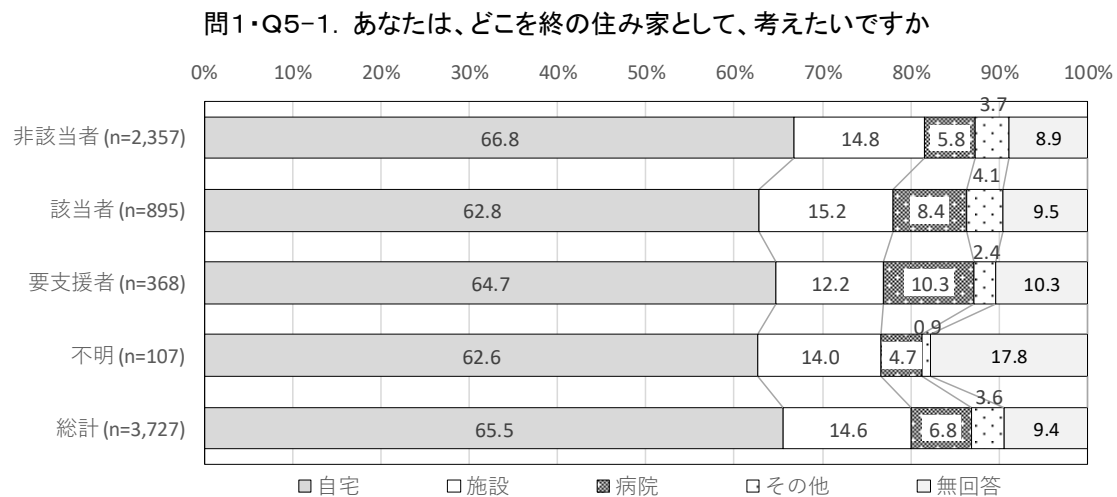
図表 日中、一人になること



(4) 終の住み家、エンディング

終の住み家として考えている場所については、「自宅」が 65.5%で多く、次に「施設」が 14.6%、「病院」が 6.8%となっています。

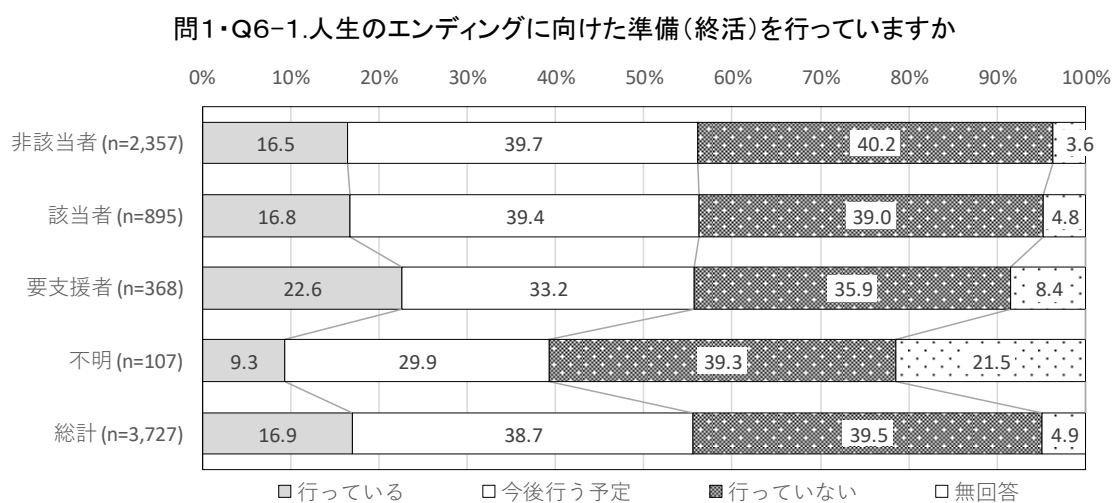
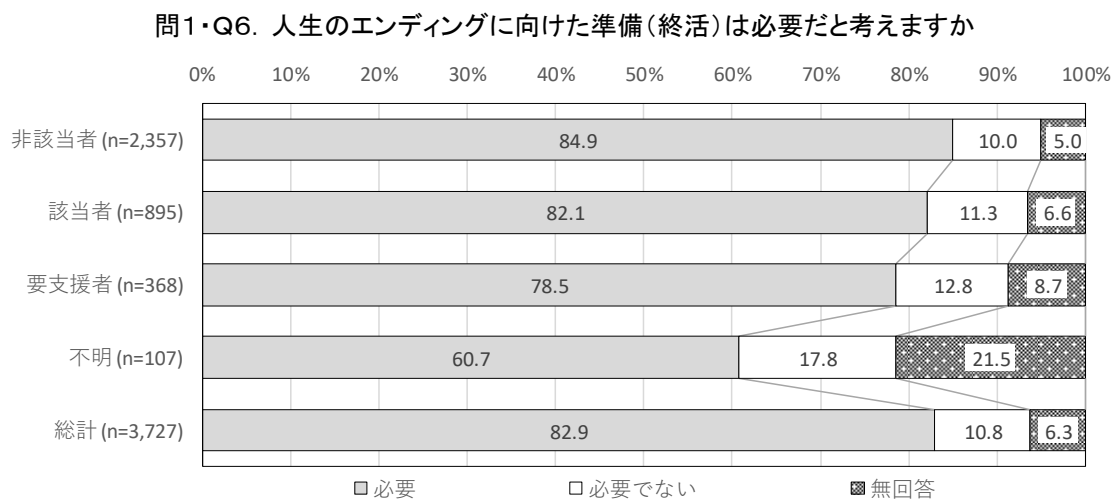
図表 終の住み家



9 住宅・暮らし

人生のエンディングに向けた準備（終活）については、「必要」が全体で82.9%となっていますが、人生のエンディングに向けた準備（終活）を「行っていない」が39.5%と最も多く、次いで「今後行う予定」が38.7%、「行っている」が16.9%となっています。

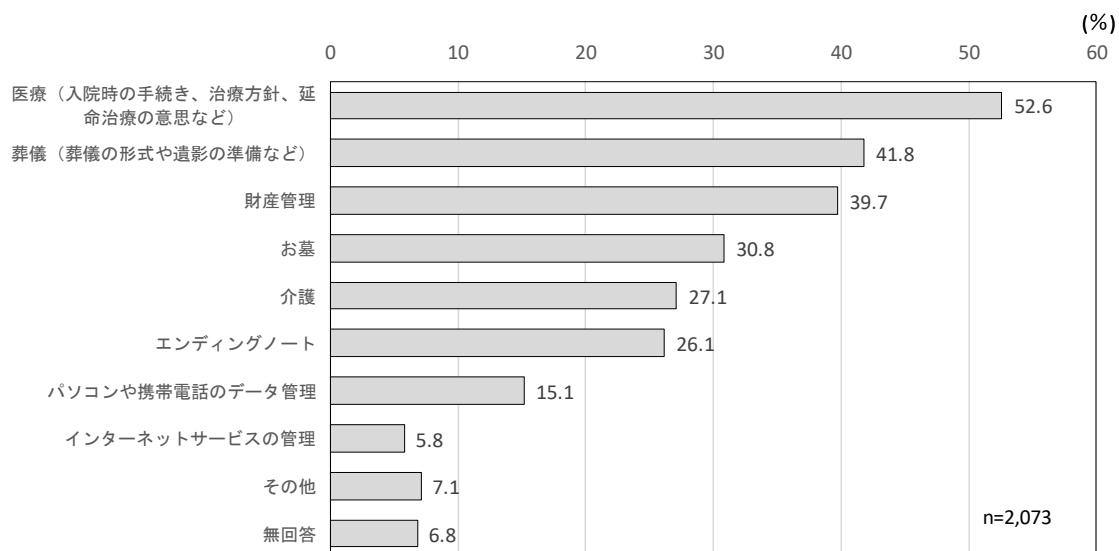
図表 エンディングに向けた準備



人生のエンディングに向けた準備（終活）の内容については「医療」が 52.6%最も多く、次いで「葬儀」（41.8%）、「財産管理」（39.7%）、「お墓」（30.8%）、「介護」（27.1%）、「エンディングノート」（26.1%）等の順に続きます。

図表 エンディングに向けた準備内容

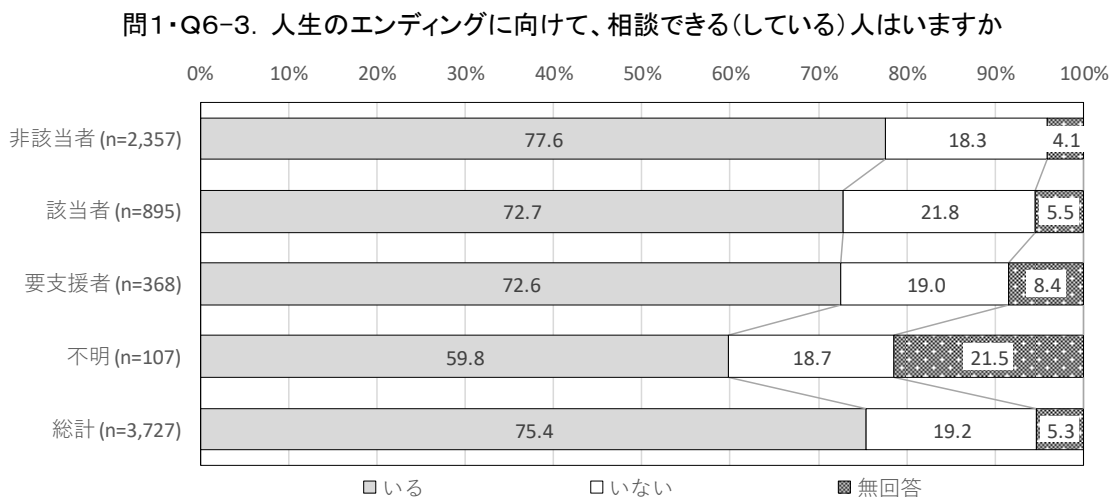
問1・Q6-2.（行っている、今後行う予定の方）具体的にはどのような内容の準備をされていますか（行う予定ですか）（いくつでも）



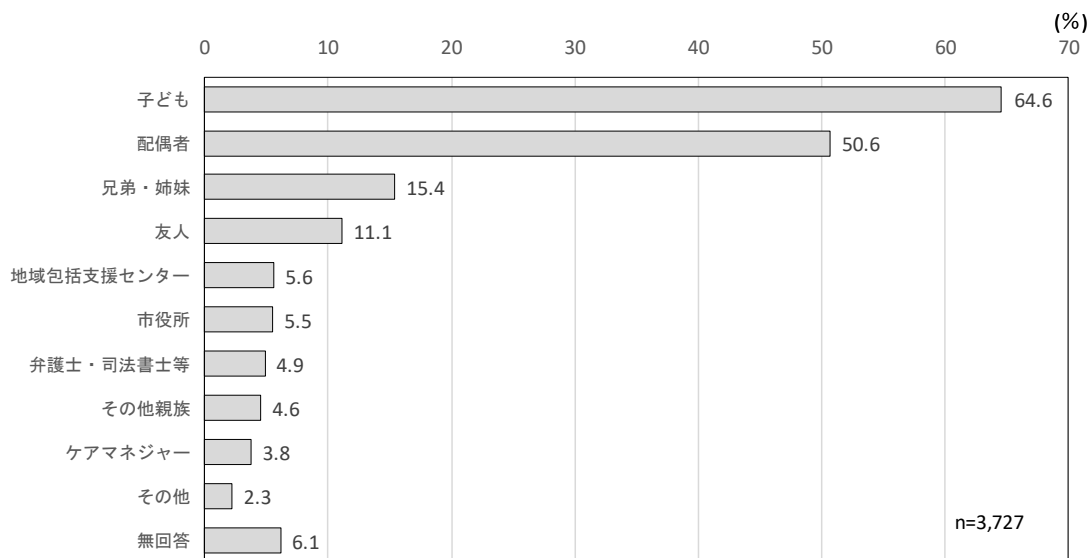
9 住宅・暮らし

人生のエンディングに向けて相談できる人は、全体の75.4%が「いる」と回答しています。また、相談する相手として「子ども」が64.6%と最も多く、次いで「配偶者」(50.6%)、「兄弟・姉妹」(15.4%)、「友人」(11.1%)等の順に続きます。

図表 エンディングに向けた相談相手



問1・Q6-4. 相談できる(している)人がいる方は、誰と相談できますか(していますか)
相談できる(している)人がいない方は、誰に相談したいと思いますか(いくつでも)



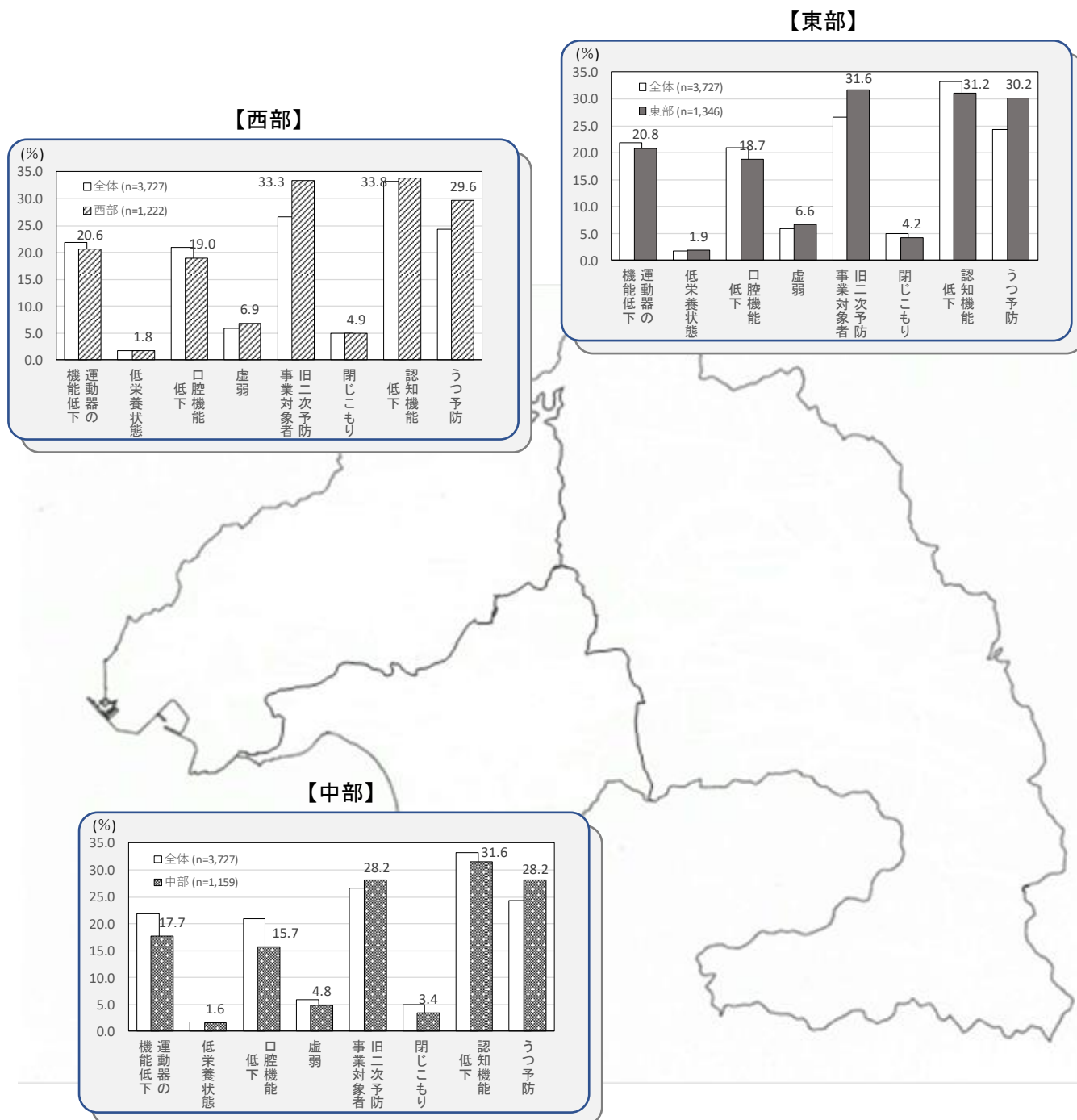
10 圏域別の概況

(1) 生活機能等リスク該当者

各圏域別に生活機能等リスク該当者状況についてまとめると下図のとおりとなります。

西部圏域は、全項目で市全体の平均を上回っています。

図表 ニーズ調査該当者（圏域別）

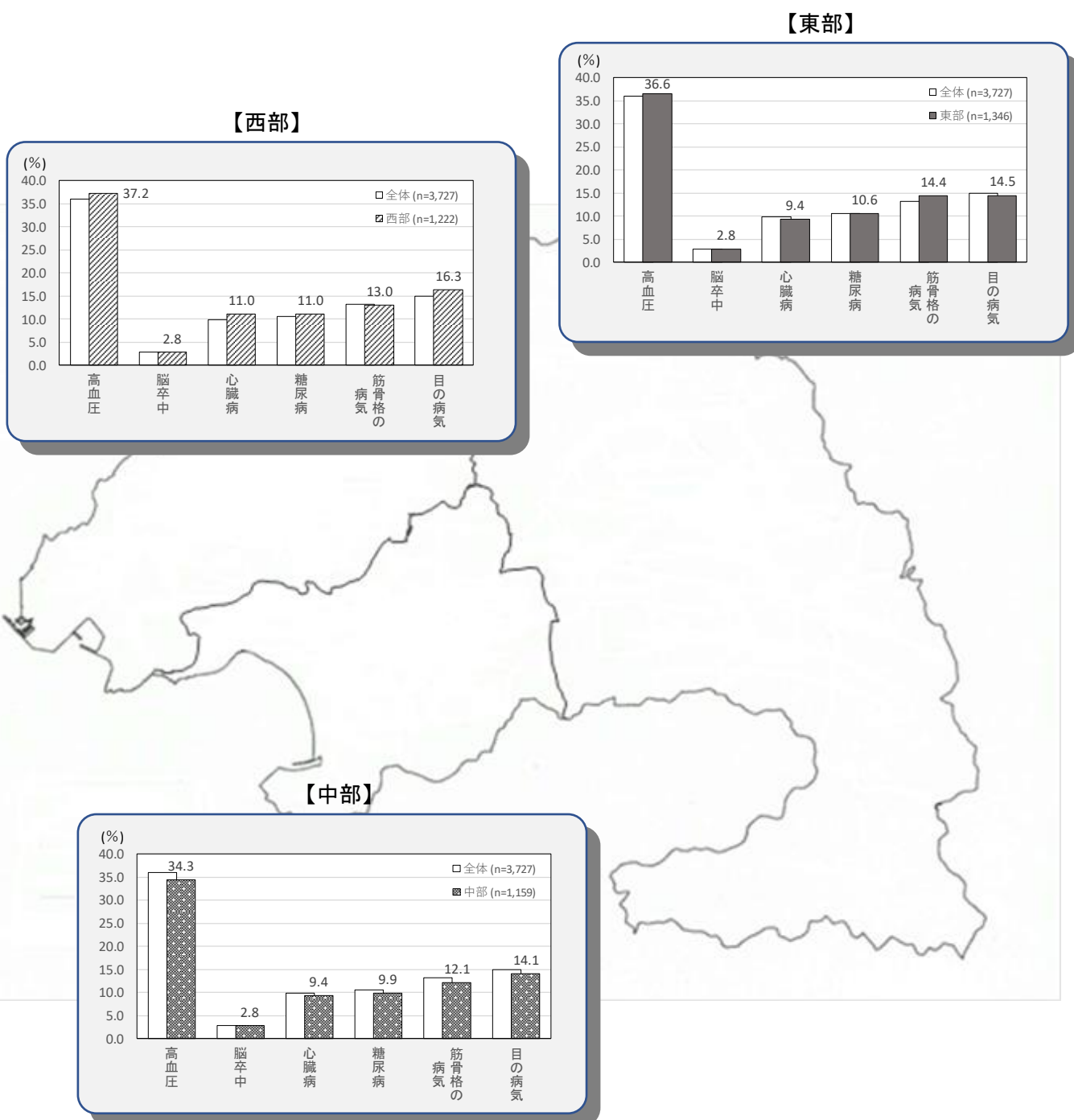


10 圏域別の概要

(2) 疾病

各圏域別に疾病の状況についてまとめると、西部圏域で比較的有病率が高くなっています。

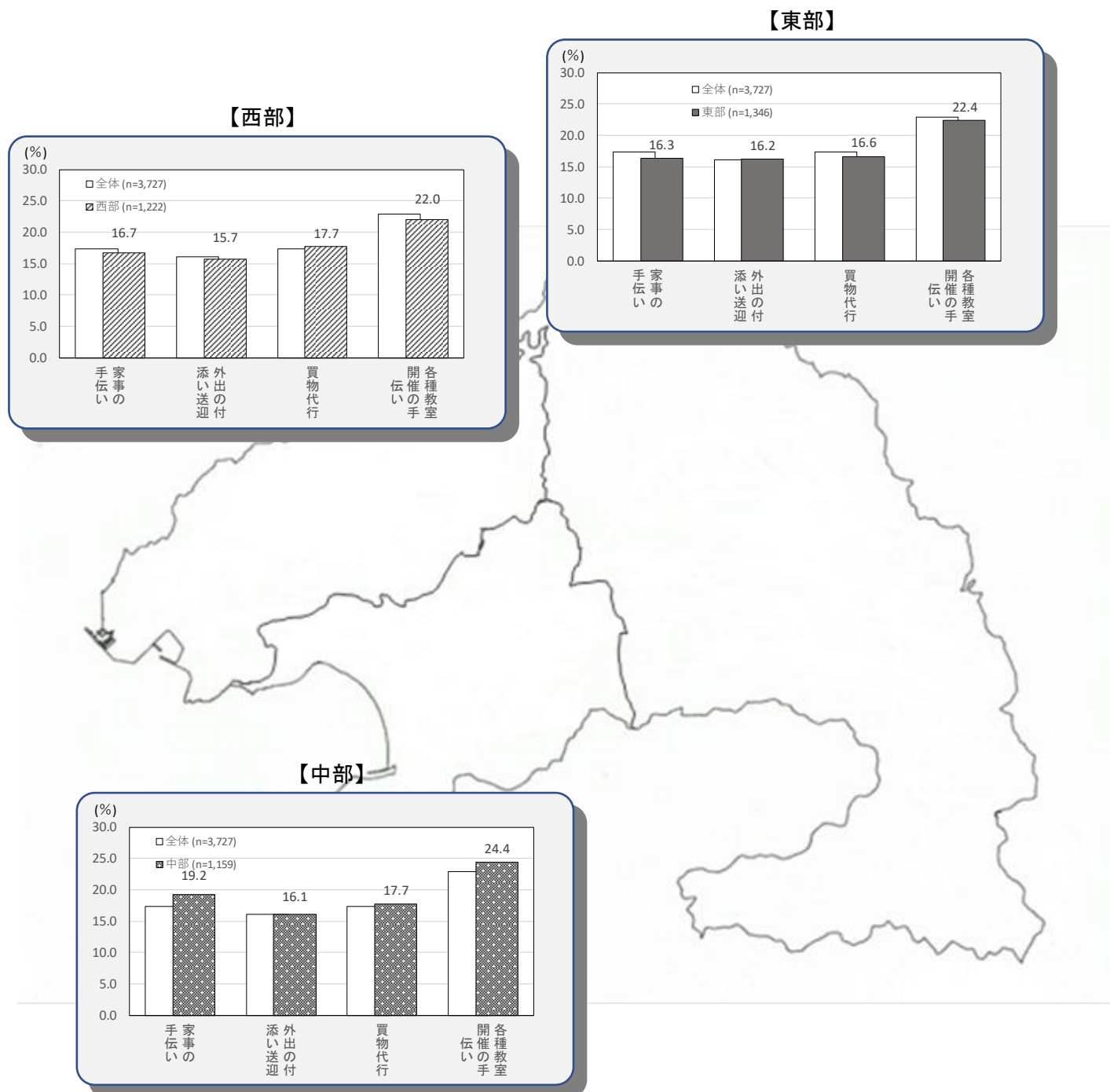
図表 有病率（圏域別）



(3) 支援活動への参加意向

各種支援活動への参加意向について、「条件が整えば参加可能」との回答割合を各圏域別にみると、中部圏域は、全項目で市全体の平均を下回っています。

図表 支援活動への参加可能性（圏域別）



参考資料（調査票）



介護予防・日常生活圏域二一ズ調査（健康寿命 100）

【調査票】

調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○を付けてください。

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて

6月30日(日)までに投函してください。

記入日	令和元年	月	日
●調査票を記入されたのはどなたですか 1. 宛名のご本人が記入 2. ご家族が記入(続柄 _____) 3. その他()			
●ご回答のない質問があった場合、お電話でお聞きしてもよろしいですか 1. はい 2. いいえ			

※以下は宛名のご本人の情報を記入してください。

電話番号	— —
年齢・性別	()歳 男・女
生年月日	明治・大正・昭和 年 月 日

ご記入に際してのお願い

1. この調査の対象者は、令和元年6月1日現在、逗子市内に住所を持つ65歳以上で3歳毎（65歳、68歳、71歳…）の年齢に該当し、要介護認定を受けていない方及び施設に入所していない方。
2. ご家族の方がご本人に代わって回答されたり、一緒に記入してもかまいません。
3. ご回答に当たっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰め（例.

0	6	2
---	---	---

 kg ）でご記入ください。
4. 「あなたの～」と尋ねている質問項目がいくつかあります。
この場合「あなた」とは、宛名のご本人を指しますので、ご本人以外のご家族が回答された場合でも、宛名のご本人に関して回答してください。
5. 「～していますか」と尋ねている質問項目が多くあります。できる能力があっても、していない場合は「いいえ」と回答してください。
この質問は、ご本人の主観に基づき「している」、「していない」という「活動」や「参加」の状況をチェックすることを目的としており、「できる」「できない」という「能力」をチェックすることを目的としていません。
（例 問2・Q7 新聞を読んでいますか）
6. 調査票記入後は、3つ折りで同封の返信用封筒に入れてお送りください。
7. この調査についてのお問合せは以下までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

調査票の記入方法など	0120-807-150	コールセンター ※委託先：(株)グリーンエコ
調査全般（目的など）	046-873-1111	逗子市高齢介護課高齢福祉係

【個人情報の取扱いについて】

個人情報の保護及び使用目的は、以下の通りですので、ご確認ください。なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとみなさせていただきます。

■個人情報の保護及び使用目的について

- ・ この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、逗子市高齢者保健福祉計画策定、効果評価、地域包括支援センターによる支援活動に利用させていただきます（アンケート結果に応じて地域包括支援センターから連絡が入ることがあります）。
- ・ 高齢者保健福祉計画策定時および効果の評価時に、本調査で得られたデータを使用するにあたり、厚生労働省の管理するデータベース（地域包括ケア「見える化システム」）内に情報を登録し、集計・分析を行いません。

逗子市福祉部

質問の該当する答えの番号に○印をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

問1 あなたのご家族や生活状況について

Q1. 家族構成をお教えてください

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|--------|
| 1. 1人暮らし | 2. 夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上） | |
| 3. 夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下） | 4. 息子・娘との2世帯 | 5. その他 |

Q1-1. 日中、一人になることがありますか

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. ない |
|---------|----------|-------|

Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない → **Q3へ**
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

Q2-1. 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

- | | | | |
|--------------------|-----------------|---------------------------------|----------|
| 1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） | 2. 心臓病 | 3. がん（悪性新生物） | |
| 4. 呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等） | 5. 関節の病気（リウマチ等） | | |
| 6. 認知症（アルツハイマー病等） | 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 | |
| 9. 腎疾患（透析） | 10. 視覚・聴覚障害 | 11. 骨折・転倒 | 12. 脊椎損傷 |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. 腰痛症 | 15. その他（ ） | 16. 不明 |

Q2-2. 主にどなたの介護・介助を受けていますか

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------|
| 1. 配偶者（夫・妻） | 2. 息子 | 3. 娘 |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他（ ） | |

Q3. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

Q4. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらにあたりますか

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------|
| 1. 持家（一戸建て） | 2. 持家（集合住宅） | 3. 公営賃貸住宅 |
| 4. 民間賃貸住宅（一戸建て） | 5. 民間賃貸住宅（集合住宅） | 6. 借家 |
| 7. その他 | | |

Q5. 介護が必要な状態になったら（既に必要な状態の場合も含む）、自宅と施設のどちらで暮らしたいですか

1. **自宅**
2. **施設**（グループホーム、サービス付き高齢者専用住宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設など） → **Q5-2** へ

Q5-1. (1.自宅で暮らしたい方のみ) 自宅で暮らすにあたり、どのようなサービス（支援）を受けたいですか

1. **家族による介護を受けたい**
2. **介護保険のサービスを受けたい**
3. **民間事業者が提供する自費サービス（介護保険サービス以外）を受けたい**

Q5-2. あなたは、どこを終の住み家として、考えたいですか

1. **自宅**
2. **施設**
3. **病院**
4. **その他（**)

Q6. 人生のエンディングに向けた準備（終活）は必要だと考えますか

1. **必要**
2. **必要ではない**

Q6-1. 人生のエンディングに向けた準備（終活）を行っていますか

1. **行っている**
2. **今後行う予定**
3. **行っていない** → **Q6-3** へ

Q6-2. (1.行っている、2.今後行う予定の方) 具体的には、どのような内容を準備されていますか（行う予定ですか）（いくつでも）

1. **介護**
2. **医療**（入院時の手続き、治療方針、延命治療の意思など）
3. **葬儀**（葬儀の形式や遺影の準備など）
4. **お墓**
5. **財産管理**
6. **パソコンや携帯電話のデータ管理**
7. **インターネットサービスの管理**
8. **エンディングノート**
9. **その他（**)

Q6-3. 人生のエンディングに向けて、相談できる（している）人はいますか

1. **いる**
2. **いない**

Q6-4. 相談できる（している）人がいる方は、誰と相談できますか（していますか）
相談できる（している）人がいない方は、誰に相談したいと思いますか
（いくつでも）

1. **子ども**
2. **配偶者**
3. **兄弟姉妹**
4. **その他親族**
5. **弁護士・司法書士等**
6. **友人**
7. **ケアマネジャー**
8. **地域包括支援センター**
9. **市役所**
10. **その他（**)

問2 生活機能について

Q1. バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q2. 車の運転をしていますか
1. している 2. 免許証はあるがしていない 3. 免許証がない（返納を含む）
Q3. 自分で食品・日用品の買物をしていますか
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q4. 自分で食事の用意をしていますか
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q5. 自分で請求書の支払いをしていますか
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q6. 自分で預貯金のおし入れをしていますか
1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
Q7. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか
1. はい 2. いいえ
Q8. 新聞を読んでいますか
1. はい 2. いいえ
Q9. 本や雑誌を読んでいますか
1. はい 2. いいえ
Q10. 健康についての記事や番組に関心がありますか
1. はい 2. いいえ
Q11. 友人の家を訪ねていますか
1. はい 2. いいえ
Q12. 家族や友人の相談にのっていますか
1. はい 2. いいえ
Q13. 病人を見舞うことができますか
1. はい 2. いいえ
Q14. 若い人に自分から話しかけることがありますか
1. はい 2. いいえ
Q15. 家事全般ができていますか
1. できている 2. できていない

Q7. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか
1. はい 2. いいえ
Q8. 杖を使っていますか
1. はい 2. いいえ
Q9. 家の中は、手すりを付けたり敷居を低くするなど、移動しやすいようにつくられていますか
1. はい 2. いいえ
Q10. 家の周辺は、坂があったり車の交通量が多かったりなどで、外出に不安を感じることはありませんか
1. はい 2. いいえ

問5 栄養・食事・口腔について

Q1. 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか
1. はい 2. いいえ
Q2. 身長と体重をご記入ください
身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm 体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg
Q3. 食べる気力がなくなってきましたか
1. はい 2. いいえ
Q4. 食べるのが楽しいと感じなくなってきましたか
1. はい 2. いいえ
Q5. 汁もの（麺の汁を含む）を残さず飲みますか
1. はい 2. いいえ
Q6. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
1. はい 2. いいえ
Q7. お茶や汁物等でむせることがありますか
1. はい 2. いいえ
Q8. 口の渇きが気になりますか
1. はい 2. いいえ
Q9. 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか
1. はい 2. いいえ
Q10. 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか
1. はい 2. いいえ

Q11. 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用 2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用 4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

Q11-1.（入れ歯のある方のみ）毎日入れ歯の手入れをしていますか

1. はい 2. いいえ

Q12. 噛み合わせは良いですか

1. はい 2. いいえ

Q13. 1日の食事の回数は何回ですか

1. 朝昼晩の3食 2. 朝晩の2食 3. 朝昼の2食 4. 昼晩の2食 5. 1食 6. その他

Q14. どなたかと食事をともにする機会がありますか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある
5. ほとんどない

問6 記憶について

Q1. 物忘れが多いと感じますか

1. はい 2. いいえ

Q2. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか

1. はい 2. いいえ

Q3. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

1. はい 2. いいえ

Q3-1.（電話をかける方のみ）携帯電話やスマートフォンを利用していますか

1. 電話のみ利用 2. メール・電話で利用 3. 未利用

Q4. 今日が何月何日かわからないときがありますか

1. はい 2. いいえ

Q5. 5分前のことが思い出せますか

1. はい 2. いいえ

Q6. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか

1. 困難なくできる 2. いくらか困難であるが、できる
3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要 4. ほとんど判断できない

Q7. 人に自分の考えをうまく伝えられますか

1. 伝えられる 2. いくらか困難であるが、伝えられる
3. あまり伝えられない 4. ほとんど伝えられない

問7 足のケアについて

Q1. 足や爪に水虫がありますか

1. はい 2. いいえ

Q2. 足の皮膚の炎症、又はむくみや変色がありますか

1. はい 2. いいえ

Q3. 爪の肥厚*・変形などがありますか

※ 爪の肥厚 … 爪が圧迫されたりすることで分厚くなった状態のこと

1. はい 2. いいえ

Q4. 足の指の血流が悪い、又は機能障害などがありますか

1. はい 2. いいえ

問8 日常生活動作について

Q1. 食事は自分で食べられますか

1. できる 2. 一部介助（おかずを切ってもらなど）があればできる 3. できない

Q2. 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか

1. 受けない 2. 一部介助があればできる 3. 全面的な介助が必要

Q3. 座っていることができますか（10分程度）

1. できる 2. 支えが必要 3. できない

Q4. 自分で洗面や歯磨きができますか

1. できる 2. 一部介助があればできる 3. できない

Q5. 自分でトイレができますか

1. できる 2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 3. できない

Q6. 自分で入浴ができますか

1. できる 2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 3. できない

Q7. 50m以上歩けますか

1. できる 2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 3. できない

Q8. 階段を昇り降りできますか

1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

Q9. 自分で着替えができますか

1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

Q10. 大便の失敗がありますか

1. ない 2. ときどきある 3. よくある

Q11. 尿もれや尿失禁がありますか

1. ない 2. ときどきある 3. よくある

問9 社会参加・交流について

Q1. 趣味はありますか

1. 趣味あり 2. 思いつかない

Q2. 生きがいはありますか

1. 生きがいあり 2. 思いつかない

Q3. 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

	週4回 以上	週 2~3回	週1回	月 1~3回	年に数回	参加して いない
(1) ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
(2) スポーツ関係のグループ やクラブ	1	2	3	4	5	6
(3) 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
(4) 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
(5) 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
(6) 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
(7) 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6
(8) 見守りが必要な高齢者 を支援する活動	1	2	3	4	5	6
(9) 介護が必要な高齢者を 支援する活動	1	2	3	4	5	6
(10) 子どもを育てている親 を支援する活動	1	2	3	4	5	6
(11) 地域の生活環境の改善 (美化) 活動	1	2	3	4	5	6

Q4. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

Q5. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

Q6. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。
あてはまるすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「8. そのような人はいない」に○をつけてください。

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(いくつでも)

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣
6. 友人 7. その他() 8. そのような人はいない

Q7. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください(いくつでも)

1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー
4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・市役所・役場 6. その他
7. そのような人はいない

Q8. 友人関係についておうかがいします

(1) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか

1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある
5. ほとんどない

(2) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか

同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

1. 0人(いない) 2. 1~2人 3. 3~5人 4. 6~9人 5. 10人以上

(3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか(いくつでも)

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

Q6. お酒は飲みますか
1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない
Q7. タバコは吸っていますか
1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない
Q8. 習慣として運動（散歩などを含む）をしていますか
1. ほぼ毎日 2. 週4,5日 3. 週2,3日 4. 週1日 5. していない
Q9. この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか
1. はい 2. いいえ
Q10. この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか
1. はい 2. いいえ
Q11. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない
1. はい 2. いいえ
Q12. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった
1. はい 2. いいえ
Q13. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる
1. はい 2. いいえ
Q14. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない
1. はい 2. いいえ
Q15. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする
1. はい 2. いいえ

問 11 運動・栄養改善プログラムや保健福祉サービスについて

Q1. あなたは、運動や栄養改善をすることにどのくらい関心がありますか

1. 関心がない
2. 関心はあるが、今後6ヶ月以内にしようとは考えていない
3. 今後6ヶ月以内にしようとしているが、この1ヶ月以内にする予定はない
4. 今後1ヶ月以内にする予定である
5. 既にしている（6ヶ月未満）
6. 既にしている（6ヶ月以上）

Q2. 介護を必要とする状態にならないようにするために、利用したいサービスはありますか（いくつでも）

1. 足腰の衰えを予防するための取り組みをしてみたい
2. 口の機能や肺炎の予防のための取り組みをしてみたい
3. 栄養と体力の改善のための取り組みをしてみたい
4. 認知症予防のために脳機能を高める取り組みをしてみたい
5. 気のあった人たちと仲間づくりをしてみたい

Q3. 以下のサービスを利用していますか（いくつでも）

1. 訪問介護（介護保険）
2. 通所介護（介護保険）
3. 家事援助サービス
4. 高齢者サロン
5. シニアヘルスアップ運動教室
6. 配食サービス
7. 送迎サービス
8. 紙おむつ支給サービス
9. その他（ ）
10. 利用していない

Q3-1.（Q3で「1. 訪問介護（介護保険）」と回答された方のみ）

以下の生活援助サービスを利用していますか

1. 掃除
2. 洗濯
3. 買い物
4. 食事の支度
5. 薬の受取り

Q3-2.（Q3で「1. 訪問介護（介護保険）」と回答された方のみ）仮に生活援助サービスが介護保険サービスの対象外となった場合、以下のどのサービスを利用しますか

1. 自費で民間事業者の提供するサービスを利用する
2. 有償ボランティアによるサービスを利用する
3. 利用しない

Q4. 次の保健福祉サービスのうち、あなたが利用してみたいと思うものはどれですか（いくつでも）

1. 家事援助サービス
2. 食事の宅配サービス
3. 外出介助サービス
4. 住宅改修費助成
5. 福祉機器の紹介
6. 災害時などの安否確認サービス
7. その他（ ）
8. なし

Q5. 次の事業のうち、あなたが参加してみたいと思うものはどれですか(いくつでも)

1. 高齢者交流事業(趣味・生きがい・食事) 2. 生涯学習講座
3. 機能訓練自主グループ 4. 炊事・洗濯などの家事訓練
5. その他(やってみたいことなど) 6. なし

Q6. 介護予防や生活支援の担い手養成講座や認知症サポーター養成講座など、市などにより開催された場合、参加してみたいと思うものをお答えください(いくつでも)

1. 介護予防や生活支援の担い手養成講座…介護予防や生活支援の基礎知識を学びます
2. 認知症サポーター養成講座…認知症の基礎知識、認知症の方の支援方法を学びます
3. フレイルサポーター養成講座…介護予防の基礎知識、フレイル予防のための支援方法を学びます(フレイルとは、要介護状態に向かいつつある状態)
4. 社会福祉協議会のボランティア講座
5. その他(具体的に))
6. 参加したいと思わない

Q7. 以下のような高齢者支援、子育て支援や、障がい者の支援活動に参加ができていますか(既に活動をしている方はどのような活動をしているかでお答えください)

(1) 家事(掃除・洗濯・料理・不燃ごみ出し等)の手伝い
1. すでに参加している 2. 条件によっては参加可能 3. 参加は難しい

(2) 外出(通院・買物)の付添い・送迎
1. すでに参加している 2. 条件によっては参加可能 3. 参加は難しい

(3) 買物代行
1. すでに参加している 2. 条件によっては参加可能 3. 参加は難しい

(4) 各種教室開催の手伝い
1. すでに参加している 2. 条件によっては参加可能 3. 参加は難しい

Q8. 高齢者支援、子ども子育ての支援や障害者の支援に関する活動に参加することで期待できることは何ですか(いくつでも)

1. 自分の健康づくり・介護予防になる 2. 収入が得られる
3. 外出の機会ができる 4. 地域に知り合いや友達ができる
5. 介護や支援のことを学べる 6. 地域や人の役に立つことができる
7. 生きがいを見つけることができる 8. 特に思いつかない
9. その他(具体的に))

